

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第537集

いたこやしき
板子屋敷3遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業軽米九戸第2期地区関連遺跡発掘調査

2008

岩手県二戸地方振興局土木部
(財)岩手県文化振興事業団

板子屋敷3遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業軽米九戸第2期地区関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、広域農道整備事業軽米九戸第2期地区に関連して平成17年度から平成19年度にかけてに発掘調査された軽米町板子屋敷3遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代の住居跡をはじめとする各種の遺構が検出され、集落の姿が明らかになるとともに、土器、石器などたくさんの遺物も出土いたしました。当地域における歴史を解明する上で貴重な資料を提供することができたと考えております。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました二戸地方振興局土木部、二戸地方振興局農政部農村整備室、軽米町教育委員会を初めとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成20年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田牧雄

例　　言

- 1 本報告書は、岩手県軽米町大字上館22地割25-13ほかに所在する板子屋敷3遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡登録台帳における遺跡番号・調査略号は次のとおりである。

板子屋敷3遺跡　遺跡番号：IF74-0096　遺跡略号IKY3-05・06・07
- 3 本遺跡の発掘調査は、広域農道整備事業軽米丸戸第2期地区に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、岩手県二戸地方振興局土木部の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 野外調査及び室内整理期間（調査面積）担当者は次のとおりである。

野外調査　平成17年6月1日～11月11日（4,800m²）中村絵美・木戸口俊子・北田　勲
平成18年8月21日～11月8日（5,200m²）中村絵美・村木　敬・菊池昌彦
平成19年9月18日～11月30日（5,160m²）中村絵美・太田代一彦

室内整理　平成17年11月1日～平成18年3月31日　中村絵美・木戸口俊子
平成18年11月1日～平成19年3月31日　中村絵美
平成19年11月1日～平成20年1月15日　中村絵美
- 5 基準点測量は株式会社柳平測量設計、航空写真撮影は東邦航空株式会社に委託した。
- 6 本報告書の執筆は、中村絵美・木戸口俊子・村木敬が担当した。詳細は以下のとおりである。

Ⅱ章1・3・Ⅳ章1・3・4（4は05区分の一部）を木戸口、Ⅳ章5（3）・（4）を村木、これ以外は中村が執筆している。
- 7 分析・鑑定・委託業務は次の機関に委託した（順不同・敬称略）。

年代測定　株式会社加速器分析研究所
石質鑑定　花崗岩研究会
炭化材同定　阿部利吉（前岩手県木炭協会）
火山灰分析　パリノ・サーヴェイ株式会社
石器実測　株式会社 ラング
- 8 野外調査では、軽米町教育委員会ならびに遺跡周辺住民の方々より多人なるご協力を得た。
- 9 土層の土色は、「新版標準土色帖」（小山・佐竹：1989）によった。
- 10 基準点および調査区内のグリッド杭の打設には、平面直角座標第X系（日本測地系）を用いた。
- 11 発掘調査及び報告書作成にあたり、以下の方々のご指導・ご協力をいただいた。（50音順・敬称略）

宇田川浩一・菅野美香子・小林克（秋田県埋蔵文化財センター）、榎本剛治（北秋田市教育委員会）、小林圭一（（財）山形県埋蔵文化財センター）、本宮雄輔（前軽米町教育委員会）。
- 12 調査結果の一部は現地説明会資料や調査略報・概報、遺跡報告会等にてその時点の概略を公表しているが、本書との記載事実が異なる場合は、すべて本書を優先する。
- 13 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I 調査に至る経過	02
II 遺跡の立地と環境	
1 遺跡の位置と地理的環境	02
2 基本土層	03
3 歴史的環境	04
III 野外調査と室内整理の方法	
1 野外調査	16
2 室内整理	19
IV 検出遺構と出土遺物	
1 堅穴住居跡	30
2 配石遺構	64
3 土坑	67
4 土器埋設遺構	106
5 出土遺物	121
V まとめ	224
付 編 自然科学分析	226
報告書抄録	335

図版目次

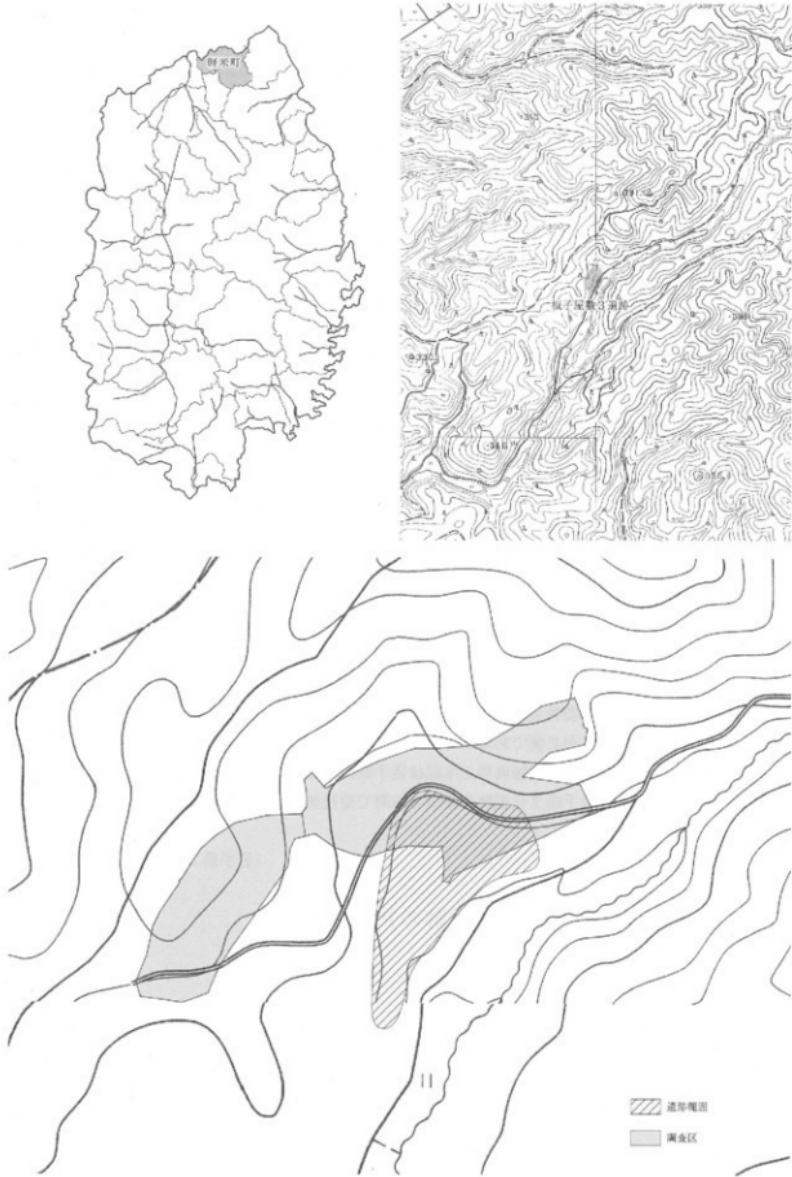
第1図 遺跡の位置図	01	第35図 21・22号住居跡	63
第2図 基本土層図（1）	03	第36図 1号配石遺構	64
第3図 基本土層図（2）	05	第37図 2号配石遺構	65
第4図 周辺の遺跡（縦文）	06	第38図 土坑（1）	68
第5図 周辺の遺跡	13	第39図 土坑（2）	69
第6図 凡例	21	第40図 土坑（3）	71
第7図 グリッド設定図	22	第41図 土坑（4）	73
第8図 遺構全体図	23	第42図 土坑（5）	75
第9図 トレンチ位置図	24	第43図 土坑（6）	77
第10図 遺構配置図（1）	25	第44図 土坑（7）	79
第11図 遺構配置図（2）	26	第45図 土坑（8）	80
第12図 遺構配置図（3）	27	第46図 土坑（9）	82
第13図 遺構配置図（4）	28	第47図 土坑（10）	84
第14図 遺構配置図（5）	29	第48図 土坑（11）	86
第15図 1号住居跡	31	第49図 土坑（12）	87
第16図 2号住居跡	33	第50図 土坑（13）	89
第17図 3号住居跡（1）	34	第51図 土坑（14）	91
第18図 3号住居跡（2）	35	第52図 土坑（15）	93
第19図 4号住居跡	37	第53図 土坑（16）	95
第20図 5号住居跡	39	第54図 土坑（17）	97
第21図 6号住居跡	40	第55図 土坑（18）	99
第22図 7号住居跡	41	第56図 土坑（19）	101
第23図 8号住居跡（1）	43	第57図 土坑（20）	103
第24図 8号住居跡（2）	44	第58図 土坑（21）	105
第25図 9・10号住居跡	47	第59図 土器埋設遺構（1）	107
第26図 11・12号住居跡	49	第60図 土器埋設遺構（2）	109
第27図 13号住居跡	50	第61図 グリッド別出土土器重量	122
第28図 14号住居跡	51	第62図 早期遺物出土状況（1）	123
第29図 15号住居跡（1）	53	第63図 早期遺物出土状況（2）	124
第30図 15号住居跡（2）	54	第64～89図 遺構内外出土土器（1）～（26）	128
第31図 15号住居跡（3）	55	第90～102図 遺構外出出土土器（1）～（13）	154
第32図 16・17号住居跡	57	第103図 土製品	167
第33図 18号住居跡	58	第104～117図 出土石器（1）～（14）	168
第34図 19・20号住居跡	61	第118図 出土石器（15）・石製品	182

表 目 次

第1表 周辺の遺跡（縦文）	09	第4表 遺構一覧	111
第2表 周辺の遺跡	14	第5表 柱穴一覧	115
第3表 基準点・区画割付杭一覧	16	第6表 出土遺物一覧	183

写真図版目次

カラー写真図版 1 遺跡遠景	243	写真図版21 12号住居跡	267
カラー写真図版 2 調査区全景	244	写真図版22 13号住居跡	268
カラー写真図版 3 人面付土器	245	写真図版23 14号住居跡	269
カラー写真図版 4 出土土器	246	写真図版24 15号住居跡（1）	270
写真図版 1 遺跡周辺・調査区全景	247	写真図版25 15号住居跡（2）	271
写真図版 2 05区（平成17年度調査区）全景	248	写真図版26 17・18号住居跡	272
写真図版 3 05区調査前作業風景	249	写真図版27 19号住居跡	273
写真図版 4 06区（平成18年度調査区）全景	250	写真図版28 20号住居跡	274
写真図版 5 06区調査前作業風景・07区 (平成19年度調査区) 全景（1）	251	写真図版29 21号住居跡	275
写真図版 6 07区全景（2）・作業風景・現地公開	252	写真図版30 22号住居跡	276
		写真図版31 16号住居跡、1・2号配石遺構（1）	277
写真図版 7 1号住居跡	253	写真図版32 16号住居跡、1・2号配石遺構（2）	278
写真図版 8 2号住居跡（1）	254		
写真図版 9 2号住居跡（2）・3号住居跡（1）	255	写真図版33～47 土坑（1）～（15）	279
写真図版10 3号住居跡（2）	256	写真図版48 土器埋設遺構（1）	294
写真図版11 4号住居跡	257	写真図版49 土器埋設遺構（2）	295
写真図版12 5号住居跡	258	写真図版50 土器埋設遺構（3）・包含層（後晩期）	
写真図版13 6号住居跡	259		296
写真図版14 7号住居跡（1）	260	写真図版51 包含層（05区・早期）	297
写真図版15 7号住居跡（2）	261	写真図版52～75 出土土器（1）～（24）	298
写真図版16 8号住居跡（1）	262	写真図版76 出土土器（25）・出土土製品（1）	322
写真図版17 8号住居跡（2）	263	写真図版77 出土土製品（2）	323
写真図版18 9号住居跡	264	写真図版78～86 出土石器（1）～（9）	324
写真図版19 10号住居跡	265	写真図版87 出土石製品	333
写真図版20 11号住居跡	266		



第1図 遺跡の位置図

I 調査に至る経過

広域農道整備事業軽米九戸地区は、青森県南郷村（現八戸市）に隣接する軽米町小松を起点に、九戸村勘丁を終点とする、全長16.3kmの農道を整備するもので、平成4年度から着手している。

当該事業区域にかかる埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、平成10年1月28日付け「二土地第998号」により、二戸地方振興局二戸土地改良事業所長から岩手県教育委員会事務局文化課長あて、広域農道整備事業軽米九戸地区における埋蔵文化財の分布調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会事務局文化課が、包蔵地所在の有無を確認したところ、該当する遺跡は確認されなかった。

しかし、路線計画に変更が生じたことから、平成14年3月6日付け「二農整第1452号」により、再度分布調査を依頼したところ、依頼を受けた岩手県教育委員会事務局文化課が、軽米町教育委員会に包蔵地所在の有無を照会し、沼田4遺跡及び板子屋敷3遺跡が該当することが確認された。

それに伴い、平成14年5月20日付け「軽教生第100号」により軽米町教育委員会教育長職務代理者教育次長から二戸地方振興局二戸農村整備事務所長あて、分布調査の回答を行った。

その後分布調査の結果をもとに、平成16年10月13日付け「二地農（整）第225-1号」により、二戸地方振興局農政部農村整備室長から岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課長あて、埋蔵文化財包蔵地の試掘調査依頼を行った。

依頼を受け、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が平成16年10月27日、11月5日、29日及び30日に試掘調査を行ったところ、板子屋敷3遺跡について本調査が必要であると判断され、平成16年12月6日付け「教生第1226号」により、発掘調査が必要である旨回答を得て、平成17年度、18年度で発掘調査を行った。

平成19年度においても、平成19年4月9日付け「二地上第119号」により二戸地方振興局土木部長から岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課長あて試掘調査依頼を行なった。

依頼を受け、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が平成19年4月12日、4月25～26日に試掘調査を行ったところ、本調査が必要であるとの回答を得た。

その結果を踏まえて、二戸地方振興局土木部は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成19年4月16日付けで財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（岩手県二戸地方振興局土木部）

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と地理的環境

遺跡のある軽米町は県最北端に位置し、北が青森県名川町・八戸市、東は洋野町、西は二戸市、南は九戸村接する。

同町は東に久慈平岳（706m）、南に霧岳（567m）、西に折爪岳（852m）に囲まれており、200m～400mの低い丘陵・山地からなる丘陵性山地地帯でその大半が山林・原野である。一方、町内を流れる雪谷川、漸月内川およびこれら支流沿いには、細長く発達した沖積地が見られる。雪谷川は、九戸

村雪屋と洋野町（旧山形村）日野沢の境にある丘陵付近が水源となって町中心を抜け、瀬月内川は九戸村を縦貫し町西北の山内・崎山などを通る。

板子屋敷3遺跡は、町北部にある役場の北東約4km、町道73号線長倉イタコ屋敷線上にあり、北緯40度20分40秒、東経141度29分48秒付近に位置している。雪谷川の支流で、町中心で合流する坊里沢沿いの丘陵地に立地する。調査区内の標高は322m～279mである。

軽米町の地質は、主にチャート、粘板岩、硬砂岩、輝緑凝灰岩と石灰岩の古生層が基盤として分布している。その上に広く十和田系火山碎屑物が覆っている。古いものから天狗岱火山灰層、高館火山灰層、八戸火山灰層、南部浮石層、中振火山灰層、十和田b降下火山灰、十和田a降下火山灰である。

2 基本土層

I. 盛土。

木材切り出し等のため斜面を削り道路を作った際に、水平面を確保するために斜面下側に盛土をほどこしている。斜面上のV層以下まで削りとり、これを盛っていることが多く、検出面と誤認やすい。ボロボロ。

II. 10YR2/1 黒色～10YR4/4 褐色 シルト 表土。

調査区全体に存在。箇根が多く入り込みボロボロもろい。下位層が暗～褐色の範囲（中段平場より上）はこの根により腐植で若干濃い（暗い）色調となるが、黒褐～黒の色調を持つ範囲ではⅢ層と色調の差ほとんどない。

III a. 10YR2/1 黒色～10YR4/4 褐色 シルト

十和田b降下火山灰の浮石粒を含む層。

しまりあり、粘性やや弱い。浮石の粒径は1mm弱から2～3mm程度。5mm弱のものもあり。層厚は斜面上部に薄く、下部ほど厚くなり最大20cm程度。上下位の層よりもしまりがよく、削ると浮石粒があたりジャリジャリする。05区南斜面下部、06区谷部南では本層中に繩文後晩期・弥生後期の遺物含み（遺物包含層）、特に下位層との境界付近から多く出土する。

III b. 十和田b降下火山灰浮石粒層。

斜面下端に部分的にみられる。層厚は5cm程度。

IV. 10YR2/1 黒色～10YR4/4 褐色 シルト 後晩期検出面。

南部浮石と中振粒を含む。斜面下方ほど厚く、斜面上部褐色土となる範囲では、IV～VI層いずれも薄くなり、これらの層との識別が難しくなる。05区調査当初は遺物を含まない層と判断したが、06区の谷部南では本層中に後期の遺物を含んでいる。後期の遺構検出面でもあるため、谷部においては、本層中さらに細分できた可能性が高い。

V a. 10YR2/2 黒褐色～10YR4/4 褐色 シルト

I	
II	
III	Va Vb
N	
V	Va Vb
VI	Va Vb Vc
VII	
VIII	
IX	Xa Xb

第2図 基本土層図(1)

中摺火山灰粒を多く含む層。

中摺火山灰と、主体土が混じったブロックが斑状に含まれる。斜面上部褐色土の範囲では火山灰粒と主体土の色調が似ているため、これが混入しているかはっきりしない。

V b. 10Y R 2/3 黒褐色 シルト 中摺火山灰層。

05区南斜面下端、06区東側西向き斜面・谷部など、黒色土が厚い範囲、旧河道内にのみ確認。

VI a. 10Y R 1.7/1 黒色～10Y R 5/6 黄褐色 シルト 南部浮石粒を少量含む層。

ほぼ全域で確認。斜面上部Ⅶ層の堆積が薄い、もしくは堆積していない範囲では本層中にⅧ層ブロックも含む。

VI b. 10Y R 1.7/1 黒色～10Y R 4/4 褐色 シルト

a 層より南部浮石多い。VI層が厚い範囲でのみ分層可能。斜面上部ではみられない。

VI c. 10Y R 4/6 褐色 シルト～粘土質シルト Ⅶ層との漸移層。

南部浮石粒や多量含む。本層中～VI層との境界付近に早期の遺物含む。

Ⅶ. 南部浮石層。

斜面下部ほど厚く堆積し、斜面上部など傾斜の急な場所では、層厚が薄い、もしくは堆積していない箇所もある。

Ⅷ. 10Y R 6/8 明黄褐色 シルト 八戸火山灰層。

調査区全域で確認。

IX a. 白色粘土層。

下面が被熱している。05区中段平場と07区では、本層～IX b層を土坑底面としているものが見られる。一方で斜面下部ではⅦ層を底面とする例が多いため本層の存在は確認していない。

IX b. 白色礫層。

05区尾根の先端付近（100グリッド付近）から06区と接する西斜面は本層が表土下露出する。

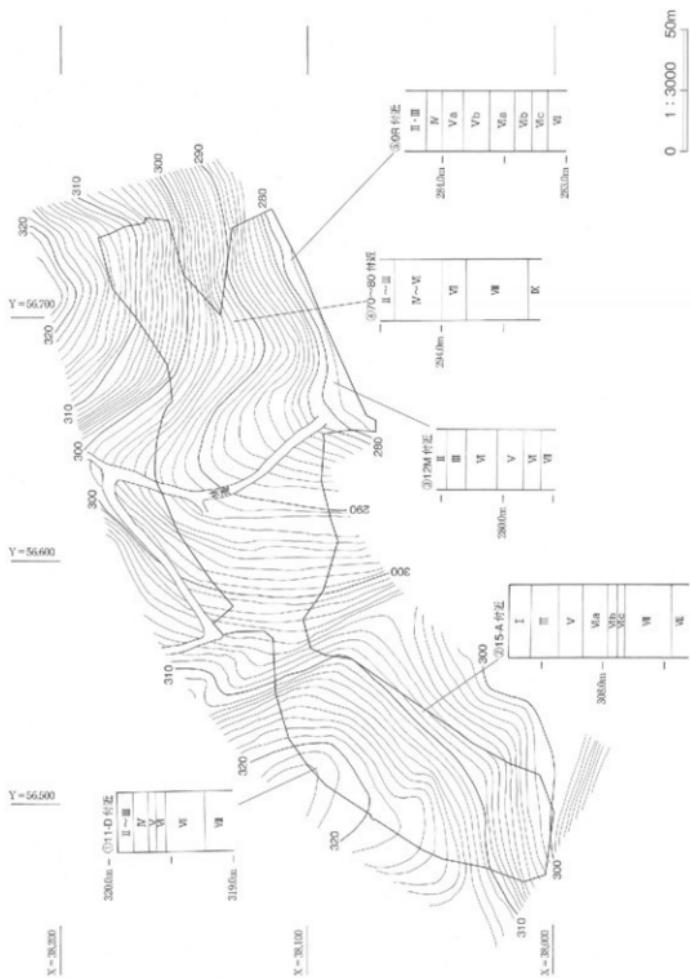
調査区全体の層序は以上である。斜面下部ではこれらの層それが厚く、上記の層のほとんどが堆積するが、斜面上部では層厚も薄く、下方へ流れてしまったためか存在しない層もある。色調も黒色土の発達の状態により、同一層でも斜面上部は褐色、下部は黒色となる。全体の様相は第3図、各地点の層序は遺構断面図にも記録している。遺構は、これらの基本土層の崩落に伴い埋没している例が多いため、覆土主体上の色調が、ほぼそのまま基本土層の色調となる。また、各層でa b層に細分しているが、細分不可能な箇所についてはアルファベットを付けずⅢ層、VI層とだけ表記しているが、aの層と特徴が似ている。

各地点の層序の詳細は次章（8）で述べたい。

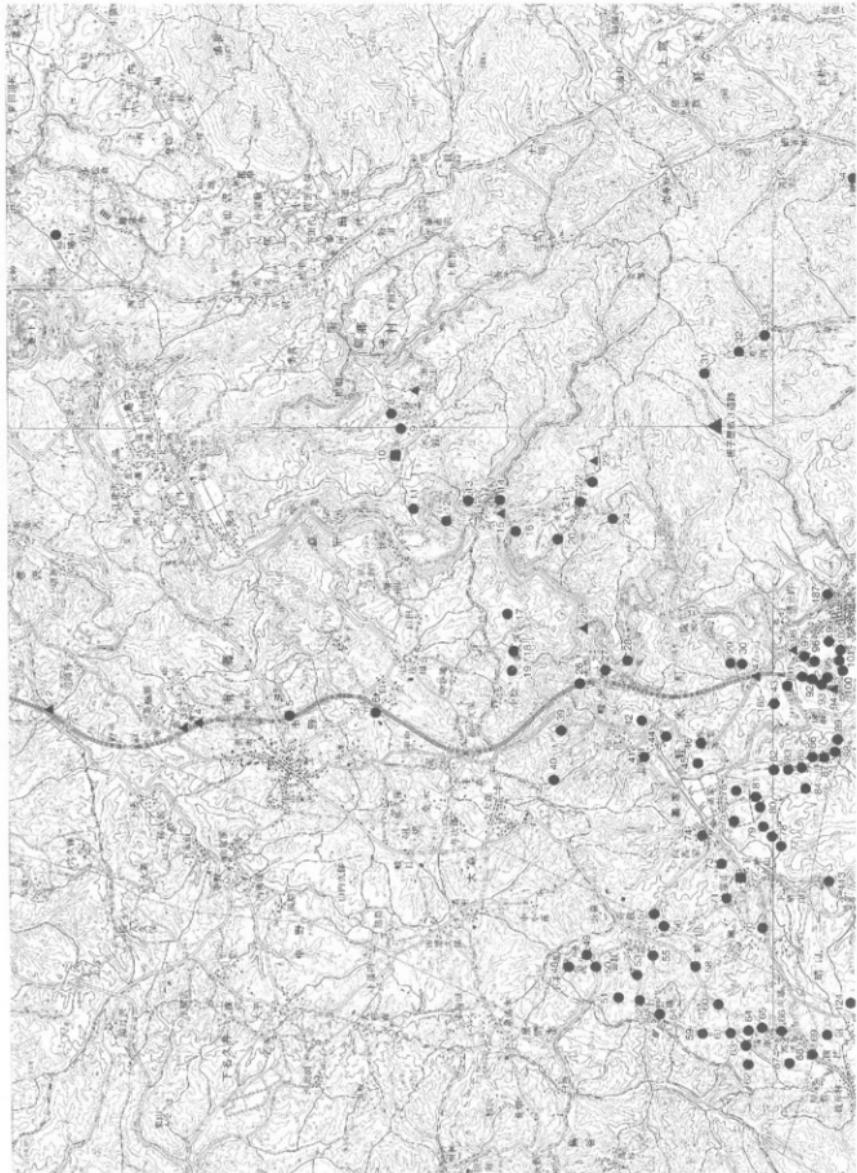
3 歴史的環境

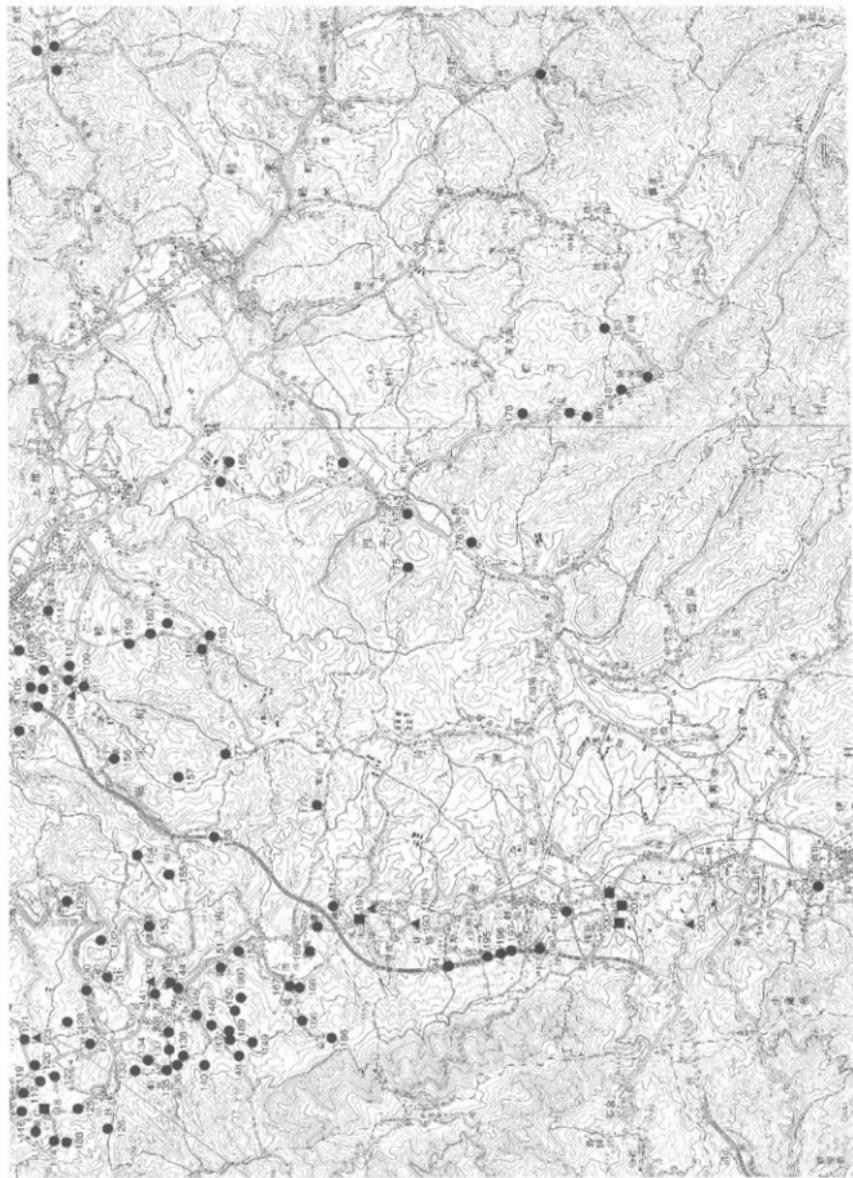
軽米町の発掘調査は、鈴木孝志氏が軽米高校教諭当時の生徒と一緒に行った遺物採集から始まり、板橋遺跡・下野場遺跡・明神下遺跡の採集結果を昭和39年「日本考古学年報」17に報告している。その後、昭和54年から始まった八戸平原開拓事業と翌55年からの東北縦貫自動車道八戸支線建設、国道340号改良工事などに伴って、本格的かつ広範間にわたる大規模な調査により貴重な資料が得られ、徐々に軽米の歴史が見えてきた。

平成13年に報告された軽米町遺跡地図（軽米町文化財調査報告書第16集）では、515箇所の遺跡が



第3図 基本土層図(2)





登録されている。うち328箇所の遺跡が試掘、本調査等で確認された遺跡である。

縄文時代草創期では唯一、馬場野Ⅱ遺跡から十坑と土器が検出されている。早期になると堅穴住居跡などの遺構および遺物が、前述の馬場野Ⅱ遺跡、土の弓Ⅰ遺跡、大日向Ⅱ遺跡、水古Ⅳ遺跡、粧LⅠ遺跡等、町北部で若干確認されるようになる。本遺跡も今回の調査で早期の遺物が確認され、上記の遺跡同様、早い時期から生活区域として存在していたことを示唆している。

前期・中期になると更に数は増加する。呪屋敷Ⅰa遺跡をはじめ、呪屋敷Ⅰb遺跡、呪屋敷Ⅱ遺跡、呪屋敷Ⅲ遺跡、大日向Ⅱ遺跡、大鳥Ⅰ遺跡、馬場野Ⅱ遺跡など大規模な調査の中で遺構・遺物が検出されている。後晩期になると急激に遺跡数が増え、上述の町内515箇所中213遺跡で遺構・遺物が確認され、全体のおよそ6割強にあたる。本遺跡もその一つである。遺跡の分布を見ると、町西北を中心に広がっていることがわかる（第4図）。大日向Ⅱ遺跡（第225集）報告書内や、隣接する九戸村江刺家地区の遺跡立地について述べた種市進氏の論文（埋文紀要第2号）によると、町内の縄文時代・弥生時代の遺跡は、丘陵や尾根の先端部、尾根に挟まれた緩やかな谷の緩斜面状に立地するとされている。遺跡の標高は200m～250m前後が多く、それ以上の標高や低位段丘面には少ない。

弥生時代の遺跡は、馬場野Ⅱ遺跡が挙げられるが、君成田Ⅳ遺跡、土弓Ⅰ遺跡、駒板遺跡、呪屋敷Ⅰa遺跡など遺物のみ出土しており、数としては多くない。

古代以降遺跡については、本遺跡から同時期の遺物等出土していないため割愛するが、縄文時代ほどではないが、とぎれることなく遺跡は確認されている。また町中心から町南部に抜がる製鉄関連遺跡など脈々と軽米町の歴史が続いていることを物語っている。

なお、周辺の遺跡地図については、本遺跡に関係する時期の縄文時代早期および後晩期の遺跡に限った。また拡大阪については、前述した軽米町遺跡地図により周辺の遺跡の範囲を示した。

参考・引用文献

- 軽米町誌編纂委員会（1975）：「軽米町誌」軽米町
- 軽米町史編纂委員会（1987）：「軽米町史（上巻）・（中巻）」軽米町
- 軽米町教育委員会（2001）：「軽米町遺跡地図」軽米町文化財調査報告書第16集
- 軽米町教育委員会（1997～2001）：「軽米町内遺跡分布調査報告書Ⅰ～V」軽米町文化財報告書第13集・15集ほか
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1983）：「土弓Ⅰ遺跡発掘調査報告書」第50集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1983）：「君成田Ⅳ遺跡発掘調査報告書」第62集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1986）：「馬場野Ⅱ遺跡発掘調査報告書」第99集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1986・1994・1998）：「大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書」第100集・第225集・第273集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1987）：「大塚Ⅱ遺跡発掘調査報告書」第119集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1991）：「花LⅠ遺跡発掘調査報告書」第175集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1994）：「水古Ⅳ遺跡発掘調査報告書」第219集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1998）：「大鳥Ⅰ遺跡発掘調査報告書」第270集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（2000）：「長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書」第336集
 - （財）岩手県埋蔵文化財センター（1981）：「紀要Ⅱ」

第1表 周辺の遺跡（縄文）（1）

NO	遺跡名	監修別	時代	文庫
1	野崎(5)	島原跡	縄文(中・後)	青森県文庫第160集
2	鶴平(1)	東落跡	縄文(早・前・後・晚)	青森県文庫第72集
3	馬場曲(2)	東落跡	縄文(早・前・後・晚)	青森県文庫第70集
4	馬場曲(1)	島原跡	縄文(早・前・後・晚)	青森県文庫第70集
5	三合山	島原跡	縄文(後・晚)	青森県文庫第69集
6	右門・門次郎塚	東落跡	縄文(晚)	青森県文庫第69集
7	前宇(2)	島原跡	縄文(早・中)	青森県文庫第64集
8	外長根(4)	東落跡	縄文(中・後・晚)	青森県文庫第64集
9	外長根(5)	東落跡	縄文(中・後・晚)	青森県文庫第64集
10	加ノト	東落跡	縄文(早・前)、平安	青森県文庫第65集
11	四ツヶ	島原跡	縄文(小・後)、古墳	青森県文庫第188集
12	新久道	東落跡	縄文(前・晚)	青森県文庫第151集
13	相内	東落跡	縄文(前・晚)、弥生	青森県文庫第161集、第178集、第187集、第211集ほか
14	長曾呂	散布地	縄文(前・晚)、弥生	岩手県文庫第231集
15	水吉田	東落跡	縄文(早・中)、奈良	岩手県文庫第219集
16	長曾呂	散布地	縄文(後)	岩手県文庫第231集
17	尾田7	散布地	縄文(後・晚)	
18	尾田6	東落跡	縄文(後・晚)、奈良、小野、近世	
19	尾田5	散布地	縄文(前・中・後・晚)	
20	長曾10	散布地	縄文(後)	
21	長曾小学校跡	散布地	縄文(後)	
22	嘉瀬八保2	散布地	縄文(前・後)	
23	善賀1	東落跡	縄文(早・前・後・晚)	岩手県文庫第359集
24	須通仁木久保2	散布地	縄文(中・後)	
25	大鳥8	東落跡	縄文(早・中)、弥生	岩手県文庫第270集
26	大鳥5	散布地	縄文(後)	
27	大鳥1	東落跡	縄文(前・後)、平安、小野、近世	岩手県文庫第290集
28	長曾10	散布地	縄文(後)	岩手県文庫第246集
29	坂の上	散布地	縄文(中・後)	
30	好半杉木2	散布地	縄文(中・後)	
31	板子屋1	散布地	縄文(後・晚)	
32	戸草内2	散布地	縄文(後・晚)	
33	戸草内1	散布地	縄文(後・晚)	
34	袋主1	散布地	縄文(後・晚)	
35	大馬沢	散布地	縄文(早・中)	
36	番津2	散布地	縄文(後・晚)	
37	百日金1	散布地	縄文(後・晚)	
38	首目余2	散布地	縄文(後・晚)	
39	尾田4	散布地	縄文(後)	
40	尾田3	散布地	縄文(後)	
41	通田8	散布地	縄文(後)、古代	
42	大鳥3	散布地	縄文(中・後)	
43	土弓1	散布地	縄文(前・後)	
44	通田1	散布地	縄文(前・後)、弥生、平安	
45	西里2	散布地	縄文(後)、古代	
46	西里1	散布地	縄文(後)、古代	
47	七号1	東落跡	縄文(早・前・後・晚)	岩手県文庫第50集
48	小手足森4	散布地	縄文(後・晚)、古代	
49	小手足森3	散布地	縄文(後・晚)	
50	小手足森2	散布地	縄文(後・晚)	
51	上野塙3	島原跡	縄文(後・晚)	岩手県文庫第477集
52	上野塙2	散布地	縄文(後・晚)	
53	小手足森1	散布地	縄文(前・後・晚)	
54	上野塙1	島原跡	縄文(後・晚)、古代	

第1表 周辺の遺跡（縄文）（2）

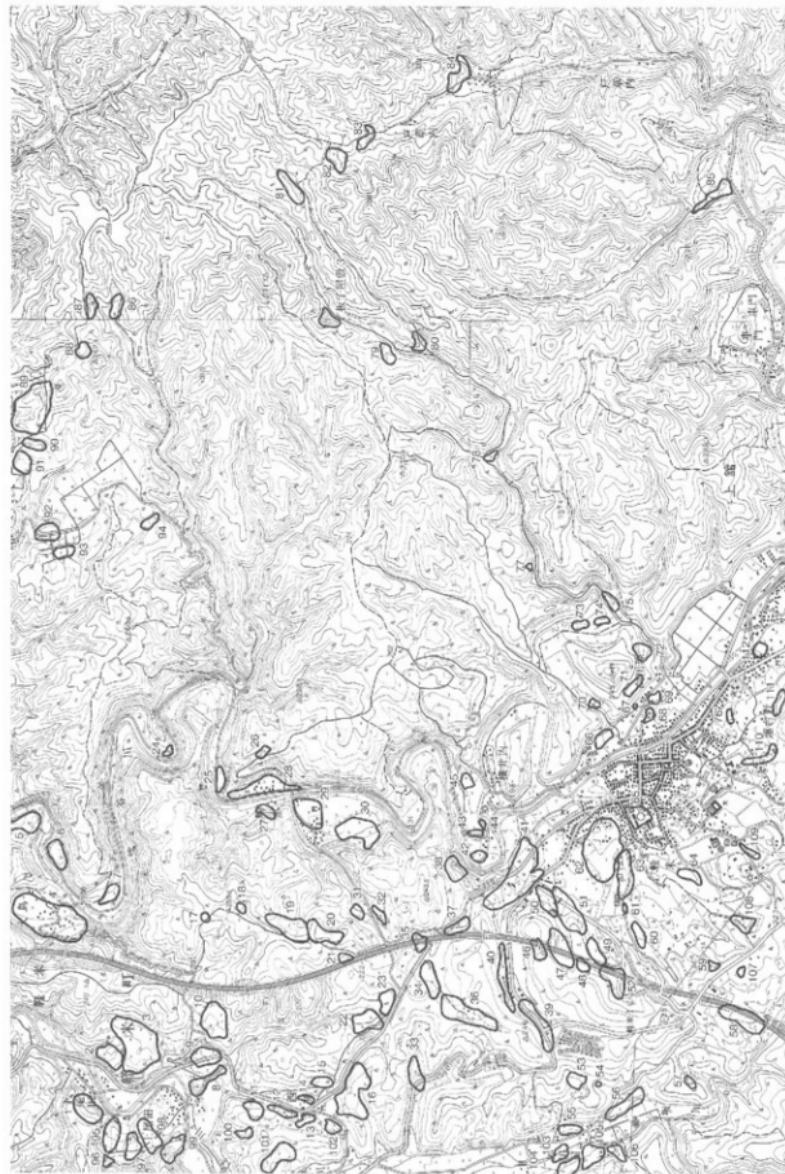
NO	遺跡名	神奈	時代	文献
55	裏六2	散布地	縄文(後・晩)、古代	
56	加賀原敷1	散布地	縄文(後・晩)	
57	加賀原敷2	散布地	縄文(後・晩)	
58	裏八1	散布地	縄文(後・晩)、古代	
59	山根3	散布地	縄文(後・晩)、古代	
60	上野堀向	散布地	縄文(後・晩)	
61	上野堀	散布地	縄文(後・晩)	
62	山根4	散布地	縄文(後・晩)	
63	山根5	散布地	縄文(後・晩)、古代	
64	山根1	散布地	縄文(後・晩)	
65	高瀬水4	集落跡	縄文(後・晩)	
66	高瀬水3	集落跡	縄文(後・晩)	
67	高瀬水5	集落跡	縄文(後・晩)	
68	高瀬水2	散布地	縄文(後・晩)、古代	
69	長久根	散布地	縄文(後・晩)	
70	内城2	散布地	縄文(後・晩)、古代	
71	内ノ角	散布地	縄文(後・晩)	
72	岩崎1	散布地	縄文(早)	
73	寺沢	散布地	縄文(後)、古代	
74	高家平中	散布地	縄文(後・晩)、古代	
75	市子畠敷	散布地	縄文(後)、古代	
76	嵐の坂2	散布地	縄文(後)、古代	
77	長者森1	散布地	縄文(後・晩)、古代	
78	長者森2	散布地	縄文(後・晩)、古代	
79	長者森3	散布地	縄文(後・晩)、古代	
80	市子畠敷2	散布地	縄文(後)、古代	
81	笠の度1	散布地	縄文(後)、古代	
82	外川目1	散布地	縄文(後)、古代	
83	外川目2	散布地	縄文(後)	
84	京仮1	散布地	縄文(後)	
85	外川目3	散布地	縄文(後)	
86	外川目4	散布地	縄文(後)	
87	京仮2	散布地	縄文(後)	
88	外川目	散布地	縄文(後)	
89	外川目5	散布地	縄文(後)	
90	京仮4	散布地	縄文(後・晩)	
91	臥堀歌若	集落跡	縄文(前～晩)	岩手県文庫第45集
92	臥堀歌若	集落跡	縄文(前～晩)	岩手県文庫第47集
93	馬場野1	集落跡	縄文(中～晩)、近世	岩手県文庫第68集
94	馬場野2	集落跡	縄文(早・中・～晩)、弥生	岩手県文庫第95集
95	馬場野3	集落跡	縄文(後・晩)	
96	臥堀歌若1b	集落跡	縄文(前・後)、平安	岩手県文庫第63集
97	臥堀歌若1a	集落跡	縄文(中～晩)、奈良、平安	岩手県文庫第61集
98	大日向1	集落跡	縄文(早～晩)、弥生、奈良、平安、近世	岩手県文庫第100・223・273集
99	尻場野4	集落跡	縄文(前～晩)	
100	中山2	散布地	縄文(中・後)	
101	中山1	散布地	縄文(後・晩)	
102	馬場野3	散布地	縄文(後・晩)	
103	新町	散布地	縄文(後・晩)	
104	君成田N	集落跡	縄文(中～晩)、弥生、奈良、平安	岩手県文庫第62集
105	中山3	散布地	縄文(後・晩)	
106	君成田1	散布地	縄文(後)	
107	中山4	散布地	縄文(後・晩)	
108	君成田5	散布地	縄文(早～晩)	

第1表 周辺の遺跡（縄文）（3）

NO.	道名	神別	時代	文献
109	菖蒲川7	散布地	縄文(後)	
110	若成川8	散布地	縄文(中・後)	
111	若成川6	散布地	縄文(後・晚)	
112	油の手	散布地	縄文(後・晚)	
113	川向	集落跡	縄文(後・晚)、古代	
114	上の山1	散布地	縄文(後・晚)、古代	
115	上の山2	散布地	縄文(後・晚)	
116	泉沢2	集落跡	縄文(後・晚)	
117	泉沢1	散布地	縄文(後・晚)	
118	施口1	集落跡	縄文(早)、奈良	岩手県文調第175号
119	大堤1	散布地	縄文(後・晚)	
120	大堤2	散布地	縄文(後・晚)、平安	岩手県文調第119号
121	白鳥子久保31	集落跡	縄文(後・晚)、平安、近世	岩手県文調第129号
122	薪田1	散布地	縄文(中・後)	
123	鹿角子久保1	散布地	縄文(早・後・晚)、古代	
124	小沼	散布地	縄文(後・晚)	
125	山111	散布地	縄文(後)	
126	山113	散布地	縄文(後)	
127	貝塚3	散布地	縄文(後・晚)、古代	
128	貝塚2	散布地	縄文(後)、古代	
129	竹谷塚2	散布地	縄文(後・晚)	
130	竹谷塚1	散布地	縄文(後)	
131	桶	散布地	縄文(後)、古代	
132	猪木四	散布地	縄文(後・晚)、古代	
133	松木沢	集落跡	縄文(後・晚)	
134	荒田沢2	散布地	縄文(後)	
135	荒田沢1	散布地	縄文(後・晚)	
136	荒田沢3	集落跡	縄文(後・晚)	
137	久保原	散布地	縄文(後・晚)、古代	
138	上平2	散布地	縄文(後・晚)、古代	
139	上平1	散布地	縄文(後・晚)、古代	
140	平3	散布地	縄文(後・晚)	
141	大久保原	散布地	縄文(後・晚)	
142	和当塚1	集落跡	縄文(早・晚)、弥生、平安	岩手県文調第22号
143	山内中村1	散布地	縄文(後・晚)、古代	
144	山内中村2	散布地	縄文(後)、古代	
145	平2	散布地	縄文(後・晚)	
146	平沢2	集落跡	縄文(後・晚)	
147	平沢1	散布地	縄文(中・後)	
148	平1	散布地	縄文(後・晚)、古代	
149	小屋沢3	散布地	縄文(後・晚)	
150	小屋沢4	集落跡	縄文(後・晚・晚)	
151	上新井田	散布地	縄文(後・晚・晚)	
152	下新井田	散布地	縄文(後・晚)	
153	和当塚向3	散布地	縄文(後・晚)、古代	
154	和当塚向2	散布地	縄文(後)	
155	和当塚向1	集落跡	縄文(後・晚)、古代	
156	千尋	集落跡	縄文(後・晚)	
157	若成川3	散布地	縄文(後・晚)	
158	梅原	集落跡	縄文(後・晚)、奈良、中世、近世	岩手県文調第96号
159	山塚3	散布地	縄文(後・晚)	
160	千本松	散布地	縄文(後)、古代	
161	山塚5	散布地	縄文(後・晚)	
162	山塚2	散布地	縄文(後・晚)	

第1表 周辺の遺跡（縦文）（4）

NO	遺跡名	種別	時代	文献
163	沢原	集落跡	縦文(後・晩)	
164	下村1	散布地	縦文(後)	
165	板瀬	集落跡	縦文(後・晩)	
166	堀ノ下2	散布地	縦文(後・晩)、古代	
167	原ノ下1	集落跡	縦文(後・晩)	
168	原ノ下4	集落跡	縦文(後・晩)	
169	まつこ	散布地	縦文(後・晩)、古代	
170	上秋塚	集落跡	縦文(後)、古代	
171	秋塚2	散布地	縦文(後)	
172	胸塚2	散布地	縦文(後)	
173	田斗崎	散布地	縦文(後・晩)	
174	下村6	散布地	縦文(後)	
175	下村4	散布地	縦文(後・晩)	
176	鹿舎	散布地	縦文(後)	
177	岩成塚2	散布地	縦文(後・晩)	
178	大沢	散布地	縦文(後・晩)	
179	蛇口下下1	散布地	縦文(後・晩)	
180	蛇口下下2	散布地	縦文(後・晩)	
181	大沢沼1	散布地	縦文(後)	
182	大沢沼2	散布地	縦文(後)	
183	人沢頭3	散布地	縦文(後)	
184	新道2	集落跡	縦文(後・晩)	
185	土丹3	散布地	縦文(後・晩)	
186	原ノ下3	散布地	縦文(後・晩)	
187	岸塚3	散布地	縦文(後)	
188	上の山3	集落跡	縦文(後・晩)	
189	小御沢2	散布地	縦文(後・晩)	
190	小御沢5	散布地	縦文(前・後・晩)	
191	丸木塚	集落跡	縦文(早・晩)、古良	岩手県文庫叢書107集
192	東ノ木沢	集落跡	縦文(早・晩・後)	岩手県文庫叢書104集
193	菅波	集落跡	縦文(早・晩・後)	岩手県文庫叢書109集
194	道庭II	集落跡	縦文(中・後・晩・晩)	岩手県文庫叢書64集
195	側II	集落跡	縦文(中・晩)、平家	岩手県文庫叢書78集
196	江刺家V	集落跡	縦文(中・後)	岩手県文庫叢書59集
197	江刺家VI	集落跡	縦文(中)	岩手県文庫叢書59集、巻277集
198	溝谷Ⅱ	集落跡	縦文(中一晩)	岩手県文庫叢書49集
199	江刺家	集落跡	縦文(中～晩)、平安、中世	岩手県文庫叢書70集
200	田代VI	集落跡	縦文(早～中)	岩手県文庫叢書223集
201	田代宮	集落跡	縦文(早～中)	岩手県文庫叢書222集
202	田代	集落跡	縦文(前・中)	岩手県文庫叢書11集、巻262集
203	長興寺1	集落跡	縦文(早～晩)、弥生、古民	岩手県文庫叢書389集
204	古田1	集落跡	縦文(前・中・後・晩)、平安、近世	岩手県文庫叢書307集



第2表 周辺の遺跡（1）

NO	施 路 名	國 別	時 代	文 献
1	下通塚3	敷布地	縄文・古代	
2	下尾田の塚	敷布地	中世	
3	大島3	敷布地	縄文(中・後)	
4	大島1	集落跡	縄文(後～後)・平安・中近世	岩手縣文庫第290集
5	大島2	集落跡	縄文(早～晚)・弥生	岩手縣文庫第270集
6	長食6	敷布地	縄文・古代	
7	長食2	敷布地	縄文(後)	岩手縣文庫第346集
8	尾田1	敷布地	縄文(前～後)・弥生・平安	
9	上尾田1	敷布地	縄文・古代	
10	上尾田4	敷布地	縄文・古代	
11	高梁寺山2	敷布地	縄文	
12	西尾1	敷布地	縄文(後)・古代	
13	西尾6	敷布地	縄文	
14	西尾5	敷布地	古代	
15	西尾4	敷布地	縄文・古代	
16	取船原1	敷布地	縄文・古代	
17	上尾田2	敷布地	縄文	
18	蛭木駒木4	敷布地	縄文(中)	
19	蛭木駒木7	敷布地	縄文	
20	蛭木駒木8	敷布地	縄文	
21	蛭木駒木9	敷布地	縄文	
22	尾田2	敷布地	縄文(前・中)	
23	尾田10	敷布地	縄文	
24	開通1・大久保3	敷布地	縄文(中)	
25	上詫野1	敷布地	縄文(晚)	
26	上詫野水2	敷布地	縄文(晚)	
27	蛭木駒木6	敷布地	縄文(前・中)	
28	上詫野水3	敷布地	縄文	
29	蛭木駒木5	集落跡	縄文(前・中)	
30	蛭木駒木3	敷布地	縄文(前・中)	
31	板の上	敷布地	縄文(中・後)	
32	蛭木駒木2	敷布地	縄文(中・後)	
33	外川台12	敷布地	縄文	
34	大弓2	集落跡	古代	
35	土丹1	集落跡	縄文(早・後・晚)	岩手縣文庫第50集
36	土弓3	敷布地	縄文(後・晚)	
37	大日向1	敷布地	縄文	
38	土丹の脇	城跡跡	中世	
39	土弓6	敷布地	縄文	
40	土弓4	敷布地	縄文(前～後)	
41	大日向8	集落跡	縄文(早～後)・弥生・奈良・平安・近世	岩手縣文庫第100集、225集、273集
42	横井内1	敷布地	縄文	
43	横井内4	敷布地	縄文	
44	横井内3	敷布地	縄文	
45	横井内2	敷布地	縄文(晚)	
46	蛭尾敷貝	集落跡	縄文(前～晚)	岩手縣文庫第35集
47	弘阿敷2	集落跡	縄文(前～晚)	岩手縣文庫第47集
48	馬場野1	集落跡	縄文(中～晚)・近世	岩手縣文庫第68集
49	馬場野5	集落跡	縄文(後～晚)	
50	臥屋敷1a	集落跡	縄文(中～晚)・奈良・平安	岩手縣文庫第61集
51	臥屋敷1b	集落跡	縄文(前～後)・弥生・古代	岩手縣文庫第63集
52	馬場野2	集落跡	縄文(早・中～晚)・弥生	岩手縣文庫第99集
53	外川目10	敷布地	縄文	
54	御謂木古墳	古墳	古代	

第2表 周辺の遺跡（2）

NO	遺跡名	種別	時代	文 緯
55	外川目9	散布地	縄文	
56	外川目5	散布地	縄文(後)	
57	京弘4	散布地	縄文(後・曉)	
58	君成田背	集落跡	弥文(中～晩)・弥生・奈良・近世	岩手県文調第62集
59	中山3	散布地	縄文(後・曉)	
60	中山2	散布地	縄文(中・後)	
61	中山1	散布地	縄文(後・晩)	
62	馬場野4	集落跡	縄文(前～晩)	
63	馬場野3	散布地	縄文(後・曉)	
64	新町	散布地	縄文(後・晩)	
65	御茶城	城跡	小糸	
66	岸原3	散布地	縄文(後)	
67	沼田2	散布地	縄文(晩)	
68	阿川原	散布地	縄文	
69	酒田1	散布地	縄文(晩)・古代	
70	沼田4	散布地	縄文(晩)	
71	沼田3	散布地	縄文(晩)・古代	
72	沼田5	散布地	縄文・古代	
73	岸原5	散布地	縄文	
74	岸原2	散布地	縄文(晩)	
75	幼稚沢	散布地	縄文(晩)	
76	籠台野	散布地	弥生・古代	
77	岸原1	散布地	縄文(晩)	
78	桜里4	散布地	縄文(晩)	
79	板子屋敷5	散布地	縄文・古代	
80	板子屋敷4	散布地	縄文(晩)	
81	板子屋敷1	散布地	縄文(後・曉)	
82	板子屋敷2	散布地	縄文(晩)	
83	芦草内2	散布地	縄文(後・晩)	
84	口原内1	散布地	縄文(後・曉)	
85	天馬沢	散布地	縄文(早・前)	
86	柳久保4	散布地	縄文	
87	柳久保3	散布地	縄文	
88	長倉3	散布地	縄文	
89	長倉1	集落跡	縄文(早・前・後・晩)	岩手県文調第336集
90	長倉	散布地	縄文(前)	岩手県文調第25集
91	芦笛久保2	散布地	縄文(後～後)	
92	長倉館	城郭跡	小糸	
93	街道1・太久保2	散布地	縄文(中・後)	
94	街道1・太久保1	集落跡	縄文(盛・中)	

III 野外調査と室内整理の方法

1 野外調査

(1) 調査面積

平成17年度(2005年度)に4,800m²、平成18年度(2006年度)に5,200m²、平成19年度(2007年度)に5,160m²、合計15,160m²の調査を行った。

各年度の調査範囲は第7図にしめた。本書では便宜上、平成17年度調査区を05区、18年を06区、19年度を07区と呼んでいる。

05区である9~10Q・Rグリッド付近は平成17年度に後晩期面を調査したが、早期面は18年度に調査している。

(2) グリッドの設定(第7図)

基準点は、平面直角座標第X系(日本測地系)を用いて基準点4点、補点10点を平成17年及び19年に打設した(第3表)。これを基本として一辺10×10mの大グリッドを組み、北から南へ算用数字の1・2・・・西から東へアルファベット大文字のA・B・C・・・として「1 A」「2 B」と表した。小グリッドは一辺2mで設定し、北から南へ算用数字の1~5、西から東へアルファベット小文字のa~eとして、「1 A 1 b」「3 B 2 c」と大グリッドと組み合わせて表現した。グリッドを設定した当初(平成17年度)に調査範囲外であった07区については、東から西へ-A、-B・・・として追加表記した。

第3表 基準点・区画割付杭一覧

	日本測地系		世界測地系		II	グリッド	設置年度
	X	Y	X	Y			
基1	38140.000	56690.000	38446.822	56391.120	297.409	7 O 1 a	17年度
基2	38140.000	56610.000	38446.824	56311.121	293.793	7 G 1 a	17年度
基3	38080.000	56500.000	38386.826	56201.122	320.104	13-E 1 a	19年度
基4	38080.000	56550.000	38386.826	56251.121	311.678	13-A 1 a	19年度
補1	38110.000	56730.000	38416.822	56431.118	282.813	10 S 1 a	17年度
補2	38110.000	56690.000	38416.823	56391.119	289.469	10 O 1 a	17年度
補3	38114.000	56650.000	38420.823	56351.120	289.289	7 K 1 a	17年度
補4	38110.000	56610.000	38416.824	56311.120	293.630	10 G 1 a	17年度
補5	38050.000	56500.000	38356.827	56201.121	315.684	16-E 1 a	19年度
補6	38080.000	56520.000	38386.826	56221.121	317.917	13-C 1 a	19年度
補7	38100.000	56520.000	38406.825	56221.122	320.913	11-C 1 a	19年度
補8	38090.000	56550.000	38396.825	56251.121	312.780	12-A 1 a	19年度
補9	38080.000	56540.000	38386.826	56241.121	313.927	13-A 1 a	19年度
補10	38060.000	56520.000	38366.826	56221.121	313.325	15-C 1 a	19年度

(3) 粗掘り・遺構検出

調査区内に任意の試掘トレンチを設定し人力掘削を行い、土層の堆積状況と遺構検出面を観察した。遺物包含層が広がる範囲はこの上面まで、それ以外は後晚期の遺構確認面まで重機で掘り下げ、鋤簾・両刃ガマ等で遺構検出作業を行った。その後、基本土層の堆積状況、遺構・遺物の分布に応じてさらに下位の層序面での検出作業を行ったが、詳細は（8）で述べたい。

(4) 遺構名のつけ方

①野外調査

住居跡は「1号住居」、土坑は「1号土坑」など、遺構種類ごとに仮名称をつけた。

②報告書掲載

野外調査時および室内整理時には、検出時に命名した仮名称を変更することなく（遺構種類が異なっていた場合も含めて）、報告書掲載時に新たに掲載名称をつけた。各遺構の仮名称は第4表に記載したが、住居内の柱穴に関しては遺物が出土したもののみ旧番号を記した。

(5) 遺構精査・遺物の取り上げ

精査は、遺構の規模に応じて2分法・4分法を用いて断面を残して掘り下げ、覆土の堆積状況を記録した。2分法の際には斜面上方からの土の流入を確認するために傾斜に沿って半裁した。また、覆土と壁の基本土層との識別が難しかったため、積極的にサブトレンチを入れて確認していく。

遺構内遺物の大半は層別で取り上げず、上部・下部・覆土十一括と区分した。住居内の床面～覆土下部にかけて出土したものは可能な限り出土状況を記録し番号をつけて取り上げるよう努めた。

遺構外から出土した遺物は、小グリッドごとに取りあげ、順序を記録した。

(6) 実測

遺構の実測は平面図及び断面図の作成を行った。平面実測は、斜面地のため簡易やり方で正確に計測することは困難と判断し、光波トランシットをもちいて作業した。縮尺は1/20を基本としたが、土器埋設遺構では1/10を用いる等、必要に応じて任意の縮尺で実測した。上層注記は層中混入物の量はおむね極微量1%以下、微量1~5%、少量5~10%、やや多量10~30%、多量30~50%、大量50%程度としている。

(7) 写真撮影

写真撮影は、メインカメラとして中判カメラ（6×9・モノクロ）、サブカメラとして35mm判カメラ（モノクロ・リバーサル）、メモ用にデジタルカメラを使用した。これらのカメラでは、各遺構の全景・断面・遺物出土状況を中心に撮影を行い、遺跡全体は小型飛行機により空中からの俯瞰写真を撮影した。

(8) 地点別調査方法

前章で述べたとおり、基本層序の堆積状況、及び色調が地点ごとに異なるため、遺物・遺構の出土状況も合わせ、その場所に応じた調査方法をとった。以下、年度別、各地点での調査方法、検出面などを、地形や土層の堆積状況とあわせて述べたい。

〈平成17年度〉

調査範囲の東側5100m²を対象とした。基本層の色調は、黄褐～褐色と黒褐～黒色の範囲に分かれる。100グリッドを先端とする比較的傾斜な緩やかな平場から斜面上部（北東側）にかけてと、この平場より西側の西向き斜面から05区・06区境界付近までは、基本土層が黄褐～褐色土となる。一方、平場より南東側、南向き斜面（以下斜面下部）では、黒褐～黒色土となり、斜面下方ほどより各層厚さを増す。どちらの地点も表土層（I・II層）を重機で除去し、前者はIV～VII層、後者はIII層で検出を行った。その後、III層が包含層であることが判明し、小グリッドごとに人力で掘り下げを行い、斜面下部はIV層で再度検出を試みた。

本遺跡では地点を問わず、基本的に遺構覆土は基本層序と近い色調のため遺構が非常にわかりにくい。そのため、平場より斜面上部は検出作業を行い遺構が確認できない範囲であっても、遺物が広がる場所や、遺構の分布が予想される範囲には積極的にトレーナーを入れ確認作業を行った。斜面下部も、IV層検出後、同様にトレーナーを入れ遺構の有無を確認した。こちらでは、中振火山灰ブロックがはいるV層が、白味が強く黒色土で埋まる遺構を比較的検出しやすいとう理由から、さらにここまで重機で掘り下げて再検出を行った。

また、このトレーナーでの遺構確認作業中に、斜面下部では早期の遺物が出土したため、VII層上面までさらに掘り下げ、遺物の取り上げ、遺構検出を行った。この作業のうち、9R・10Q・10R付近の約300m²は、平成18年度に繰り越して調査している。

〈平成18年度〉

前年度調査区の末了分300m²と、調査範囲中央の4900m²を対象とした。新規で調査した範囲は、東向き斜面と谷部で、どちらも黒色土が厚く堆積する。試掘トレーナーで確認した結果、東斜面・谷部北側はIII層が存在するものの、これに遺物を含まないため、V層上面まで重機で掘り下げ検出した。円形プランがいくつか確認されたが40号土坑以外はすべて、風倒木であった。両者の平面プラン及び覆土は類似しており検出段階での識別が難しい。同様に掘り方も、両者とも円柱状となり、VII～IX層が壁となるくらいまで掘り下げていき底面が安定しないことで初めて木痕と判明する。そのため、これらすべてにトレーナーをいれて確認した。その後、V層面で遺構が希薄であったこと、遺物もほとんど出土しないことから、重機で2m幅ほどのトレーナーを斜面に沿ってVIIc層上面まで開けていく、最終的な遺構確認作業とした。その際、遺構の可能性があるプランが検出された場合のみ周囲を開いた。トレーナー範囲は第9回に示したとおりである。（なお05区、07区については、試掘トレーナー範囲。これ以外にも必要に応じトレーナーを開けている。）

谷部南側（11K～Oグリッドより南）はIII層に遺物を包含するため、小グリッド単位でこれを人力で掘り下げていき、その後IV層（Kグリッド列付近はVI層）で検出した。しかし、遺物が出る範囲が認められるものの遺構範囲を把握できなかったことから、各小グリッド南北列に沿って、サブトレーナーをあけ遺構確認作業を行っていった。その後、遺構が確認されなかった範囲をV層まで掘り下げ再検出し、さらに部分的に小グリッド単位でIII層まで掘り下げ、黒色土で見落とした遺構がないかと、早期の遺物の有無を確認した。

谷部北側のHグリッド列付近、谷部南側11・12K～Lグリッド付近で旧河道を確認しており、南北方向に流れていたようである（第8図）。河道内には中振火山灰が堆積しているため、住居跡が形成されている時期には、周囲よりも低いものある程度埋まっていたであろうと判断される。これを本流として東西に蛇行する流路もあるが、部分的に把握するにとどまった。

〈平成19年度〉

前年度までの遺構の分布から、追加で調査対象となった谷部北端660mと調査範囲西側の4500m²を調査した。谷部北端は、前年度調査区と接しており様相が同じであったため、V層およびⅥ層で検出を行った。西側は、中央が比較的傾斜のゆるやかな南東向き斜面、両端が西向きと東向きの急傾斜となる。やはりⅢ層には遺物が含まれないことからIV層下面まで重機で掘り下げ、V(～Ⅶ)層で検出した。さらに、Ⅶ層まで下げ検出を行ったが、このとき南東斜面の中央～斜面上部にかけては人力、これ以外は重機で掘り下げを行った。

2 室内整理

(1) 遺物の処理

①選別基準

〈土器〉以下の基準を満たすものを抽出し掲載した。

I 立体に復元可能な個体

- ①口縁部残存
- ②胴部～底部で文様帶があるもの
- ③胴部～底部で地文のみのもの

II 破片個体

- ①口縁部 (a 文様帶あり、b 地文のみ)
- ②文様帶のある胴部

その後、遺構内は遺構ごと、遺構外は大グリット単位で、おおよそ出土量に比例するように代表される資料を選別した。これらの作業は各年度で行っており、平成18年度は出土遺物量が多かったため、I③、II②bの個体の掲載を断念した。

〈石器〉

いわゆる定形石器及び不定形石器の分類を行い、各種類・分類された資料のうち代表的なものに関してのみ実測・掲載し、それ以外のものは写真・表掲載とした。

〈土製品・石製品〉

種類ごとに分類を行い、全点登録した。基本的に実測したが、円盤状土製品等、写真・表掲載のみとしたものもある。

②遺物番号・掲載順序

遺物登録時に土器・石器・土製品・石製品と、遺物の種類ごとに仮番号を付した。室内整理中は仮番号のまま作業を行った。その後編集段階で全ての遺物に改めて掲載順の番号を付し、これを掲載番号とした。

(2) 遺構の処理

遺構の実測図は整理及び点検を行った後に、必要に応じて図面を合成し第二原図を作成し、これとともにトレイスを進めた。

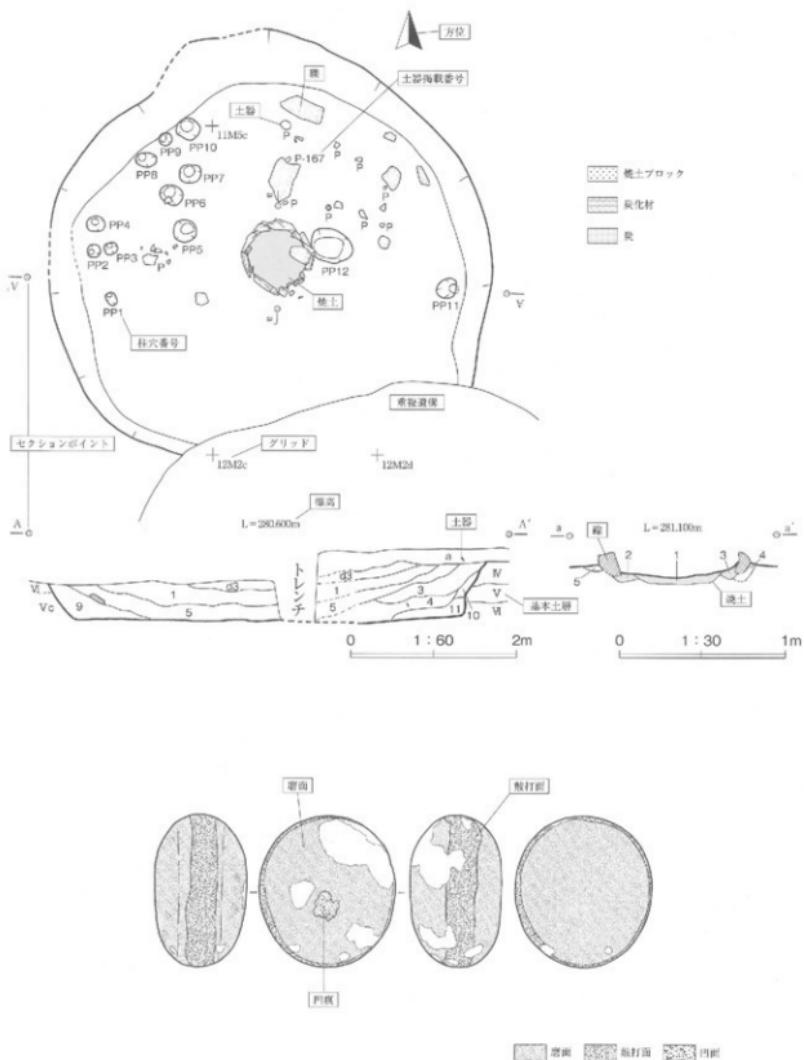
(3) 図版について

遺構ごとに平面・断面図を作成し掲載した。遺構図版には縮尺率を表すスケールと方位を付した。

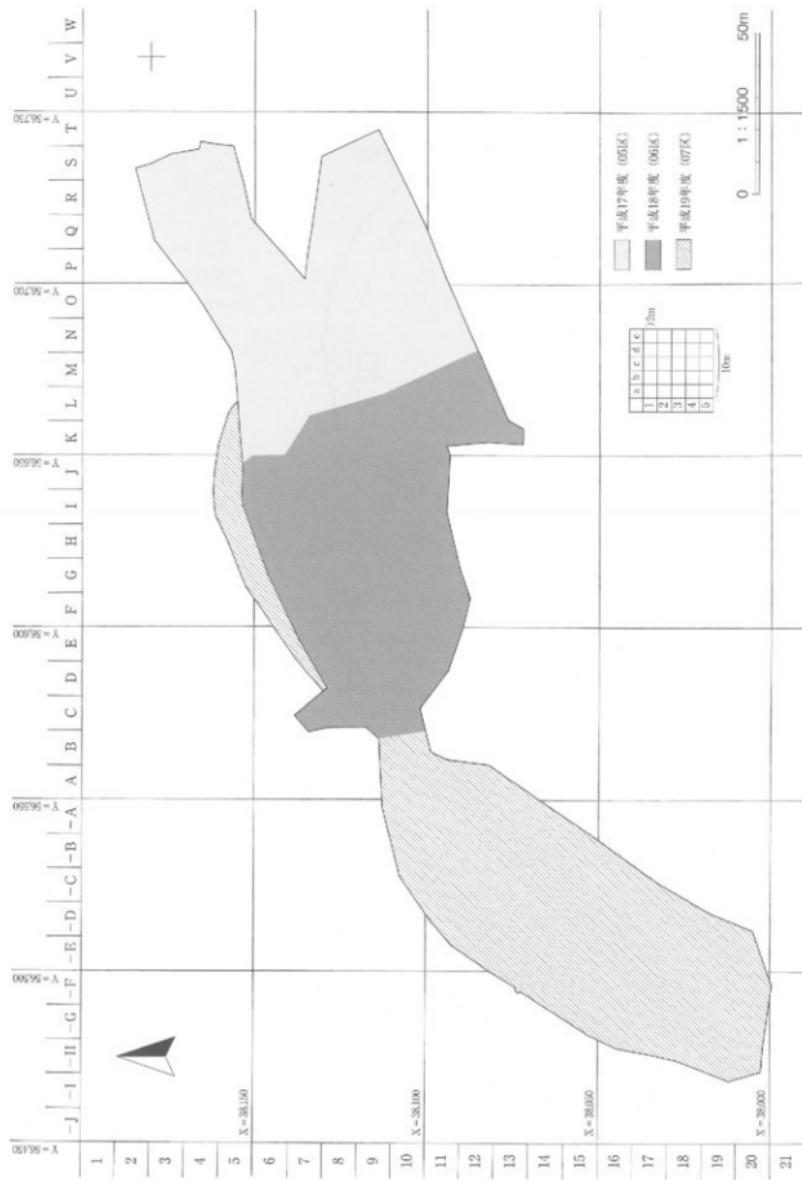
各遺構の縮尺は、竪穴住居跡 $1/60$ 、配石遺構 $1/30・1/5$ 、土坑 $1/40$ 、土器埋設遺構 $1/30$ となる。平面図と断面図が同一縮尺のものには、セクションポイントのアルファベットに大文字を使用し、異なるものを小文字とした。

土器は遺構ごと、石器・土製品・石製品は器種・種類ごとに掲載した。縮尺は、土器・砾石器・石製品を $1/3$ 、剥片石器 $2/3$ 、土製品 $1/2$ とし、極端に大小のあるものに関しては、適宜縮尺を変えた。

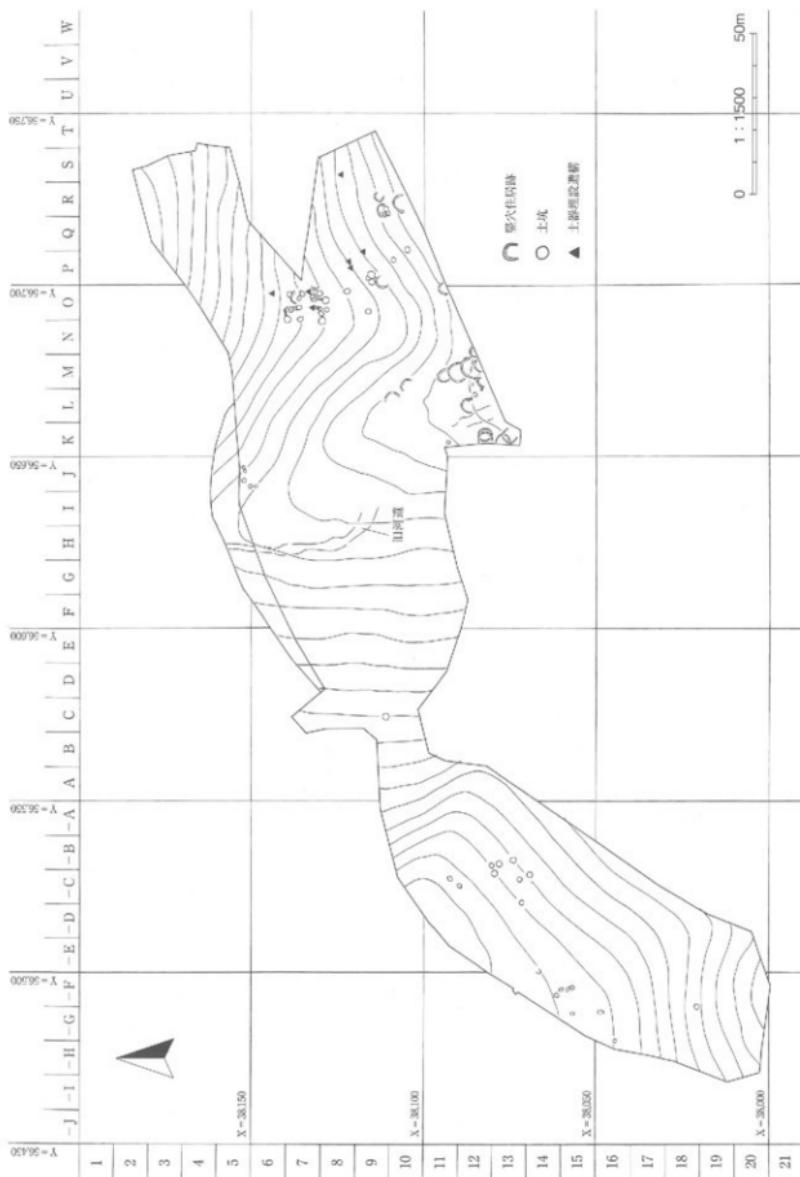
なお遺物写真図版の掲載番号は遺物図版と統一している。



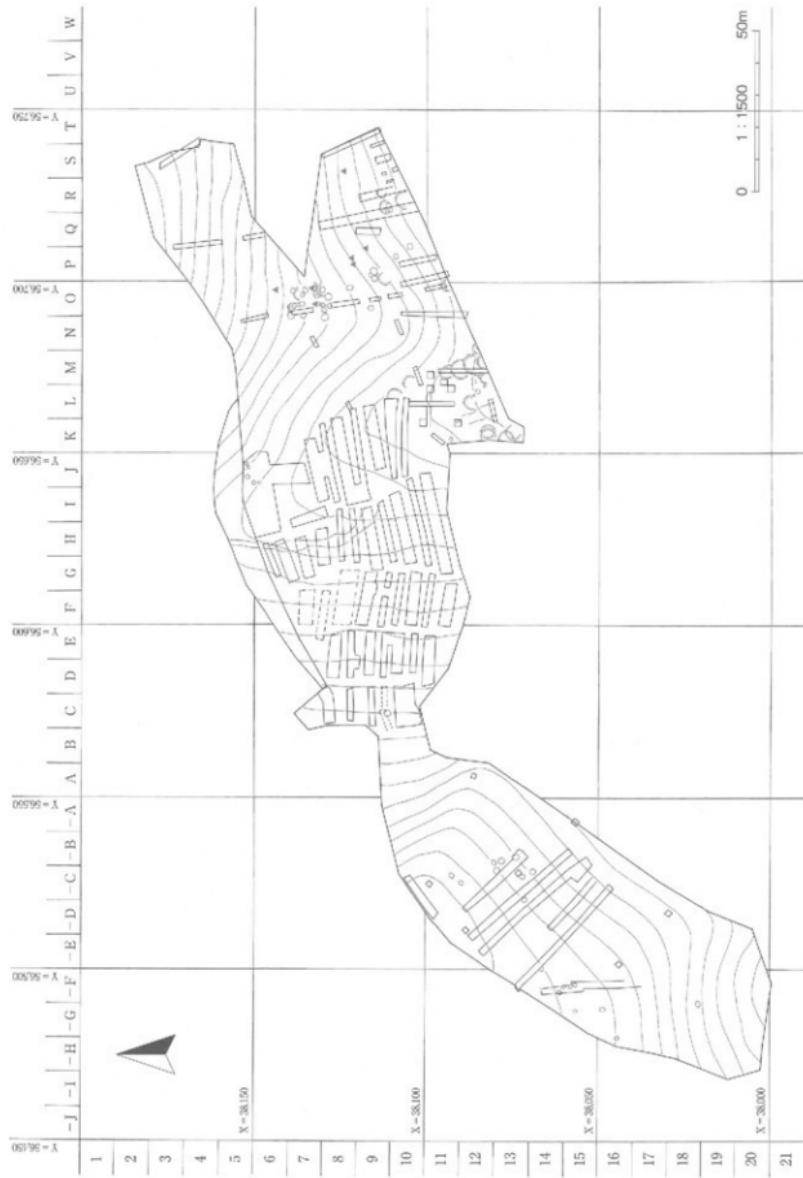
第6図 凡例



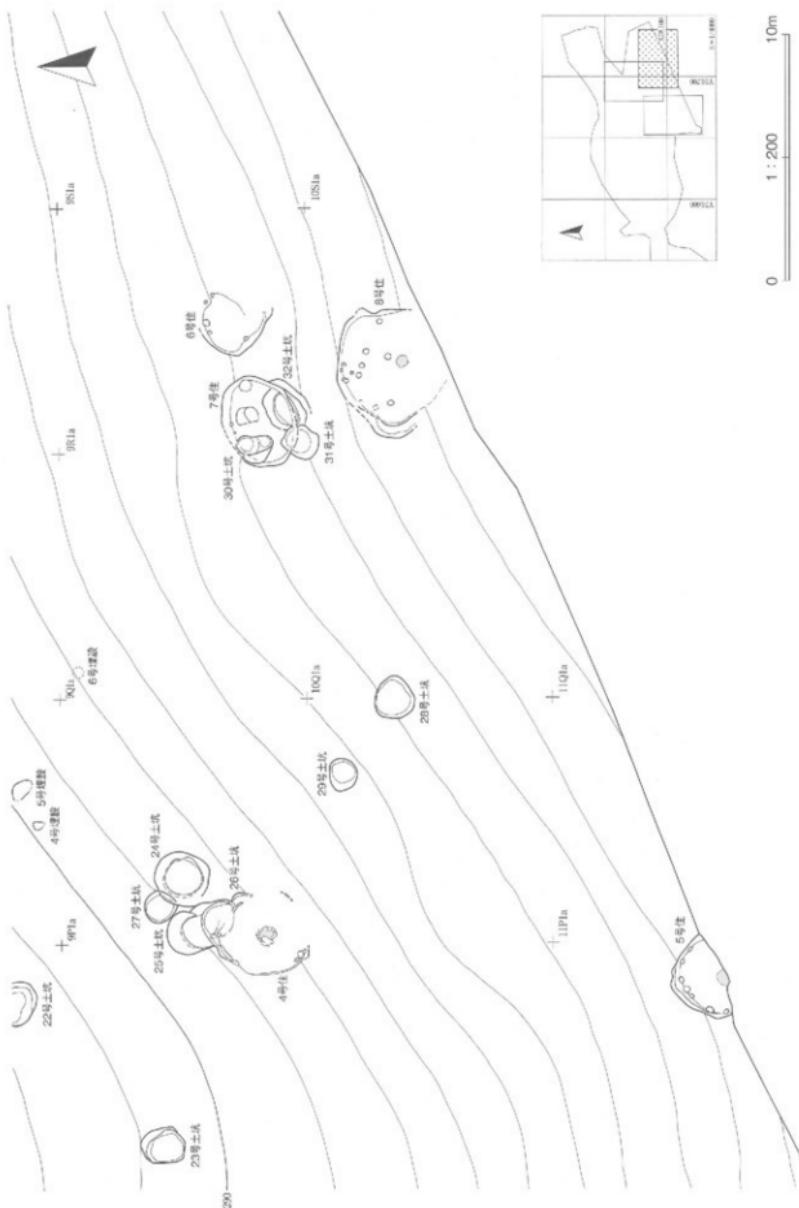
第7図 グリッド設定図



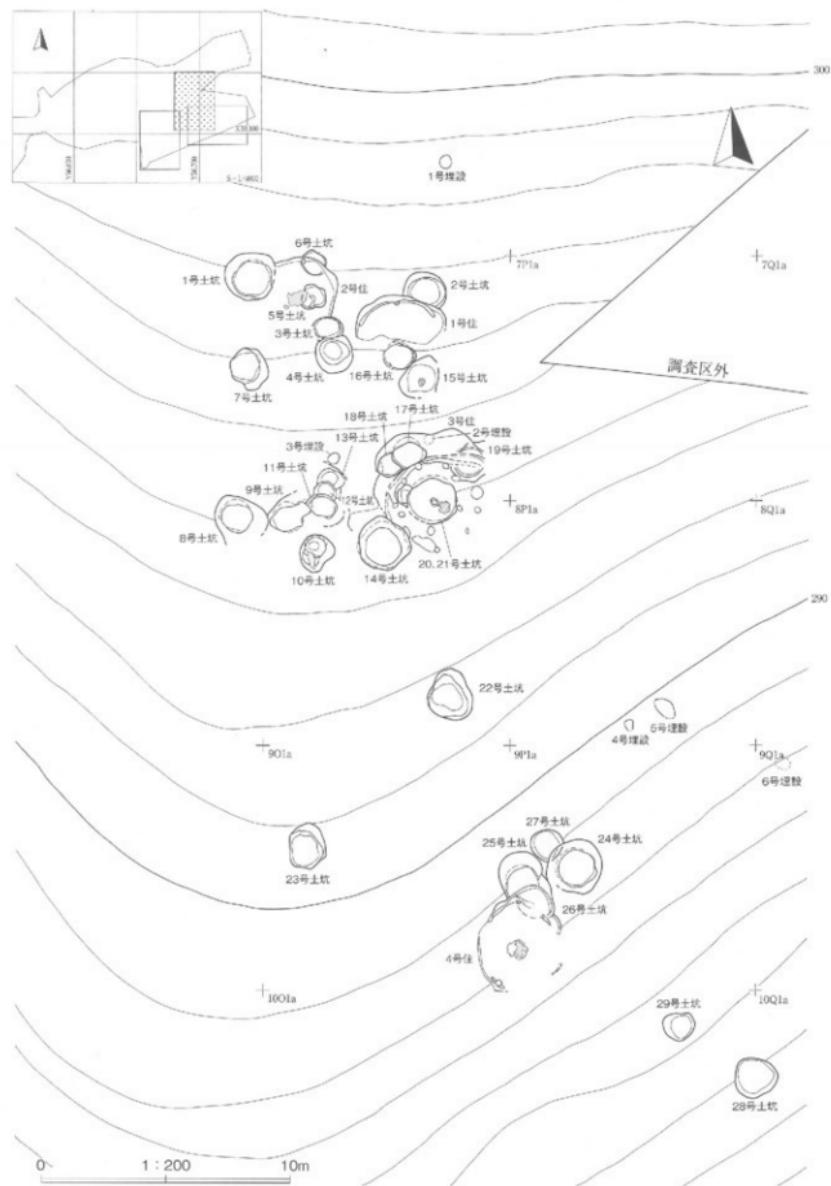
第8図 通構全体図



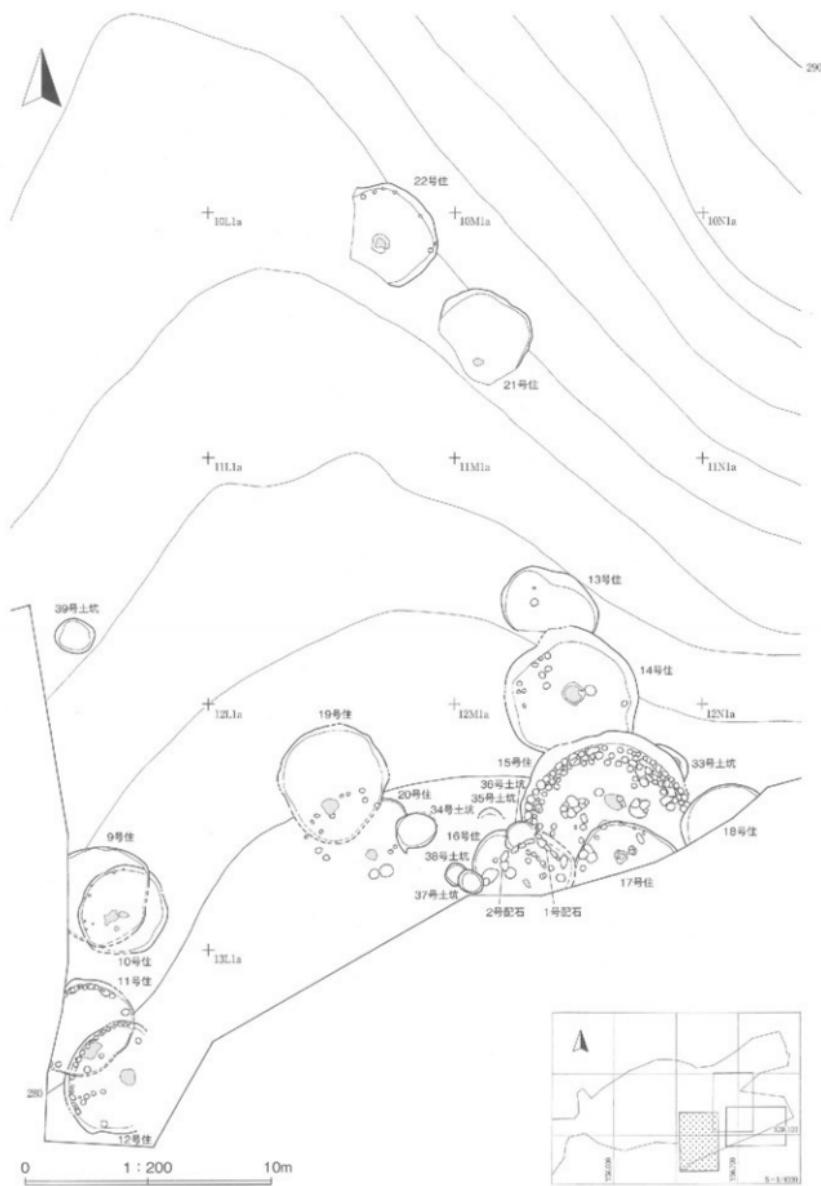
第9図 トレンチ位置図



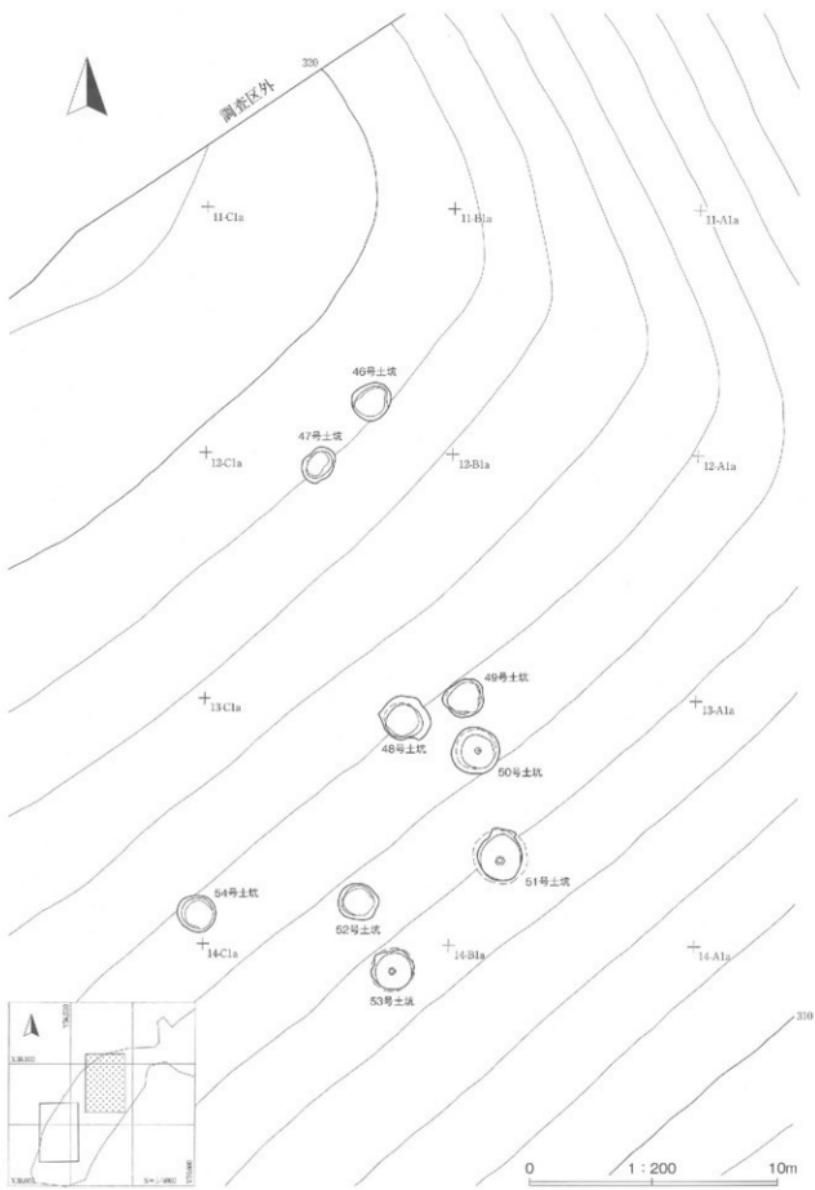
第10図 造構配置図(1)



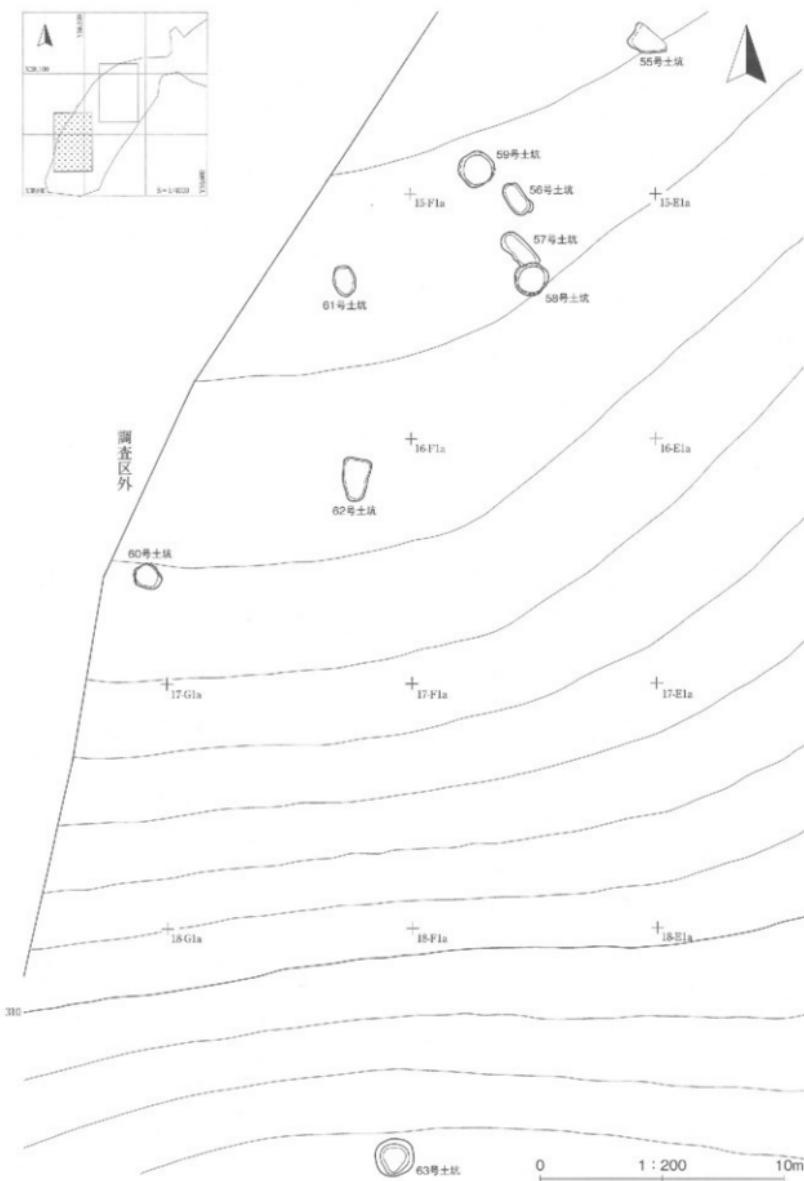
第11図 遺構配置図(2)



第12図 遺構配置図（3）



第13図 遺構配置図(4)



第14図 遺構配置図（5）

IV 検出遺構と出土遺物

1 堪穴住居跡

1号住居跡（第15図、写真図版7）

〈位置・検出状況・重複〉 702cグリッド付近に位置する。V～VI層で暗褐色土の円形プランを検出した。2・15・16号土坑と重複するが、いずれも本遺構の覆土を取り除いた後に検出したため、平面・断面ともに新旧関係を確認することができなかった。しかし、住居床面硬化範囲、覆土の様相・堆積状況から推定すると、2号土坑が本遺構より古く、15・16号土坑が新しい可能性がある。

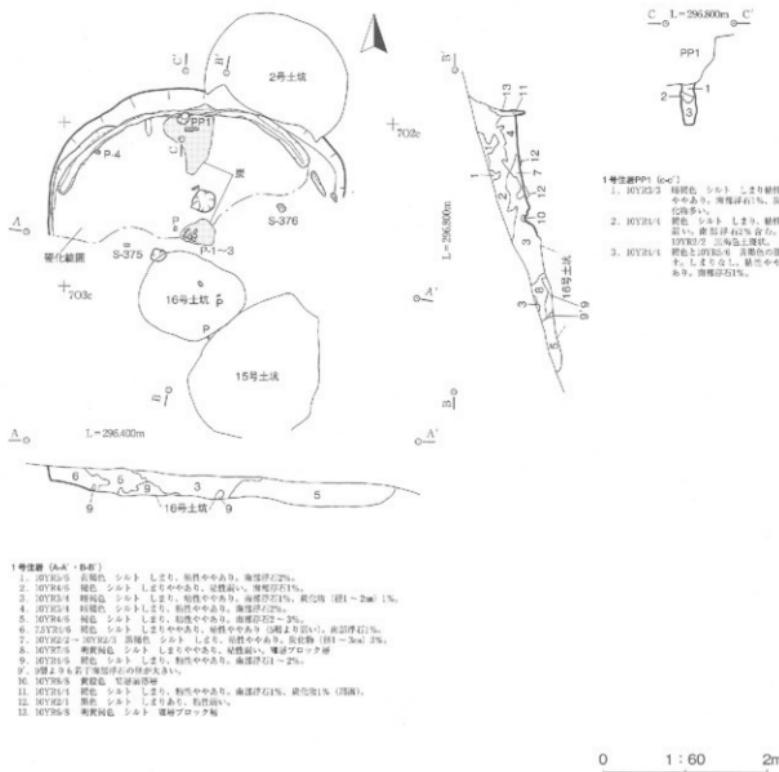
〈規模・形状〉 斜面下部、南北を消失する。残存部から推定すると、形状は円形、規模は東西3.57m、南北1.82m以上である。

〈堆積状況〉 調査時は住居単独の遺構と判断し分層しているが、実際は土坑と重複している。重複を把握できなかった一因として、住居との新旧関係がどちらであっても、新しい遺構が古い遺構の覆土を壘とし、これの崩落を伴いながら埋没しているため、切りあい付近の覆土が非常に類似しているということが考えられる。まず硬化した床面が観察できる範囲を住居の確実な覆土と判断し堆積状況を把握した上で、土坑と重複する部分の覆土を観察していきたい。南北ベルトの北半（北壁際は2号土坑と重複するため除外）、東西ベルトの東端が住居覆土に該当する。北側下部には、黒褐色～暗褐色土、北側上部と東端には褐色～黄褐色土が堆積する。4層上面および、3層中には炭化物・炭化材の広がる面が確認されており、埋没中に焼失・倒壊した可能性がある。次に2号土坑重複部である北壁際を観察すると、Ⅶ層ブロック（13層）が堆積している。土坑単独部には同様のブロック層がみられないこと、土坑覆土と判断した場合、縦に細長い堆積状況が不自然であることから、住居壁崩落ではないかと考えられ、2号土坑よりも本遺構のほうが新しいと推定される。次に16号土坑重複部とその周辺では、下部から褐色土、黄褐色土、暗褐色土の順に堆積する。この範囲では硬化した床面は確認されておらず、床の崩落土と考えられる8層（Ⅷ層ブロック）が堆積する。また、土坑断面観察箇所では確認できなかったが、16号土坑覆土内には焼土ブロックが混入する。この焼土ブロックが住居炉の焼土が土坑壁崩落に伴い流入していたとすると、床面が確認されなかったこともあわせて16号土坑が本遺構を切る可能性がある。この場合、南北ベルトの3層の一部、5・9・9'層が土坑覆土となる。東西ベルトは西側の3層（と5・9層）がこれに対応すると思われる。最後に15号土坑との重複部分である東側の5層は、他の5層よりも南部浮石粒の混入量がやや多い。床の硬化面も確認できなかったことから東側5層は15号土坑覆土で住居を切っているとも考えられる。

〈床面・周溝〉 北半のみ残存する。黒色を主体とする掘方（12層）が部分的に見られるが、基本的にⅨ層を床としており、大半が固くしまる。南半はこの硬化面が認められず、床面を追うことができない。上述の通り、新規土坑に掘削されているか、土坑覆土中に床面が形成されたため認識できなかった、もしくは急傾斜のため崩落してしまったかのいずれかが考えられる。北壁際には、幅7～17cm、深さ最大15cmの周溝がめぐる。東西壁際では途切れてしまい確認されていない。周溝内には床面と同様、Ⅷ層ブロック層が堆積していたが、床面のしまりが良いのに対し、周溝内の覆土は柔らかく識別は比較的容易であった。

〈壁〉 南半は消失するが、北壁は外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大57cmである。

〈土坑・柱穴〉 北壁ほぼ中央、周溝に一部重なり1個検出された。直径17cm、深さ50cmで、暗褐色～



第15図 1号住居跡

褐色土を主体とする。このほか、周溝底面は平坦ではなくところどころ深くなっている。これらとP P 1で柱穴を構成していたものと思われる。また、住居中央付近にも円形で浅皿状に掘り込まれる範囲が2箇所確認されたが、いずれも床よりわずかに窪む程度で、柱穴と判断できなかった。

〈炉〉検出されていない。住居中央部に設置されていたと仮定すると、16号土坑北壁付近に位置し、前述のとおり土坑が新しい場合はこれに埋されている可能性がある。

〈遺物〉土器（1～4：第64図、写真図版52）、石器（s-172・305・375・376：第109図、写真図版80・84）。土器は、3層上面より1～3、壁際覆土下部より4が出土している。1と2は接合しないものの胎土・色調が類似し同一個体の可能性がある。

2号住居跡（第16図、写真図版8・9）

〈位置・検出状況・重複〉7 O 1 aグリッド付近に位置する。V～VI層で暗褐色土の不整形プランを

検出した。ベルトを設定し掘り下げたところで1・3号土坑、ベルト除去後に5・6号土坑と重複していることが判明した。断面の堆積状況から1号土坑が本造構を切る。5・6号土坑は土坑覆土中に床面が作られており、5号土坑上では炉が形成されていることから、住居跡よりも古いと判断される。3号土坑との新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 斜面下部である南半と西壁を消失する。残存部から推定すると、形状は円形、規模は東西2.70m、南北2.00m以上である。

〈堆積状況〉 斜面上方から覆土が流入する。北壁際にⅦ層が崩落し、その後褐色土が堆積する。南半の床面が確認されておらず、住居埋没過程で床面が削られさらに下方へ崩落していったものとも思われる。

〈床面・周溝〉 北半でのみ確認した。Ⅶ層を床面としており、固くしまる。炉より南側では、上述の通り床面は消失している。周溝は確認されなかった。

〈壁〉 北東部のみ残存する。外傾して立ち上がり、検出面からの深さは最大45cmである。Ⅶ層まで掘り込む。

〈土坑・柱穴〉 1個検出した。1号住居と同じ北壁際の中央付近に位置する。壁柱穴を想定し壁際を確認したが、P P 1以外は検出されなかった。

〈炉〉 地床炉を1基確認した。焼成の及ぶ範囲は88×57cmの不正格円形、深さは最大5cmである。炉の中心部から北壁・東壁までの距離は1.7m程度となる。

〈遺物〉 土器（5～10：第64図、写真図版52）、石器（S-173：第109図、写真図版80）。土器5とS-173の磨製石斧が床面から、これ以外は覆土上部～検出面にかけての出土が多い。

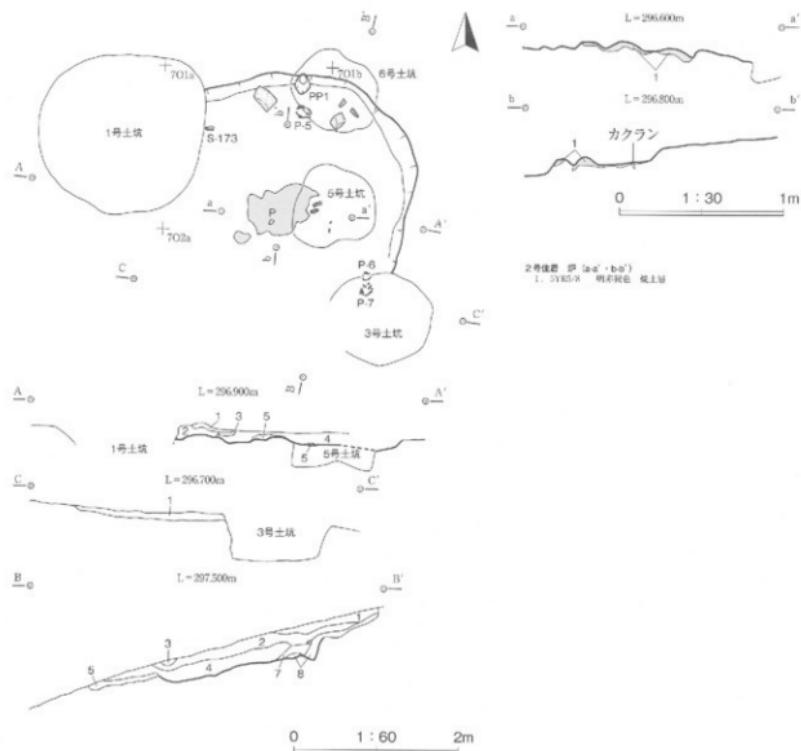
3号住居跡（第17・18図、写真図版9・10）

〈位置・検出状況・重複〉 705dグリッド付近に位置する。IV～VI層で褐色土のシミ状の広がりを検出した。プランがはっきりしないため、南北にサブトレント（B-B'の範囲）をいたれたところ北半に遺物・礫が広がる面が認められた。その南側はこれよりも深く掘り込まれており、壁がオーバーハングする断面形状を持つ造構が存在しており、本住居跡と土坑（20号）が重複していると判断した。さらにベルト除去後に17～19号土坑と重複していることを確認した。新旧関係は本住居跡がこれらの土坑すべてより新しい。一方で、2号土器埋設造構と14号土坑は住居調査前に掘り下げてしまつたため新旧関係を確認していない。しかし、土器埋設造構は住居覆土上につくられていたため、これよりも新しいと判断したい。

〈規模・形状〉 斜面下部、南半の壁・床面は残存していない。東壁も造構確認トレントをあけており消失してしまった。残存部から推定すると平面形は円形、規模は南北3.80m以上、東西4.45m以上である。

〈堆積状況〉 黒褐色～黄褐色土を主体とする。斜面上方より土が流入しており、南半は床面の削平・崩落を伴ながる堆積する。覆土下部は黒褐色～暗褐色土、上部は黄褐色～褐色土が日立つ。北壁際は、壁上半の南部浮石層が崩落したためか、これの混入量が多い（11・17層）。

〈床面・周溝〉 北半のみ残存する。北側がⅦ層、南側がⅧ層まで掘り込んでおりこれを床としている。19～21号土坑重複部ではこれらの覆土が床となる。炉の近くほど固くしまっており、この面を追っていくと平坦ではなくやや凹凸がみられる。斜面地に建てられているためか、斜面下方へ向かって傾斜している。貼床は施されていないが、南半では掘方の痕跡と思われる掘り込みが確認されている（P P 9・P P 10）。壁際には幅20cm前後、深さ10～20cm程度の周溝がめぐる。覆土は南部浮石粒をわずか



2号住居 (A-A')

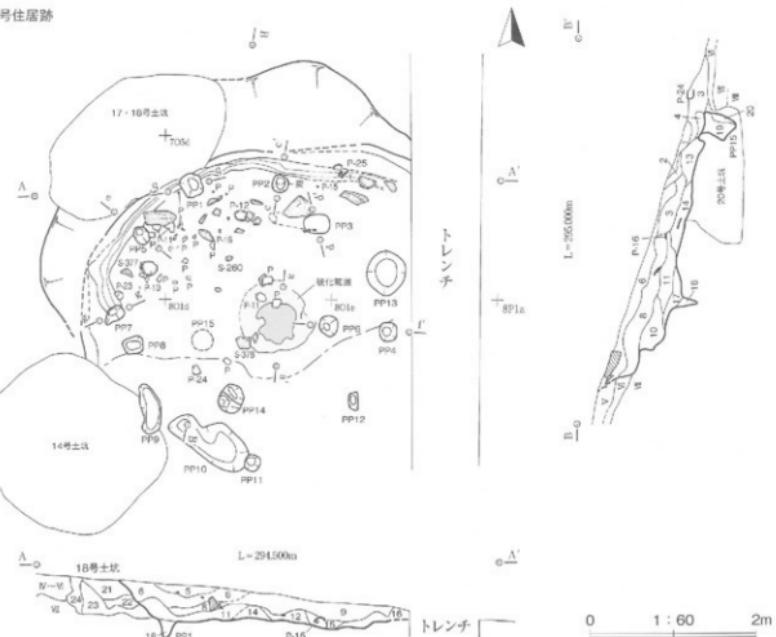
1. 19TE4/4 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。
2. 19TE4/5 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。塊状浮石1%。
3. 19TE4/9 黄褐色 シルト しまりあり、粘性なし。炭化物1%。
4. 19TE4/9 黄褐色 シルト しまりあり、粘性弱い。塊状浮石1%、炭化物1%。
5. 19TE4/9 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。SVS5/8 明る褐色板上ソリッド大型。

2号住居 (B-B') [C-C']

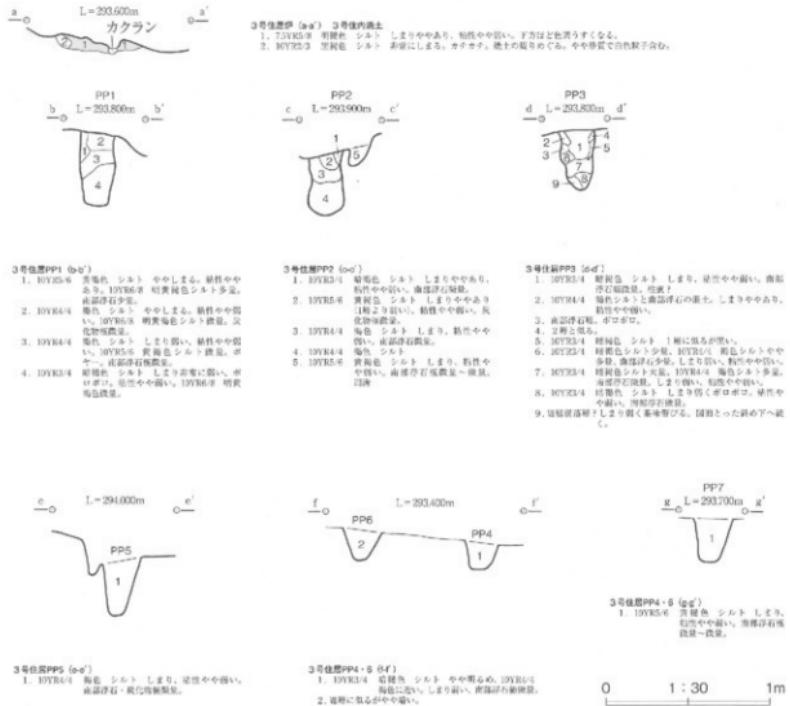
1. 19TE5/6 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。塊状浮石2%。
2. 19TE5/6 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。塊状浮石3%。
3. 19TE4/6 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。塊状浮石1%。
4. 19TE4/4 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。塊状浮石3%、炭化物1%。
5. 19TE5/6 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。塊状浮石3%、19TE6/6 粗面褐色板上ソリッド10%。
6. 19TE5/6 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。塊状浮石3%。
7. 19TE5/6 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い。塊状浮石3%。
8. 19TE5/6 黄褐色 シルト しまり弱い、粘性ややあり。30TE1/6 黄褐色土含む。

第16図 2号住居跡

3号住居跡



第17図 3号住居跡 (1)



第18図 3号住居跡 (2)

に含む黄褐色土で構成される。また19号土坑重複部では扁平な礫が3個体周溝上に立てかけられたような状態で出土している。

〈壁〉北壁・西壁のみ残存する。下半はほぼ垂直に立ち上がり、上半が大きく外傾する。上半は壁となる基本土層がⅥ～Ⅸ層で、崩落しやすかったものと考えられ、覆土中にもこれらの崩落土と推定される層が堆積する(2・7・11・17層)。検査面からの深さは、最大56cmである。

〈土坑・柱穴〉15個確認した。直径30cm前後、深さ30～40cm程度の柱穴が周溝に沿っており、壁柱穴を構成していたものと思われる(PP1・2・5・7・8)。このうちPP2は底面に周囲より黒味の強い直径10cmほどの円形範囲が確認でき、柱痕の可能性がある。PP3は斜めに傾いており、覆土は床面から30cm程度までは暗褐色土を主体とし、柱痕のような層(1層)も確認できるが、それ以下はⅨ層の崩落土のようなつまりの弱い層が底面まで続く(9層)。PP15は断面でのみ確認した。PP9～14は掘込みが浅く、柱穴、もしくは周溝や掘方の一部と想定される。

〈炉〉 地床炉が1基検出された。周囲の床面によりわずかに窪んでおり、焼成の及ぶ範囲は51×48cmの不正円形、深さは最大8cmとなる。炉の周辺には86×84cmの非常に堅くしまった範囲が確認された。

〈遺物〉 土器（10~30：第65・66図、写真図版52・53）、石器・石製品（S-1・2・174・260・322・377・378・408：第104・111・115図、写真図版78・81・85・87）。

4号住居跡（第19図、写真図版11）

〈位置・検出状況・重複〉 9P5aグリッド付近に位置する。IV~VI層で円形のプランが複数重なって検出されたため、土坑群を想定してベルトを設定しサブトレントをいた。しかし、トレントを掘り下げたところ、広い平坦面が確認され、またその面で炉と思われる焼成範囲が認められたことから、住居と土坑群の重複であると判断した。断面で堆積状況を観察したところ、26号土坑のほうが新しいが、24・25号土坑との新旧関係は確認できていない。また、西側は風倒木に切られる。

〈規模・形状〉 北側は26号土坑、西側は風倒木により消失、南東部は斜面下のため残存する覆土が浅く、断片的にしか壁を確認できなかった。西側の風倒木は、住居内から外側へ向って倒れ込んでおり、住居覆土と壁である地山層を巻き上げた堆積状況がみられた。これらは本来の位置と大きく動いていないものと考え、地山ブロック層（巻き上げ層）の堆積する位置を記録した。残存する部分から形状は円形、規模は3.65×3.62mである。

〈堆積状況〉 黒褐色～褐色土を主体とする。斜面上方から覆土が流入しており、床面付近と上部に黒味の強い層（2・5層）、その間に黄褐色土を多く含む層を挟む。2層は、炭化物、遺物を多く含み、特に炭化物は下面に沿って目立って観察された。また北西壁際では黄褐色土ブロックを多く含む層が堆積する（巻き落層？）。

〈床面・周溝〉 V~Ⅵ層まで掘込みこれを床とする。斜面上部の床面は固くしまり、精査時に覆土との境界が明瞭に判別できたが、斜面下部ではあまりはっきりしなくなる。壁際には部分的に周溝がめぐる。幅15~20cm、深さ10cm程度、Ⅵ層ブロックが堆積する。

〈壁〉 ほぼ直立する。検出面からの深さは最大65cmである。

〈土坑・柱穴〉 3個確認した。いずれも周溝付近に位置し壁柱穴と判断される。

〈炉〉 住居のほぼ中央に1基検出された。周囲の床面より窪んでおり、焼成の及ぶ範囲は63×56cm、深さは最大7cmとなる。この焼土の周囲には直径10~15cm程度の楕円形から円形の小穴が9個検出されている。これらを石の抜き取り痕とすると、石圓炉の可能性がある。

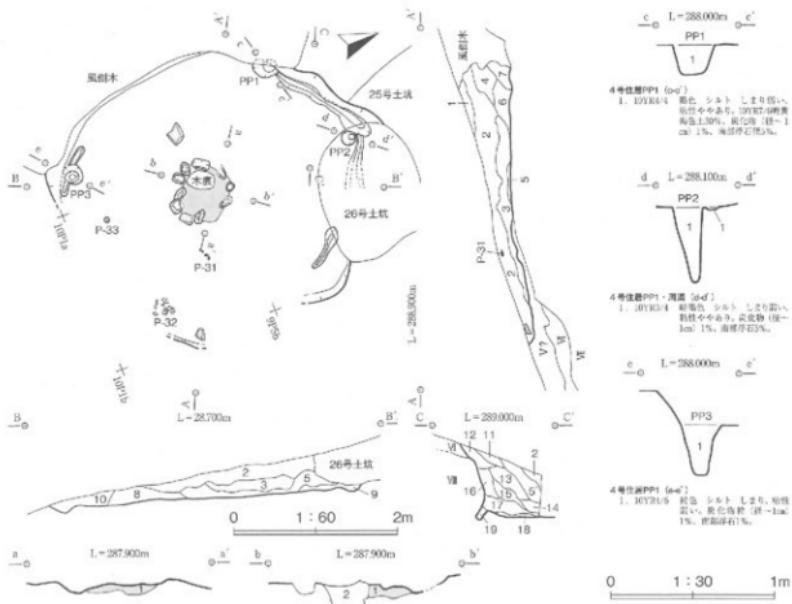
〈遺物〉 土器（31~36：第66図、写真図版53）、石器（S-100・379：第115図、写真図版85）。土器は2層中に多く含まれ、S-379は石皿で床面より出土した。

5号住居跡（第20図、写真図版12）

〈位置・検出状況・重複〉 11O4cグリッド付近に位置する。調査区域の壁で焼土と砾が確認され、周囲を検出したところ、十和田b降下火山灰粒を含む黒色土の広がりが認められた。検出面はVI層である。重複する構造はない。

〈規模・形状〉 南半は調査区外、町道となっているため、調査前にすでに消失していた。残存する部分から推定すると、形状は円形、規模は3.53×2.25m以上である。

〈堆積状況〉 斜面上方から流入しており、覆土の大半は黒色土を主体とする。床面直上に炭化物を多く含む8層が堆積し、その上位層はⅧ層の砾片を含む。斜面上方10Oグリッド付近でⅧ層が露出しており、これが崩落したものと思われる。最上層は黒味が強く他層に比べ遺物が多く混入する。壁際は、



第19図 4号住居跡

南部浮石や暗褐色土の混入量が多く、壁が崩落している。

〈床面・周溝〉Ⅷ層まで掘込み黒色土を貼床としている。平坦で、硬化面は認められない。周溝は、調査区境壁の断面および、床面で検出を試みたあと18層を掘り下げて再度確認したが検出されなかつた。

〈壁〉下半はほぼ直立、上半は外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大74cmである。

〈土坑・柱穴〉9個確認した。PP1～8は直径20～30cm前後でいずれも壁際に位置する。このうちPP2・3・5・7は外側に向かって斜めに掘り込まれている。PP8は当初調査区境の断面にて住居壁に向かって斜めの掘りこみを確認したが、精査途中に崩落し消失してしまった。PP9は、上部に本住居の炉が形成されており、住居より古いと判断される。しかし、柱穴は北半のみ残存し南側は町道との境界壁に断面が露出している状態なので、後世に町道際から斜めに掘り込まれ、このような状態になった可能性もある。覆土も、他のものと違い非常にしまりが弱い。

〈炉〉右側が1基検出した。南半を消失し、66×45cmの半円形、深さは最大10cmである。床面よりやや深んで形成されている。残存する住居北半の半径のはば中心に位置する。

〈遺物〉土器(37～40:第66図、写真図版53・54)。121が床面付近、これ以外は1層中の出土である。

6号住居跡(第21図、写真図版13)

〈位置・検出状況〉9R4cグリッドに位置する。試掘トレンチの埋め土を重機で除去していたところ土器片がまとまって出土した。そのため、その周囲の埋土を人力で丁寧に取り除き、トレンチ壁で断面観察したところ本遺構の掘込みを確認した。その後トレンチ西側をV層で検出したところ、黒色土に土和田b降下火山灰を含む半円状の広がりが認められたため、住居跡と判断して精査を開始した。重複する構造はない。

〈規模・形状〉試掘トレンチで東半のはとんどを消失するが、トレンチ底面にて斜面上部の床面または掘方の一部を確認した。残存する部分から推定すると形状は円形、規模は2.94×2.72m以上である。

〈堆積状況〉斜面上方から流入し、黒色土を主体とする。覆土下部より上部のほうが、黒味が強く、1～3層には土和田b降下火山灰を含む。壁際の8・9・11層は、壁の基本層序がそのまま崩落しており、混入物の少ないきれいな層が堆積する。B-B'層の4'・10層は周囲の基本層序とは異なる混入物が含まれることや遺物も出土することから、覆土が住居範囲を越え斜面下部へ崩落したものと考えられる。

〈床面・周溝〉西半のみ残存する。VI層～VII層上面まで掘込み、おおむねVI層を床としている。平坦で、とくに硬化面は認められなかった。東半はVIc層～VII層まで掘り込んでいた斜面上方のみ床面およびその痕跡が残存していた。周溝は確認されなかった。

〈壁〉北側(斜面上部)は上部がやや外傾するもののほぼ直立する。

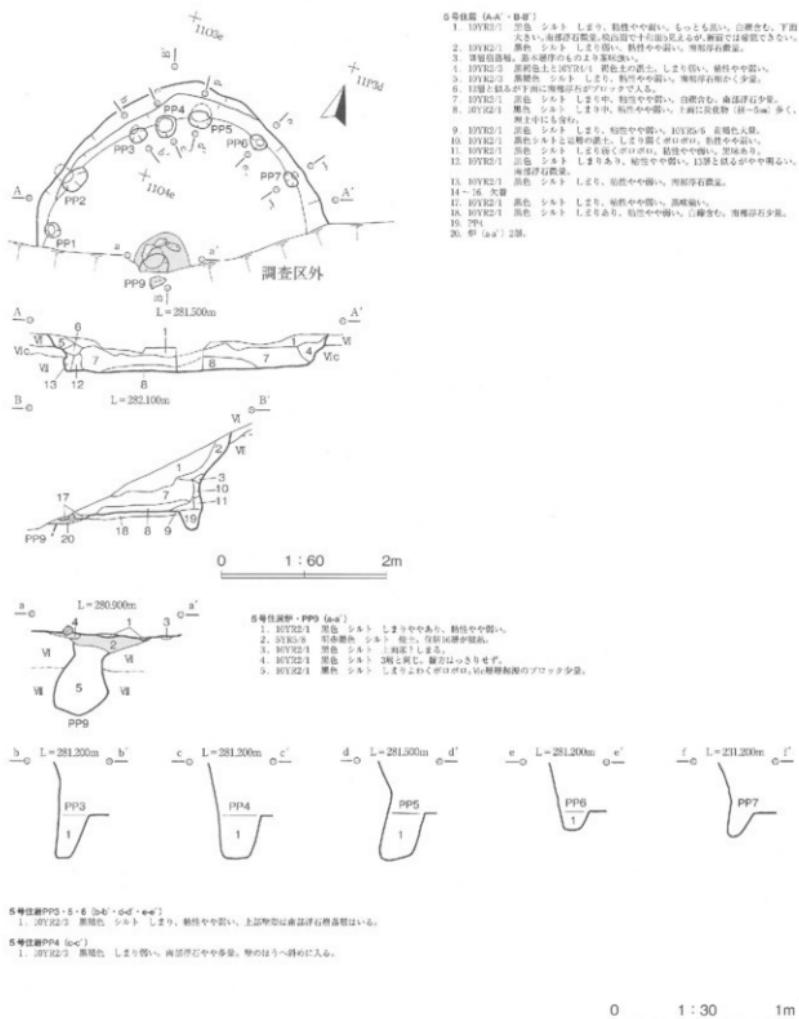
〈土坑・柱穴〉5個確認した。いずれも壁際に位置しPP3を除いて、直径15cm程度の比較的小なものである。

〈炉〉検出されていない。位置から推定すると試掘トレンチで掘り下げた範囲にあった可能性がある。

〈遺物〉土器(41～43:第67図、写真図版54)。41が床面、それ以外は上部より出土した。

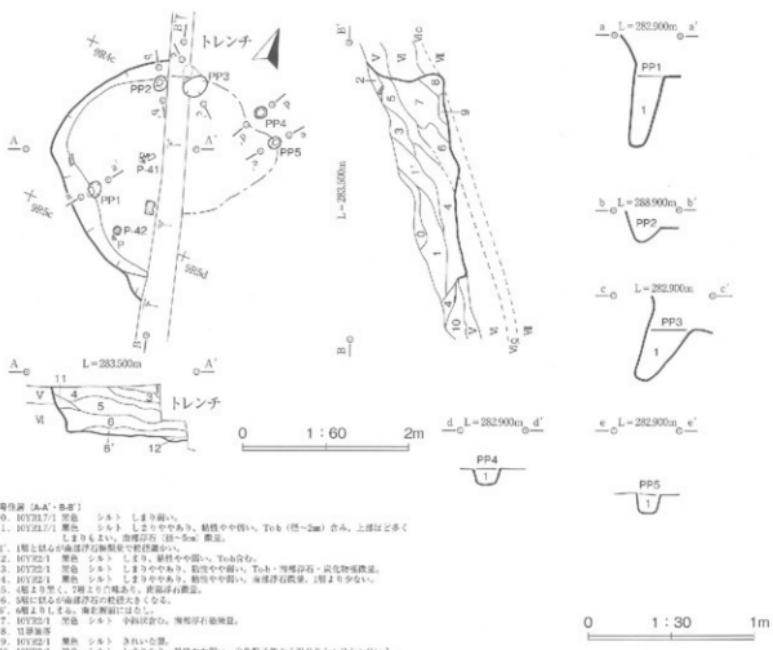
7号住居跡(第22図、写真図版14・15)

〈位置・検出状況・重複〉9R5aグリッド付近に位置する。試掘トレンチを設定し、VII層上面まで掘り下げたところ黒色土の半円状のプランを2基確認した(30・31号土坑)。トレンチ内にから遺物



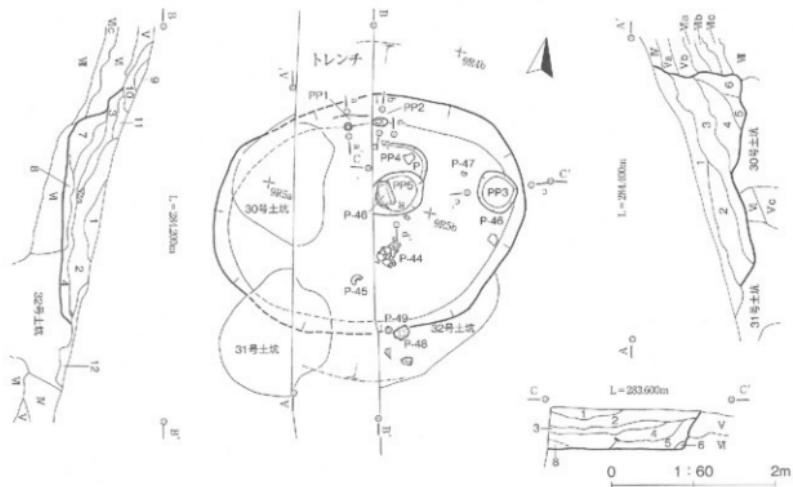
第20図 5号住跡

1 堅穴住居跡



第21図

6号住居跡

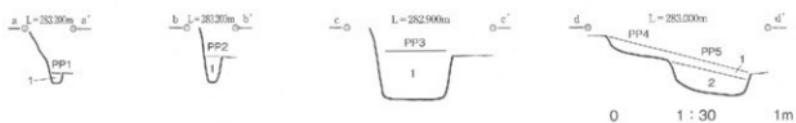


7号住居 (A-A')

1. 黒色 シルト しまりやや固い。V型柱穴に多く、南部浮石散在。
2. HSY21-1 黒色 シルト しまりやや固い。V型柱穴に多く、南部浮石散在。
3. 2層に丸みが、硬く、じゅうり、堅性やや弱い。南部浮石散在。（一部H22-2）
4. 黒色 シルト しまりやや固い。V型柱穴に多く、南部浮石散在。（=H22-4層）
5. HSY21-1 黒色 シルト まとも柔軟。南部浮石散在はまれな所。しまりやや弱い。V型柱穴に多く。
6. 黄褐色地に灰斑。しまりやや固い。堅性やや弱い。南部浮石少量。

7号住居 (B-B')

1. HSY21-1 黒色 シルト しまりやや固い。粘性やや弱い。Tbを含む。南部浮石少量。基底強度。
2. HSY22-1 黒色 シルト しまり。粘性やや弱い。V型柱穴少量。がくっと混じる。南部浮石散在。灰化物散在。
3. 2層に丸みがあるが2層よりヤフリシカットよう。V型柱穴少量。
4. 黑色 シルト しまりやや固い。V型柱穴少量。南部浮石散在。
5. HSY21-1 黑色 シルト しまりやや固い。粘性やや弱い。南部浮石散在。
6. 黑色 シルト 上位より黒味。南部浮石散在。強度弱。
7. HSY21-1 黑色 シルト しまりやや柔軟。V型柱穴少量。
8. 黑色 シルト しまりやや柔軟。V型柱穴少量。南部浮石散在。
9. HSY22-3 黑褐色 シルト しまり。粘性やや弱い。V型柱穴少量。下面に埋れる。
10. HSY22-3 黑褐色 シルト 上位より柔軟。
11. HSY22-3 黑褐色 シルト 9m以上。
12. HSY22-1 黑色 シルト しまりやや固い。粘性やや弱い。やや明るく白っぽい。



7号住居PP1 (a-a')

1. HSY22-1 黒色 シルト きれいな層。しまり、粘性やや弱い。

7号住居PP2 (b-b')

1. PP1と同じ。

7号住居PP3 (c-c')

1. HSY22-1 黒色 シルト きれいな層。しまり中、粘性やや弱い。壁面内に折めに入る。南部浮石散在。

7号住居PP4・5 (d-d')

1. HSY22-1 黒色 シルト しまりやや固い。粘性やや弱い。V型柱穴少量。
2. HSY22-1 黑色 シルト しまりやや固い。粘性やや弱い。V型柱穴多量。南部浮石含まない。

第22図 7号住居跡

も出土していたが、これらに帰属するものと判断していた。その後、基本層序確認のため、土坑周辺の分層を行っていたところ、土坑覆土を切る遺構の存在に気がついた。そこでトレンチ周囲を検出したところ、十和田b降下火山灰粒を含む黒色土が円形に広がっており、住居と土坑の重複と判断した。検出面はトレンチ西側がIV層上面、東側がV層上面である。上述の通り30・31号土坑、それと32号土坑と重複するがいずれも本住居跡に切られる。

〈規模・形状〉 平面形は椭円形、規模は3.90×2.90mである。

〈堆積状況〉 斜面上部より流入し黒色土を主体とする。最上層は黒味が強く十和田b降下火山灰粒が混入する。A-A' 1層、B-B' 9・10・12層は、壁の崩落を伴いながら遺構範囲外まで堆積している。

〈床面・周溝〉 重複土坑の覆土およびVI層を床とする。特に硬化面は認められず、トレンチ西側は重複部の床面を平面的にはっきり追うことができず土坑と同時に掘り下げてしまった。周溝は検出されなかった。また床面に貼りつくように炭化物が2片出土し、鑑定の結果ケヤキであった。

〈壁〉 北側斜面上部は、下半が直立、上半が外傾して立ち上がる。南側も外傾する。検出面からの深さは最大102cmである。

〈土坑・柱穴〉 5個検出した。PP1・2は小穴で、他の住居と同様に壁際より検出された。PP3は壁際ではあるが、直径50cm程度とやや規模が大きい。PP4・PP5も直径が50cmを超える。本住居より古い遺構（土坑？）の可能性も考えられる。これらの柱穴の多くは、黒色土である床面で確認できずにVIc層～VII層まで掘り下げて検出した。そのため、31・32号土坑覆土中のものは見逃してしまった可能性がある。

〈炉〉 検出されていない。しかし、トレンチを掘り下げている際、土器45の北側に焼土を確認している。狭い範囲の上、黒色土と混じっているように見えたためそのまま掘り進めましたが、炉の痕跡であった可能性がある。

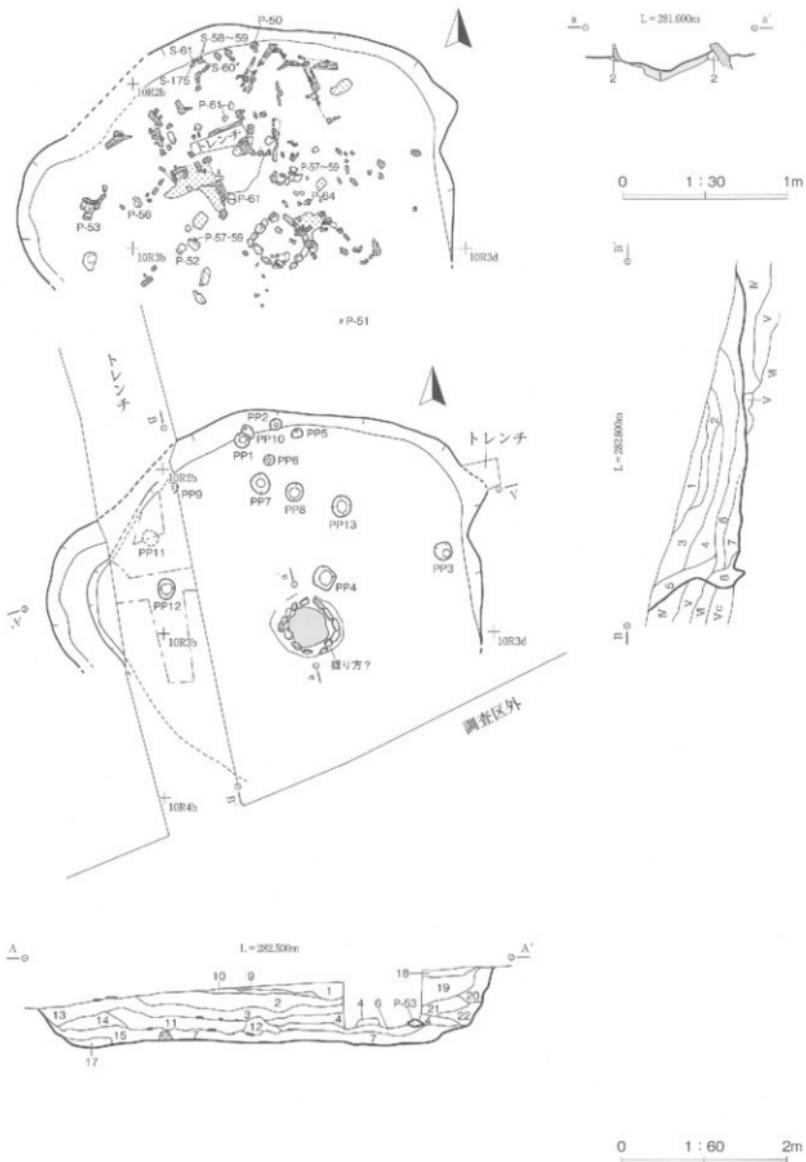
〈遺物〉 土器（44～49：第67図、写真図版54）、石器（S-279：第111図、写真図版81）。土器44～47は床面～覆土下部、48・49は大小の浅鉢で12層底面に並んでいた。石器は31号土坑との重複部で出土している。

8号住居跡（第23・24図、写真図版16・17）

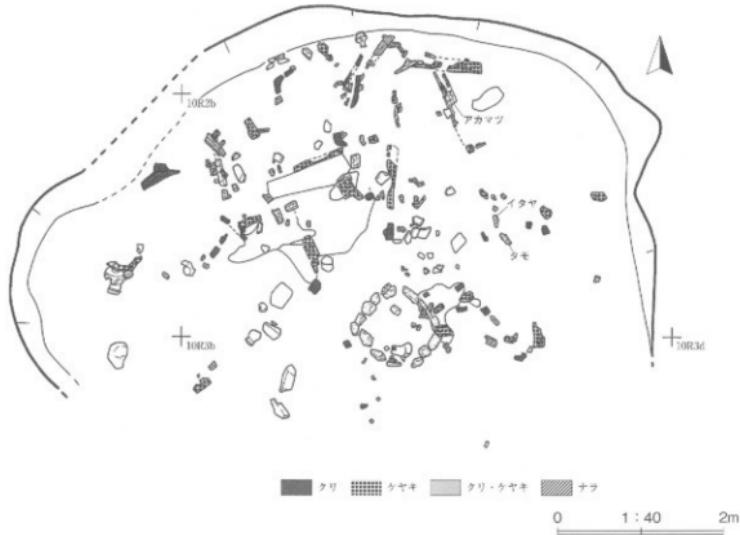
〈位置・検出状況・重複〉 10R 2bグリッド付近に位置する。試掘トレンチ内を掘り下げていたところ、IV～V層面から炭化物・遺物が多く含まれる層が確認された。しかし、基本層序と主体上が同じで境界がはっきりしなかった。遺物・大きい炭片が出土した範囲を残してVIc層上面まで掘り下げたところ、北側に立ち上がりが認められた。そこでトレンチ周囲をしたところ、十和田b降下火山灰粒を含む黒色土が広がっており、住居跡と判断した。検出面はIV層、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 西側は、一部トレンチを掘りさげてしまい、斜面下である南側は、斜面上からの崩落により床面まで削平され消失する。残存部から推定する形状は円形、規模は5.45×4.0m以上である。

〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。覆土下部（4・6・7・11層）に炭化物を多く含む。その混入量は6層が最も多く、粒径も大きい。これより下位の7層、壁際の11層は量が少くなり、上位の4層は形状が細かくなる。6層と同様の高さには焼土ブロックの広がる範囲も認められる。これらの層下面には形状のわかる炭化材が出土している。一方覆土上部には、これら炭化材・炭化物は混入していない。上屋が焼失後、4層以下の覆土の堆積を伴いながら倒壊していったものと考えられる。最上部には十和田b降下火山灰が含まれている。



第23図 8号住居跡 (1)



第24図 8号住居跡 (2)

〈床面・周溝〉 IV～VI c 層を床とする。特に硬化面は認められず、炉や・出土遺物を頼りに床面を確認した。周溝は検出されていない。

〈壁〉 外傾して立ち上がる。検出面からの深さは、最大100cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 13基の小穴を検出した。径15～30cm程度、深さはP P 3・4が深く、これ以外は10～20cmと浅い。黒色～黒褐色上が堆積する。

〈炭化材〉 3層の下位層から、床面にかけて炭化材が多く残存しており、木材の繊維方向を記録した。北西～南東方向の材と、これに直交するものが多く、壁から住居中心方向（炉）へ向っているものも確認できた。炭化材76点の肉眼鑑定をしたところ、クリ31点、ケヤキ34点、ケヤキとクリ4点、ナラ3点、イタヤとタモ、アカマツが各1点という結果だった。これを、第24図に示したが、樹種による材の使い分けなどははっきりしなかった。

〈炉〉 石開いた炉を1基検出した。礫で開まれた範囲は74×68cm、その内側が被熱する。焼成の及ぶ深さは、最大6cmである。礫の周囲には断面で掘り方が確認された（a-a' 2層）。床面で範囲を記録したが（疎外側の線）、平面形の記録を行わなかった。

〈遺物〉 土器（50～79：第68・69図、写真図版54～56）、石器（S-58～61・101・175・280：第105・106・109図、写真図版78～80）。50は香炉形土器で住居北壁際（炉の延長線上）、床面より出土した。そのまま西側、やはり壁際にS-58～61がまとまっている。3点は平坦面が床面に接するが、1点は縦に、覆土に突き刺さるよう出土しており、これらは、床面置かれていたのではなく、崩落（落下？）した可能性も考えられる。また、本遺構覆土中の土器が他の遺構と接合する例もみられた。36が4号住居覆土上部と本遺構11層、46が7号住居床面と本遺構覆土中部から出土したものが、それぞれ接合している。

9号住居跡（第25図、写真図版18）

〈位置・検出状況・重複〉 12K 5 d グリッド付近に位置する。12K～13K グリッド付近は調査区南側の町道から北へ向かう林道が作られており周囲よりも削平されており、表土直下がVI層となる。この面で検出したところ、遺物が集中し、土が基本土層よりも南部浮石の含有量の多い範囲がみとめられた。そのため、調査区間に南北方向のサブトレンドを入れたところ、覆土に遺物を多く含み、平坦面が認められ遺構と判断した。本遺構北～西部は風倒木に切られる。また、重複する10号住居覆土中に本遺構の床面・炉が形成されており、10号住居よりも新しい。

〈規模・形状〉 西側が調査区外へと延びる。南北4.03m、東西3.28m以上の円形と推定される。

〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。炭化材の有無、中揮粒の混入量の違いで上下2層（4・6層）に分かれる。両層の境には遺物・礫が集中している。北壁際にはこれらの層より下位に7・8層が堆積しており、覆土は斜面上方から流入したものと考えられる。

〈床面・周溝〉 北側はⅧ～Ⅸ、南側は10号住居土層を床としている。北側斜面上方が若干高くなるが、おむね平坦な床面をもつ。硬化面は認められなかった。

〈壁〉 林道や風倒木により遺構上部を削平されているため、床面から10cm程度しか残存していないが直立する。検出面からの深さは最大40cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 確認されていない。

〈炉〉 地床炉が1基検出された。住居の中心部より南側に位置する。焼成の及ぶ範囲は60×40cm程度の不整形で、深さは最大8cmとなる。焼成面の上には炭化材が広がっており、鑑定の結果ナラであった。この炉の南側に10×8cmの範囲で焼土が広がるが、厚さが1～2cm程度と薄く、しかも根攢乱さ

れているため、被熱しているのか北側の炉から焼土ブロックが散ったものであるか確認できなかった。

〈遺物〉 上器・土製品（80～100・740～742・750～753：第70・103図、写真図版56・76・77）、石器（S-3・4・102～106・176・177・380・389：第104・108・109・115図、写真図版78・79・80・85）。覆土上部からの出土が多い。

10号住居跡（第25図、写真図版19）

〈位置・検出状況・重複〉 12K 5 d グリッド付近に位置する。9号住居床面で、半円形の黒色土のプランを検出した。前述のとおり本遺構覆土に9号住居の炉が形成されていたため、本遺構の方が古い。

〈規模・形状〉 3.58×3.62mの円形である。

〈堆積状況〉 VI層起源の黒色土を主体とする。壁際にV・VII層崩落土をわずかに混入するが、ほぼ単一の層が堆積している。

〈床面・周溝〉 VI～V層を床とし、ほぼ平坦である。

〈壁〉 壁は外傾して立ち上がる。検出面からの深さは36cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 北～西壁際に11個の小穴を確認した。いずれも上端5～10cm程度と非常に小さく、下端はさらに小さくなり、断面形がV字に近い杭痕のような形状となる。上端よりも下端のほうが壁側へ入りこんでおり、柱を差し込むと住居中心へ向かって斜めになると推定される。これらはいずれも黒色土を主体とする。そのため、褐色土を床とする範囲でこれらの柱穴の検出することは容易であったが、黒色土を床とする南東部では確認できなかった。

〈炉〉 住居跡のほぼ中央で地床炉を1基検出した。被熱の及ぶ範囲は45×24cmの不正規円形、深さは最大4cm程度である。他の住居のものと比べて規模が小さいが南部浮石層を焼成面としており、黒色土よりも色調が明るく被熱土の識別がしにくいためかもしれない。他の住居跡（14・15号住居跡）でも南部浮石層まで被熱が及んでいる場合、分層が困難であった。

〈遺物〉 土器・土製品（100～108・751：第70・71図、写真図版56・77）、石器（S-107・108・323）。

11号住居跡（第26図、写真図版20）

〈位置・検出状況・重複〉 13K 2 c グリッド付近に位置する。9号住居跡同様、表土除去後遺物の広がる範囲にサブトレチをいれ住居跡を確認した。12号住居跡と重複しており、この住居覆土中に本遺構の床面・炉が形成されていることから、本遺構のほうが新しいと判断した。

〈規模・形状〉 西側は調査区外へと延びる。南北3.99m、東西は3.04m以上、円形と推定される。

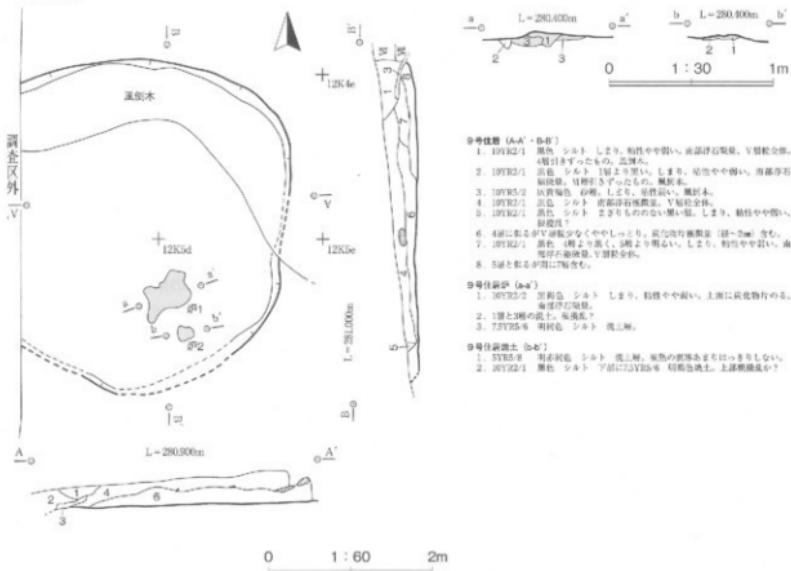
〈堆積状況〉 VI層起源の黒色土を主体とする。基本土層よりも南部浮石粒がやや多い。覆土上部、I層中には炭化物・焼土ブロックを含み、下面には遺物・礫が多く出土する。9号住居と主体土が同じで、覆土の上下部境に遺物が多く混入するなど、堆積状況も類似する。

〈床面・周溝〉 北側はV～VI層、南側は12号住居覆土を床とする。硬化面は認められない。

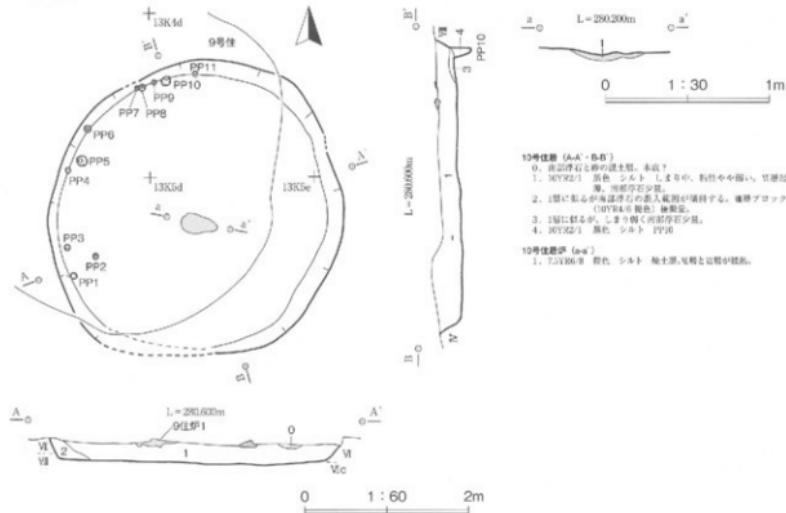
〈壁〉 外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大30cm程度である。斜面上方は、V～VI層を壁としているため形状をはっきり認識できたが、下方は黒色土で立ち上がりもほとんどなく、確認できなかつた箇所もある（破線部分）。

〈土坑・柱穴〉 17個の柱穴を確認した。これらの柱穴は壁に沿って検出され、柱穴間には浅い周溝状の溝がみられるところもある（PPI～3の間）。いずれも黒色土を主体としており、南部浮石の混入量がそれぞれ異なる。規模は10～40cm程度、深さは30cm前後のものが多い。柱穴は北側に集中しており、南半重複住居範囲内は床と柱穴覆土が同じ黒色土となるため確認できなった。12号住床面で検

9号住居跡



10号住居跡



第25図 9・10号住居跡

出したもので炉と近接・重複しないものを図示した（P P 15～17）。しかし、両住居の床面の高低差は40～50cm程度で、本造構北側の柱穴は大半がこれよりも浅いため、消失してしまった可能性もある。

〈炉〉 地床炉が1基検出された。住居中心部より南に位置する。被熱の範囲は85×64cmの不整形、深さは最大8cmである。焼成面は周囲の床面より低く、皿状に窪む。

〈遺物〉 土器・土製品（109～130・755：第71・72図、写真図版56・57・77）、石器・石製品（S-5・6・81・109～113・159・178～181・261・306・390・433：第108・109・112・118図、写真図版78・80・82・87） 遺物は1層下面より多く出土する。433の三角墻石製品は、北壁柱穴上の床面より出土している。

12号住居跡（第26図、写真図版21）

〈位置・検出状況・重複〉 13K 3 d グリッド付近に位置する。11号住居南東部の床面に黒色土の広がりが確認された。本造構覆土中に11号住居炉が形成されていることから、本造構のほうが古い。

〈規模・形状〉 東半を風倒木により消失するが、南北4.54m、東西は2.9m残存し、円形と推定される。

〈堆積状況〉 壁際にVI・VII層が崩落しており（5・6層）、全体はV～VI層起源の黒色土が堆積する。

〈床面・周溝〉 VI～VII層まで掘込みこれを床としている。斜面上方がやや高くなるがほぼ平坦な床面を持つ。

〈壁〉 やや外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大30cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 32個の小穴を確認した。直径15～30cmの円形で、下端の規模が上端に比べ小さくV字上にちかい断面形状をもつ。覆土は黒色土を主体とする。北～西壁に沿って廻るもの（P P 1～24）と、その内側に位置するもの（P P 25～32）がある。前者は、上端よりも下端のほうがより外側（壁より）に位置する例が多く、斜めに柱を埋め込んだ可能性が考えられる。

〈炉〉 地床炉が検出された。推定される住居範囲のはば中央に位置する。焼成の及ぶ範囲は、70×60cm程度の不正円形、深さは最大10cmである。VI層が被熱しており、焼成是非常によい。

〈遺物〉 土器・土製品（134～156・725・756～758：第72・73・103図、写真図版57・76・77）、石器（7～12・82・83・114・115・262・281～283・324～326・381・407：第114・116図、写真図版84・85・86）。遺物は覆土上部と風倒木中に多く含まれる。148の土器内にはアスファルトが詰められており、その中に石器が含まれていた。石錐3点（S-7～9）・剥片1点（S-407）を確認したが、X線写真で観察するとこれ以外にも剥片類が入っているようである。11住居周辺の下位覆土中にはチップがまとまっていた。

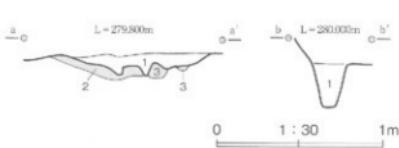
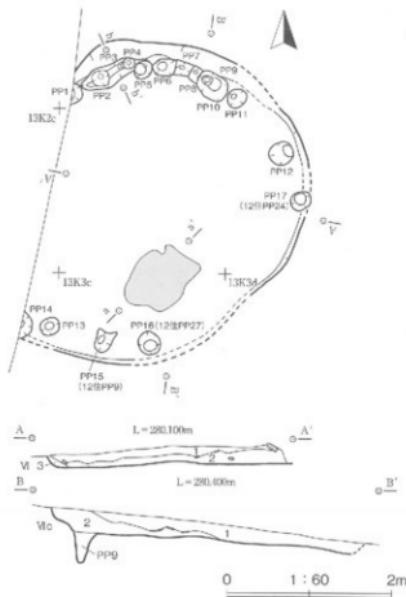
13号住居跡（第27図、写真図版22）

〈位置・検出状況・重複〉 11M 3 b グリッド付近に位置する。11～12M c列より東側の遺物包含層（Ⅲ層）を掘り下げたところ、周囲よりⅢ層が深い所まで堆積し、灰白色火山灰が広がる範囲が検出された。この範囲が住居跡などの遺構よりも広範囲だったため、複数遺構の重複または旧河道などの落ち込みを想定し、小グリッドc列に沿って南北方向のトレンチをいた。その結果床面および壁の立ち上がりが確認でき、13～15号住居が南北に並び重複していることが判明した。本遺構は14号住居跡に切られる。

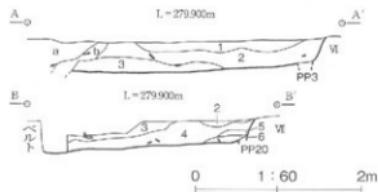
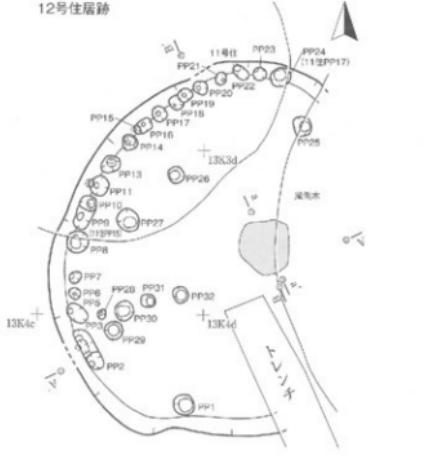
〈規模・形状〉 南側を重複住居によって消失する。残存する規模は南北3.98m、東西は2.60m、やや不正な円形である。

〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。VI層起源の黒味の強い層（1・3）とV層起源の層（2）が斜面

11号住居跡

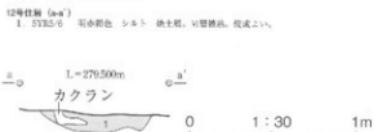


12号住居跡

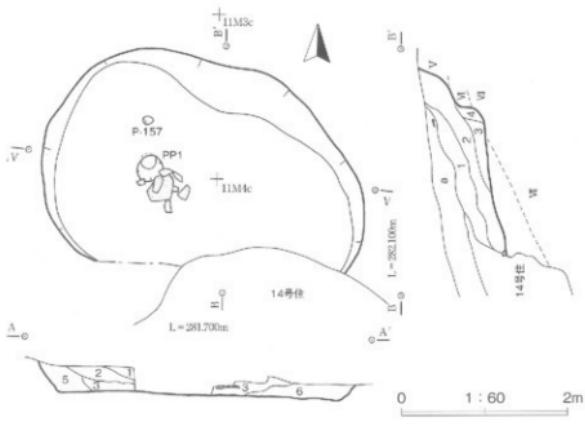


12号住居跡 (A-A'・B-B')

1. 13TK2/1 黒色 シート しまり。粘性やや弱い。V面に遺物多く、洗土ブロック・高化物質混入。
2. 13TK2/2 黒色 シート しまり。粘性やや弱い。V面に遺物多く、洗土ブロック・高化物質混入。
3. 13TK2/3 明褐色 シート しまり。粘性やや弱い。V面に遺物多く、洗土ブロック・高化物質混入。
4. 13TK2/4 明褐色 シート しまり。粘性やや弱い。V面に遺物多く、洗土ブロック・高化物質混入。
5. 13TK2/5 明褐色 シート しまり。粘性やや弱い。V面に遺物多く、洗土ブロック・高化物質混入。
6. 13TK2/6 明褐色 シート しまり。粘性やや弱い。V面に遺物多く、洗土ブロック・高化物質混入。



第26図 11・12号住居跡



第27図 13号住跡

上方から堆積し、最上部は包含層aが覆う。包含層の土層注記は15号住にまとめている。

〈床面・周溝〉 VI~VII層を床とする。床面は斜面下方がやや低くなるがおおむね平坦で、硬化面は認められない。

〈壁〉 外傾して立ち上がる。検出面からの深さは、最大73cmである。

〈土坑・柱穴〉 1個検出された。直径30cm、深さ57cm、底面はやや斜面上部へ入り込む。覆土は黒色土を主体とする。

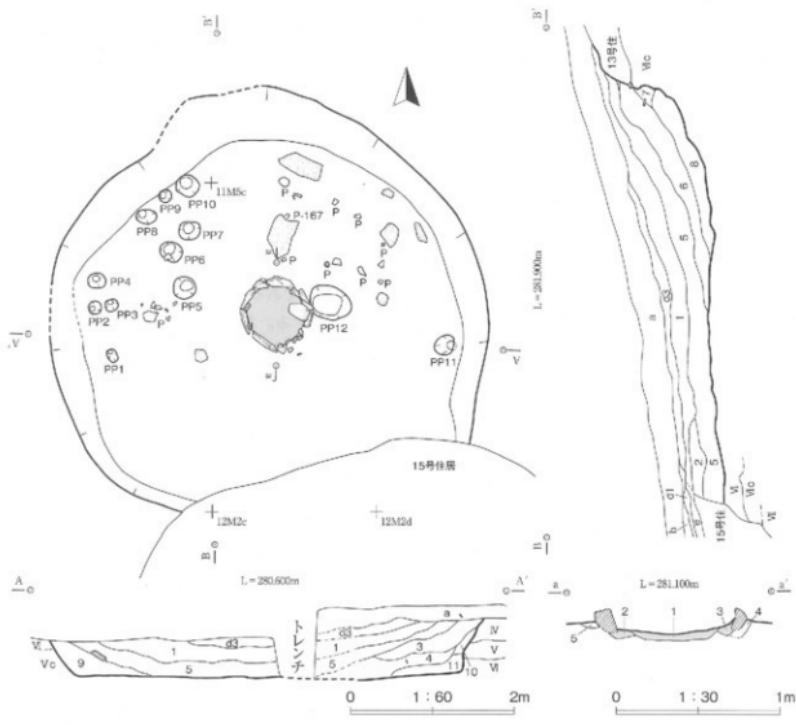
〈炉〉 確認できなかったが住居ほぼ中央に礫が集中する。床面に大きく平坦な礫がおかれ、この上に丸く囲うように礫が置かれる。被熱する範囲や焼土は認められず、礫にも被熱した痕跡もないため、ガラスであるという根拠はえられなかった。

〈遺物〉 土器・土製品(157~165・759~762: 第73図、写真図版57・58・77)、石器(S-182~185)。

14号住跡（第28図、写真図版23）

〈位置・検出状況・重複〉 11M 5 c グリッド付近に位置する。13号住居と同様、包含層除去後灰白色火山灰が広がる範囲を確認したため11・12M c列とb列間にサブトレンチを入れた。トレンチ内に石門がと思われる石組の一部とその北側に壁の立ちあがりを検出し住居跡と判断した。北側の13号住居と重複しこれを切る。南側は15号住居と接しており断面観察時はこれに切られると判断したが、両遺構の出土遺物を観察すると、新旧関係を誤認した可能性がある。

〈規模・形状〉 南側は15号住居により消失する。東西は5.33m、南北は4.69m残存し、形状は円形である。



14号住居 (A-A' - B-B')

- a ~ d: 15号住居断面
 1. 15YR12/1 黒色、板も無い。黒い壁。しまり、熱帯風。下層に厚さ~2mm程度の白色浮石含む。
 2. 15YR12/2 黒色、シート。同じ様な土質で下層は白色浮石含む。
 3. 15YR2/1 黄色、シート。しまり。熱帯や温帯。V型アロカット底付に全体。海成浮石層見。下層根化塊片(厚1~2m)含む。
 4. 15号に取るが仮想の入る面で分類。
 5. 15YR2/2 黄色、シート。熱帯風。熱帯風層でV型アロカットを含む。
 6. 15YR2/3 黑色、シート。しまり。熱帯や温帯。V型アロカット底付に全体。海成浮石層見。
 7. 15YR2/4 黑色、シート。しまり。熱帯や温帯。V型アロカット底付に全体。海成浮石層見。
 8. 15号に海成浮石層。
 9. 15YR2/5 黑色、V型アロカット上。
 10. 15YR2/6 黑色、シート。しまり。熱帯や温帯。V型アロカット上。
 11. 15YR2/7 黑色、シート。しまり。熱帯や温帯。V型アロカット上。

14号住居断面 (a-a')

1. 15YR2/8 黄褐色 地土層。表面浮石が散む。
 2. 15YR2/3 紅褐色 地土層。表面浮石と粘土が混じ。表面浮石が散む。
 3. 15YR2/4 紅褐色 シート 地土層。V型アロカット地土層。
 4. 15YR2/1 黄色 シート 热帯風層。热帯。
 5. 15YR2/2 黄色 シート (V型) と海成浮石層。热帯。

第28図 14号住居跡

〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。下部（2層以下）は、V～VI層起源の層が壁崩落を伴いながら斜面上方から流入している。上部（1層以上）は各層底面に灰白色の火山灰・浮石粒が堆積し、分析の結果、これらは十和田a降下火山灰であることが判明した。3層下面には炭化物片が集中し、これも年代測定の結果 $yrBP2540 \pm 40$ 年と判定された。そのため、本遺構廃絶後埋没まで長い年月を要したものと判断される。特に上部は13～15号住居全体を覆っており、これらの遺構全体が、廃絶後くぼ地となっていたものと考えられる。また、上述のとおり断面観察時は15号住居も切られると判断したが、出土遺物は本遺構の方が新しい。そのため、15号住居2層下面が本遺構床面で、2層と6・7層の一部が覆土となり、堆積状況を誤認した可能性がある。

〈床面・周溝〉 VI～VII層、北西部はⅦ層を床とする。床面はおむね平坦である。硬化面は認められない。

〈壁〉 壁は外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大132cmである。

〈土坑・柱穴〉 小穴が12箇検出された。覆土は黒色土を主体とする。北西壁に集中している。他の住居跡の例をみると斜面上部壁際に起る例が多いが、本遺構では北東では検出されていない。

〈炉〉 住居ほぼ中央に石圓炉が1基検出された。石で囲われた範囲は直径94cmの円形、この中に被熱している、焼成のおよぶ深さは最大5cmである。

〈遺物〉 土器・土製品（166～194・737・743・763～765：第73～75・103図、写真図版58・76・77）、石器・石製品（S-13～15・51・62・74・75・84・116～122・186～188・328～330・331・419～421：第104～109・114図、写真図版78～80・83・87）。

15号住居跡（第29～31図、写真図版24・25）

〈位置・検出状況・重複〉 12M 3c グリッド付近に位置する。13・14号住居同様サブトレントを入れたところ、北壁の立ち上がりを検出し住居跡を確認した。含包層最下層（f層）に1号配石が形成されているため、これが住居を切る。また36号土坑より新しく、16～18号住居より古い。これらは、本遺構内にベルトを残して堆積状況を確認した時点では重複に気づいていなかったが、調査過程で炉や柱穴の残存状態、南側調査区境の壁を観察し新旧関係を判断した。しかし、33号土坑との関係は不明である。また14号住居はサブトレントを入れた段階で重複がわかつていてもかかわらず、堆積状況では本遺構が新しく、出土遺物からは古いという矛盾した結果となってしまった。

〈規模・形状〉 南側の大半は重複遺構により壊されているが、形状は円形で南壁は調査区外へと延びるものと推定される。残存部は柱穴検出位置まで含んで、南北5.50m、東西7.00mである。

〈堆積状況〉 上部は包含層a～f層が遺構範囲を超える堆積する。下部は、黒色土を主体とし、黒味の強い層（6・8層）、中粒粒を含みや明るい層とが斜面上方から流入する。上述のとおり2層、6・7層の一部は14号住居覆土の可能性がある。また5・7層南側は、重複する17号住居の方が新しいことから、この覆土となるが、断面での堆積状況観察時は重複を認識していなかったため、立ち上がりを確認していない。17号住居使用～埋没時には本遺構も埋まっておらず、a～f層同様5・7層が両遺構内に同時に堆積した可能性も考えられる。

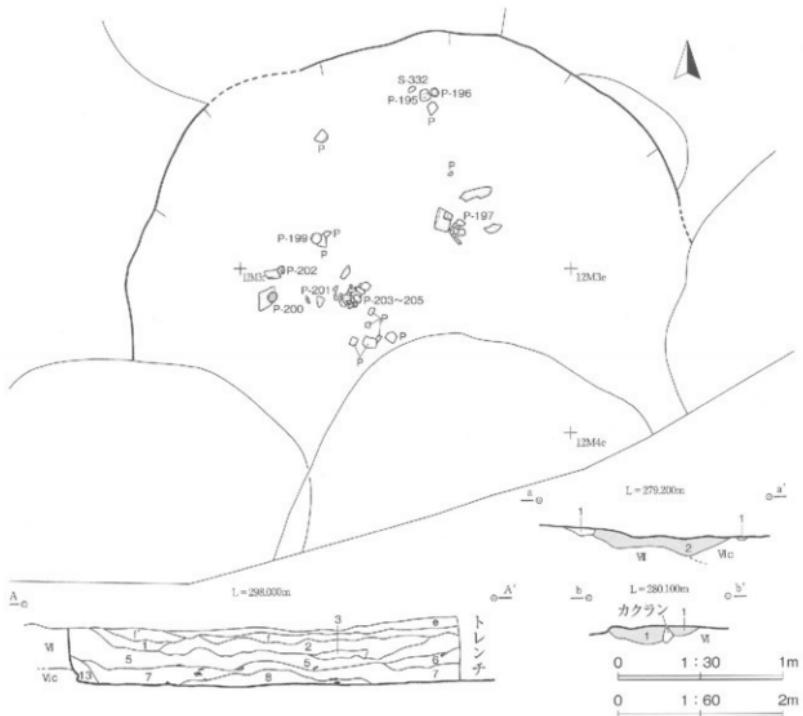
〈床面・周溝〉 北壁際はⅦ層、その他はVI～VII層を床とする。比較的平坦で、硬化面は認められなかった。

〈壁〉 外傾して立ち上がる。北壁、斜面上方は傾斜がきつく、東西壁は直立に近い。検出面からの深さは最大147cmである。

〈炉〉 地床炉が2基検出された。北側の炉（炉1）は、84×63cmの不正格円形の範囲に焼成が及んでおり、深さは最大11cmである。焼土の外側には黒色土のはいる掘込みが断面で確認され、炉石の抜き



第29図 15号住居跡 (1)



15号住居跡 (A-A' ~ C-C')

- 土砂地. 白っぽい。
- 砂質. 白っぽい。
- 1978/2 黄褐色地. 新鮮. しまり。粘性やや弱い。
- 1978/2 黄褐色地. シルト. しまり。粘性やや弱い。灰白色火成岩と主生土が斑状に集り、下部に灰白色火成岩ブロック（幅～5cm）が埋積。斜面下方（前壁）はほど緩かでなく、斜面頂面では点々と上凹部に分かれらるが複雑ペクトで分層できなかつた。
- 灰色より火成岩地と主生土地が混じりて構成をます。
- 1978/2 黄褐色地. 新鮮。開いた隙間で、ジャッキヤッキを喰う。しまり。粘性弱い。
- 1978/2 黄褐色地. シルト. しまり。粘性やや弱い。V層にV型斜壁侵入しているためV層よりややサラサラ。のっつい。表面浮石微量。
- 地盤に大不整地がある。
- 1978/2 黄褐色地. 新鮮。しまり。
- 1978/2 黄褐色地. シルト. しまり。粘性やや弱い。V層に1978/2/4 断層地帯（V層？）地帯に合む。
- 連続ブロック層。しまり。粘性弱い。
- 1978/2 黄褐色地. シルト. しまり。粘性やや弱い。V層ブロック侵入。
- 1978/2 黄褐色地. シルト. しまり。粘性やや弱い。V層にV型斜壁侵入しているためV層よりややサラサラ。のっつい。表面浮石微量。
- 1978/2 黄褐色地. シルト. 7層より薄く、6cmより浅い。しまり。粘性やや弱い。
- 6cmに亘る。
- 黄褐色地. 黑色 シルト. 7層より明るく5層に近い。表面浮石微量。
- 7層に亘る。
- 1層に亘るが、2層に亘る。
- 7層に亘るが、2層に亘る。
- 7層に亘るが、2層に亘る。
- 1978/2 黄褐色地. 新鮮。V層が熱熱。焼成よい。

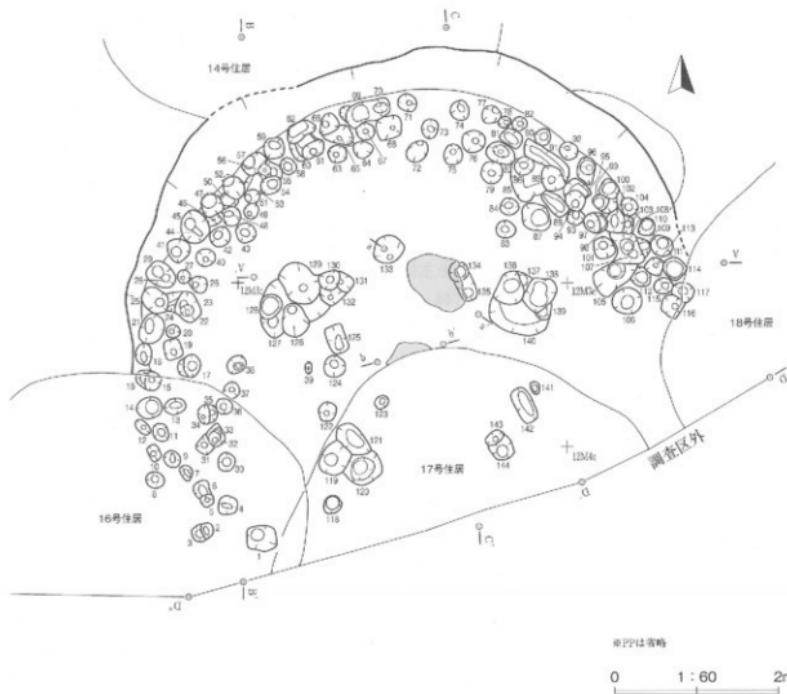
15号住居跡 1 (a-a')

- 1978/2 黄褐色地. シルト. しまり。粘性やや弱い。表面浮石微量。抜き取り長?
- 2 1978/2 黄褐色地. 流土層。表面浮石微量。

15号住居跡 2 (b-b')

- 1 1978/2 黄褐色地. シルト. 流土層。V層が熱熱。焼成よい。

第30図 15号住居跡 (2)



取り痕の可能性を考えたが、断ち割った場所以外で同様の痕跡は認められなかつたため地床炉と判断した。南側の炉（炉2）は、南半を17号住によって壊され消失する。残存する焼成範囲は、東西58cm、南北27cm、深さ最大11cmである。炉1よりも炉2のほうが10cmほど低い面に形成されている。

〈土坑・柱穴〉 壁際および炉を開む位置に144個の小穴を確認した。壁際のものは20cm~50cm程度のものが多く、少なくとも3列の配置が見られる。弧を描くそれぞれの列の深さはおおよそ一致している。一番内側が深く、次が外側、これらの間のものが最も浅い。これらの新旧関係は確認できなかつた。炉周辺に位置するものは、深さ60cmを超える、各場所で複数基が重なっている。炉1の主柱穴と判断され、これも数回の立て直しが想定される。これらと別に、炉1付近に弧を描く、深さ30~40cm程度の小穴群もみられる。炉1に近接・もしくはこれに切られている例もあり、炉2に伴う可能性が考えられる。覆土は10Y R2/1 黒色シルトを主体とするものが多い。

〈遺物〉 土器・土製品（195~250・738・744・766~774：第75~78・103図、写真図版58~60・76・77）、石器・石製品（S-16~23・63・76~79・99・123~132・189~208・263・284・285・307~309・332~335・382・383・391・422~426：第104・106~111・116・118図、写真図版78~80・82・85・87）。

16号住居跡（第32図、写真図版31・32）

〈位置・検出状況・重複〉 12M 4 b グリッドに位置する。1号配石の縛を除去しVI c 層で検出したところ黒色土の円形プランを確認した。15・17号住居、1号配石、36・37号土坑と重複する。上述のとおり、本造構上位に1号配石が構築されており、これが新しい。15・17号住居、36号土坑は断面で本造構に切られることを確認した。37号土坑の新旧関係は確認できていない。

〈規模・形状〉 壁が残るのは北西部の一部のみで、破綻部分は、図示していないサブトレンドも含め（写真にはあり）断面から推定した。南側は調査区外へと延び、造構と重複する箇所は重複造構を掘り下げる時に消失してしまった。南北が2.70m残存、東西が4.10m程度である。

〈堆積状況〉 やや茶味のある黒色土を主体とする。床面から20~30cmほど堆積し、その上位には包含層が覆う。

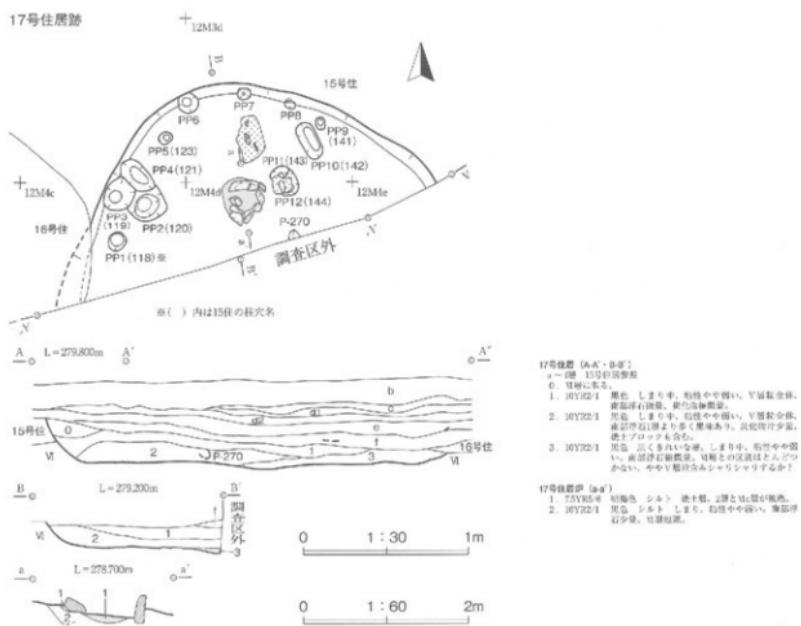
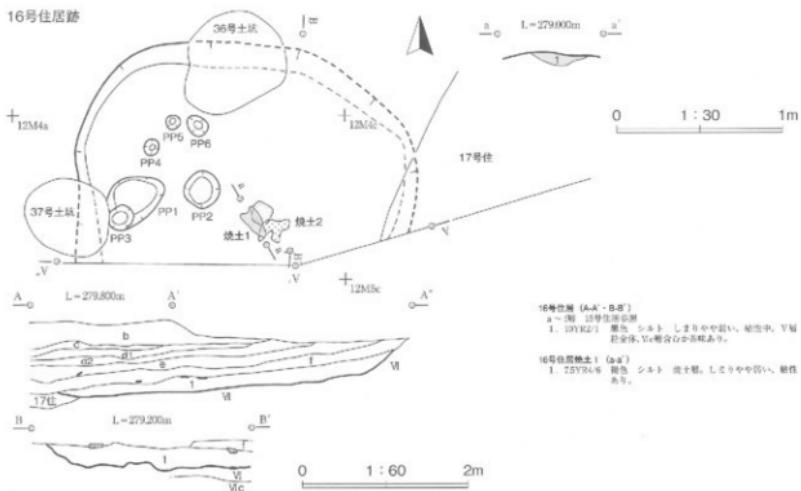
〈床面・周溝〉 VI~VI c 層を床とする。床面は北側斜面上方と西側がやや高くなる。

〈壁〉 外傾して立ち上がる。検出面（VI c 層）からの深さは最大28cmである。

〈土坑・柱穴〉 15号住との重複部で23個、それ以外で6個検出した。重複部の23個（15住 P P 1~16・30~36）は、その位置から大半が15号住に帰属するものと思われる。

〈炉〉 焼土の広がりが2カ所検出された。両者とも本造構のほぼ中央部に位置し、層位を違え一部重複する。西側の焼上（焼上1）は、被熱しており、40×20cmの不整形、焼成の及ぶ深さは最大7cmである。調査中に形成された層位を確認できていないが、標高から推定すると本造構1層上部～f層下面に形成されているようであり、本造構ではなく、1号配石に伴う可能性が高い。東側の焼土（焼土2）は、46×31cmの不整形、断ち割ったが層厚が薄く、被熱したものかブロックが堆積したものか判断できなかつた。北側には縛が置かれている。焼土2とこの縛は本造構床面の高さと一致する。そのため炉の可能性があるが確実な根拠はえられなかつた。

〈遺物〉 土器・土製品（239・240・251~269・726・775・776：第78~80・103図、写真図版60・61・76・77）、石器（S-22・24・25・133・134・209・287・336~338：第104・114図、写真図版78・83）。本造構範囲内から出土しているものの、包含層を含む層位からの出土で、住居覆土中からの遺物は確認できなかつた。



第32図 16・17号住居跡

17号住居跡（第32図、写真図版26）

〈位置・検出状況・重複〉 12M 3 d グリッドに位置する。15号住居床面で黒色土の半円形プランを確認した。15号住居炉2を切っていることと、出土遺物から本遺構のほうが新しいと判断した。また16号住居と重複しこれに切られる。

〈規模・形状〉 南半は調査区外へ延び、西側は16号住により一部消失する。南北2.08m、東西4.86m 残存し、円形と推定される。

〈堆積状況〉 上部は13~16住居同様包含層が遺構範囲を超えて堆積する。15号住居5・7層の一部は本遺構覆土と考えられる。下部は、黒色土を主体とし、炭化物、焼土ブロックを含む。床面にも炭化材が検出されたとかた、上屋が焼失したものと推定される。

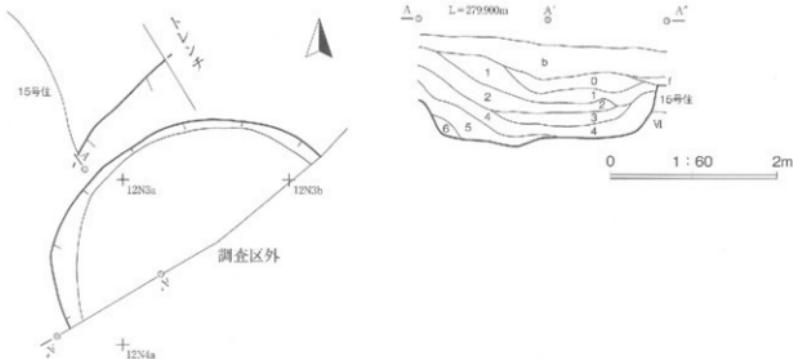
〈床面・周溝〉 壁際はⅦ層、大半はⅥ層を床面とする。Ⅵ層の床面は非常に堅くしまっており、光沢を帯びる。炉の南側に一部やわらかい部分があり周開より低くなる。

〈壁〉 外傾して立ち上がる。15号住居床面からの深さは30cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 小穴が12個検出された。壁際に多く、覆土は黒色土を主体とする。

〈炉〉 石開炉が1基検出された。石で囲まれた範囲は54×44cm、焼成の範囲は直径48cmの円形、深さは最大4cm、炉石の開口部よりやや西にずれる。炉石のうち、西側に位置し重なっている2個は床面にささっておらず、本来は焼成範囲の外側に位置していたものが内側へ動いた可能性が高い。しかし、本来あったと想定される場所に掘り方は確認できていない。

〈遺物〉 上器・土製品(241~250・270~280・728: 第78・80・103図、写真図版60・61・76)、石器・石製品(S-23・127~132・135~139・205~208・210・286・308・309・384・427: 第108・110・117・



18号住居 (A-A')

- 1～7層 15号住居剖面
- 8層 黒色土シートト。しまりあり、粒径やや細い。人骨は多く含む。海殻混在少見。
- 9層 黒色土シートト。しまりあり、粒径やや細い。人骨は多く含む。海殻混在少見。
- 10Y72/1 黒色 シルト 中や互いに隙。しまりあり。粘性やや弱い。人骨は多く含む。炭化物混在。海殻浮石混在。
- 10Y72/2 黒色 シルト 互に隙るがしまりやや弱い。
- 10Y72/3 黒色 シルト 互に隙るがしまりやや弱い。
- 10Y72/4 黒色 シルト 互に隙るがしまりやや弱い。
- 10Y72/5 黒色 シルト 10Y73/4 黑褐色土 (15号住居) 互に隙るがしまりやや弱い。
- 10Y72/6 黒褐色土 (15号住居) 互に隙るがしまりやや弱い。

第33図 18号住居跡

118図、写真図版79・80・86・87)。

18号住居跡（第33図、写真図版26）

〈位置・検出状況・重複〉 12N 3 a グリッド付近に位置する。15号住居の南東壁を掘りすすめていたところ、推定プランよりも外側にひろがり、床面も15号住居よりも下がり、本遺構が重複していることを確認した。新旧関係は断面の覆土堆積状況・出土遺物より、本遺構が新しいと判断した。

〈規模・形状〉 南側は調査区外へと延びる。上部は西側を15号住居と同時に掘り下げてしまい、東側をトレンチにより消失する。南北は2.13m残存し、東西は3.68m、円形と推定される。

〈堆積状況〉 黒色～黒褐色土を主体とし、斜面上方から土が流入している。

〈床面・周溝〉 VI～V層を床とする。北壁が高く、中心部へ向いやや低くなる。

〈壁〉 床面から30cm程度は直立気味に立ち上がり、上部は外傾する。

〈土坑・柱穴〉 検出されなかった。

〈炉〉 検出されなかった。炉が住居跡のはば中央に設置されていたと仮定すると、東西方向の規模から考え調査区外に位置する可能性が高い。

〈遺物〉 土器（281～294：第80・81図、写真図版61・62）、石器（S-211～213）。

19号住居（第34図、写真図版27）

〈位置・検出状況・重複〉 12L 2 c グリッド付近に位置する。IV層で検出したところ円形に近い褐色土の広がりを確認した。遺物も多く出土しており、住居跡の可能性を考え「字」にサブトレンチを入れた。しかし、床面は把握できず、旧河道のように急激に落ち込み水性の堆積状況がみられた。トレントでは遺構か、旧河道の埋没過程で遺物がたまつたものか判断できなかった。そのため、ベルトを設定したまま遺物包含層を掘り下げる手法（小グリッド単位での掘り下げ）で作業を進めていたところ石器炉が検出された。そこで、再度堆積状況を検討した結果、旧河道が埋没後、本住居を構築していることが判明した。南側は20号住居と重複するが、本遺構調査後にこれを発見したため、平面・断面とも重複関係の確認ができていない。しかし、20号住居推定範囲内に本遺構炉が形成されているため、本遺構のほうが新しいと考えられる。

〈規模・形状〉 南側は掘り下げてしまい大半を消失するが南北4.79、東西4.47m、おむね円形である。

〈堆積状況〉 本遺構の大半は旧河道内に位置しており、検出状況で述べたとおり、河道埋土と住居覆土との識別は困難であった。旧河道はIV層以下を切っていて、流路を追うことはできなかったが住居より北側・南側・東側でもこれの続きを確認できていないことから、西側を南北方向に流れている旧河道が一部蛇行したのではないかと思われる。河道はVI層とV層起源の黒色土がラミナ堆積している。住居覆土も河道と主体土が同じで識別しにくいかが、VI・V層がブロックで混ざっておりこの点が異なる。おそらく河道内の埋土が住居内に流入したものと考えられる。一方西側は河道の外側となり基本十層を掘り込んでいる。ここではV層が堆積していないこともあり河道側からの流入したものよりも黒味が強い。

〈床面・周溝〉 旧河道埋土・VI層・20号住居覆土を床とする。床面は北側斜面上方が若干高くなる。硬化面は確認できなかった。

〈壁〉 南側・斜面下方の壁は、小グリッド単位で掘り下げた結果消失し、ベルト部分でのみ確認した。北半は外傾して立ち上がり、検出面からの深さは最大56cmである。

〈土坑・柱穴〉 南半で8個の小穴を確認した。これらはVI c 層で検出したもので、重複する20号住居

と、いずれかに付属するものと考えられる。北側旧河道範囲内では確認できなかった。

〈炉〉住居中心よりやや南寄りに石圍炉が1基検出された。炉石は西半が半円に連なるものの、東側には残存していない。断面A-A'より東側はトレンチで掘り下げているため、取上げてしまった可能性もある。PP5の南側の礫は、その位置・高さから炉石ではないかと思われる。A-A'西側は炉の存在が明らかとなっていたため丁寧にベルトを除去したが、炉石は発見されなかった。PP5の南側の礫までを炉の範囲とした場合82×97cmの円形、被熱の及ぶ範囲は直径70cm、深さは最大21cmで、焼成は非常に良い。

〈遺物〉土器・土製品（295～327・777～786：第81・82図、写真図版62・63・77）、石器・石製品（S-26～29・64・140～142・214～216・339～341・392・393・409～416・428：第104・110・117・118図、写真図版78・80・86・87）。遺物は褐色土中（1～4層）に多く含まれる。円盤状土製品・石製品の出土量が他の遺構に比べ多い。

20号住居跡（第34図、写真図版28）

〈位置・検出状況・重複〉12L3dグリッド付近に位置する。19号住居記述の旧河道内に遺物が混入しているためこれを小グリッド単位で掘り下げていたところ地床炉が検出された。そのため残存している北東部分を検出したところ壁の一部を確認し住居跡と判断した。19号住居と重複しており、上述のとおり本遺構が古いと考えられる。また、34号土坑とも重複するが、これを先に掘り上げてしまい新旧関係を確認できていない。しかし、土坑上部に遺物が多く含まれていたこと、土坑下部から出土する遺物が住居のものより古いことなどから、土坑の1・2層が住居覆土となる可能性がある。

〈規模・形状〉炉の周辺及び北東部しか残存していないため全形は不明である。残存する壁および柱穴の配置から円形と推定される。残存する規模は、南北3.2m、東西2.2m。柱穴までを遺構範囲とすると、南北3.4m、東西4.2mとなる。

〈堆積状況〉大半を包含層と誤認し掘り下げてしまったため、北東部床面付近の層のみ確認できた。中揮粒を含む黒色土を主体とする。

〈床面・周溝〉VI層を床とする。残存部は比較的平坦である。硬化面は確認できなかった。

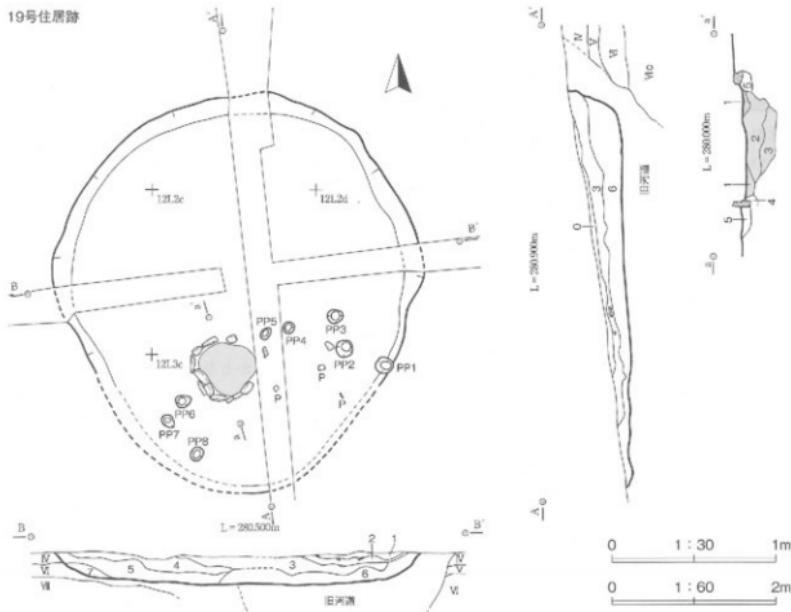
〈壁〉外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大18cmである。

〈土坑・柱穴〉16個の小穴を検出した。上述のとおり、19号住居に属する可能性があるが、他の遺構において壁際で柱穴（小穴）が検出される例が多いことから、本遺構に伴うものが多いと考えられる。北側のものは直径10～25cm程度であるが、南側のPP13・14は、直径40cmと50cmと規模が大きく深さは比較的深い。PP13には石が散き詰められていた。壙が残存していた北東部も褐色土まで下げ検出したが小穴は発見されなかった。

〈炉〉地床炉を1基検出した。住居全形が不明のため、設置された位置はわからないが、北東壁から炉中心までの距離は2.4m程度である。焼成の及ぶ範囲は51×32cmの不整形、深さは最大17cmである。

〈遺物〉土器・土製品（324～334・729・736：第82・83・103図、写真図版63・76）、石器（S-143）。上器334は本遺構覆土中に破片で含まれており、整理作業接合の段階でその存在が明らかとなった。接合する破片はグリッドで掘り下げてしまった範囲からも出土する。人面付きの土器で、全体を人形に例えると、上半身を寄せ、下半身を持ち上げたような形となる。欠損しているためわかりにくいが、頭頂部と右側頭部が穿孔されており、反対側の持ち上がった方（下半身）は筒状に開く。両耳と、脚部（？）の後ろ側の突起も穿孔される。背面は比較的平坦で、これを下にして置くと自立する。平坦部分の内面はほぼ中央がやや盛り上がり、これを中心にナデが施される。外側程厚みが薄くなり、土器の底部

19号住居跡



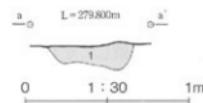
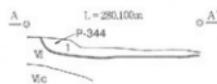
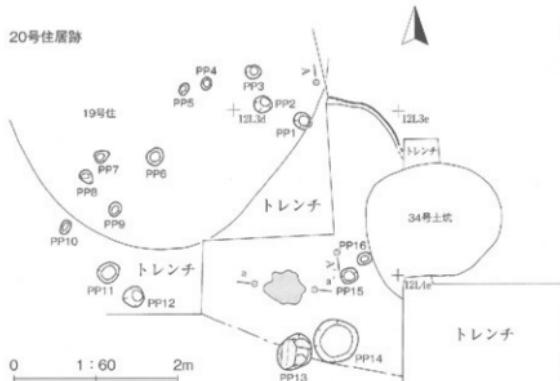
19号住居跡 (A-A'・B-B')

1. 黒色 シルト しまりやや硬い、粘性中、瓦片記念、断面砂岩地質。7層よりなる（高輪底）。
2. 黒褐色 シルト しまりあり、粘性中、白色砂（Ta-k）全層に含む、海産貝石少見。
3. 12L3c 12L3e に於く黒褐色シルトブロック含む土堆み現れる。
4. 黒色 シルト しまりやや硬い、粘性中。
5. 12L2c 黒色 シルト しまりやや硬い、粘性中、手掘ノブリック少見、複屈折石微量。
6. 12L2c 黒色 シルト しまりやや硬い、粘性中、瓦片にV字斜全斜、円形厚石微量。
7. 黑色に似る。

19号住居跡 (a-a')

1. 10Y3c/2 黒褐色 シルト 壁上部、灰斑床を被びる、しまりやや硬い、粘性中。
2. 7.5Y3c/4 黑褐色 シルト 壁上部、灰斑床を被びる、しまりやや硬い、粘性中。
3. 10Y3c/3 黑褐色 シルト 壁上部、2層より複屈折石、しまりやや硬い、粘性中。
4. 10Y3c/2 黑褐色 シルト しまりやや硬い、粘性中、海産貝石微量。
5. 10Y3c/1 黑褐色 シルト しまりやや硬い、粘性中、白粉あり、V字斜合む？3層より現る。

20号住居跡



1. 10Y3c/1 黑褐色 シルト しまりやや硬い、粘性中、V字斜全斜、海産貝石微量。
2. 7.5Y3c/8 明褐色 シルト 壁上部、V字斜。

第34図 19・20号住居跡

のようなつくりとなる。330の異形台付土器とともに瘤付土器Ⅲ段階と考えられる。

21号住居跡（第35図、写真図版29）

〈位置・検出状況・重複〉 10M 3 a グリッド付近に位置する。東から西へ降下する斜面地で本遺構付近から下方へ向かって、包含層（Ⅲ層）が徐々に厚さを増す。検出作業を行うためこの包含層を取り除いていたところ被焼した範囲（炉）が確認された。そのため、傾斜に沿って東西にサブトレレンチを入れたところ斜面上方で立ち上がりが認められた。同時に検出作業もすすめ、半円形のプランを確認したため住居跡と判断した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 斜面下部南半は消失するが円形と推定される。東西3.46m、南北3.30m残存している。

〈堆積状況〉 黒褐色～暗褐色土を主体とする。壁際に壁崩落土（3・4層）が堆積後、斜面上方から遺構全体に土が流入する（1・2層）。

〈床面・周溝〉 VI層～VII層で掘り込み床とする。硬化面は認められなかった。

〈壁〉 南側は消失、北壁は外傾して立ち上がり、北東部は傾斜が緩やかとなる。検出面からの深さは最大58cmである。

〈土坑・柱穴〉 確認されなかった。

〈炉〉 地床炉が1基検出された。東西方向、やや東よりに位置する。焼成の及ぶ範囲は43×32cmの不正楕円形、深さは最大8cmとなる。

〈遺物〉 土器（335～343：第84図、写真図版63・64）、石器・石製品（S-217・429：写真図版87）土器342は炉南東部よりまとめて出土した。遺構の範囲を確認する前に包含層中のものとして取上げてしまつたため記録を欠くが、出土状況は斜面の傾斜に沿わず比較的の水平で、その高さから床面付近に位置すると思われる。

22号住居跡（第35図、写真図版30）

〈位置・検出状況・重複〉 10L 1 d グリッド付近に位置する。IV～VI層で検出したところ、直径2m程度の周囲より黒味の強い範囲を確認した。遺物も出土しており、遺構の可能性があると考え、サブトレレンチを入れた（A-A'北側）ところ、北壁の立ち上りをみつけた。その平面規模から土坑を想定し掘り進めていったが、石壠炉が検出され、当初検出した遺構プランよりも広がる住居跡であることが判明した。重複する遺構はない。

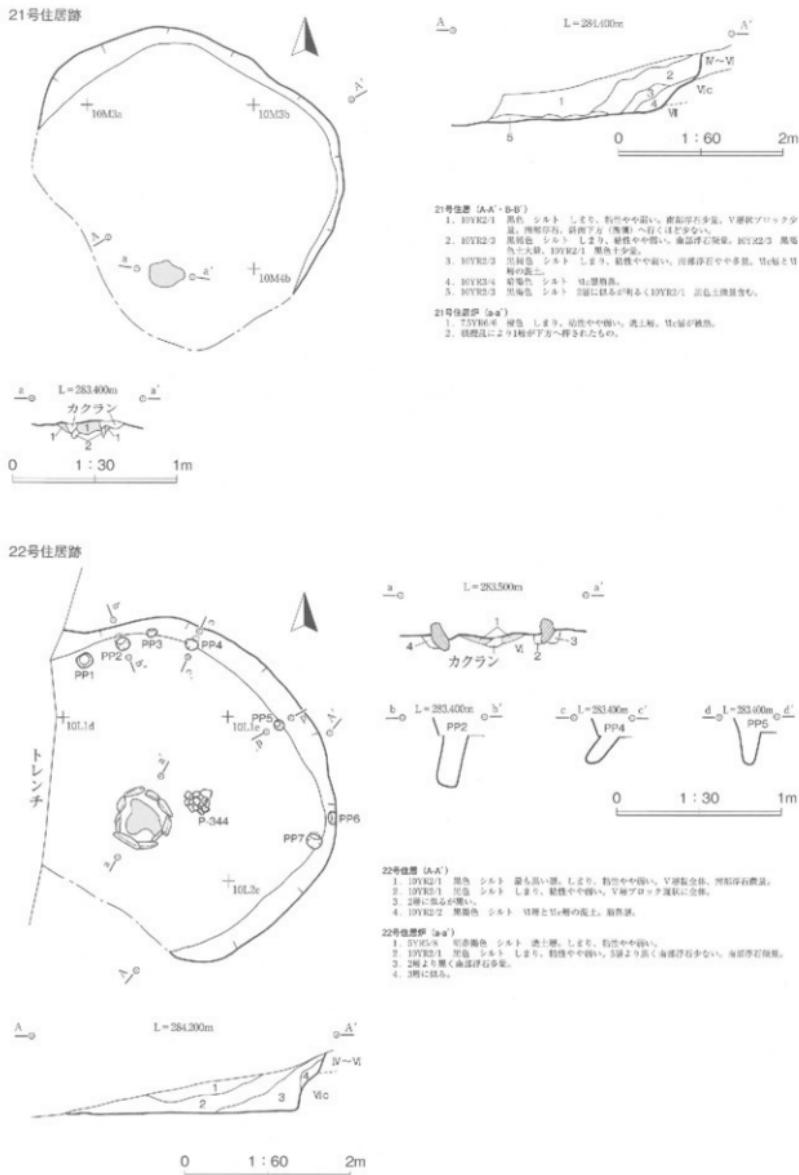
〈規模・形状〉 西側は本遺構確認前に、トレレンチでⅣ層まで掘り下げてしまった。南側は斜面の傾斜にそってⅢ層が堆積し床面が削平・消失する。4.38×3.68mが残存しており、おおむね円形と推定される。

〈堆積状況〉 壁際はVI c 層が崩落しており、住居全体には斜面上方（北東側）から黑色土が主体となる層が堆積する。

〈床面・周溝〉 がより北側はVI c 層、南側は旧河道埋没土を床とする。おおむね平坦で硬化面は確認されなかった。

〈壁〉 外傾して立ち上がる。上部はやや内湾する。検出面からの深さは最大55cm程度である。

〈土坑・柱穴〉 壁際に7個の小穴が検出された。いずれも黑色土を主体とし、南部浮石の混入量が若干となる。10～20cm程度の円形で、下端が上端よりも小さいV字状の断面形で壁側にはいりこむ。床面ではなく、壁に掘り込まれた例（P P 6）もあり、これらに柱をすえた場合住居内へ向かって傾くものと推定される。



第35図 21・22号住居跡

〈炉〉石開炉が1基検出された。残存する壁から想定される住居のほぼ中央に位置する。石で囲われた範囲は72×71cm、その中で52×40cmの不整形、深さ最大4cmに焼成が及ぶ。石の周りには断面で掘方が認められたが、平面形は把握できなかった。

〈遺物〉土器(344~347: 第84図、写真図版64)、石器(S-288)。遺物は1層中からの出土が多い。

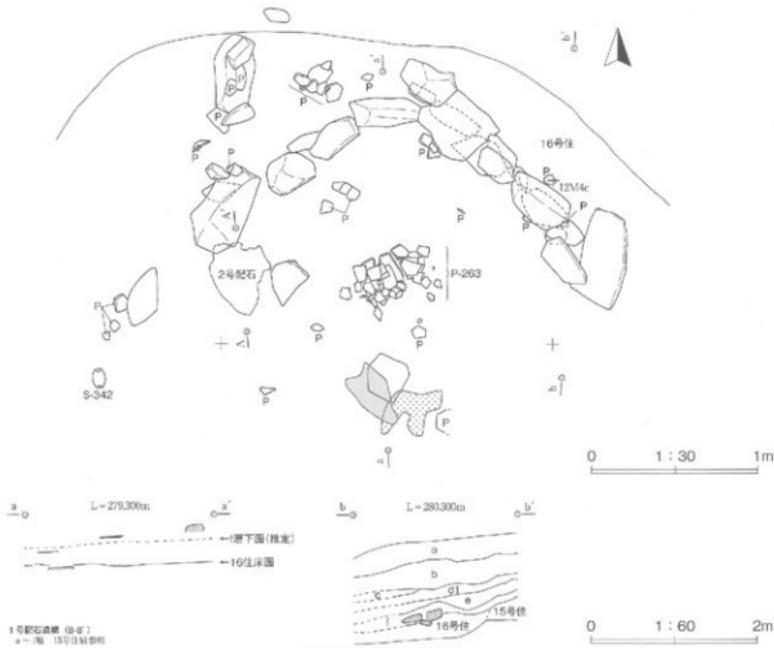
2 配石遺構

1号配石遺構 (第36図、写真図版31・32)

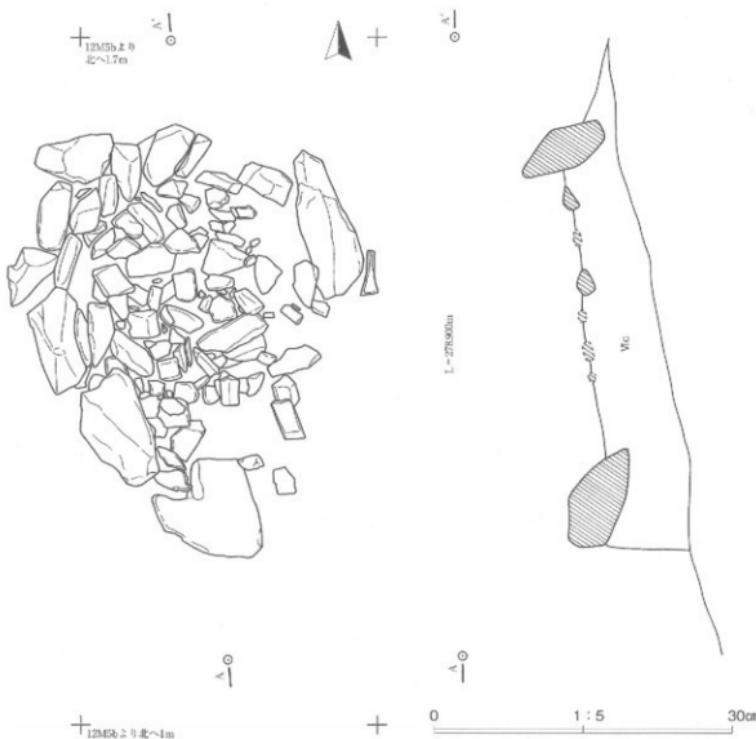
〈位置・検出状況・重複〉12M4bグリッド付近に位置する。IV層面で、遺物の広がる範囲(包含層)が確認されたがプランがはっきりせず、ベルトを設定し小グリッド単位で掘り下げたところ、礫が半円に並ぶ状態で検出された。15・16号住居、2号配石・36号土坑と重複しこれらより新しい。

〈規模・形状・堆積状況〉礫の広がる範囲は、東西3.00m、南北1.50m、半径1.50m程度の半円を描く。東側は上下に2個重ねられている。礫は、13~18号住の広範囲に堆積する包含層のf層下面に並ぶ。包含層は斜面に傾斜に沿って堆積しているため、礫も斜面下方へ向って下がる。礫は大きいもので50×30cm程度、遺跡周辺の本土層中に含まれるものと同じ石材を使用している。

〈焼土〉配石の南側、f層下面~16号住覆土上部付近に被熱の痕跡が見られる。40×20cmの不整形で、



第36図 1号配石遺構



第37図 2号配石遺構

焼成の及ぶ深さは最大5cm程度である。焼土が検出されたことから、礫は住居壁として積まれたものである可能性を考えたが、礫外側に掘り方は確認できず、礫も斜めに積まれているため、住居使用時に崩落してしまう危険性がある。また16号住居のプランをひとまわり小さくしたような礫の配置のため、住居壁に積まれていたものが崩落したとも考えられるが、全体がきれいに半円を描き並んでおり、上述のとおり東側は2段重なっているため、原位置を留めていると判断したい。そのため配石遺構として扱った。

〈遺物〉 土器・土製品（258～269・348～357・727・775・776：第79・80・84・103図、写真図版61・64・76・77）、石器（S-24・25・52・133・209・287・289・336～338・342：第104・105・111・114図、写真図版78・82・83）。配石の内側、包含層中に含む遺物を掲載した。本遺構に帰属する可能性が高いものは土器236で、配石半径のほぼ中心、f層下面に沿って出土し、ほぼ器形が復元された。

2号配石遺構（第37図、写真図版31・32）

〈位置・検出状況・重複〉 12M 4 b グリッド付近に位置する。16号住居を掘り下げていたところ、床面とほぼ同じ高さで小礫が集中する範囲を検出した。そのため住居に伴うかこれよりも新しく、1号配石より古い。

〈規模・形状・堆積状況〉 南北44cm、東西37cm、隅の丸い逆三角形状である。外側は大きな礫を立てかけて並べており、内側に小礫を敷き詰めている。礫はすべて自然礫で、遺跡周辺の基本土層中に含まれるものと同じ石材である。断ち割ったが配石下部に掘込みは認められず、上部は住居覆土と同時に掘り下げたため不明である。

〈遺物〉 出土していない。

3 土 坑

1号土坑（第38図、写真図版33）

〈位置・検出状況・重複〉 7 N 1 e グリッド付近に位置する。2号住居跡と重複しており、これにベルトをかけて掘り下げたところ、住居床面で本遺構を検出した。断面の堆積状況から住居跡より新しい。

〈規模・形状〉 上記の理由で住居との重複部を一部消失するが、開口部径2.15×2.03mの円形である。底面は平坦で、規模1.47×1.45m、IX b 層上面まで掘り込む。検出面からの深さは132cmである。壁は下部が直立、上部が外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 壁際は黄褐色～褐色土、中央は暗褐色土を主体とする。

〈遺物〉 土器（358～360：第85図、写真図版64）

2号土坑（第38図、写真図版33）

〈位置・検出状況・重複〉 7 O 1 d グリッド付近に位置する。1号住居北壁で周囲よりやや黒味の強い範囲にトレチをいたしたこと、本遺構が重複していることが判明した。そのため新旧関係を確認できていないが、1号住居で記載したように本遺構が古い可能性がある。

〈規模・形状〉 開口部径は東西1.65m、南北は南側を消失し1.20mである。残存部から円形と推定される。底面は平坦で、規模は1.14×0.80m、Ⅸ層まで掘り込む。検出面からの深さは、最大66cmである。壁は下部が直立、上部が外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 暗褐色～黄褐色土を主体とする。壁際にはⅩ層ブロック（6層）が堆積し、斜面上方から土が流入する。

〈遺物〉 遺物は出土していない。

3号土坑（第38図、写真図版33）

〈位置・検出状況・重複〉 7 O 2 b グリッド付近に位置する。2号住居床面で、検出し、断面での堆積状況により本遺構の方が古い。4号土坑とも接するが新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 開口部径1.17×0.82m、やや東西に長い椭円形となる。底面は平坦で、規模は0.94×0.72m、Ⅸ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大50cm、壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 褐色～黄褐色土を主体とする。住居用にかけたベルトで堆積状況を確認している。そのため断面は、他の土坑と異なり、斜面に傾斜に対して直交しており、覆土はほぼ水平に堆積している。

〈遺物〉 出土していない。

4号土坑（第39図、写真図版34）

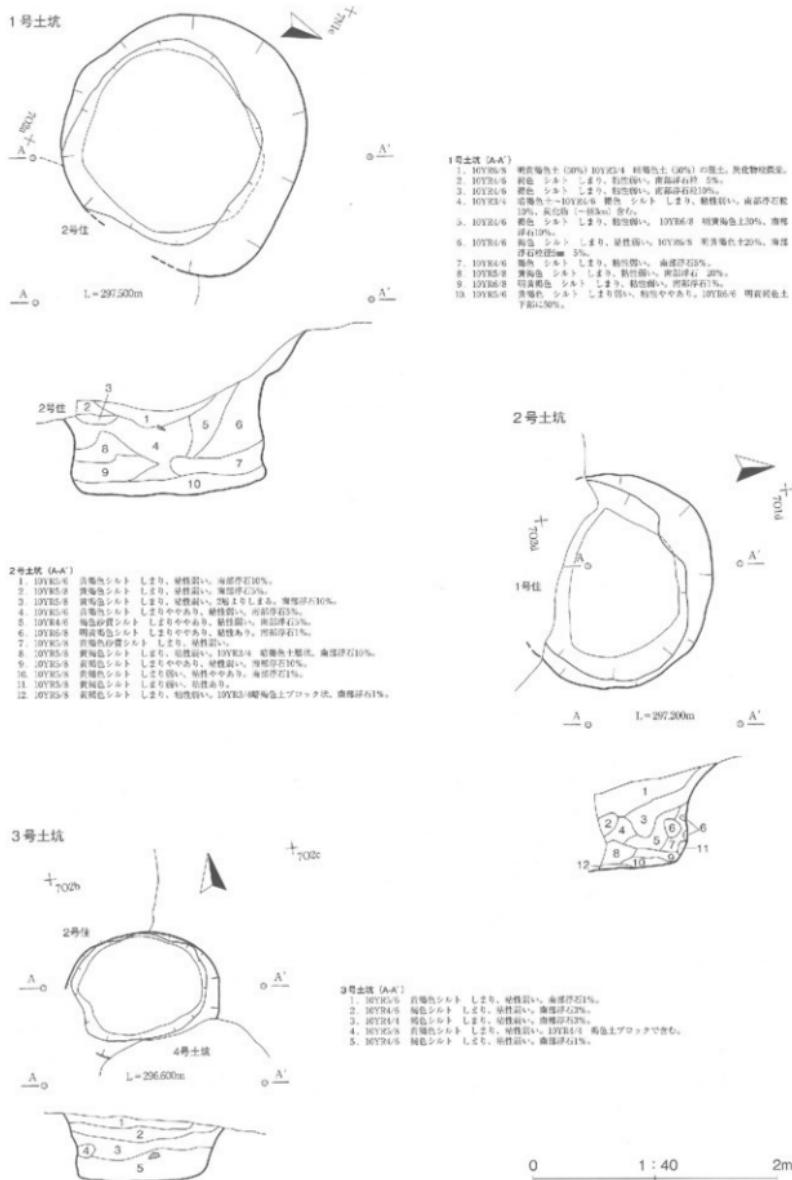
〈位置・検出状況・重複〉 7 O 3 b グリッド付近に位置する。V～VI層で褐色土の広がりを確認した。重複する3号土坑を掘り下げた後に検出したため、新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 開口部径1.39×1.34mの円形である。底面はやや丸みを帯び壁へと外傾して立ち上がる。底面規模は0.74×0.63mである。検出面からの深さは最大65cm、IX層上面まで掘り込む。

〈堆積状況〉 壁際には明黄褐色～黄褐色、中心部に褐色土が堆積する。壁崩落を伴いながら周囲がら覆土が流入したものと考えられる。

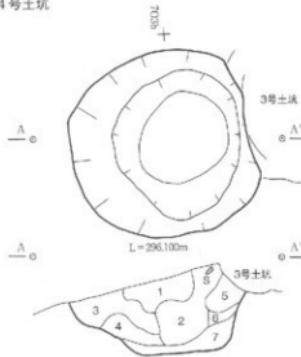
〈遺物〉 出土していない。

3 土坑



第38図 土坑 (1)

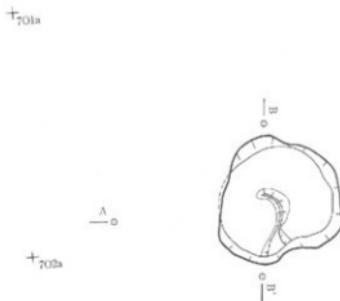
4号土坑



4号土坑 (A-A')

1. 10YR4/4 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、南部漂石2%、10YR3/3 黄褐色土ブロックで合む。
2. 10YR4/4 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、北部漂石1%、10YR3/3 黄褐色土ブロックで下部に合む。
3. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、北部漂石1%。
4. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、北部漂石1%。
5. 10YR5/8 明黄色 シルト しまり、粘性弱い、北部漂石1%。
6. 10YR4/4 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、北部漂石1%。
7. 10YR4/4 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、北部漂石1%、炭化物1%。

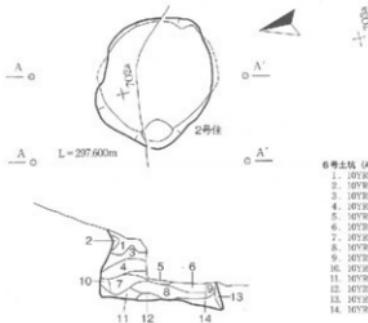
5号土坑



5号土坑 (A-A')

1. 10YR5/6 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、北部漂石1%。

6号土坑



6号土坑 (A-A')

1. 10YR5/9 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、南部漂石2%。
2. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまりかあるいは、粘性弱い。
3. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまりかあるいは、粘性弱い、漂石あり。Toh1/3%。
4. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、漂石あり。漂石1%。
5. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、10YR2/3 黑褐色土混入、漂石2%。
6. 10YR5/6 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、漂石2%。
7. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、漂石2%。
8. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、漂石2%。
9. 10YR5/8 黄褐色 シルト しまり、粘性弱い、漂石2%。
10. 10YR5/5 明黄色 シルト しまりかあるいは、粘性弱い。
11. 10YR5/5 明黄色 シルト しまりかあるいは、粘性弱い、漂石2%。
12. 10YR4/4 こぶらけ色 シルト 粘性なし、L=2.2m / 頭部。
13. 10YR4/4 黄褐色 土 しまり、粘性弱い。漂石2%。
14. 10YR4/5 黄褐色 土 しまり、粘性弱い。漂石1%。

0 1 : 40 2m

第39図 土坑 (2)

5号土坑（第39図、写真図版34）

〈位置・検出状況・重複〉 7 O 1 a グリッド付近に位置する。2号住居床面で検出した。本遺構覆土に住居跡が形成されていたため、住居跡が新しいと判断した。

〈規模・形状〉 開口部径 0.98×0.93 m、円形である。底面中央、南北方向尾根状の高まりがあり、壁際へ向って低くなっている。規模は 0.87×0.84 m。検出面からの深さは25cm、IX層上面付近まで掘り込む。壁はほぼ直立する。

〈堆積状況〉 黄褐色土の単層である。

〈遺物〉 出土していない。

6号土坑（第39図、写真図版34）

〈位置・検出状況・重複〉 7 O 2 a グリッド付近に位置する。2号住居床面と壁の一部に周囲より黒味の強い範囲が認められ、掘り下げたところ本遺構を確認した。そのため、断面・平面形からの新旧関係は不明であるが、遺物・礫の出土状況から考えると住居跡が新しい可能性がある。

〈規模・形状〉 開口部径 1.02×0.80 m、円形である。底面は平坦で、規模は 0.85×0.83 m、IX層上面まで掘り込む。検出面からの深さは最大52cmで、壁はオーバーハングして立ち上がる。

〈堆積状況〉 壁際にはⅨ層ブロック（10・11・13）が崩落しており、覆土全体は、黄褐色～褐色土に黒褐色土が少量含まれる。

〈遺物〉 出土していない。

7号土坑（第40図、写真図版34）

〈位置・検出状況・重複〉 7 N 3 e グリッド付近に位置する。試掘トレンチ内Ⅹ層で褐色土の半円プランを検出したため、掘り下げたところ本遺構確認した。本来の検出面はⅣ層～Ⅵ層である。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 西半上部をトレンチによって消失するが、残存する開口部径 1.65×1.40 m、円形である。底面は平坦で、規模は 1.12×1.08 m、IX a層上面まで掘り込む。検出面からの深さは最大84cm、壁は下部がわずかに、上部は大きく外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 壁際は褐色～明黄褐色土、中心部は暗褐色土が主体となる。斜面上部は崩落のためか立ち上がりがはっきりしなかった。

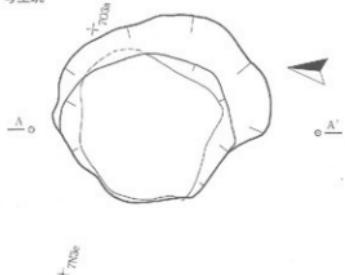
〈遺物〉 出土していない。

8号土坑（第40図、写真図版34）

〈位置・検出状況・重複〉 8 N 1 a グリッド付近に位置する。VI～IV層中でシミ状の広がりを検出した（8～13号土坑の範囲）。不整円形でその形状・規模から住居跡と判断し、全体を4分割し、ベルトをかけ調査を開始したが、掘り下げていった結果、土坑が複数重複していることが判明した（8～13号土坑）。本遺構は不正円形プランの北東部に位置しており、ベルトを設定した状態でⅩ層まで下がったことで円形プランを確認した。9号土坑と接するが、新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 上記の理由により、南側はⅩ層まで掘り下がり、上端を消失する。残存する開口部径は東西 2.16 m、南北は 2.00 m、円形である。底面はほぼ平坦で、規模 1.41×1.25 m、IX層まで掘り込む。壁は、底面から $20 \sim 25$ cm程度までオーバーハングしてからわずかに直立、上半は大きく外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大65cmである。

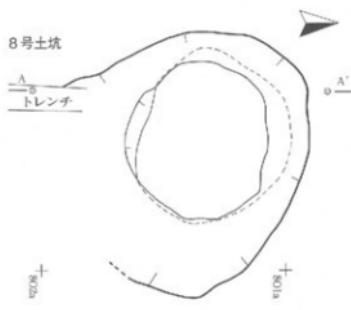
7号土坑



7号土坑 (A-A')

1. 塗覆色 シルト しまり、粘性質い。海部厚石1%。
2. 197K5-4 背面色 シルト しまり、堅性質い。海部厚石1%。
3. 197K5-4 海色 シルト しまり、堅性質い。海部厚石1%。
4. 197K4-4 海色 シルト しまり、粘性ややあり。197K3-3 明海色土ブロック状。海部厚石5%。
5. 197K4-4 海色 シルト しまり、粘性ややあり。197K3-3 明海色土ブロック状。海部厚石5%。
6. 197K4-4 海色 シルト しまり、堅性質い。海部厚石1%。
7. 197K3-3 黄褐色物質 シルト しまり、粘性ややあり。197K3-3 黄褐色土ブロック状。
8. 明海色土 シルト しまり、粘性ややあり。海部厚石。泥化物含む。
9. 8K5-2 黄褐色土が層状に上る事多。
10. 197K5-4 背面色 シルト しまり、粘性質い。海部厚石2%。
11. 197K5-4 背面色 シルト しまりより、堅性質い。海部厚石1%。
12. 197K5-8 明海色 シルト しまり、粘性質い。海部厚石3%。
13. 197K5-8 明海色 シルト しまり、粘性質い。海部厚石2%。
14. 197K5-8 明海色 シルト しまり、粘性質い。海部厚石2%。
15. 197K4-6 海色 シルト しまり、粘性質い。海部厚石1%。
16. 197K4-6 海色土と197K3-3 明海色土の混土。しまり、粘性質い。
17. 197K5-6 明海色土 シルト しまり、粘性質い。海部厚石1%。
18. 197K5-6 明海色地と197K5-9 黄褐色土の混土。しまり、粘性質い。海部厚石1%。
19. 197K5-5 背面色 シルト しまりややあり、堅性なし。海部厚石1%。
20. 197K5-5 明海色 シルト しまり、粘性質い。海部厚石1%。
21. 197K5-5 明海色 シルト しまりややあり。堅性なし。海部厚石1%。

8号土坑



8号土坑 (A-A')

1. 197K7-6 背面色 シルト しまり、粘性やや質い。海部厚石層質。
2. 197K5-6 黄褐色質。
3. 197K5-6 黄褐色土が層状ブロック (厚~5cm) 多量。
4. 197K5-6 黄褐色 シルト しまり、粘性やや質い。1層より高い。海部厚石層質。
5. 197K5-6 明海色土 シルト しまりより、粘性やや高い。197K4-4 残色シルト少量が一ヶ所と海部質が少額。
6. 4層以上が層状ブロック (厚~5cm) 合む。
7. 197K5-6 明海色土 シルト しまり、粘性やや高い。海部厚石層質。
8. 197K5-6 明海色土 シルト しまり、粘性やや質い。海部厚石層質。海部ブロックごなれで少額。
9. 197K5-6 明海色土 シルト 海部厚石層質。
10. 197K5-6 明海色土 シルト 海部厚石層質。
11. 197K5-6 明海色土 シルト 海部厚石層質。

0 1 : 40 2m

第40図 土坑 (3)

〈堆積状況〉 明黄褐色～黄橙色を主体とする。10・11層はIX層、3・6～8層はⅧ層、2層はVI（V？）層と壁の崩落を伴いながら、斜面上方から土が流入している。

〈遺物〉 土器（361：第85図、写真図版64）。

9号土坑（第41図、写真図版35）

〈位置・検出状況・重複〉 8 O 1 a グリッド付近に位置する。8号土坑同様、不正円形のプラン内で検出し、その北西部に位置する。A-A' ベルトを設定してⅦ層上面まで掘り下げたところ不整形な暗褐色の広がりが確認された。そこで土坑と判断して、新たにB-B' を設定し調査をすすめた。8・11号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 北西壁以外の上端は掘り下げてしまい消失した。形状は不整形圓、東側に隅丸方形の張出部を持つ。全体の規模は東西1.85m以上、南北1.40m以上で、西側の円形プランは直径0.9～1.2m、張出部は径0.5m程度である。両者が同一造構か重複しているだけなのかを確認することはできなかつたが、底面は同じ高さで、IX層まで掘り込む。検出面からの深さは最大60cmである。底面の径は1.70×1.24mで、分割すると西側が1.15×1.24m、東側が0.55×0.55mとなる。壇の形状は、底面から30cm付近くらいまでは袋状にオーバーハングしてからわずかに直立し、上部は大きく外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 覆土下部（A-A' 4・5層、B-B' 6層以下）は、壁であるⅦ・X層の崩落は見られず、黒褐色～暗褐色土を主体とする層が比較的厚みを持って堆積している。上部は暗褐色～褐色土を主体とし、壇際にはV層またはⅧ層相当の地山ブロックが混入する。

〈遺物〉 土器（362・363：第85図、写真図版64）。北東壇際、袋状にオーバーハングしている部分から上器片がまとまって出土している。

10号土坑（第41図、写真図版35）

〈位置・検出状況・重複〉 8 O 2 b グリッド付近、8・9号土坑記述の不正円形プランの南側に位置する。ベルトに沿ってトレンチでⅦ層上面まで掘り下げたところ本造構を検出した。11号土坑と接しており、本造構の方が新しい。

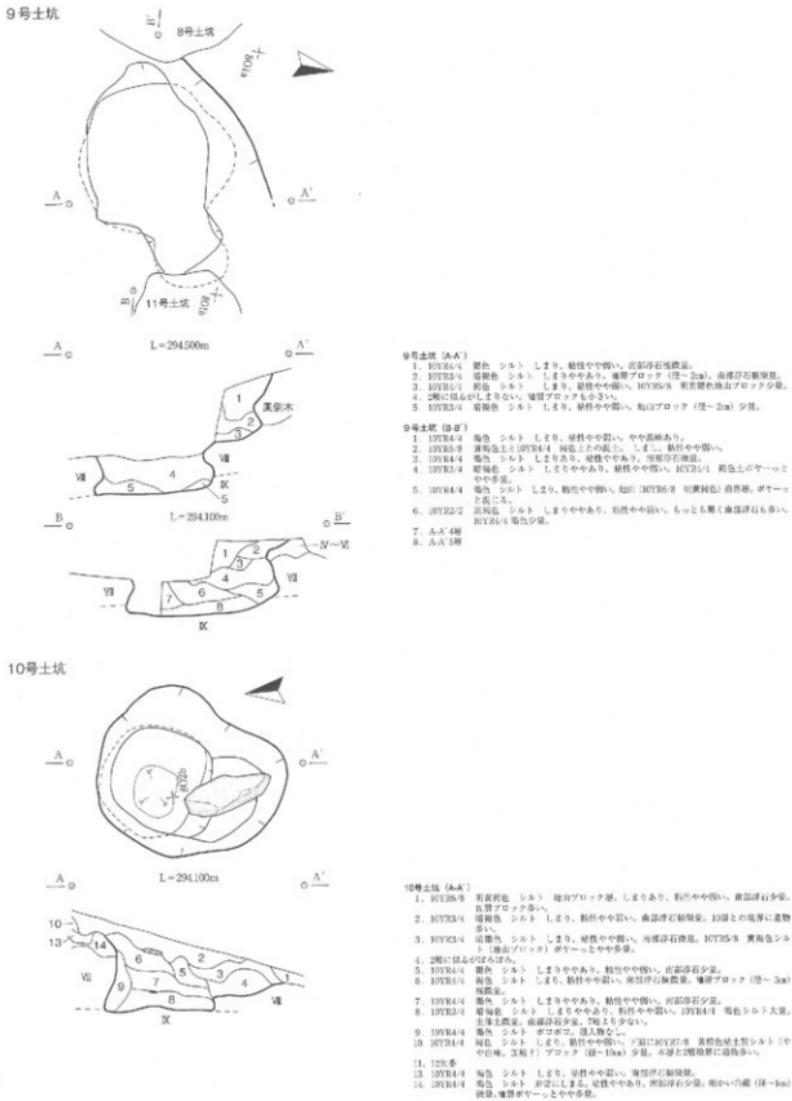
〈規模・形状〉 開口部径1.55×1.40m、橢円形である。底面は平坦で規模は0.80×0.92m、中央の0.33×0.40mの範囲が浅皿状に窪む。IX層上面まで掘り込み、検出面からの深さは最大72cmである。壁の形状は、オーバーハングしてから外傾して立ち上がる。南側はこの間にいったん平場を設ける。

〈堆積状況〉 暗褐色～褐色土を主体とする。覆土下部と上部に暗褐色土、その間に褐色土が堆積しており、これらは斜面上方から流入している。上部（1・2・10層）は本造構や周囲の造構（11～13号土坑）の壁崩落を伴いながらこれらの造構範囲を越えて広範囲に堆積している。

〈遺物〉 土器（364：第85図、写真図版64）。7層下面より出土している。

11号土坑（第42図、写真図版25）

〈位置・検出状況・重複〉 7 O 5 b グリッド付近、8号土坑で記述した不整形円形プランの北側に位置する。A-A' の位置にベルトを設定して14層下面まで掘り下げたところで、これを住居跡床面と判断した。断面記録後東側へと掘り進んだところ、住居跡ではなく土坑が南北方向に3基（11～13号土坑）重複していることがわかった。その時点で残存部にベルト設定した（B-B'）。本造構は上述の3基の南はじに位置しており、北側の12号土坑と重複する。また西側は9号土坑とも接するが、これらの造構との新旧関係は不明である。



第41図 土坑(4)

〈規模・形状〉南東部以外の上塗を消失する。残存する開口部径は、東西1.55m、南北1.20m、円形である。底面はほぼ平坦で、規模0.8×1.00m、IX層上面まで掘り込まれている。検出面からの深さは85cmである。壁は、下半が直立もしくはオーバーハング、上半が外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉褐色土を主体とする。A-A'ベルト記録時点では土坑の重複を把握しておらず、各遺構の立ち上がりを確認できていない。そのため、正確な分層とはいえないが、斜面上方から上が堆積し、土坑群の範囲を越え下方へと流れていく様子が読み取れる。B-B'ベルトは本遺構を確認した後に分層した断面であるが、覆土は大きく上部と下部に別れ、その境界は3層下面、当初床面と誤認した位置となる（A-A' 14層下面付近）。上部は下部に比べ、Ⅶ～IX層をおおきなブロックで混入している。

〈遺物〉土器（372～376：第85図、写真図版65）、石器（S-30：第104図、写真図版78）。土器は372が10層、それ以外は検出面からの出土である。これらの層は、上述のとおり10～13号土坑全体に堆積するため、遺構に帰属する遺物というよりも、斜面上方からの流入したものと考えられる。

12号土坑（第42図、写真図版35）

〈位置・検出状況・重複〉705bグリッド付近、11号土坑に記述した重複する3基の中央に位置する。A-A'ベルト除去後東側へ掘り進めたところ本遺構を確認した。11・13号土坑と重複するが新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉上端の大半を消失する。残存する開口部径は0.57×1.08m、円形である。底面はおおむね平坦で、規模は南北0.50m以上、東西0.66mである。検出面からの深さは70cm、Ⅶ層まで掘り込む。壁はほぼ直立する。

〈堆積状況〉褐色土を主体とする。

〈遺物〉11号土坑記述のとおり10・11～13号土坑全体で土器・石器が出土している。

13号土坑（第42図、写真図版35）

〈位置・検出状況・重複〉705bグリッド付近、11号土坑に記述した重複する3基の北端に位置する。A-A'ベルト除去後東側へ掘り進めたところ本遺構を確認した。11・12号土坑と重複するが新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉上端の大半を消失する。残存する開口部径は1.05×0.65m、円形である。底面はおおむね平坦で、規模は南北0.55m以上、東西0.70mである。検出面からの深さは65cm、Ⅶ層中まで掘り込む。壁はほぼ直立する。

〈堆積状況〉褐色土を主体とする。

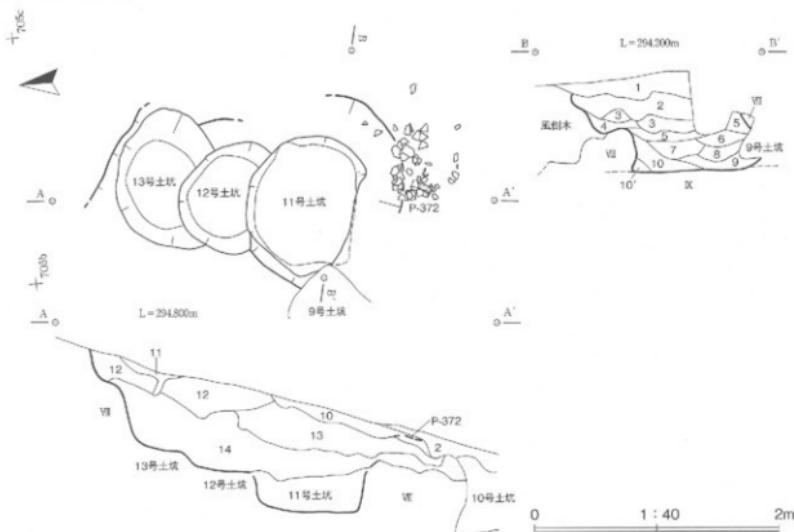
〈遺物〉土器（365：第85図、写真図版64図）。この他、11号土坑記述のとおり10～13号土坑全体で土器・石器が出土している。

14号土坑（第43図、写真図版36）

〈位置・検出状況・重複〉801cグリッド付近に位置する。VI層で検出したところ切り株の周辺に黒褐色土の広がりが確認された。根の影響と思われたが確認のためこれを避けてサブトレンチを設定し掘り下げたところ土坑であることが判明した。3号住居と接するが、住居より先に本構を掘り下げてしまったため新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉開口部径2.24×2.05m、円形である。底面は平坦で、規模1.96×1.84m、IX層まで掘り

11・12・13号土坑



第42図 土坑 (5)

込む。検出面からの深さは、最大134cmである。壁は、下半がオーバーハング、上半が外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 底面直上の壁崩落土（29層）および褐色土（27層）の上面に炭化物散る。長さ数cm程度の炭片で、規則性はみられず散在しており、個々の炭化物片を囲むように周りの土が被熱しやや赤みを帯びる。焚き火をしたような広い焼成範囲は認められず、燃ぶっている材（炭片）が何らかの事情により入りこんだのではないかと思われる。材の種類はクリとケヤキである。この炭層上位には壁際から中央へ向かって崩落土を挟みながら褐色土（18層以下）およびやや黒味のある層（8～10・12～25層）が堆積し、最後に中央部が埋没する。覆土最上層の1・3層、及び11層は、木根に攪乱されしまりが弱く堆積状況もやや不自然である。

〈遺物〉 上器（366～371：第85図、写真図版64・65）。上述の炭化物片は年代測定の結果yrBP2540±40年と判定された。

15号土坑（第43図、写真図版36）

〈位置・検出状況・重複〉 7O3dグリッド付近に位置する。VI層で検出したところ、周囲より色調がやや暗く、土質の柔らかい範囲が認められたがプランが明確でなかったため、サブトレンドをいれ本遺構を確認した。1号住居と重複していた可能性が高く、16号土坑ともわずかに接するが、新旧関係は確認できていない。

〈規模・形状〉 風倒木痕により南半を壊され消失する。残存する範囲から推定する形状は、円形、規模は1.85×1.55m以上である。検出面からの深さは50cm、Ⅶ層まで掘り込まれる。底部は平坦で、規模東西1.26m、南北1.11m以上、中央に小穴を設ける。小穴は規模28×27cm、深さ5cm程度である。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 底面および北壁際にはⅦ・Ⅷ層の崩落土（9～14層）、覆土下部は暗褐色～褐色土（3～8層）、上部は黄褐色土を主体とする層が堆積し、斜面上方より流入している。

〈遺物〉 繩文土器片が出土しているが小片のため図化していない。

16号土坑（第44図、写真図版36）

〈位置・検出状況・重複〉 7O3cグリッド付近に位置する。1号住居のプラン内と想定される範囲に床面が確認できず、やや色調の暗い範囲が認められたため、サブトレンドをいれたところ本遺構を確認した。同住居、15号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 開口部径1.22×1.00m、円形である。底面は斜面上方がやや高くなるがおおむね平坦で、規模1.12×1.10m、Ⅷ・IX層境界付近まで掘り込む。検出面からの深さは、最大89cmである。壁はややオーバーハングして立ち上がる。

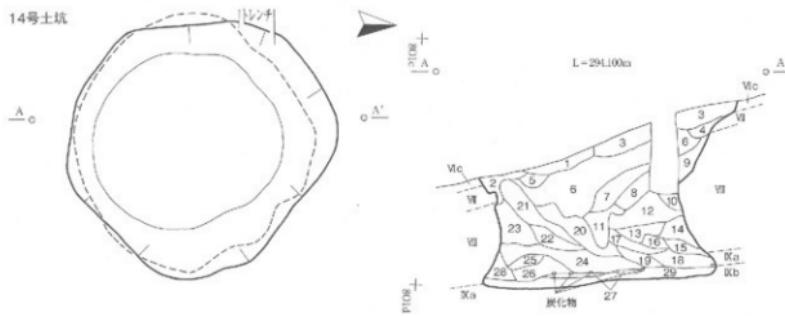
〈堆積状況〉 底面中央に黒褐色土が薄くたまり、埋土の上半はⅧ層起源の明黄褐色土である。上部に明黄褐色土～褐色土が堆積するが、壁の立ち上がりがはっきりしなかつた。

〈遺物〉 出土していない。

17号土坑（第44図、写真図版36）

〈位置・検出状況・重複〉 7O5cグリッド付近に、3号住居の北西に位置し、18号土坑と東西に並ぶ。当初この土坑を含めたプランを住居跡と判断し調査を進めていたが、これらの南側で若干段差が認められ、段差に沿って溝がめぐることから、これが住居の壁と周溝で、北側は別遺構が重複してい

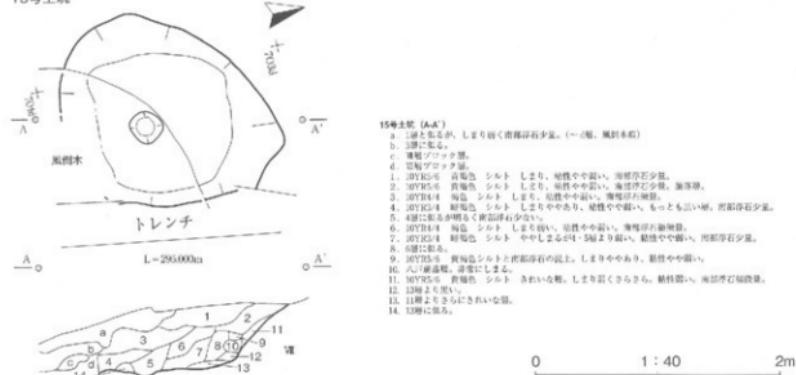
14号土坑



14号土坑 (A-A')

1. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。南部浮石少量。もっとも黒い層。
2. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。南部浮石微量。下部に風化泥あり。
3. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりとあるが、へんりを示す。
4. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。南部浮石少量。下部に風化泥あり。
5. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。南部浮石微量。H7Y8/5 黑褐色シルトがやーと多くある（油井ブロック？）。
6. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。H7Y8/5 黑褐色シルトがやーと少し。南部浮石、黄褐色（ほーく）微量。
7. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。H7Y8/4 海色少量。未確認物（ほーく）微量。南部浮石少量。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
8. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。南部浮石微量。H7Y8/5 黑褐色シルトがやーと見える。南部浮石少量。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
9. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。南部浮石微量。しまりやや弱い。南部浮石少量。
10. 亂れブロック黒褐色、しまり弱い。南部浮石微量。しまり弱い。南部浮石少量。
11. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。やや厚い。木あれ。南部浮石少量。
12. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。南部浮石微量。未確認物（ほーく）微量。南部浮石少量。
13. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。南部浮石微量。木あれ。南部浮石微量。
14. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。南部浮石、南部浮石微量合せると既観察。
15. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。南部浮石微量。木あれ。木あれ。
16. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。南部浮石微量。木あれ。
17. 2層に分れる南部浮石微量。しまり弱い。南部浮石微量。
18. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。南部浮石微量。下部に風化物（ほーく-3cm）含む。
19. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。H7Y8/5 黑褐色少しがやーと。南部浮石微量。
20. 亂れブロック黒褐色、しまり弱い。南部浮石微量。
21. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまりやや弱い。南部浮石微量。未確認物（ほーく）微量。南部浮石微量。
22. 日常に黑褐色浮石浮遊多く、しまりやや弱い。
23. 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。南部浮石微量。下部（27番との差異）に多く。南部浮石微量。
24. 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。南部浮石微量。
25. 黑褐色 シルト しまりやや弱い。南部浮石微量。
26. H7Y8/5 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。南部浮石やや多量。南部浮石（ほーく-1cm）含む。
27. H7Y8/4 黑褐色 シルト しまり弱い。岩がれの岩がれやや弱い。南部浮石微量。上部に灰化物。
28. 黑褐色 シルト しまり弱い。岩がれの岩がれやや弱い。南部浮石微量。
29. H7Y8/5 黑褐色 シルト しまりやや弱い。粘性やや弱い。南部浮石微量。

15号土坑



第43図 土坑 (6)

ることがわかった。この時点では本遺構Ⅰ基と考えており、掘り下げていく過程で18号土坑と接することが判明した。住居より古いが、土坑との新旧関係は確認できなかった。

〈規模・形状〉 東～南側は、住居調査時に掘り下げてしまい、消失する範囲が多い。残存する部分から推定すると形状は円形、規模は 1.42×1.38 m以上である。底面は平坦で、規模が東西1.19m、南北1.15m以上、覆層まで掘り込む。検出面からの深さは最大110cm、壁は下半が袋状にオーバーハングし、上半が外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 覆土下半しか残存していないが底面付近は暗褐色土（8層以下）、その上は褐色土を主体とする。底面直上の層には炭化物が含まれる。

〈遺物〉 土器（377・378：第85図、写真図版65）。

18号土坑（第44図、写真図版36・37）

〈位置・検出状況・重複〉 705cグリッド付近に位置する。17号土坑調査中に重複することが判明した。そのため新旧関係は不明である。また3号住居とも重複するが、断面の切りあい関係より住居跡のはうが新しい（3号住居A-A'）。

〈規模・形状〉 南側の上端を3号住居、東側の底面までを17号土坑により消失する。残存部から推定する形状は円形、開口部径は 1.19×0.81 m以上である。底面は平坦で、規模は南北0.95m、東西0.77m以上、覆層まで掘り込む。検出面からの深さはB-B'ベルト付近で55cmだが、覆土を確認できたのは23cmのみである。壁は下半が直立、わずかに外傾、上半が大きく外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 覆土下半しか残存していないが黄褐色～明黄褐色土（VI層相当）を主体とする。

〈遺物〉 出土していない。

19号土坑（第45図、写真図版37）

〈位置・検出状況・重複〉 705eグリッド付近に位置する。調査過程で3号住居の北壁が想定するプランよりも外側へ張り出していったため、ベルト（A-A'）を設定し掘り進めたところ、住居床面に褐色土が拡がり、本遺構を確認した。断面の堆積状況より3号住居のはうが新しい。

〈規模・形状〉 開口部径 1.66×1.32 m、円形である。底面は平坦、規模 1.15×1.05 m、Ⅸ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大112cmである。壁は下半が直立またはややオーバーハング気味に立ち上がり、上半が外傾する。

〈堆積状況〉 壁際は崩落層が堆積しており、これ単独のものと（9・11・14層）、黒褐～暗褐色土と混じり互層（4・12）となるものがみられる。覆土中～下部は黒褐色～明黄褐色土が混入量を変えて堆積する。2（2'）層下面が非常に締まる事から3号住床面と考えられ、これより上位は住居覆土となる。

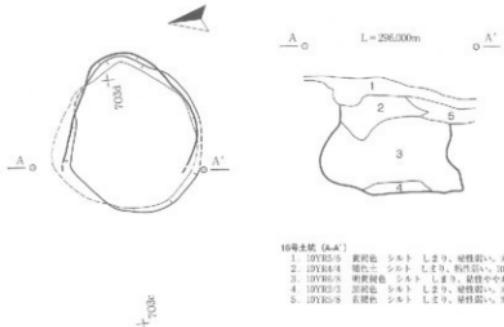
〈遺物〉 土器（379：第86図、写真図版65）。

20号土坑（第45図、写真図版37）

〈位置・検出状況・重複〉 801dグリッド付近に位置する。3号住居と重複しており、住居のプランを把握するためサブトレンチを入れたところ、床面にて本遺構を検出させた。覆土の堆積状況と、土坑プラン内に住居の炉が形成されていたことから、住居のはうが新しいと判断した。21号土坑とも重複するが、新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 開口部径 1.80×1.98 m、円形である。底面は、規模 1.90×1.93 m、平坦で中央に小穴を

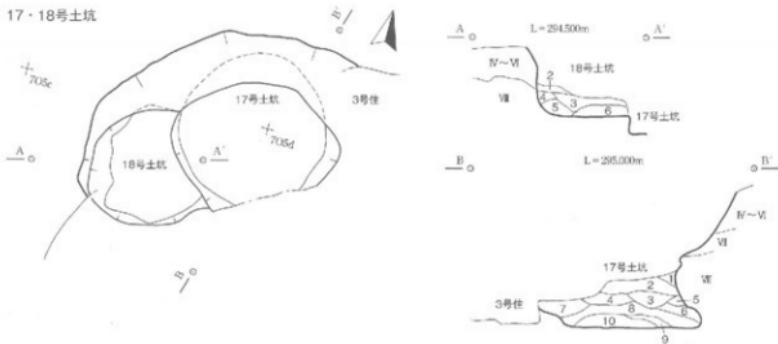
16号土坑



16号生號 (A-A')

1. 10YR5/6 黄褐色 シルト し2り。硬性弱い。底部浮石1%。
 2. 10YR4/4 略褐色 シルト も2り。活性弱い。2YR5/3 浅褐色上。10YR4/4 棕色土混入。底部浮石5%。
 3. 10YR6/8 略褐色強 シルト しま2り。粘性ややあり。底部浮石2%。
 4. 10YR2/3 黄褐色 シルト し1り。硬性弱い。底部浮石1%。
 5. 10YR5/8 略褐色 強 シルト し1り。硬性弱い。底部浮石1%。

17·18号土坑

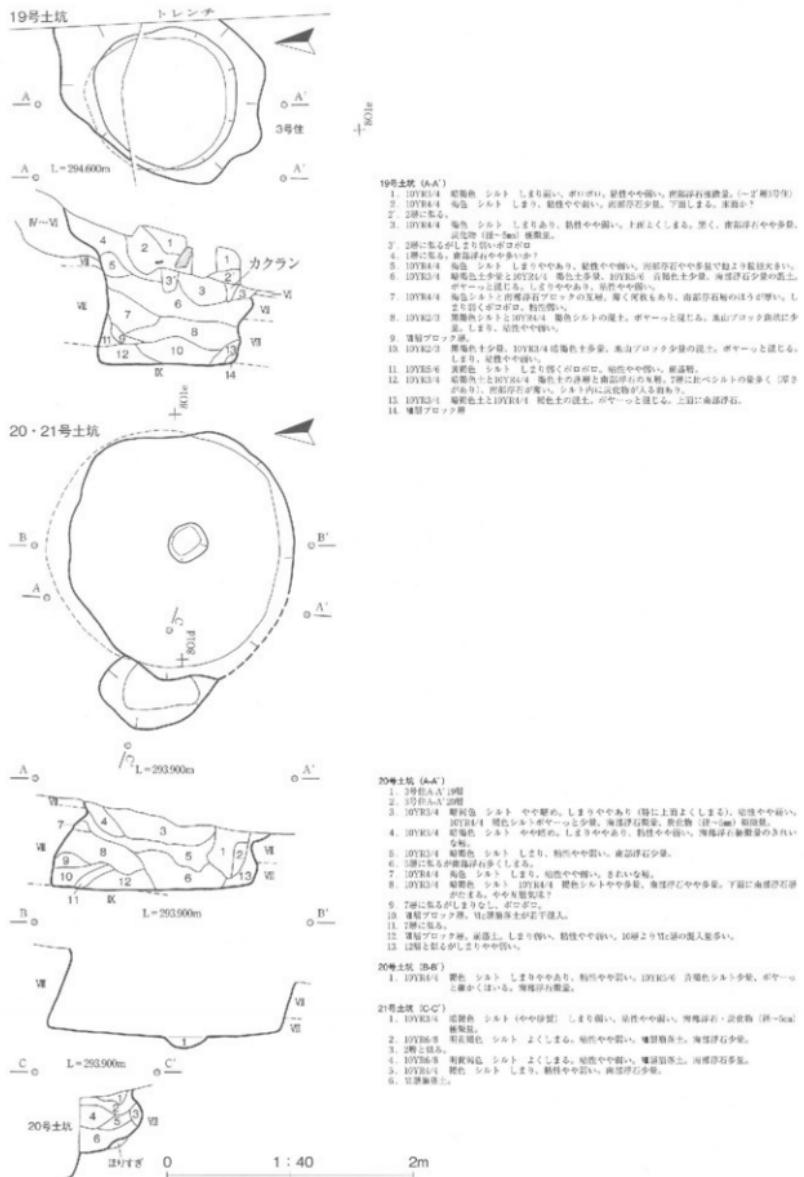


17号土壤 (0-40')

10号地块 (A-A')

0 1 : 40 2m

第44図 土坑(7)



第45図 土坑 (8)

設ける。小穴は規模 $32 \times 30\text{cm}$ 、深さ10cm程度で黄褐色土と南部浮石粒が混入する褐色土が堆積する。検出面（3号住居床面）からの深さは最大70cm、IX層まで掘り込む。壁はオーバーハンプグして立ち上がる。

〈堆積状況〉 壁際にⅦ・Ⅷ層が崩落（7・9～13層）し、その後暗褐色土（3～6層）が堆積する。最上層は炭化物を含む。住居と重複するが、埋め戻したような形跡が確認できなかった。上部層がしかもるが、本遺構上面を床面として使用したためと思われる。

〈遺物〉 繩文土器が出土しているが、小片のため図化していない。

21号土坑（第45図、写真図版37）

〈位置・検出状況・重複〉 7 O 5 c グリッド付近に位置する。20号土坑の壁を掘り進めている際に本遺構が重複していることを確認した。そのため新旧関係は不明で、同一遺構の張り出しの可能性もある。本遺構上面には3号住居床面が形成されており、これよりも古いと判断される。そのため、住居跡よりは付属する敷設とも考えられるが、他の柱穴・周溝と堆積土がまったく異なるため土坑としてあつかった。

〈規模・形状〉 東側を20号土坑と重複し消失する。残存部から推定すると形状は円～橢円形、規模は 0.78×0.68 m以上である。底面は丸味を帯び、規模 $0.62 \times 0.37\text{m}$ 以上、Ⅸ層まで掘り込む。検出面からの深さは45cmである。壁はオーバーハンプグして立ち上がる。

〈堆積状況〉 底面直上～覆土下部にⅦ層のブロック層、中部～上部は、Ⅸ層が多く堆積する。

〈遺物〉 出土していない。

22号土坑（第46図、写真図版37）

〈位置・検出状況・重複〉 8 O 4 d グリッド付近に位置する。VI層～Ⅷ層で暗褐色土の広がりを確認した。重複する遺構ない。

〈規模・形状〉 開口部径 $2.14 \times 1.77\text{m}$ 、円形である。底面の形状は不整形、規模 $1.28 \times 0.90\text{m}$ 、浅皿状に窪む。Ⅸ層中まで掘り込み、検出面からの深さは74cmである。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 斜面下方、斜面上方の順に土が流入している。底面直上の12層と壁際の7層は壁崩落上でこれ以外は黒褐色～暗褐色土を主体とする。覆土最上層には十和田b降下火山灰粒を混入する。平面形状が他の土坑を異なり不整形で底面に平坦面が認められないことから、風倒木痕の可能性も考えたが、覆土内に基本層序を巻き上げたような様相が見られないことから土坑として扱った。

〈遺物〉 土器（380：第86図、写真図版65）。

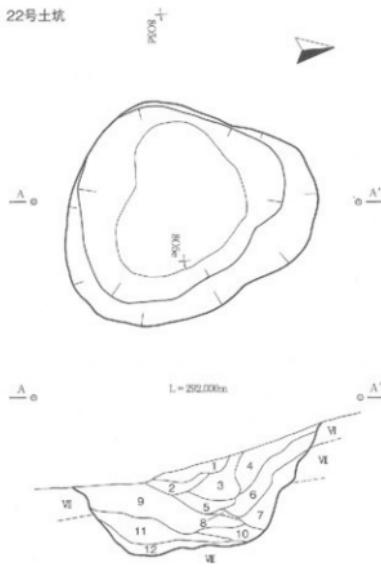
23号土坑（第46図、写真図版38）

〈位置・検出状況・重複〉 9 O 3 a グリッド付近に位置する。Ⅸ層で暗褐色土の円形プランを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 開口部径 $1.85 \times 1.45\text{m}$ 、橢円形である。底面はほぼ平坦で、規模 $1.33 \times 1.13\text{m}$ 、IX層上面まで掘り込む。検出面からの深さは最大70cmである。壁は、南～西側（斜面下方）が外傾、北～東側（斜面上方）が底面からオーバーハンプグして外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒褐色～褐色を主体とする。壁際に崩落ブロック層（8・16・17層）、黒褐色土（14・15層）が堆積する。全体では、下部にⅨ層（5～13層）、上部にⅩ層（1～4層）の混入が多くみられる。

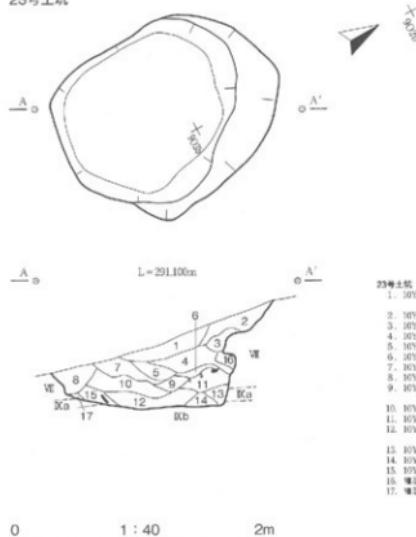
22号土坑



22号土坑 (A-A')

1. HYR2/4 黒褐色 シート しまりあり。粒性やや弱い。Tab (5cm~5cm) 斜面剥落なし。底部帶石微量。白層あり。
2. HYR2/4 黒褐色 シート やや弱め。HYR2/2 黒褐色に近い。しまりややあり。斜面剥落なし。底部帶石微量。
3. HYR2/4 黒褐色 シート やや弱め。粒性やや弱い。Tab ブロック混じるかやや弱め (1cm~2cm)。底部帶石微量。
4. 黑褐色 しまりやや弱め、淡褐色合掌状。
5. HYR2/4 黒褐色 シート やや弱め。HYR2/3 黑褐色に近い。しまり弱い。粒性やや弱め。されいな層。
6. 黑褐色は5層にわけるが、下部1-2層の表面浮石含む。
7. 陶器瓦ロック層。底部薄。
8. HYR2/4 粘質層 シート やや弱め。HYR2/2 黑褐色に近い。しまり、粒性やや弱い。底部帶石少量。底面物塊微量。
9. HYR2/3 黑褐色 シート しまり。底部帶石薄。
10. HYR2/3 黑褐色 シート 底部帶石ブロック (大きい端ではない) 少量との乱し。
11. HYR2/3 黑褐色 シート しまり。粒性やや弱い。底部浮石微量。底部より少しきぐり多い。
12. 完成と堆積の乱れ。底面薄。しまり弱い。

23号土坑



23号土坑 (A-A')

1. HYR2/4 黑褐色 シート しまり。粒性やや弱い。岩根ブロック (径~5cm) 下部に入る。底部帶石微量。
2. HYR2/4 黑褐色 シート しまり。粒性やや弱い。底部帶石微量。
3. HYR2/4 黑褐色 シート しまり。粒性やや弱い。底部帶石微量。
4. HYR2/2 黑褐色 シート しまり。粒性やや弱い。底部帶石微量。大型。星宿?
5. HYR2/4 黑褐色 シート しまり弱い。粒性やや弱い。岩根ブロック多量。白層がサードと尾入。底部帶石少量。
6. HYR2/4 黑褐色 シート しまり。粒性やや弱い。岩根の底部微量。白層が気泡注入しているか?底部帶石少量。
7. HYR2/4 黑褐色 シート しまり。粒性やや弱い。岩根の底部微量。白層が気泡注入。白層底?
8. HYR2/4 粘質シートと岩根ブロックの混生。白層?
9. HYR2/3 黑褐色 シート 岩根が織りこまれる。じきりじきり。しまり弱い。粒性やや弱い。底部帶石微量。
10. HYR2/4 黑褐色 シート しまり。粒性やや弱い。白層 (径~2cm) 微量。
11. HYR2/1 黑褐色 シート (颗粒的)。下部 (径~5cm) 上部はない。
12. HYR2/4 粘質層 シート しまりやや弱い。粒性やや弱い。白層あり (X巣混入?)。底部浮石微量。
13. HYR2/2 黑褐色 シート 岩根層 (径~5cm) 岩根。
14. HYR2/2 黑褐色 シート しまりやや弱い。粒性やや弱い。底部浮石微量。
15. HYR2/2 黑褐色 シート しまりやや弱い。粒性やや弱い。
17. 岩根ブロック層。

第46図 土坑 (9)

〈遺物〉 土器（381～384：第86図、写真図版65）、石器（S-385：写真図版86）。

24号土坑（第47図、写真図版38）

〈位置・検出状況・重複〉 9P3bグリッド付近に位置する。IV層で、南部浮石を多く含む暗褐色の円形プランと、その周りにドーナツ状に黒褐色土が広がる範囲を検出した。平面形状から風倒木の可能性を考え、確認のためトレンチで掘り下げたところ、土坑であることが判明した。26号土坑と接しており平面・断面で切りあい関係を確認したが、両遺構とも上端がわずかに接する程度で、しかも覆土が非常に類似していたため（A-A'3層）判別不可能であった。また27号土坑も重複するが、本遺構北壁を掘り進めている際に検出しており、これも新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 開口部径2.41×2.21m、円形である。底面は平坦で、規模1.56×1.55m、VII層上面～Ⅷ層まで掘り込む。検出面からの深さは、A-A'付近で80cmである。壁は、下半が直立またはややオーバーハンプして立ち上がり、上半が外傾する。

〈堆積状況〉 通常、斜面の傾斜に合わせて南北方向に半裁することを基本としているが、最初に風倒木痕と考えたことと、26号土坑との切りあい関係を見るために、東西方向で堆積状況を確認した。覆土は東西両方からはいりこんでおり、西側は壁際にⅦ・Ⅷ層のブロックを含む暗褐色～黒褐色土が堆積してから中央へ向かって黒色土が流入する。東側はIV～V層相当の黒褐土を主体とする。

〈遺物〉 純文土器片が出土するが、小片のため図化していない。

25号土坑（第47図、写真図版38）

〈位置・検出状況・重複〉 9P3aグリッド付近に位置する。4号住居の壁を追って掘り進めていたところ、壁がさらに奥（北側）へ広がることから、土坑の重複を想定し新たにベルトを設定（A-A'）した。このため、4号住居との新旧関係は不明であるが、26号土坑よりは本遺構の方が古い。

〈規模・形状〉 重複遺構の掘込みが深かったため南半を消失する。残存する部分から推定した形状は円形、規模は1.80×1.48m以上である。底面は平坦で、規模1.32×1.04m以上、Ⅸ層まで掘り込む。検出面からの深さはA-A'ベルトの位置で80cmである。壁は、下半が直立またはオーバーハンプ気味に立ち上がり、上半が外傾する。

〈堆積状況〉 底面直上から下部は黒色土を主体とし、壁際にはこれに崩落土としてⅨ層ブロックが混入する。中部はⅨ層、上部は暗褐色土が主体となる。

〈遺物〉 2層より純文土器片が出土するが、小片のため図化していない。

26号土坑（第47図、写真図版38）

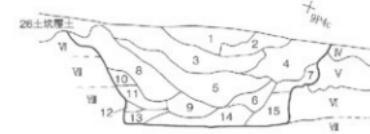
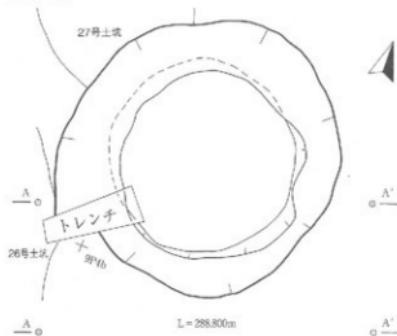
〈位置・検出状況・重複〉 9P4aグリッド付近に位置する。4号住居の範囲にベルトを残して床面まで掘り下げたところ、北壁がやや張り出し、本遺構を検出した。断面の堆積状況によると住居跡・25号土坑を切る。また、24号土坑ともわずかに接するが、新旧関係を判別することができなかった。

〈規模・形状〉 4号住と同時に掘り下げたため南半を消失する。ベルトとして残した範囲で推定すると、形状は梢円形、規模は1.50×1.24m以上である。底面はほぼ平坦、規模1.37×1.15m以上、Ⅸ層まで掘り込まれている。4号住居の床面の差はなく、検出面からの深さは58cm、壁は直立または外傾して立ち上がる。

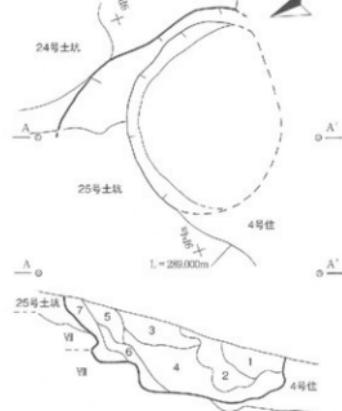
〈堆積状況〉 黒色～暗褐色土を主体とし斜面上方から覆土が流入する。

〈遺物〉 出土していない。

24号土坑



26号土坑



29号土坑 (A-A')

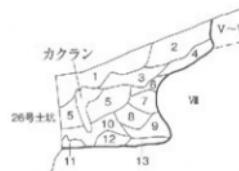
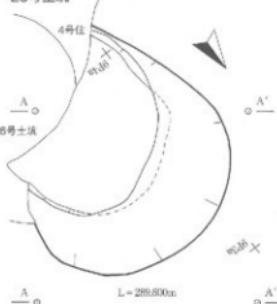
1. 10Y32/4 棕褐色 シルト しまり中、粒性やや弱い。表面浮石微量。もろい。
2. 10Y32/3 黄褐色 シルト しまり中、粒性やや弱い。中層次ブロック多量。表面浮石微量。
3. 10Y32/3 黄褐色 シルト しまり中、粒性やや弱い。中層次や多量。表面浮石微量。
4. 3層と見るややや強く、しまり弱い。
5. 10Y32/3 黄褐色 シルト しまりややある。粒性やや弱い。中層次ブロック多量。表面浮石微量。
6. 10Y32/3 黄褐色 シルト しまり弱い。粒性やや弱い。10Y23/4 棕褐色シルト多量。表面浮石微量。
7. 3層と見るが判明しない。

0 1 : 40 2m

24号土坑 (A-A')

1. 10Y32/4 棕褐色 シルト しまり中、粒性やや弱い。10Y23/4 黄褐色土多く含む。
2. 10Y32/3 黄褐色 シルト しまりやや強め。表面浮石微量。
3. 10Y23/2 黄褐色 シルト しまり、粒性やや弱い。表面浮石微量。
4. 10Y23/2 黄褐色 シルト しまり、粒性やや弱い。中層次ブロック多量。表面浮石微量。
5. 3層と見るがしまりとしてやや弱い。しまり弱い。
6. 2層に見るがしまり弱い。
7. 10Y23/3 黄褐色 シルト しまり弱い。粒性やや弱い。10Y23/4 黄褐色土がゼットで覆る。
8. 10Y23/3 黄褐色 シルト しまり、粒性やや弱い。10Y23/4 黄褐色土がゼットで覆る。
9. 3層と見るが、表面浮石の量は弱い。
10. 3層と見るが、表面浮石の量は弱い。表面浮石微量。
11. 3層と見るが、表面浮石の量は弱い。表面浮石微量。
12. 黄褐色土。しまりやや弱い。中層次ブロック多量。表面浮石微量。
13. 13層と同様。
14. 6層と見るが中層次浮石が多く、粒性弱い。
15. 10Y23/2 黄褐色 シルト で複数ブロックの底。しまり、粒性やや弱い。表面浮石微量。

25号土坑



25号土坑 (A-A')

1. 10Y32/4 棕褐色 シルト しまり中、粒性やや弱い。表面浮石微量。
2. 10Y32/3 黄褐色 シルト しまり中、粒性やや弱い。表面浮石微量。
3. 10Y23/4 黄褐色シルト含む。しまり弱い。
4. 10Y23/4 棕褐色 シルト しまり。粒性やや弱い。V層ブロック含む。
5. 10Y23/5 黄褐色シルトや多量。表面浮石少量。
6. 10Y23/5 黄褐色シルトのシルトが入ることの理由はやからかい。本筋か?
6. 10Y23/6 黄褐色 シルト しまり。表面浮石少。ややらかくしまり弱い。粒性やや弱い。
7. 10Y23/4 棕褐色土と10Y23/4 黄褐色土の混じ。ボヤーっと感じる。しまり弱い。粒性やや弱い。表面浮石微量。
8. 10Y23/3 黄褐色土と10Y23/2 黄褐色土の混じ。しまり弱い。表面浮石少。ややらかくしまり弱い。粒性やや弱い。
9. 10Y23/4 棕褐色土と10Y23/4 黄褐色土と10Y23/5 黄褐色土が混じにならぶ。表面浮石で埋められていねる。
10. 10Y22/1 黄褐色 シルト しまり弱い。粒性やや弱い。表面浮石少。
11. 10Y22/1 黄褐色土と10Y23/4 棕褐色土の混じ。しまりややあり。粒性やや弱い。表面浮石微量。
12. 10Y22/1 黄褐色土と10Y23/4 棕褐色土の混じ。しまりややあり。粒性やや弱い。表面浮石微量。
13. 10Y26/8 黄褐色 シルト やや弱い。表面浮石少。しまり弱い。粒性やや弱い。

第47図 土坑 (10)

27号土坑（第48図、写真図版39）

〈位置・検出状況・重複〉 10P 1 d グリッド付近に位置する。24号土坑壁に本遺構を検出した。そのため新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 開口部径1.24×1.17m、円形である。底面は平坦で、規模は0.98×0.92m、Ⅶ層まで掘り込む。検出面からの深さは62cm、壁は直立またはややオーバーハングして立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒色～暗褐色土を主体とする。南側の覆土を消失するが、北側斜面上方から堆積していると思われる。

〈遺物〉 3層中より繩文土器が出土するが、小片のため図化していない。

28号土坑（第48図、写真図版39）

〈位置・検出状況・重複〉 10Q 2 a グリッド付近に位置する。V層で黒色土の抜がりを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 開口部径1.67×1.65m、円形である。底面は平坦で、規模1.37×1.35m、VI c ~ VII層まで掘り込む。検出面からの深さは66cmである。壁は直立またはやや外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 壁際にはVI層崩落土（6層）、全体は黒～黒褐色土を主体とする。底面には炭化物を含む。

〈遺物〉 出土していない。

29号土坑（第48図、写真図版39）

〈位置・検出状況・重複〉 10P 1 d グリッド付近に位置する。V層面で斜面の傾斜に沿って南北にサブトレンチを数本あけたところ本遺構を確認した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 開口部径1.30×1.12m、円形である。底面はやや浅皿状に窪み、規模0.96×0.88m、Ⅶ層上面まで掘り込む。検出面からの深さは62cmである。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 南壁際にはVI層崩落土を含む以外は黒色土の単層である。

〈遺物〉 出土していない。

30号土坑（第49図、写真図版39）

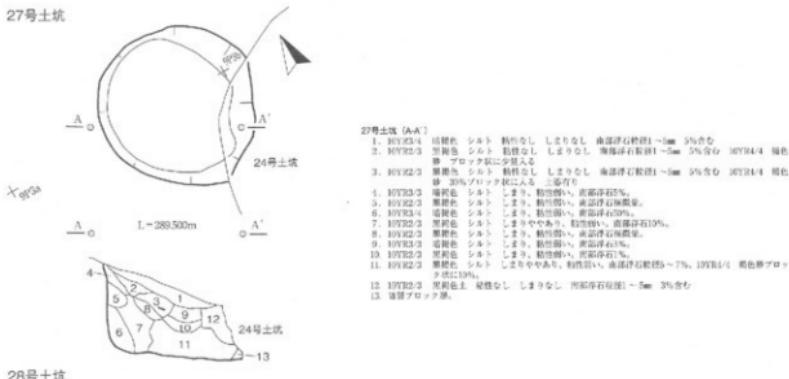
〈位置・検出状況・重複〉 9 R 4 a グリッド付近に位置する。試掘トレンチをⅧ層上面まで掘り下げたところ黒色土の半円状のプランを確認した。7号住居跡と重複しており、住居跡のはうが新しい。

〈規模・形状〉 トレントおよび住居により上部の大半を消失する。残存部から推定される形状は橢円形、規模は1.58×1.10m以上である。底面は円形プランが南北に二つ並んでいる。覆土の堆積状況をみると2基が重複している可能性が高い。この場合新旧関係は北側のはうが新しい。底面の規模は、北側が0.62×0.57m、南側は0.39×0.15m以上である。两者ともⅧ層中まで掘り込まれており、北側のはうが深い。覆土が残る（住居床面からの）深さは北側54cm、南側60cmとなる。壁は下半が直立、上半が外傾して立ち上がる。

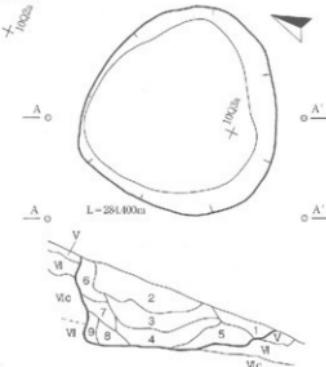
〈堆積状況〉 1～4層が北側、5・6層が南側の土坑覆土を思われる。すべて黒色土を主体とし、南部浮石粒の混入量で分層される。覆土下部ほど黒味が強く混入物の量が少なくなる。2層以外VI c ~ VII層の壁崩落土が堆積しておらず人為堆積の可能性がある。

〈遺物〉 北側の土坑、北壁際底面より繩文土器片が出土するが、小片のため図化していない。

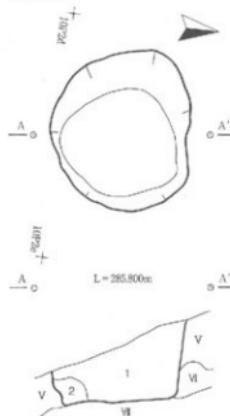
27号土坑



28号土坑



29号土坑



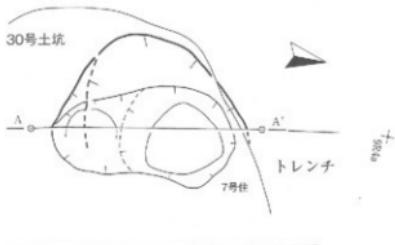
29号土産【A-A】

1. IOT323 黒毛豚 シルト しまりやや苦い。YUプロック少食。シヤリヤン。
2. IOT318 黒毛豚 ハム さじ1杯。堅軟やや苦い。YUプロック厚くはいる。
3. 2に於いてハムを多く南高梅味に仕上げる。
4. 焼きそとし。1.2.3に於いてハムを多く南高梅味に仕上げる。
5. IOT325 黒毛豚 シルト しまりやや苦い。始めやや苦い。IOT325 黒毛豚色。
6. V. 食べ易い。シルトを多く用ひ、南高梅味に仕上げる。
7. IOT323 黒毛豚シルトとVUPプロックの合せ。しまりやや苦い。西京豚肩肉味。
8. IOT323 黒毛豚 シルト しまりやや苦い。和風味。煮込み。西京豚肩肉味。
9. IOT323 黒毛豚 シルト しまりやや苦い。和風味。煮込み。西京豚肩肉味。

29号土坡(ア-ア')
 1. 10Y22/1 黒色 シルト しまり中。粘性やや弱い。南部浮石層。北側
 面やや風化重じる。
 2. 10Y22/1 黒色 シルト しまり中。粘性やや弱い。10Y35/6 黄褐色シ
 ルト#Hゲット。少量。南部浮石層。

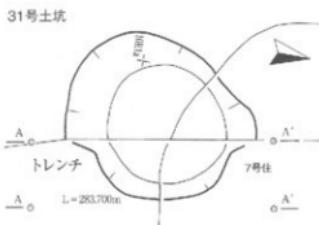
0 1 : 40 2m

第48図 土坑(11)



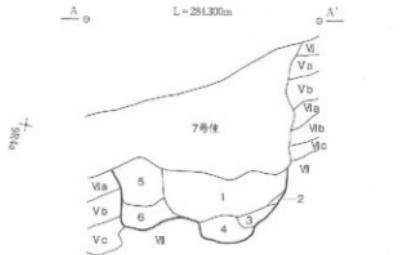
30号土壤(A-A')

1. 10YR2/1 黒色 シルト しまり中、粘性やや高い。鈍角準心石巻。2号佐ルル'6
高より少ない。
 2. 錆色粗砂土。
 3. 「薄にあらがる鈍角準心石多く、しまり弱い。」
 4. 10YR2/1 黒色 シルト 鈍角準心石微量のときはない層。しまり、粘性やや弱
い。
 5. 2号佐ルル'6に似るが、やや明るく、鈍角準心石多い。しまり中。
 6. 2号佐ルル'6、明るくやや弱い。

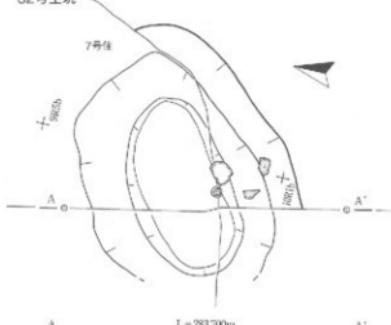


31号土壤 (A₁-A₂)

1. 「丁度 A 2歳」といふ。
2. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
3. MY213 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
4. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
5. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
6. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
7. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
8. MY215 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。
9. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
10. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
11. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
12. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。
13. MY212 黒毛 ショット しまりやあり、前脚や弱い。南洋部石少重。



32号+值



2 - 2000 FORM



- 32号球（A'）

 - 1. HUE721 黒地 ショット 7号目左端3'に球。左側壁に球。
 - 2. HUE721 黒地 ショット 7号目左端3'に球。左側壁に球。
 - 3. HUE721 黒地 ショット しまりあり。軽めや軽い。直進浮石面壁。
 - 4. HUE721 黒地 ショット しまりあり。軽めや軽い。直進浮石面壁。
 - 5. 地面に落石が多い。
 - 6. 地面に落石が多い。
 - 7. HUE721 褐地ショット しまりあり。軽めや軽い。右斜面倒壁。右斜面倒壁やや多落。
 - 8. HUE721 褐地 ショット しまりあり。軽めや軽い。右斜面倒壁。
 - 9. HUE721 褐地 ショット しまりあり。軽めや軽い。右斜面倒壁。
 - 10. HUE721 黒地 ショット しまりあり。軽めや軽い。右斜面倒壁。
 - 11. HUE721 黒地 ショット しまりあり。軽めや軽い。右斜面倒壁。
 - 12. HUE721 黒地 ショット しまりあり。軽めや軽い。右斜面倒壁。

0 1 : 40 2m

第49図 土坑 (12)

31号土坑（第49図、写真図版40）

〈位置・検出状況・重複〉 9 R 5 a グリッド付近に位置する。30号土坑同様、試掘トレンチ内のⅦ層上面で黒色土の半円状プランを検出した。7号住居跡と重複しており、住居跡のほうが新しい。

また、32号土坑とも接するが、重複箇所をトレンチで掘り下げてしまつたため新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 トレンチにより東半の上部を消失する。残存部から判断する形狀は円形、規模は1.58 × 1.35m以上である。底面は平坦で、規模0.97 × 0.97m、Ⅶ層まで掘り込む。覆土の深さは最大120cmである。壁は、下半が直立、上半が外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒色土を主体とするが、上部（1～5層）と下部（6～13層）で様相が異なる。下部は南部浮石粒の混入量が非常に少なく、壁際に黒味の強い層を挟みながら堆積する。VI c・Ⅶ層相当の壁崩落土は8層のみである。これに対して上部は南部浮石粒の量が多くなり（VI層とほぼ同じくらいの割合）、中摺火山灰を混入するためやや茶味を帯びる。堆積状況から上下で別造構の重複とも考えられるが、平面形でそれを確認することはできなかった。

〈遺物〉 7号住居との重複部でS-279が出土している（第111図、写真図版81）。

32号土坑（第49図、写真図版40）

〈位置・検出状況・重複〉 9 R 5 a グリッド付近に位置する。試掘トレンチ内をⅦ層上面まで下げたところ、黒色土の半円状プランを検出した。7号住居と重複しておりこれに切られるが、31号土坑との新旧関係は把握できなかった。

〈規模・形状〉 上部の大半を住居跡およびトレンチにより消失する。残存部から判断される形狀は梢円形、開口部規模は2.26 × 1.68m以上である。底面は平坦で、規模1.38 × 0.62m、Ⅸ層まで掘り込む。覆土の堆積する深さは150cm程度である。壁は底面から20～30cm程度直立し、その後段をもちらがら外傾する。

〈堆積状況〉 底面直上に黒色土と南部浮石粒の混上層（11層）、そして壁（VI c・Ⅶ層）崩落土が堆積する（7・10層）。これより上位（1～9層）は黒色土を主体とし、南部浮石粒・中摺火山灰粒の混入量により分層される。

〈遺物〉 覆土上部より縄文土器が出土しているが、小片のため図化していない。

33号土坑（第50図、写真図版40）

〈位置・検出状況・重複〉 12M 2 e グリッド付近に位置する。15号住居壁で黒色土の掘込みを検出し、これと重複するが新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 西半は住居跡を先に掘り下げてしまい確認できていない。南北1.88m、東西0.74m残存し、おおむね円形と推定される。底面は、やや丸味を帯びるが平坦で、規模0.58 × 0.46m以上、Ⅷ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大80cmである。壁は底面から45cm程度、Ⅷ層を壁とする範囲はオーバーハングし、それより上は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒褐色～黒色土を主体とする。残存部分は壁崩落土を含みながら東側斜面上方から土が流入している。

〈遺物〉 土器（385・386：第86図、写真図版65）。

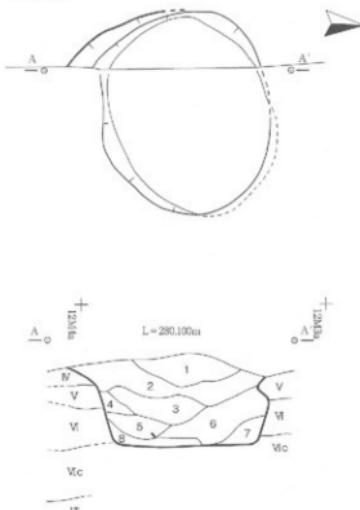
34号土坑（第50図、写真図版40）

〈位置・検出状況・重複〉 12L 3 e グリッド付近に位置する。V層上面での検出を行うためにIV層を

33号土坑



34号土坑



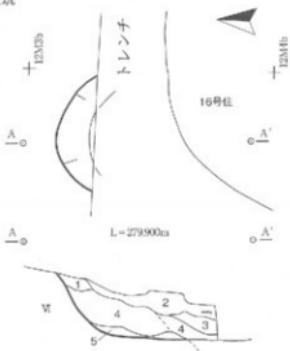
33号土坑 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中、粒性やや弱い。V帶無合体、底部浮石微量。
2. 10YR2/1 黒色 シルト しまり、粒性やや弱い。V帶及全系、南部浮石微量。
3. 10YR2/1 黒色 シルト しまり、粒性やや弱い。V帶及全系、南部浮石微量。
4. 10YR2/1 黑色 シルト しまり、粒性やや弱い。Vc帯及び多量、南部浮石微量。
5. 3層にわたるしまり弱い。
6. 10YR2/1 黒色 シルト V帶無合体、底部浮石少量。

34号土坑 (A-A')

1. 10YR2/2 黒色 シルト しまり中、粒性やや弱い。V帶無合体に含む。
2. 10YR2/1 黒色 シルト しまりよりも弱く、粒性強い。V帶無合体、少し底部には漂石ある。
3. 10YR2/1 黑色 シルト しまり、粒性やや弱い。V帶には自己背後の所産漂石たまる。
4. 10YR2/1 黑色 シルト しまり、V帶無合体に少量。小塊状ブロック状の漂石、既存は全体に含む。
5. 10YR2/1 黑色 シルト しまり、粒性やや弱い。小塊状ブロック全系に漂石に含む。堆積物中に漂石含む。
6. 5層にわたるしまり弱い。
7. 10YR2/1 黑色 シルト しまりやや弱い。粒性中、底部浮石、灰化物微量見。V帶漂石なし?
8. 10YR2/1 黑色 シルト 7層にわたるがやや黒進度。

35号土坑



36号土坑 (A-A')

1. 10YR2/2 黑色 シルト しまり中、粒性やや弱い。V帶無合体、V帶漂石微量。
2. 10YR2/1 黑色 シルト しまり強、しまり中、粒性やや弱い。V帶無合体、南部浮石微量。
3. 10YR2/1 黑色 シルト しまり中、粒性やや弱い。V帶無合体弱かく、V帶漂石微量。
4. 3層と先端が自己背後浮石微量。
5. 10YR2/1 黑色 シルト しまり中、粒性やや弱い。10YR2/2 黑色漂色少少量、底部浮石微量。

0 1 : 40 2m

第50図 土坑 (13)

掘り下げていたところ、遺物が多く出土する範囲が認められた。しかし、V層上面でその遺構のプランを把握できなかったため、南北方向にV層下面までサブトレーンチをいた。そのV層の中揮火山灰層を切る黒色土の立ち上がりが認められ土坑と判断した。本遺構調査後に20号住居との重複が判明したため、新旧関係は不明である。しかし住居跡で述べたように、本遺構1・2層が住居、3層以下が土坑覆土の可能性がある。

〈規模・形状〉開口部径1.65×1.58m、おおむね円形である。底面は平坦で、規模は1.63×1.25mとやや東西に長い。検出面からの深さは最大75cm、VI c層まで掘り込む。壁は、底面からVI層上面まではオーバーハングし、V層付近では直立、それより上は外傾して立ちあがる。

〈堆積状況〉黒色土を主体とする。5層以下は中揮粒の混入量が少なく黒味が多く、1・2層は逆に多いために明るい。4層は壁のV層が崩落したものと思われる。上述のとおり、20号住居が新しい場合は床面の高さから推定すると1・2層が住居覆土となる。

〈遺物〉土器（387～396：第86図、写真図版65）、石器・石製品（S-65・66・85・86・264・310・394・430：第106・112・118図、写真図版79・82・87）。他の土坑にくらべ全体的に出土量が多く、とくに覆土上部（住居帰属の可能性あり）と5層に目立つ。

35号土坑（第50図、写真図版41）

〈位置・検出状況・重複〉12M 3 a グリッド付近に位置する。16号住居のプランを把握するために掘り下げていったところ、住居北側に本土坑を検出した。新旧関係は確認できなかった。1号配石の包含層（f層）は本遺構を切っている。

〈規模・形状〉北側のみ残存し、これ以外は住居範囲確認時に掘り下げ消失する。残存部は南北1.06m、東西0.95mでおおむね円形と推定される。底面は平坦で直径70cm程度残存する。検出面からの深さは最大40cm程度、VI c層まで掘り込む。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉黒色土を主体とする。2層が1号配石f層と考えられ、それ以下が遺構覆土となる。前述のように16号住が新しいとすると、3層と4層南側（破線より南）は住居覆土と考えられるが、4層中の分層は行えていない。

〈遺物〉土器（397～399：第86図、写真図版65）、石器（S-087）。土器は1号配石・16号住居に帰属する可能性がある。

36号土坑（第51図、写真図版41）

〈位置・検出状況・重複〉12M 3 b グリッド付近に位置する。16号住居床面で黒色土の広がりを検出した。1号配石、15・16号住居と重複し、これらすべての遺構より本遺構のほうが古い。

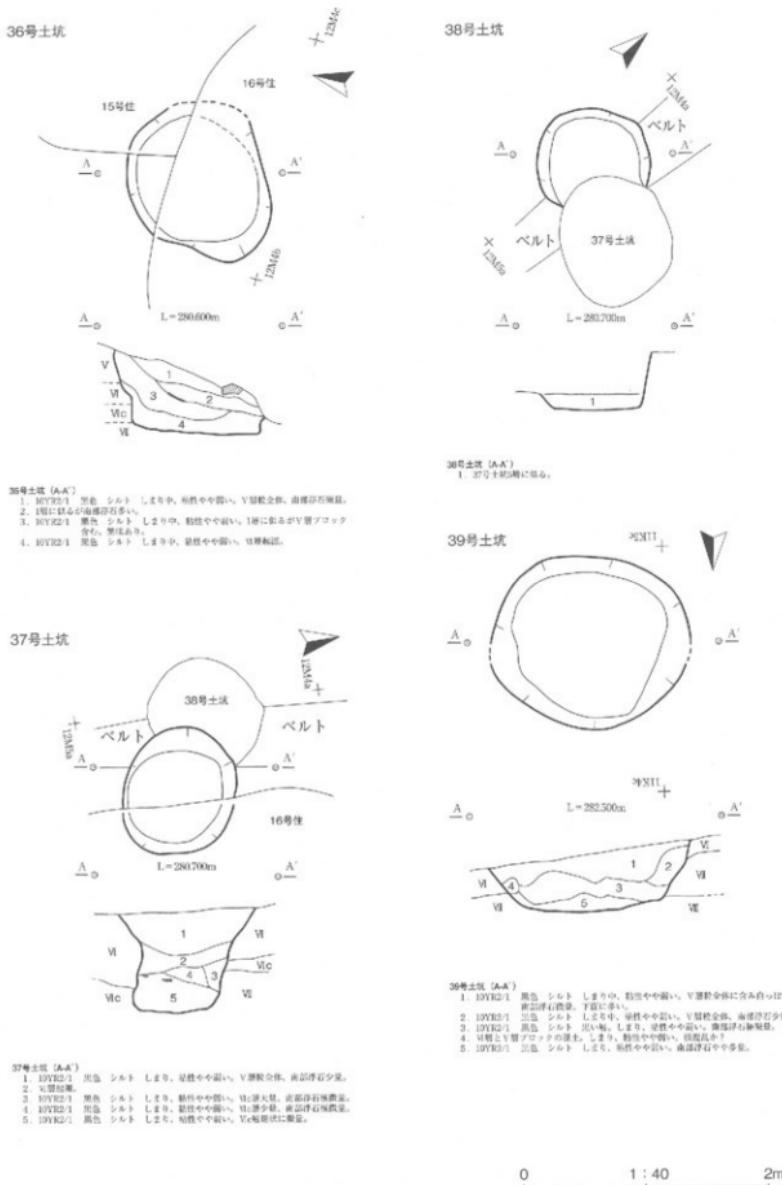
〈規模・形状〉1.24×1.09m、やや不正な円形である。底面は平坦で1.04×0.96m、V層まで掘り込む。検出面からの深さは最大58cm、壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉本遺構覆土は3・4層で、黒色土を主体とし、中揮ブロックを上部に含み下部には含まない。2層は16号住居1層、1層は包含層f層に相当すると思われる。

〈遺物〉土器（400・401：第86図、写真図版65）。16号住居との重複部包含層にてS-134が出土している。

37号土坑（第51図、写真図版41）

〈位置・検出状況・重複〉12M 4 a グリッド付近に位置する。16号住居範囲の確認のため、サブトレ



第51図 土坑 (14)

ンチを入れたところ、本遺構の掘込みを確認した。調査途中に38号土坑と重複していることが判明したが、新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉開口部径1.08×0.91m、やや東西に長い円形である。底面は平坦で0.73×0.72m、VI c層からVII層まで掘り込む。検出面からの深さは82cmである。壁下部は直立、上部は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉黒色土を主体とする。下部（3～5層）はVI c層ブロックを混入し、その上（2層）はVI層、さらにこれに中振粒を含む層（1層）が堆積する。

〈遺物〉土器（402・403：第86図、写真図版65）。

38号土坑（第51図、写真図版41）

〈位置・検出状況・重複〉12M 4 a グリッド付近に位置する。土層観察用のベルトを挟み、東側に37号土坑、西側に本遺構が位置する。これらを同一の遺構と判断し、ベルトを除去し掘り進めていったが、壁の形状から2基が重複していることが判明した。そのため新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉開口部径南北0.94m、東西0.84m以上、円形と推定される。底面は平坦で、南北0.68m、東西は0.74m残存する。VI c層まで掘り込んでおり、検出面からの深さは最大45cm程度である。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉上記のような検出状況から堆積状況の記録はとれていないが、調査時の観察から37号土坑の底面直上層（5層）に類似していた。

〈遺物〉出土していない。

39号土坑（第51図、写真図版41）

〈位置・検出状況・重複〉11K 4 c グリッド付近に位置する。VI層で検出したところ周囲より黒味の強い円形の範囲が認められた。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉開口部径1.64×1.40m、やや東西に長いがほぼ円形である。底面は1.28×1.17m、中央が最も深く壁際が浅く丸味を帯びる。検出面からの深さは最大47cm、VII～IX層まで掘り込む。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉黒色土を主体とする。底面直上の南部浮石を多く含む層（5層）、その上にVI層起源の黒味の強い層（3層）、さらにIV～V層起源の中振火山灰を含む層（1・2層）が堆積している。

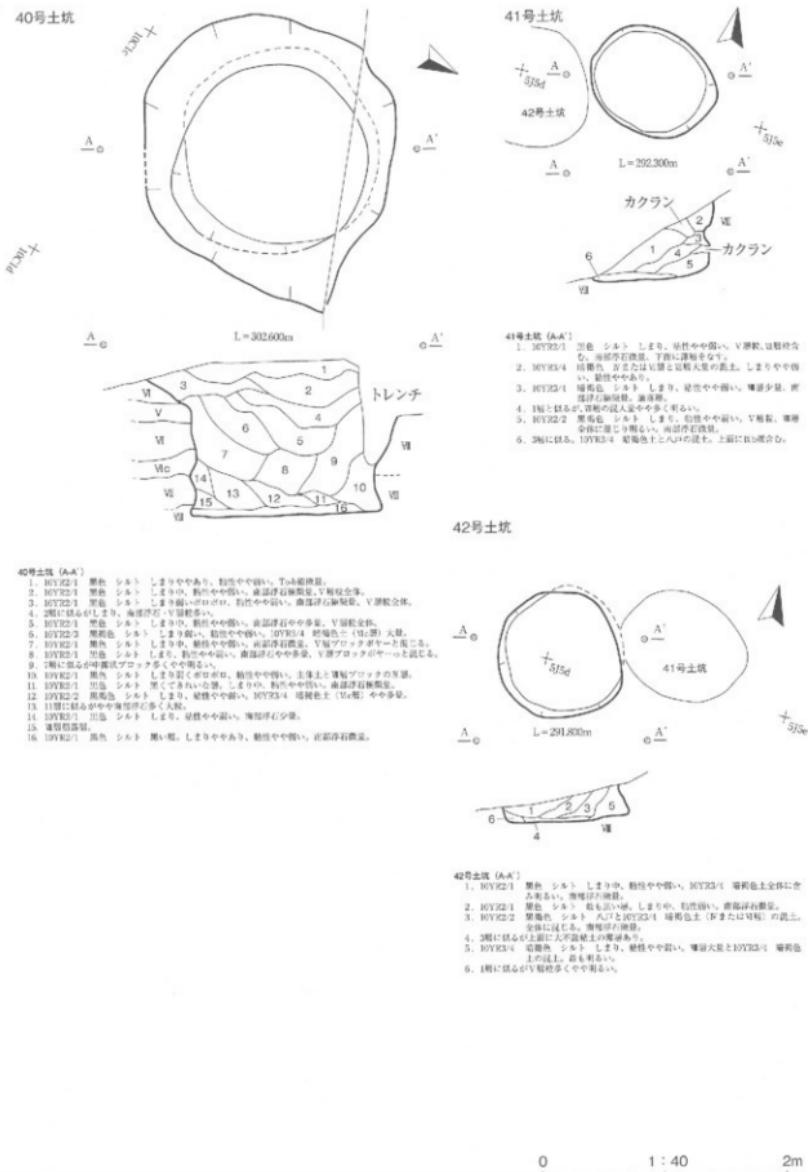
〈遺物〉出土していない。

40号土坑（第52図、写真図版42）

〈位置・検出状況・重複〉9 C 5 c グリッド付近に位置する。試掘トレンチ内、VII層で黒色の掘込みが確認された（遺構北端）。そのため南側をIV層で検出したところ、十和田b降下火山灰を含む円形の範囲が認められたため土坑と判断した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉開口部径2.03×2.08m、円形である。底面は平坦で、規模1.66×1.60m、VII層まで掘り込む。検出面からの深さは最大126cmである。壁は底面から30cm程度（VII層壁部分）までオーバーハングして、それより上位（VII層壁より上）は直立または外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉黒色土を主体とする。底面には混入物が少なく黒味の強い層（16層）が堆積し、壁からⅧ層が崩落する（10・15層）。それより上位は11～14層がVI層起源の黒色土もしくはVI c層起源の暗褐色土、2～8層はIV～VI層起源の黒色土、1層には十和田b降下火山灰が含まれておりおおむね壁崩落や周囲からの土が流入して堆積したものと判断される。一方6層はVI c層を主体としており、通



第52回 土抗 (15)

常であれば自然に土坑内にはいる土ではなく人為堆積の可能性がある。しかし、周囲には風倒木が非常に多く天地返しが多く見受けられ、この土が入った場合も考えられるため断定できない。

〈遺物〉 出土していない。

41号土坑（第52図、写真図版42）

〈位置・検出状況・重複〉 5 J 4 d グリッド付近に位置する。Ⅶ層で円形の黒色土の広がりを検出した。42号土坑と近接している。

〈規模・形状〉 開口部径1.00×0.85m、やや東西に長いがおおむね円形である。底面は平坦で、規模0.88×0.76m、検出面からの深さは最大48cmである。Ⅶ層を掘り込んでおり、底面はⅤ層との漸移層付近にまで達する。壁は若干オーバーハングして立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒色～暗褐色土を主体とする。底面にⅦ層ブロックと暗褐色土の混土（6層）が堆積し、その後壁崩落上を含みながら西側斜面上方から土が流入している（1～5層）。

〈遺物〉 出土していない。

42号土坑（第52図、写真図版42）

〈位置・検出状況・重複〉 5 J 5 d グリッド付近に位置する。Ⅶ層で円形の黒色土の広がりを検出した。41号土坑と近接している。

〈規模・形状〉 開口部直径1.04mの円形である。底面は平坦で、規模1.00×0.98m、検出面からの深さは最大23cmである。Ⅶ層まで掘り込んでおり、壁は袋状にオーバーハングして立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒褐色～暗褐色土を主体とする。壁崩落土を含みながら西斜面上方から土が流入しており（1～3・5層）、自然堆積と推定される。

〈遺物〉 土器（404・405：第86図、写真図版65）。

43号土坑（第53図、写真図版42）

〈位置・検出状況・重複〉 5 J 4 b グリッド付近に位置する。VI c 層で円形の黒色土の広がりを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 開口部径1.60×1.26mの円形である。底面は平坦で、規模1.33×1.10m、検出面からの深さは最大36cmである。Ⅶ層まで掘り込んでおり、壁はやや外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒色～暗褐色土を主体とする。底面に黒味の強い層（6層）が堆積し、その後壁崩落を伴いながら西斜面上方より土が流入している（1～4層）。

〈遺物〉 出土していない。

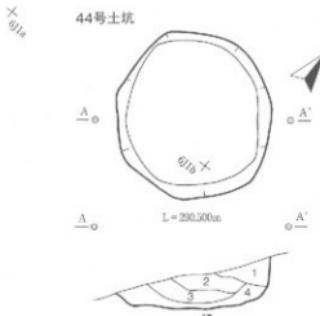
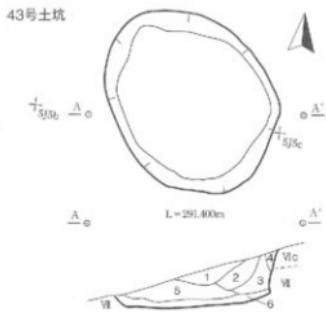
44号土坑（第53図、写真図版43）

〈位置・検出状況・重複〉 5 J 5 a グリッド付近に位置する。Ⅶ層で黒色土の広がりを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 開口部径1.32×1.25mの円形である。底面は平坦で、規模1.14×1.08m、検出面からの深さは最大30cmである。Ⅶ層まで掘りこんでおり、壁はやや外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒褐色～暗褐色土を主体とする。底面に黒味の強い層（4層）、その上位に暗褐色土と黒褐色土の混土（2・3層）、壁崩落層（1層）が堆積する。

〈遺物〉 出土していない。



43号土坑 (A-A')

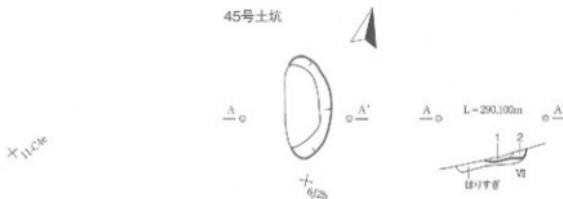
1. 19Y32/1 黒色 シルト 最も深い層。しまり中、粘性や少ないと想定。V層ブロック少量。
2. 19Y32/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性や少ないと。V層ブロック少量。
3. 19Y32/3 黒色 シルト しまり中。粘性や少ないと。19Y32/1 黒褐色土 (重複?) 少量。油膜浮石少量。
4. 19Y32/4 黒褐色 シルトと当層浮石混多量との乱れ しまり、粘性や少ないと。崩落層。
5. 19Y32/5 黒褐色 シルトと崩落ブロック全体に崩れに含む。
6. 1層に於る。

44号土坑 (A-A')

1. 19Y32/1 黒褐色シルトと崩落ブロック多量の乱れ上。しまり、粘性少ないと。
2. 19Y32/2 黒褐色シルトと崩落ブロック少量。19Y32/1 黒褐色土 (重複?) 少量。油膜浮石微量。
3. 19Y32/3 黒褐色 シルト しまり中。粘性や少ないと。19Y32/4 黒褐色土表面に全量。油膜浮石微量。
4. 19号土坑6mに於る。

 $\frac{1}{2} \text{m}$

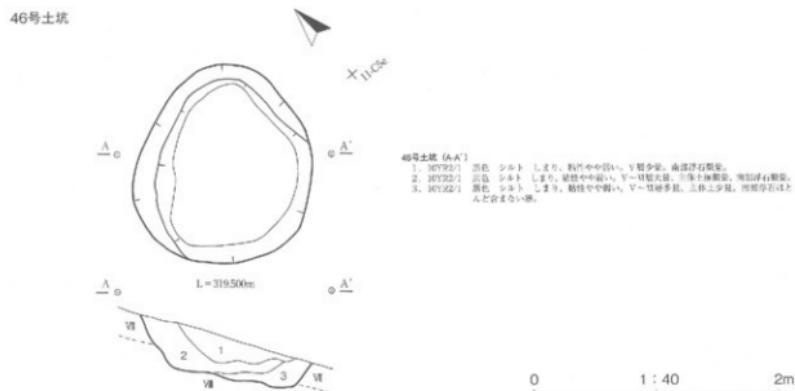
45号土坑



45号土坑 (A-A')

1. 44号土坑(右)に、V層ブロック少量。
2. 44号土坑(左)。

はりすぎ



0 1 : 40 2m

第53図 土坑 (16)

45号土坑（第53図、写真図版43）

〈位置・検出状況・重複〉 6 J 1 a グリッド付近に位置する。VI c 層で黒色土の広がりを検出した。
 〈規模・形状〉 VI c 層まで掘り下げ検出したため、造構の大半を消失する。南北0.82m、東西0.38m
 残存しており、円形と推定される。底面は平坦で $0.66 \times 0.28\text{m}$ 残存、Ⅶ層まで掘り込んでおり、検出
 面からの深さは最大6cmである。壁はわずかに外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。43・44号土坑底面の覆土とよく似る。

〈遺物〉 出土していない。

46号土坑（第53図、写真図版43）

〈位置・検出状況・重複〉 11-C 4 d グリッド付近に位置する。VII層で検出し、重複する造構はない。
 〈規模・形状〉 開口部径 $1.62 \times 1.43\text{m}$ の円形である。底面はやや凹凸があり、規模 $1.33 \times 1.02\text{m}$ 、Ⅷ層
 上面まで掘り込む。検出面からの深さは最大38cmである。壁は外傾して立ち上がる。
 〈堆積状況〉 下部はV～VI層起源の暗褐色土、上部は黒色土を多く含み斜面上方から堆積する。

〈遺物〉 純文土器が出土しているが小片のため図化していない。

47号土坑（第54図、写真図版43）

〈位置・検出状況・重複〉 12-C 1 c グリッド付近に位置する。V層で検出し、重複する造構はない。
 〈規模・形状〉 開口部径 $1.50 \times 1.15\text{m}$ 、やや楕円形となる。底面は平坦で、規模 $1.02 \times 0.71\text{m}$ 、Ⅸ層ま
 で掘り込む。検出面からの深さは最大60cmである。壁は斜面上方の下部がオーバーハングし、それ以
 外は外傾して立ち上がる。
 〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。壁崩落上（3・5層）を挟みながら斜面上方から堆積する。

〈遺物〉 土器（406：第86図、写真図版65）。

48号土坑（第54図、写真図版44）

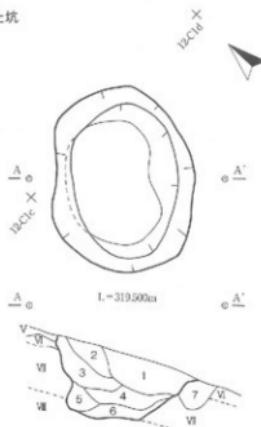
〈位置・検出状況・重複〉 13-C 1 e グリッド付近に位置する。試掘トレント壁で黒色土の掘込み確
 認し土坑と判断した。本來の検出面はV層、重複する造構はない。
 〈規模・形状〉 南西側上部を消失しており、残存する規模は $2.03 \times 1.82\text{m}$ 、円形である。底面は平坦で、
 規模 $1.37 \times 1.30\text{m}$ 、Ⅹ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大88cmである。壁は、下部が直立もしくは
 オーバーハングし、上部が外傾して立ち上がる。
 〈堆積状況〉 黒色～黒褐色土を主体とする。壁際はⅦ・Ⅸ層の崩落上（8・9層）が堆積し、斜面上
 方からは主体土の混入量により色調の違う土が流入する。

〈遺物〉 出土していない。

49号土坑（第54図、写真図版44）

〈位置・検出状況・重複〉 13-B 1 a グリッド付近に位置する。VI層で検出し、重複する造構はない。
 〈規模・形状〉 開口部径 $1.63 \times 1.46\text{m}$ の円形である。底面はやや丸みを帯び、規模 $1.43 \times 1.30\text{m}$ 、VI c
 層まで掘り込む。検出面からの深さは63cmである。壁は斜面上方下部がオーバーハングし、これ以外
 は外傾して立ち上がる。
 〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。V・VI層を混入しながら斜面上方から堆積している。
 〈遺物〉 出土していない。

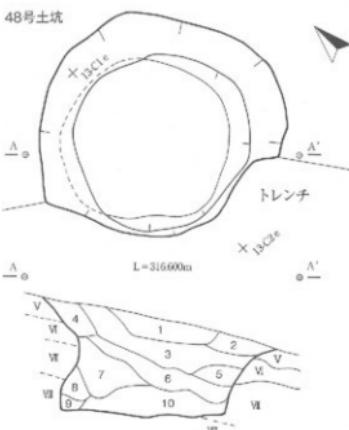
47号土坑



47号土坑 [A-A']

1. 10Y32/1 黒色 シルト しまり、粘性や少ないと。V層付、底部
浮石漂出。
2. 10Y32/1 黑色 シルト少し。V層全体に含む。
3. V層粘土層、海浜泥灰層。
4. 10Y32/1 黑色 シルト。V層上部。
5. 海浜浮石層底。10Y32/1 黑色土層(厚~5m)に混在。L±
り高い。
6. 10Y32/1 黑色シルトとV一Ⅶ層の上に。しまり、粘性や少い。
海浜泥灰層。
7. V一Ⅶ層と海浜泥灰の上に。本底?

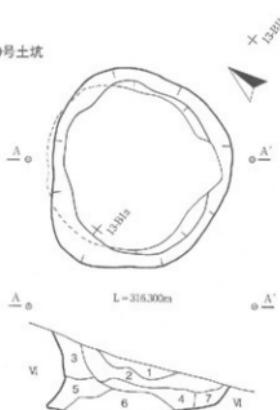
48号土坑



48号土坑 [A-A']

1. 10Y32/1 黒色 シルト。しまり中。粘性や少い。V層全体に細かく少び混じる。海
浜浮石層底。
2. 10Y32/1 黒色一V層、10Y32/1 黑色土層(V層上部を除く)が塊状に全体に混じる。
しまり中。粘性や少い。
3. 10Y32/3 黑色土層。
4. 10Y32/3 黑色土層。
5. 10Y32/1 黑色 シルト。しまり中。粘性や少い。10Y32/3 黑色土層全体に少
量混じる。
6. 10Y32/3 黑色土層。
7. 10Y32/3 黑色 シルト。地層土をしまりあり。10Y32/3 黑色土層多量のヤードを
含む。
8. 浮石漂石と10Y32/3 結合部分の漂石層。しまり高い。
9. 漂石漂石層。しまり高い。
10. 10Y32/1 黑色 シルト。しまり中。粘性や少い。海浜泥灰層。

49号土坑



- 49号土坑 [A-A']
1. 10Y32/1 黒色 シルト しまり、粘性や少い。2層より高い。V層底。浮石漂石層底。
 2. 10Y32/1 黒色 シルト。しまり。粘性や少い。V層全体に少々多く、海浜泥灰層底。
 3. 10Y32/1 黒色 シルト しまり中。粘性や少い。V層底。浮石漂石層(10Y32/3 浮石層)との接続。海
浜泥灰層底。
 4. 10Y32/1 黒色 シルト しまり。V層多くなる。海浜泥灰層底。
 5. 10Y32/1 黒色 シルト しまり。粘性や少い。V層底から(厚~2m)地盤に全体に混じる。底部浮石層底。
 6. 10Y32/1 黒色 シルト しまり。粘性や少い。V層底。浮石漂石層(10Y32/3 浮石層)と同じ。海浜泥灰
層底。
 7. 10Y32/3 黑褐色 シルト しまり、粘性や少い。M層と漂石に混じる。

0 1 : 40 2m

第54図 土坑 (17)

50号土坑（第55図、写真図版44）

〈位置・検出状況・重複〉 13-B 2 a グリッド付近に位置する。VI層面で検出した。重複する遺構はないが、南西側が風倒木と重なっており、新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 開口部径1.90×1.89mの円形である。底面は平坦で、規模1.62×1.61m、VII～IX層まで掘り込む。検出面からの深さは120cmである。壁は底面から下部にかけてオーバーハングまたは直立し、上部は外傾して立ち上がる。底面中央には直径22cm、深さ7cmの小穴が設けられている。

〈堆積状況〉 底面に最も黒い黒色土が堆積（I3層）、VI層とゴロタの混土（12層）がこれを覆う。さらに壁崩落（2・3・5・7～10層）を伴いながら、黒～黒褐色土が堆積する（1・4・6層）。12層は南部浮石を大量に含み、自然堆積とは考えにくいが、風倒木の影響を受けている可能性もあり、判断できなかった。

〈遺物〉 出土していない。

51号土坑（第55図、写真図版44）

〈位置・検出状況・重複〉 13-B 4 a グリッド付近に位置する。試掘トレンチ内の南部浮石層で黒色土の広がりを確認した。トレンチ壁で検出面を観察したところ、VI層まで立ち上がりを確認したが、それより上位層でははっきりしなかった。重複する遺構はないが、北東部が風倒木と接しており、これとの新旧関係ははっきりしなかった。

〈規模・形状〉 上部の大半をトレンチにより消失する。残存する規模は2.08×1.78m、円形である。底面は平坦で、規模2.16×2.20m、VII～IX層まで掘り込む。検出面からの深さは最大100cmである。壁は、底面から大きくオーバーハングしてから直立し、上部は外傾して立ち上がる。底面中央には直径32cm、深さ12cmの小穴が設けられている。

〈堆積状況〉 斜面上方はVII～IX層壁崩落上、下部の黒色土は炭片を多く含む。全体は黒色～黒褐色土（VI c層）を主体とし、V層や南部浮石の混入量により分層され、中心部は黒味が強い。

〈遺物〉 出土していない。19層中に炭片が多く出土したためC14で分析したところyrBP3720±30年という結果がだされた。

52号土坑（第56図、写真図版45）

〈位置・検出状況・重複〉 13-C 5 d グリッド付近に位置する。V層で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 開口部径1.53×1.44mの円形である。底面は平坦で、規模1.11×1.11m、VII層まで掘り込む。検出面からの深さは最大58cmである。壁は、斜面上方の下部が直立し、それ以外は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒色～黒褐色土を主体とする。主体上に壁崩落土を混入し斜面上方から堆積している。

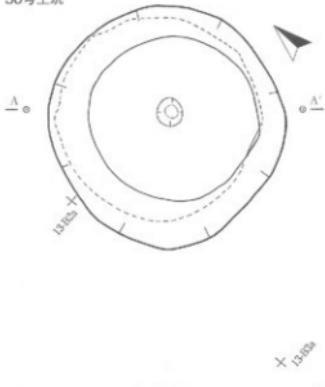
〈遺物〉 出土していない。

53号土坑（第56図、写真図版45）

〈位置・検出状況・重複〉 14-C 1 d グリッド付近に位置する。V層ではプランを確認することができず、VII層まで掘り下げたところ、黒色土の広がりを検出した。重複する遺構はない。

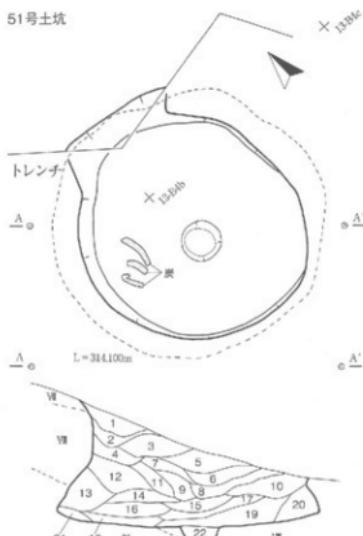
〈規模・形状〉 開口部径1.54×1.60m円形である。底面は平坦で、規模1.68×1.52m、VII層まで掘り込む。検出面からの深さは最大90cmである。壁は、底面から大きくオーバーハングしてから直立し、上部は外傾して立ち上がる。底面中央には直径28cm、深さ5cm程度の小穴が設けられている。

50号土坑



- 50号土坑 (A-A')
1. 30T2C1 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層 (10cm厚) 三層化。全体に堅軟
やや含水。表面粗石散在。
 2. 30T2C2 三層化 シルト しまり、堅性やや弱い。V-1層の表面層。表面浮石散在。
 3. V-V-1層(堅薄層) 表面粗石やや多量。しまり、堅性やや弱い。
 4. 30T2C3 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V-2層の表面層。
 5. 30T2C4 三層化 シルト しまり、堅性やや弱い。V-3層の表面層。
 6. 30T2C5 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V-4層の表面層。
 7. 30T2C6 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。
 8. 30T2C7 黒色 シルト 亜透水性ワッカ大量。こなれて流じる。しまり弱くボロボロ。
 9. 墓壁大フロック崩落層。さざれ。
 10. 亜透水性ワッカ崩落層。さざれ。
 11. 30T2C8 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。
 12. 墓壁大フロック崩落層。こなれて流じる。しまり、堅性やや弱い。
 13. 30T2C9 黒色 シルト 葵も黒い層。しまり、堅性やや弱い。表面浮石体積量の大きい
層。
 14. 30T2C10 黒色。しまり固く、堅性ややあり。

51号土坑



- 51号土坑 (A-A')
1. 30T2C1 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石や多量の混上。
 2. 30T2C2 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石や多量。
 3. 10cmに乳化が、表面粗石多く、さざれやあら。
 4. 30T2C3 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 5. 30T2C4 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 6. 30T2C5 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 7. 30T2C6 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 8. 30T2C7 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 9. 30T2C8 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 10. 30T2C9 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 11. 墓壁大フロック崩落層。さざれ。
 12. 墓壁大フロック崩落層。さざれ。
 13. 30T2C10 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 14. 30T2C11 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 15. 30T2C12 黒色 シルト しまり、堅性やや弱い。V層と表面浮石少量。
 16. V-V-1層(堅薄層) しまり弱い。
 17. 30T2C13 黑褐色 シルト しまり弱い。V層と表面浮石少量。
 18. 30T2C14 黑褐色 シルト しまり弱い。V層と表面浮石少量。
 19. 30T2C15 黑褐色 シルト しまり弱い。V層と表面浮石少量。
 20. 10cmに乳化がありなくぼけび。
 21. 30T2C16 黑褐色 シルト しまり弱い。V層と表面浮石少量。
 22. 30T2C17 黑色 シルト しまり弱い。ボロボロ。堅性弱。表面浮石少量。

0 1:40 2m

第55図 土坑 (18)

〈堆積状況〉 黒色土を主体とする。小穴と底面南側に斜面下方から黒味の強い層（7・8層）が堆積した後に、斜面上方の壁が崩落する（（4・）5・6・9・10層）。さらにその上部に黑色土が堆積する。

〈遺物〉 出土していない。

54号土坑（第56図、写真図版45）

〈位置・検出状況・重複〉 13-D 5 e グリッド付近に位置する。VI層で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 開口部径1.57×1.48m円形である。底面はやや丸みを帯び、規模1.16×1.08m、Ⅶ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大40cmである。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 黒褐色～黒色土を主体とする。斜面上方から流入しており、覆土上部（1・2層）には十和田b降下火山灰が混入している。

〈遺物〉 出土していない。

55号土坑（第56図、写真図版45）

〈位置・検出状況・重複〉 14-F 2 e グリッド付近に位置する。V層で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 北側を試掘トレンチで消失するため全形は不明である。不正な円形もしくは楕円形と推定される。残存する規模は1.65×1.00mである。Ⅷ層を底面としており、凹凸が目立つ。1.37×0.89m残存している。検出面からの深さは20cm程度、壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 南部浮石・中揮粒を含む黒褐色土が堆積する。53・54号土坑覆土と似る。

〈遺物〉 出土していない。

56号土坑（第57図、写真図版46）

〈位置・検出状況・重複〉 15-F 1 c グリッド付近に位置する。試掘トレンチ内、Ⅶ層で黒色土のプランが確認された。トレンチ外へと広がる南東隅はV層で検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 1.45×0.78mの楕円形もしくは隅丸長方形である。底面は凹凸がありやや丸みを帯びる。規模は1.22×0.62m、Ⅸ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大22cmである。壁はやや袋状に内湾しながら立ち上がる。

〈堆積状況〉 壁際にⅨ層ブロック、遺構全体には暗褐色土を主体とする層が堆積する。埋土の残存する厚さが薄いため、断定はできなが、他の遺構に比べ崩落土が少なく、人為堆積の可能性がある。

〈遺物〉 出土していない。

57号土坑（第57図、写真図版46）

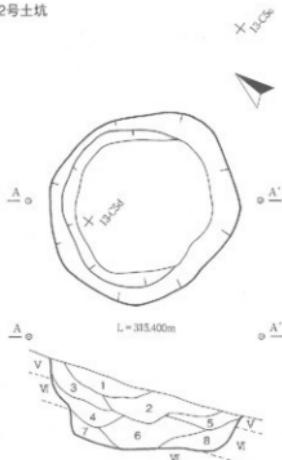
〈位置・検出状況・重複〉 15-F 2 c グリッド付近に位置する。試掘トレンチ内、Ⅷ～Ⅹ層で黒色土のプランを検出した。58号土坑と重複しこれに切られる。

〈規模・形状〉 楕円形もしくは隅丸長方形で、南西隅を新規土坑に切られ消失する。推定される長軸は1.86m、短軸は0.82mである。底面は凹凸がありやや丸みを帯びていて、規模1.68（推定）×0.58m、Ⅹ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大30cmである。壁はやや外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 暗褐色土を混入する黒褐色土の単層である。残存する覆土が薄いため断定はできないが、壁崩落土がみられず人為堆積の可能性がある。

〈遺物〉 出土していない。

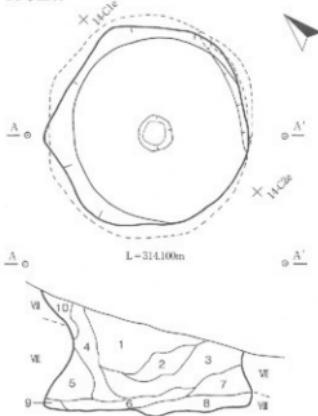
52号土坑



52号土坑 (A-A')

1. 197E2/3 黒足サシトウ しまり、延安や西側。197E3/3 墓
地に生えている少しだけ葉が伸びた細長い草。
 2. 197E2/3 黒足サシトウ しまり、延安や西側。197E2/3 黒
足サシトウ、底部の茎葉が黒ずむ。
 3. 197E2/1 黒足 シルク しまり、延安や西側。197E2/1 黒足
サシトウ、根元の葉が黒ずむ。
 4. 38mに生えているCH2000-1000
 5. 197E2/1 黒足 シルク しまり、延安や西側。197E2/1 黒足
サシトウや根元の葉が黒ずむ。
 6. 2種に似る。
 7. 197E2/1 黒足 シルク しまり徘徊、植林や中間帶。197E2/3 黑
足サシトウ、底部茎葉黒ずむ。
 8. 5mに生えている根元葉黒ずむ。

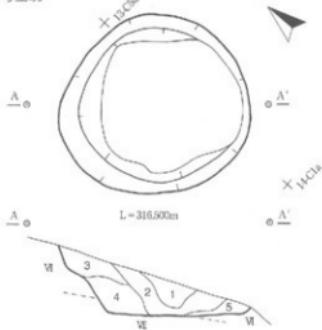
53号土坑



53号土壤 (A₁A₂)

1. **10月1日** 晴れ 小雪。しまり。やれやけない。V種類原木に全く手を貸さず。害虫は見当たらない。
 2. **10月2日** 晴れ。雪。シロ。シロ。雪。しまり。物性やけない。V種類原木の推進。由藤石破産。
 3. **10月3日** 雲霧。雪。シロ。下野原に移動する。V種類多くブリッカではいるところあり。明後日は天候が悪くなるので、ここで休む。
 4. **10月4日** V種類の出荷を行なう。
 5. **10月5日** 南山林業の出荷。やれやけ問題に気付く。
 6. **10月6日** 南山林業の出荷。V種類は完全にこじらへてしまふ。
 7. **10月7日** 晴れ。雪。シロ。シロ。雪。しまり。やれやけない。V種類原木。害虫不発見。
 8. **10月8日** 晴れ。雪。シロ。シロ。雪。しまり。やれやけない。V種類原木。害虫不発見。
 9. **10月9日** 落葉松。落葉松をこじらめたためか筋地が悪い。しまり悪い。

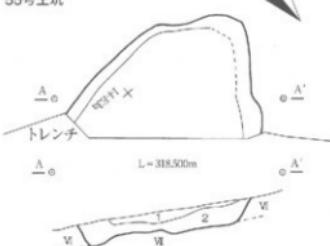
54号土坑



54号土壤 (A-A')

1. 19YK2/1 黒色 シルト しまり、塑性やや弱い。Teを含む。19YK2/3 黑褐色、面部浮游漂砾。
 2. 19YK2/1 黑色 シルト しまり、塑性やや弱い。Teを含む。19YR2/3 黑褐色+少優等、面部浮游漂砾。
 3. 19YR2/3 黑色 大量、面部浮游漂砾。
 4. 19YK2/1 黑色 シルト しまり、塑性やや弱い。19YR2/2 黑褐色、面部浮游漂砾。
 5. 明顯に異なる。

55号十馆



55号土壤 (A-A')

1. 197ER2/3 黒褐色 シルト しまり、粘性弱い。海帯浮石節間隙。V層を含む。
 2. 197ER2/3 黒褐色 シルト しまり、粘性弱い。海帯浮石やや多量。

0 1 : 40 2m

58号土坑（第57図、写真図版46）

〈位置・検出状況・重複〉 15-F 2 c グリッド付近に位置する。試掘トレンチ内、Ⅶ層で黒色土のプランを検出した。57号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。

〈規模・形状〉 1.35×1.32mの円形である。底面は平坦で、規模1.21×1.18m、Ⅶ層まで掘り込む。検出面からの深さは、最大54cmである。壁は下部がオーバーハングし、上部は直立または外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 底面及び壁際に、地山であるⅦ・Ⅷ層が堆積する（4・6～10層）。その後黒色～暗褐色土が斜面上方（北側）から流入する。

〈遺物〉 出土していない。

59号土坑（第57図、写真図版46）

〈位置・検出状況・重複〉 14-F 5 b グリッド付近に位置する。試掘トレンチ内Ⅶ層で黒色土の円形プランを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 1.46×1.45mの円形である。底面は平坦で、規模1.46×1.34m、Ⅶ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大66cmである。壁は底面からややオーバーハングして、上部は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 壁際にはⅦ・Ⅷ層の崩落土が堆積し（7～9層）、中心部は黒色～暗褐色土の混土（1～6層）となる。

〈遺物〉 出土していない。

60号土坑（第58図、写真図版47）

〈位置・検出状況・重複〉 16-H 3 e グリッド付近に位置する。Ⅸ層で褐色土の広がりを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 1.17×1.10mの円形である。底面は平坦で、規模0.98×0.95m、Ⅹ層上面まで掘り込む。検出面からの深さは最大37cmである。壁は下部が直立またはオーバーハングし、上部は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 褐色土を主体とする。壁際は地山の崩落土と主体土の混土が堆積する。本遺構は傾斜のきつくなる落ち際に位置しており、Ⅹ層とⅨ層の間にこれらが崩落した混土層が堆積し基本土層を構成する。上述の壁際の覆土は、これがさらに崩れて堆積したため、遺構プランの識別が困難であった。トレンチを抜いて確認したもの、南側は若干掘り過ぎてしまった。

〈遺物〉 出土していない。

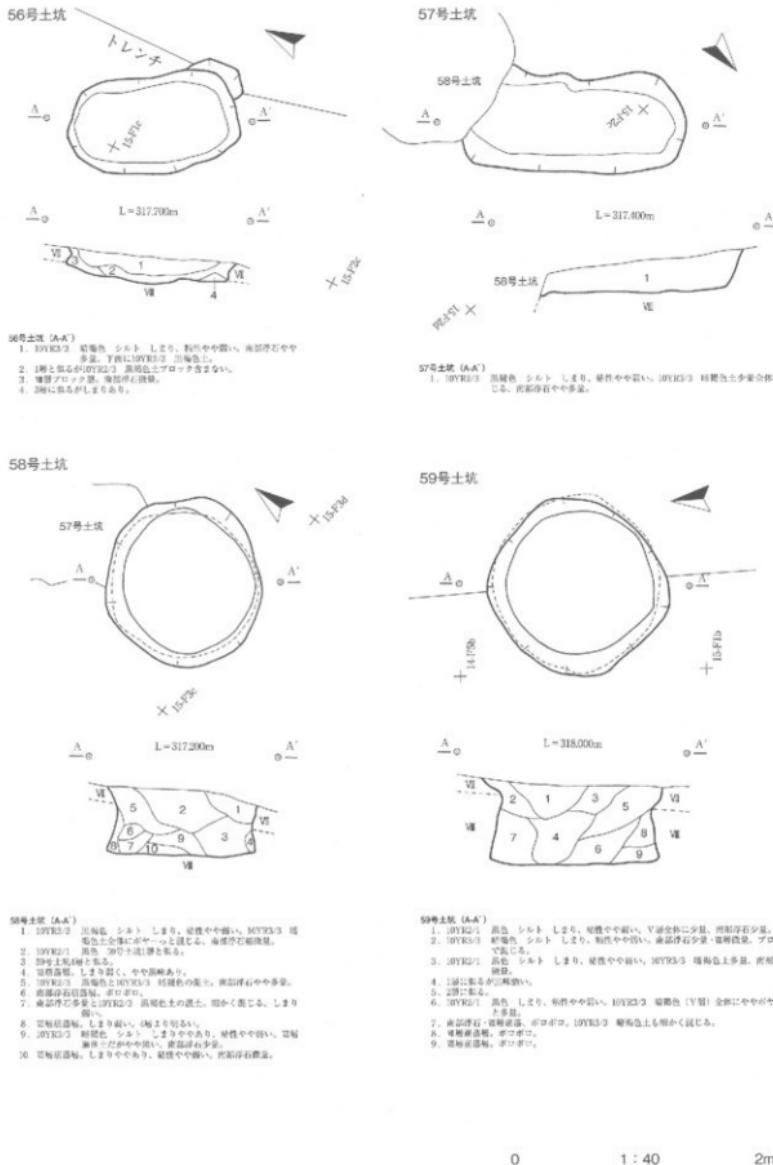
61号土坑（第58図、写真図版47）

〈位置・検出状況・重複〉 15-G 2 d グリッド付近に位置する。Ⅸ層で褐色土の広がりを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 1.21×0.90mの梢円形である。底面はやや凹凸があり、規模1.08×0.74m、Ⅸ層まで掘り込む。検出面からの深さは最大10cmである。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 南部浮石を微量含む暗褐色土の単層である。

〈遺物〉 織文土器が出土したが小破片のため図化していない。



第57圖 土坑 (20)

62号土坑（第58図、写真図版47）

〈位置・検出状況・重複〉16-G 1 d グリッド付近に位置する。Ⅶ～Ⅸ層の漸移層で検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉長軸1.73m、幅0.62～1.14m、台形に近い長方形である。底面は平坦で、長軸1.56m、幅0.56～1.00m、覆層まで掘り込む。検出面からの深さは10cm程度で、壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉地山ブロックを含む褐色土を主体とする単層である。

〈遺物〉出土していない。

63号土坑（第58図、写真図版47）

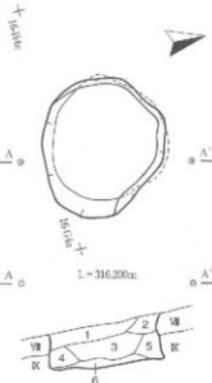
〈位置・検出状況・重複〉18-G 5 c グリッド付近に位置する。V～VI層で黒褐色土の広がりを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉1.59×1.52mの円形である。底面はやや丸みを帯び、規模1.03×0.97m、斜面下方の幅が少し狭まる。覆層まで掘り込み、検出面からの深さは58cmである。壁は斜面上方下部が直立、それ以外は外傾して立ち上がる。

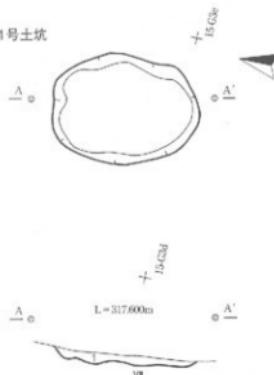
〈堆積状況〉暗褐色～黒褐色土を主体とする。主体土に崩落土を混入しながら、斜面上方から堆積する。本遺構が急斜面に立地するためか、他の土坑より埋土のしまりが非常に弱い。

〈遺物〉出土していない。

60号土坑



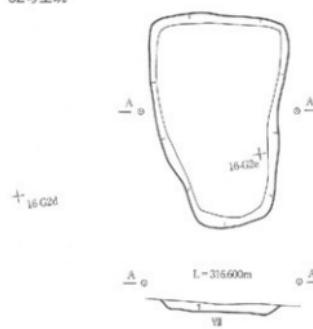
61号土坑

61号土坑 (A-A')
1. 10YR4/3 肥沃色 シルト しまり、粘性や少ない。腐泥浮石混在。

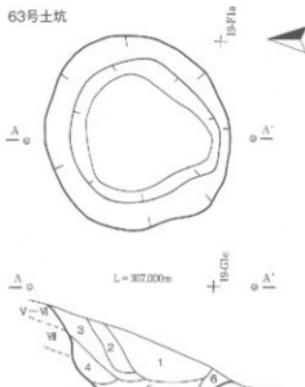
60号土坑 (A-A')

1. MYR4/5 硬塑 シルト しまり、粘性やや弱い。層理 (10YR6/2 肥沃色) 全部に少貸、セメント化なし。腐泥浮石混在。
2. MYR4/5 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。層理 (10YR4/5 黑褐色) 全部に少貸、セメント化なし。腐泥浮石混在。
3. MYR2/3 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。層理 (10YR4/5 黑褐色) 少量。腐泥浮石混在。
4. 墓壁と10YR4/5 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。底部浮石含まない。腐泥浮石混在。
5. 2階に限る。
6. 10YR4/6 黑色 シルト しまり、粘性やや弱い。層理少貸セメント化なし。腐泥浮石含まない。

62号土坑



63号土坑

63号土坑 (A-A')
1. 10Y3/3 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。10Y3/3 材質色土 (V-1層厚約1.5m) 全体に散在セメント化。腐泥浮石混在。
2. 10Y3/3 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。10Y3/3 腐泥色土全層厚約1.5m。腐泥浮石混在。
3. 10Y3/3 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。V-1層の腐泥色。腐泥浮石混在。
4. 10Y3/3 黑褐色 シルト しまり、ボロボロ。V-1層と腐泥浮石の層混在。
5. 10Y3/3 黑褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。1層より厚い。10Y3/3 腐泥色土段差がやーと見じる。腐泥浮石混在。
6. 10Y3/3 黑褐色 シルト しまり、ボロボロ。表み強い腐泥浮石混在。

62号土坑 (A-A')

1. 10Y3/3 肥沃色 シルト しまり、粘性や少ない。腐泥浮石混在。

0 1 : 40 2m

第58図 土坑 (21)

-105-

4 土器埋設遺構

1号埋設土器遺構（第59図、写真図版48）

〈位置・検出状況・重複〉 604dグリッド付近に位置する。IV～VI層で土器が地中に埋没した状態で検出された。重複する遺構はない。

〈埋設状況・掘方〉 土器は正位で埋設されており、斜面下方へやや傾く。掘り方は円形で、開口部径52×47cm、検出面からの深さは18cmである。

〈堆積状況〉 掘り方は明黄褐色～黄褐色、土器内はこれよりも暗く褐色土を主体とする。いずれもしまりが弱い。

〈遺物〉 土器（407・408：第88図、写真図版65）。遺構内に408が埋設されていた。407は重機で掘り下げた排土中より出土しており、408とは接合しないものの、形状・色調・胎土等類似する点が多い。408は口縁部が欠損する状態で、しかも割れ口が比較的新しいため、重機での掘削時に遺構の上部を破壊してしまった可能性が高いと考え、これらを同一個体と判断し掲載した。

2号土器埋設遺構（第59図、写真図版48）

〈位置・検出状況・重複〉 704dグリッドに位置する。V～VI層で土器の口唇部が弧状に検出され、その周囲に礫が散在していたため、埋設土器の可能性があると判断した。その後、東半を掘り下げたところ、別遺構と重複していることが判明した。本遺構調査後にこれが3号住居・17号土坑であるとわかったが、覆土の堆積状況から本遺構のほうが新しい。

〈埋設状況・掘方〉 土器は正位で埋設され、斜面下方へやや傾く。周囲に礫が散在するが、礫同士は同一面ではなくやや高低差を持っており、遺構に伴うものか判断できなかった。掘方範囲も断面で識別できたものの、平面でそれを追えず平面形状は不明である。断面から推定した規模は、開口部径46cm程度である。底面は比較的平坦で壁は外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大17cmである。

〈堆積状況〉 掘方は褐色土を主体とする。重複する遺構の覆土と非常に類似するが、わずかに黒味が強く炭化物片を含む。土器内には下部に明黄褐色ブロック、上部には掘方覆土と似る層が堆積し、いずれもしまりが弱い。

〈遺物〉 土器（409：第88図、写真図版65）遺構内に409が埋設されていた。口縁付近が一部欠損するものの、本来は完形に近い状態だったと思われる。しかし、重複遺構との新旧関係を判断するために深くトレンチを開け、幾度となく堆積状況を確認している間に、土器が一部崩落し小破片となり、東半と西半が接合しなくなってしまった。

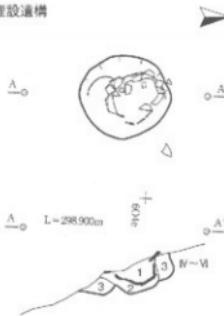
3号土器埋設遺構（第59図、写真図版48）

〈位置・検出状況・重複〉 705bグリッドに位置する。IV～VI層で検出したところ土器の口唇部が弧状に検出され、埋設土器の可能性があると判断した。重複する遺構はない。

〈埋設状況・掘方〉 土器は正位で埋設されている。掘方の形状は円形、規模は開口部径49×48cmである。南側の一部を木痕により消失する。底面は径23cm、VI層まで掘り込む。検出面からの深さは最大27cm、壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 掘方覆土は褐色土と黄褐色土を主体とし、これらが交互に堆積する。上部には炭化物が含まれる。土器内は下部に混入物のない褐色土層、上部に暗褐色土層となる。掘り方と比べ、黒味が強く、しまりが弱い。

1号土器埋設遺構



1号土器埋設遺構 (a-a')

1. 19YB4-6 黑褐色 シート しまり弱い、粘性弱い、表面浮石1%。
2. 19YB5-6 黑褐色 シート しまり弱い、粘性弱い、表面浮石61%。
3. 19YB6-6 明る褐色シート しまり、粘性弱い、表面浮石1%。

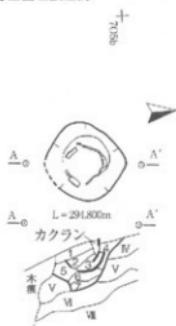
2号土器埋設遺構



2号土器埋設遺構 (a-a')

1. 19YB4-4 黑色 シート しまり弱い、粘性やや弱い。鉄物含む。
2. 19YB6-9 明る褐色 シート しまり弱い、粘性やや弱い。建設ブロック層。
3. 19YB6-4 黑色 シート 無隙層となる。炭化物細かく(径~5mm)、表面浮石微細。

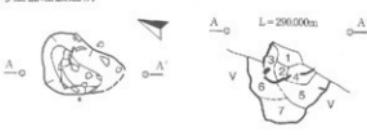
3号土器埋設遺構



3号土器埋設遺構 (a-a')

1. 19YB6-8 黒褐色 シート しまり弱い、粘性やや弱い。表面浮石微量。
2. 19YB6-7 黒褐色 シート しまり弱い、粘性やや弱い。12T14-4 同上大量、表面浮石微量。
3. 19YB6-1 黒色 シート しまり弱い、粘性やや弱い。鉄物含む。
4. 1M14-1 黑色 シート しまり弱い、粘性やや弱い。鉄物含む。
5. 19YB6-4 黑色 シート しまり、粘性やや弱い。表面浮石微量。細かい。
6. 19YB5-9 黒褐色 シート しまりやや弱い。鉄物やや弱い。表面ブロックないるか?
7. 19YB6-4 黑色 シート しまり、粘性やや弱い。表面浮石微量で細かい。3薄となる。

4号土器埋設遺構



4号土器埋設遺構 (a-a')

1. 19YB2-2 黒褐色 シート しまり、粘性やや弱い。最も粗粒あり。南部浮石微量。
2. 19YB3-4 蘭褐色 シート しまり、粘性やや弱い。V層微含むかシャリシャリする。
3. 19YB2-1 黒褐色 シート しまり弱い。
4. 1M14-1 黒褐色 シート しまり弱い。
5. 19YB2-4 棕褐色 シート 1~4層より明るい。しまり、粘性やや弱い。南部浮石微量。
6. 19YB2-3 黒褐色 シート しまり、粘性やや弱い。きれいな板。
7. 19YB2-3 黑褐色 シート V層ブロックはいく箇所多くて黒を帯びる。南部浮石もやや多いか?

× 30

0 1:30 1m

第59図 土器埋設遺構 (1)

〈遺物〉 土器（410：第88図、写真図版66）。

4号土器埋設遺構（第59図、写真図版49）

〈位置・検出状況・重複〉 8 P 5 c グリッドに位置し、V層で検出した。重複する遺構はないが、5号土器埋設遺構とほぼ同一標高に位置し、間隔が1m程度と近接している。

〈埋設状況・掘方〉 検出時に遺構上部をやや掘り下げすぎたようでは土器口縁部が露出してしまった。土器は正位で埋設されており、斜面下方へわずかに傾く。掘方の形状はやや不正な楕円形、開口部径50×34cmである。底面は径36×15cm、V層中まで掘り込む。土器の口唇からの深さは48cm、壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 掘方覆土は暗褐色土・黒褐色土を主体とする。基本層序との識別が難しかったが、底面7層はこれよりもしまりが弱く、6・5層は中揮火山灰粒が確認できなかったことから、これらを覆土とした。土器内は下部に暗褐色土、上部に黒味の強い黒褐色土が堆積する。

〈遺物〉 土器（411：第88図、写真図版66）。

5号土器埋設遺構（第60図、写真図版49）

〈位置・検出状況・重複〉 8 P 5 d グリッド付近に位置する。V層で疊とその周りを囲む土器が検出され、埋設土器と判断した。重複する遺構はないが、4号土器埋設遺構とほぼ同一標高に位置し、間隔が1m程度と近接している。

〈埋設状況・掘方〉 口縁部を上にした斜位で出土した。方向は底部が斜面上方（北西）、口縁部が斜面下方（南西）を向く。口縁部には径29×24cm、厚さ10cm程度の礫が蓋をするように置かれている。掘方は、検出時にその平面形を追うことができず、堆積状況確認のために断ち割った。そのため西半の上端を欠く。残存部から判断すると形状は楕円形、開口部径106×60cm以上である。底面は径78×42cm、丸みをおび凹凸がある。検出面からの深さは38cmで、V～VI層まで掘り込む。壁は外傾して立ち上がる。

〈堆積状況〉 掘方覆土は黒褐色土を主体とする。V層と識別が難しいが、中揮火山灰の混入量が異なっていた。土器内の覆土は、底部直上が黒色土、その他は暗褐色土を主体としており、全体的に掘方覆土に比べ黒味が強い。

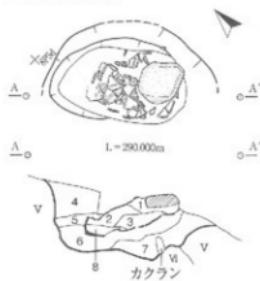
〈遺物〉 土器（414：第89図、写真図版67）。

6号土器埋設遺構（第60図、写真図版50）

〈位置・検出状況・重複〉 9 P 2 e グリッド付近に位置する。V層で検出したところ、土器片が集中しその周囲がやや黒味を帯びて見えた。土坑を想定し、土器出土箇所を避け、すぐ東側をトレチ状に掘り下げたが掘方は確認できなかった。そのため遺構外出土土器として判断し検出面の遺物を取り上げたところ、これより下位に土器片が入り込んでいることが判明した。土器の出土状況から埋設遺構の可能性を考え、再度周囲を検出したがやはり掘方を確認することができず、土器の散在する中心にベルトをかけ掘り下げていった。

〈埋設状況・掘方〉 上述のとおり一部遺物を取り上げてしまっているが残存していた部分は横位でつぶれた状態で出土した。先に取り上げたのは底部破片が多く、東側に底部があったものと考えられる。掘方は断面でのみ確認しており、形状は不明である。開口部径が52cm、検出面からの深さは20cm程度、VI層まで掘り込まれる。

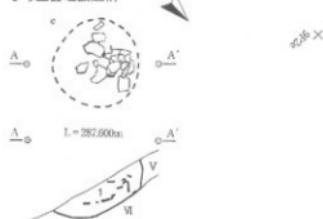
5号土器埋設遺構



5号土器埋設遺構 (a-a')

1. 10T22/1 黒褐色 シルト しまり中、粘性やや弱い。もっとも黒い。10T22/1 岩化シルト (中層状か?) 調和よく (深~1ca) 硬塑。
2. 10T22/2 黒褐色 シルト しまりの、粘性やや弱い。10T22/4 硬色二ゴマニ多量。
3. 10T22/3 黒褐色 シルト しまりの、粘性やや弱い。10T22/5 硬色二ゴマニ多量。
4. 10T22/2 黒褐色 シルト しまりの、粘性やや弱い。10T22/4 硬色二ゴマニ多量。
5. 10T22/2 黒褐色 シルト しまり、鈍化やや弱い。10T22/4 硬色土大量。
6. 10T22/2 黒褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。10T22/4 岩化土微量。
7. 10T22/2 黒褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。10T22/4 岩化土微量。
8. 10T22/4 黒褐色 シルト しまり、粘性やや弱い。V層过多量、きれいな層。

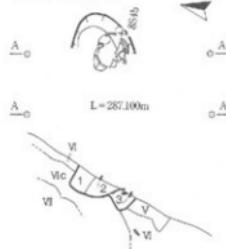
6号土器埋設遺構



6号土器埋設遺構 (a-a')

1. 10T22/1 黒色シルト しまり、粘性やや弱い。きれいな層。

7号土器埋設遺構



7号土器埋設遺構 (a-a')

1. 10T22/2 黒褐色 シルト しまり、粘性弱い。実相約1%。
2. 10T22/4 黒褐色 シルト しまり、粘性弱い。実相約1%。
3. 10T22/2 黒褐色 シルト しまり弱い、粘性ややあり。実相浮石1%。

0 1 : 30 1m

第60図 土器埋設遺構 (2)

〈堆積状況〉 混入物のない黒色土を主体とする単層である。

〈遺物〉 上器（412：第88図、写真図版66）

7号土器埋設遺構（第60図、写真図版50）

〈位置・検出状況・重複〉 8 S 3 a付近に位置する。IV～V層で、土器片が集中する箇所を検出した。重複する遺構はない。

〈埋設状況・掘方〉 口縁部を下にした逆位で埋設され、底部を欠損する。西側は断ち割る際に消失してしまったが、掘り方は円～楕円形、規模は38×25cm以上である。底面は丸みを帯び壁は外傾する。VI c 層まで掘り込み、検出面からの深さは12cmである。

〈堆積状況〉 掘り方は黒褐色土上、土器内は暗褐色土を主体とする。いずれもしまりが弱い。

〈遺物〉 上器（413：第89図、写真図版66）

第4表 測量一覧(1)

番号	掲載地名	グリッド	直角座標 (<断面>山+不明)	検出面	平面形状	規模(開口部) (m) 条1	深さ (cm)	掘込み前	調査 年度	旧道 跡名	参考 (cm)
1	1号住居跡	7 O 2 e	>2+? <15・16±?	V~W	円形	3.57×1.82<	-	57	○	05	1往
2	2号住居跡	7 O 1 a	<1+? >5・6±?	V~W	円形	2.70×2.00<	-	45	○	05	2往
3	3号住居跡	7 O 5 d	+14±? >17~21±?	W~U	円形	3.80<×4.15<	-	56	○	05	3往
4	4号住居跡	9 P 5 a	*29・25±?	W~V	円形	3.65<×3.62<	-	65	○	05	4往
5	5号住居跡	11 O 4 e	-	V	円形	3.53×2.25<	-	74	○	05	5往
6	6号住居跡	9 R 4 c	-	V	円形	2.94<×2.72<	-	90	○	05	6往
7	7号住居跡	9 R 5 a	>30~32±?	V	円形	3.90×2.90	-	102	○	05	7往
8	8号住居跡	10R 2 b	-	W~V	円形	5.45×4.00<	-	100	○	05	8往
9	9号住居跡	12 K 5 d	>10±?	V	円形	4.03×3.28<	-	40	○	05	12往
10	10号住居跡	12 K 5 d	<9往	V	円形	3.38×3.62	-	36	○	05	19往
11	11号住居跡	13 K 2 e	>12往	V	円形	3.99×3.05<	-	30	○	05	13往
12	12号住居跡	13 K 3 d	<11往	V	円形	4.54×2.90	-	30	○	05	20往
13	13号住居跡	11M 3 b	<14往	V	円形	3.98×2.60<	-	73	○	05	16往
14	14号住居跡	11M 5 c	>13往? >15往?	V	円形	5.33×4.69<	-	132	○	05	15往
15	15号住居跡	12M 3 c	<16~18往・1配 *33± >36±?	V	円形	5.50<×7.00	-	147	○	05	10往
16	16号住居跡	12M 4 b	>15・17往・36±? *35・37±?	V	円形	2.70<×4.10	-	28	○	05	14往
17	17号住居跡	12M 3 d	>15往	V	円形	2.68<×4.86<	-	30	○	05	21往
18	18号住居跡	12N 3 a	>15往	V	円形	2.13<×3.68<	-	100	○	05	23往
19	19号住居跡	12L 2 c	>20往?	V	円形	1.79×1.47	-	56	○	05	11往
20	20号住居跡	12 L 3 d	<19往? >34±?	V	円形	3.22<×2.23<	-	18	○	05	22往
21	21号住居跡	10M 3 a	-	W~M	円形	3.45<×3.30<	-	58	○	05	9往

※1 <以上、※2 ○遺物あり(調査) △遺物あり(不調査) ×遺物なし

第4表 通情一覧(2)

番号	規範通情名	グリッド	(<所>IL+不明)	検出面	平面形状	規範(断面) (m)※1	規範(底面) (m)※1	深さ (cm)	掘込み面 ※2	通情	田邊 年次	馬名	備考 (cm)
22	22号土坑	10 L 1 d	-	W~M	円形	4.38<~3.68<	-	-	-	○	○	17往	
23	1号石造跡	12 M 4 b	>15・16件、 2組、36件	-	円形	3.00×1.50	-	-	-	○	○	06	1肥
24	2号石造跡	12 M 4 b	*16件<1配	-	三角形	0.44×0.37	-	-	-	△	○	06	2肥
25	1号土坑	7 N 1 c	>2往?	W~M	円形	2.15×2.03	1.47×1.45	132	W	○	○	1土	
26	2号土坑	7 O 1 d	<1往?	W~M	円形	1.65×1.20<	1.14×0.80	66	W	○	○	2土	
27	3号土坑	7 O 2 b	<2往 +4件	-	椭円形	1.17×0.82<	0.94×0.72	50	W	○	○	05	3+
28	4号土坑	7 O 3 b	+3往	V~M	円形	1.39×1.34	0.74×0.63	65	W	○	○	05	5土
29	5号土坑	7 O 1 a	<2往	-	円形	0.98×0.93	0.87×0.84	25	W	○	○	05	7土
30	6号土坑	7 O 2 a	<2往?	W~M	円形	1.02×0.80	0.85×0.83	52	W	○	○	05	8土
31	7号土坑	7 N 3 c	-	W~M	円形	1.65×1.60	1.12×1.68	84	W	○	○	05	12+
32	8号土坑	8 N 1 a	+9往	W~M	円形	2.16×2.00<	1.41×1.25	65	W	○	○	05	4土
33	9号土坑	8 O 1 a	+8・11往	N~M	円～椭円形	1.85<~1.40<	1.70×1.24 (1.15×1.24)	60	W	○	○	05	9土 張出部あり
34	10号土坑	8 O 2 b	>11往	N~M	椭円形	1.55×1.40	0.80×0.92	72	W	○	○	05	10+
35	11号土坑	7 O 5 b	+9・12往	W	円形	1.55<~1.20<	0.80×1.00	83	W	○	○	05	13+
36	12号土坑	7 O 5 b	+11・13往	W	円形	0.57<~1.08<	0.50<~0.66	70	W	○	○	05	14土
37	13号土坑	7 O 5 b	+12往	W	円形	1.05<~1.05<	0.55<~0.70	65	W	○	○	05	15土
38	14号土坑	8 O 1 c	+3往	V	円形	2.24×2.05	1.56×1.84	134	W	○	○	05	11土
39	15号土坑	7 O 3 d	+1往・16往	V	円形	1.85×1.55<	1.26×1.11<	50	W	△	△	05	25土×27
40	16号土坑	7 O 3 c	+1往・15往	W~M	円形	1.22×1.00	1.12×1.00	89	W~N	○	○	05	36+
41	17号土坑	7 O 5 c	<3往+18往	W~M	円形	1.42<~1.38<	1.19<~1.15	110	W	○	○	05	18土
42	18号土坑	7 O 5 c	<3往	W~M	円形	1.19<~0.81<	0.93×0.77<	55	W	○	○	05	23+
43	19号土坑	7 O 5 e	<3往	N~M	円形	1.66×1.32<	1.15×1.05	112	W	○	○	05	24+
44	20号土坑	8 O 1 d	<3往 +2往	W	円形	1.80×1.98	1.90×1.93	70	W	△	△	05	20土 小穴32×30
45	21号土坑	7 O 5 c	<3往 +20往	W	円～椭円形	0.78×0.68<	0.62<~0.37<	45	W	○	○	05	21+
46	22号土坑	8 O 4 d	-	W	円形	2.14×1.77	1.28×0.90	74	W	○	○	05	19上

※1 <以上 ※2 ○通情あり(無駄) △通情あり(不規則) ×通情なし

第4表 遺構一覧(3)

番号	地盤通称名	グリッド	裏柱直径 (<断面>)(mm)	検出面	平面形状	規格(断面部) (mm)※1	規格(底面) (mm)※1	深さ (cm)	掘込み前 後2	調査 年度	日造 構名	参考 (cm)
47	23号・丸	9 O 3 a	-	W	楕円形	1.85×1.45	1.33×1.13	70	IV	○	05	16±
48	24号・丸	9 P 3 b	+26・27±	V	円形	2.41×2.21	1.56×1.55	80	W~W	△	05	27±
49	25号・丸	9 P 3 a	+4住 +26±	V~W	円形	1.80×1.48<	1.32×1.04<	80	W	△	05	28±
50	26号・丸	9 P 4 a	+4住 +24±	W	楕円形	1.50×1.24<	1.37×1.15<	58	W	×	05	29+
51	27号・丸	10P 1 d	+21±	V	円形	1.24×1.17	0.98×0.92	62	W	△	05	32±
52	28号・丸	10Q 2 a	-	V	円形	1.67×1.65	1.37×1.35	66	W	×	05	30±
53	29号・丸	10P 1 d	-	V	円形	1.30×1.12	0.96×0.88	62	W	×	05	31±
54	30号・丸	9 R 4 a	<7住	W	楕円形	1.58×1.10<	0.62×0.57	60	W	△	05	33±
55	31号・丸	9 R 5 a	<7住 +32±	V	円形	1.58×1.35<	0.97×0.97	120	W	○	05	34+
56	32号・丸	9 R 5 a	<7住 +31±	W	楕円形	2.26×1.68<	1.38×0.97	150	W	△	05	35±
57	33号・丸	12M 2 e	+15住	W	円形	1.88×0.74<	0.58×0.46<	80	W	○	06	46±
58	34号・丸	12L 3 e	<20住?	V	円形	1.65×1.58	1.63×1.25	75	W	○	06	38±
59	35号・丸	12M 3 a	<1配+35±	V	円形?	1.06×0.95	0.70×<	40	W	○	06	40±
60	36号・丸	12M 3 b	<15・16住、1尾	V	円形	1.24×0.9	1.01×0.96	58	W	○	06	47±
61	37号・丸	12M 4 a	+16住 +38±	W	円形	1.68×0.91	0.73×0.72	82	W	○	06	49±
62	38号・丸	12M 4 a	+37±	V	円形	0.94×0.84<	0.68×>0.74	45	W	×	06	50±
63	39号・丸	11K 4 c	-	V	円形	1.64×1.40	1.28×1.17	47	W	×	06	39±
64	40号・丸	9 C 5 c	-	V	円形	2.03×2.08	1.66×1.60	126	W	×	06	37±
65	41号・丸	5 J 4 d	-	V	円形	1.00×0.85	0.88×0.76	48	W	×	06	41±
66	42号・丸	5 J 5 d	-	V	円形	1.01×1.04	1.00×0.98	23	W	○	06	42±
67	43号・丸	5 J 4 b	-	V	円形	1.60×1.26	1.33×1.10	36	W	×	06	43±
68	44号・丸	5 J 5 a	-	V	円形	1.32×1.25	1.11×1.08	30	W	×	06	44±
69	45号・丸	6 J 1 a	-	V	円形?	0.82×>0.38<	0.69×>0.28<	6	W	×	06	45±
70	46号・丸	11-C 1 d	-	V	円形	1.62×1.43	1.33×1.02	38	W	△	07	39±
71	47号・丸	12-C 1 c	-	V	楕円形	1.50×1.15	1.02×0.71	60	W	○	07	38+

※1 <以降、※2 ○遺物あり(拘城) △遺物あり(不關城) ×遺物なし

第4表 通情一覧(4)

番号	機器識別名	グリッド	重板横幅 (<前>旧×小判)	側出面	平面形状	規格(開口部) (m)※1	規格(底面) (m)※1	深さ (cm)	掘込み面	窓物	旧窓 年度	新名	偏芯 (cm)
72	46号上坑	13-C1 e	-	V	円形	2.03×1.82<	1.37×1.30	88	W	×	07	65上	
73	49号上坑	13-B1 a	-	W	円形	1.63×1.46	1.43×1.30	63	W	×	07	70上	
74	50号上坑	13-B2 a	-	W	円形	1.90×1.89	1.62×1.61	120	X	×	07	69上	小△22×22
75	51号上坑	13-B4 a	-	W	円形	2.08×1.78<	2.16×2.20	100	X	×	07	68上	
76	52号上坑	13-C5 d	-	V	円形	1.53×1.44	1.11×1.11	58	W	×	07	64上	
77	53号上坑	14-C1 d	-	W	円形	1.54×1.60	1.68×1.52	90	W	×	07	67上	
78	54号上坑	13-D5 e	-	W	円形	1.57×1.48	1.16×1.08	40	W	×	07	66上	
79	55号上坑	14-F2 e	-	V	円～梢凹形	1.65×<1.00<	1.37×<0.89<	20	W	×	07	55上	
80	56号上坑	15-F1 c	-	V	梢円～楕丸形	1.45×0.78	1.22×0.62	22	W	×	07	52上	
81	57号上坑	15-F2 c	<58上	W	梢円～楕丸形	1.86×0.82	1.68×0.58	30	W	×	07	53上	
82	58号上坑	15-F2 c	>57上	W	円形	1.35×1.32	1.21×1.18	54	W	×	07	54上	
83	59号上坑	14-F5 b	-	W	円形	1.46×1.45	1.46×1.34	66	W	×	07	51上	
84	60号上坑	16-H3 c	-	W	円形	1.17×1.10	0.98×0.95	37	X	×	07	60上	
85	61号上坑	15-G2 d	-	W	椭円形	1.21×0.90	1.08×0.74	10	W	△	07	61上	
86	62号上坑	16-G1 d	-	W	不正方形	1.73×0.62～1.14	1.56×0.56～1.00	10	W	×	07	62上	
87	63号上坑	18-G5 e	-	V	円形	1.59×1.52	1.03×0.97	58	W	×	07	63上	
88	1号土器附設窓	6-O4 d	-	W-V	-	0.52×0.47	-	-	○	05	1埋		
89	2号土器附設窓	7-O4 d	>3仕・17上	V-V	-	46×	-	-	○	05	2埋		
90	3号土器附設窓	7-O5 b	-	V-V	-	0.49×0.48	-	-	○	05	3埋		
91	4号土器附設窓	8-P5 c	-	V	-	0.50×0.34	-	-	○	05	4埋		
92	5号土器附設窓	8-P5 d	-	V	-	1.06×0.60<	-	-	○	05	5埋		
93	6号土器附設窓	9-P2 e	-	V	-	0.52×	-	-	○	05	6埋		
94	7号土器附設窓	8-S3 a	-	N-V	-	0.38×0.25<	-	-	○	05	7埋		

※1 <以上 ※2 △遺物あり(私載) ▲遺物あり(公載) ×遺物なし

第5表 柱穴一覧（1）

番号	遺物名	柱穴名	検出標高(m)	武庫標高(m)	深度(cm)	覆土	産物	他局属機	回収機名	回収次名
1	1号住居跡	1	296.050	295.550	50	断面図あり			1住	
2	2号住居跡	1	296.665	296.315	35	-			2住	
3	3号住居跡	1	293.730	293.268	47	断面図あり			3住	
4	3号住居跡	2	293.676	293.310	37	断面図あり			3住	
5	3号住居跡	3	293.670	293.291	75	断面図あり			3住	
6	3号住居跡	4	293.148	293.038	11	断面図あり			3住	
7	3号住居跡	5	293.722	293.330	37	断面図あり			3住	
8	3号住居跡	6	293.267	293.088	20	-			3住	
9	3号住居跡	7	293.033	293.385	25	断面図あり			3住	
10	3号住居跡	8	293.411	293.360	5	-			3住	
11	3号住居跡	9	293.373	293.149	22	-			3住	
12	3号住居跡	10	293.240	293.070	17	-			3住	
13	3号住居跡	11	293.008	292.815	19	-			3住	
14	3号住居跡	12	292.907	292.849	6	-			3住	
15	3号住居跡	13	293.316	292.438	8	-			3住	
16	3号住居跡	14	293.335	292.251	38	-			3住	
17	3号住居跡	15	293.506	293.100	40	断面図あり			3住	
18	4号住居跡	1	287.877	287.696	18	断面図あり			4住	
19	4号住居跡	2	287.958	287.477	58	断面図あり			4住	
20	4号住居跡	3	287.667	287.375	29	断面図あり			4住	
21	5号住居跡	1	280.831	280.611	22	10YR2/1 黒色			5住	
22	5号住居跡	2	280.848	280.503	35	10YR2/1 黒色			5住	
23	5号住居跡	3	280.821	280.610	21	断面図あり			5住	
24	5号住居跡	4	280.786	280.628	16	断面図あり			5住	
25	5号住居跡	5	280.767	280.619	16	断面図あり			5住	
26	5号住居跡	6	280.877	280.786	9	断面図あり			5住	
27	5号住居跡	7	280.891	280.750	14	断面図あり			5住	
28	5号住居跡	8	-	-	-	10YR2/1 黑色			5住	
29	5号住居跡	9	280.877	280.217	66	断面図あり			5住	
30	6号住居跡	1	282.733	282.223	51	断面図あり			6住	
31	6号住居跡	2	282.37	282.708	3	10YR2/1 黑色			6住	
32	6号住居跡	3	282.725	282.405	32	断面図あり			6住	
33	6号住居跡	4	282.655	282.568	9	断面図あり			6住	
34	6号住居跡	5	282.365	282.294	11	断面図あり			6住	
35	7号住居跡	1	282.528	282.368	6	断面図あり			7住	
36	7号住居跡	2	283.028	282.868	16	断面図あり			7住	
37	7号住居跡	3	282.805	282.485	32	断面図あり			7住	
38	7号住居跡	4	282.996	282.807	15	断面図あり			7住	
39	7号住居跡	5	282.771	282.600	17	断面図あり			7住	
40	8号住居跡	1	281.487	281.424	6	10YR2/2 黒褐色			8住	
41	8号住居跡	2	281.988	281.223	17	10YR2/2 黒褐色			8住	
42	8号住居跡	3	281.471	280.955	54	10YR2/1 黑色			8住	
43	8号住居跡	4	281.386	280.973	41	10YR2/1 黑色			8住	
44	8号住居跡	5	281.457	281.273	18	10YR2/2 黒褐色			8住	
45	8号住居跡	6	281.464	281.453	1	10YR2/2 黒褐色			8住	
46	8号住居跡	7	281.453	281.340	11	10YR2/2 黒褐色			8住	
47	8号住居跡	8	281.424	281.338	9	10YR2/2 黒褐色			8住	
48	8号住居跡	9	281.489	281.359	13	10YR2/2 黒褐色			8住	
49	8号住居跡	10	281.491	281.416	7	10YR2/2 黒褐色			8住	
50	8号住居跡	11	281.275	281.083	19	10YR2/1 黑色			8住	中
51	8号住居跡	12	281.116	280.805	31	10YR2/2 黑褐色			8住	
52	8号住居跡	13	281.190	280.860	33	-			8住	
53	10号住居跡	1	280.092	280.032	6	10YR2/1 黑色			10住	
54	10号住居跡	2	280.078	280.018	6	10YR2/1 黑色			10住	

第5表 柱穴一覧 (2)

番号	番号名	柱穴名	検出位置(m)	底面標高(m)	直径(cm)	土質	造物	他遺物	旧遺物名	旧柱穴名
55	10号住居跡	3	280.091	280.016	8	10YR2/1 黒色	○		19住	3
56	10号住居跡	4	280.093	280.043	5	10YR2/1 黒色			19住	
57	10号住居跡	5	280.087	279.915	17	10YR2/1 黒色			19住	
58	10号住居跡	6	280.078	279.978	10	10YR2/1 黒色			19住	
59	10号住居跡	7	280.090	280.025	6	10YR2/1 黒色			19住	
60	10号住居跡	8	280.090	279.930	16	10YR2/1 黒色			19住	
61	10号住居跡	9	280.090	280.015	4	10YR2/1 黒色			19住	
62	10号住居跡	10	280.080	279.925	16	10YR2/1 黒色			19住	
63	10号住居跡	11	280.055	279.985	7	10YR2/1 黒色			19住	
64	11号住居跡	1	279.850	279.535	30	10YR2/1 黒色			13住	
65	11号住居跡	2	279.825	279.292	53	10YR2/1 黒色			13住	
66	11号住居跡	3	279.849	279.401	39	10YR2/1 黒色			13住	
67	11号住居跡	4	279.849	279.269	58	10YR2/1 黒色			13住	
68	11号住居跡	5	279.847	279.506	34	10YR2/1 黒色			13住	
69	11号住居跡	6	279.830	279.599	24	10YR2/1 黒色			13住	
70	11号住居跡	7	279.841	279.482	36	10YR2/1 黒色			13住	
71	11号住居跡	8	279.832	279.663	17	10YR2/1 黒色			13住	
72	11号住居跡	9	279.807	279.497	33	10YR2/1 黒色			13住	
73	11号住居跡	10	279.827	279.558	29	10YR2/1 黒色			13住	
74	11号住居跡	11	279.836	279.463	37	10YR2/1 黒色			13住	
75	11号住居跡	12	279.754	279.378	38	10YR2/1 黒色			13住	
76	11号住居跡	13	279.667	279.278	9	10YR2/1 黒色			13住	
77	11号住居跡	14	279.699	279.282	42	10YR2/1 黒色			13住	
78	11号住居跡	15	279.411	279.140	27	10YR2/1 黒色		12住 P 9	20住	
79	11号住居跡	16	279.384	279.231	16	10YR2/1 黒色	○	12住 P 27	20住	4
80	11号住居跡	17	279.340	279.234	11	10YR2/1 黒色		12住 P 24	20住	
81	12号住居跡	1	279.290	279.021	27	10YR2/1 黒色			20住	
82	12号住居跡	2	279.370	279.161	21	10YR2/1 黒色			20住	
83	12号住居跡	3	279.395	279.323	7	10YR2/1 黒色			20住	
84	12号住居跡	4	279.393	278.921	47	10YR2/1 黒色			20住	
85	12号住居跡	5	279.434	279.219	21	10YR2/1 黒色			20住	
86	12号住居跡	6	279.430	279.299	13	10YR2/1 黒色			20住	
87	12号住居跡	7	279.433	279.297	23	10YR2/1 黒色			20住	
88	12号住居跡	8	279.429	279.192	24	10YR2/1 黒色			20住	
89	12号住居跡	9	279.411	279.130	27	10YR2/1 黒色		11住 P 15	20住	
90	12号住居跡	10	279.411	279.197	21	10YR2/1 黒色			20住	
91	12号住居跡	11	279.276	279.141	14	10YR2/1 黒色	○		20住	5
92	12号住居跡	12	279.276	—	—	10YR2/1 黒色			20住	
93	12号住居跡	13	279.415	279.169	25	10YR2/1 黒色			20住	
94	12号住居跡	14	279.424	279.198	23	10YR2/1 黒色			20住	
95	12号住居跡	15	279.411	279.136	28	10YR2/1 黒色			20住	
96	12号住居跡	16	279.411	279.151	26	10YR2/1 黒色			20住	
97	12号住居跡	17	279.406	279.124	28	10YR2/1 黒色			20住	
98	12号住居跡	18	279.418	279.119	30	10YR2/1 黒色			20住	
99	12号住居跡	19	279.427	279.208	22	10YR2/1 黒色			20住	
100	12号住居跡	20	279.421	279.029	39	10YR2/1 黒色			20住	
101	12号住居跡	21	279.421	279.146	28	10YR2/1 黒色			20住	
102	12号住居跡	22	279.380	279.313	7	10YR2/1 黒色			20住	
103	12号住居跡	23	279.370	279.264	11	10YR2/1 黒色			20住	
104	12号住居跡	24	279.410	279.234	11	10YR2/1 黒色		11住 P 17	20住	
105	12号住居跡	25	279.304	279.211	12	10YR2/1 黒色			20住	
106	12号住居跡	26	279.392	279.211	18	10YR2/1 黒色			20住	
107	12号住居跡	27	279.381	279.221	16	10YR2/1 黒色	○	11住 P 16	20住	4
108	12号住居跡	28	279.409	279.252	16	10YR2/1 黒色			20住	

第5表 柱穴一覧（3）

番号	遺物名	柱穴名	拔出面標高(m)	底面標高(m)	深さ(cm)	土質	遺物	地層賦値	回収場名	旧柱穴名
109	12号住居跡	29	279.341	279.251	9	10YR2/1 黒色	○		20住	2
110	12号住居跡	30	279.347	279.256	9	10YR2/1 黒色	○		20住	1
111	12号住居跡	31	279.355	279.304	5	10YR2/1 黒色			20住	
112	12号住居跡	32	279.348	279.236	11	10YR2/1 黒色			20住	
113	13号住居跡	1	280.013	280.110	37	10YR2/1 黒色			16住	
114	14号住居跡	1	279.816	279.495	32				15住	
115	14号住居跡	2	279.878	279.666	21				15住	
116	14号住居跡	3	280.001	279.659	31				15住	
117	14号住居跡	4	279.929	279.696	27				15住	
118	14号住居跡	5	279.864	279.394	47				15住	
119	14号住居跡	6	279.855	279.438	42				15住	
120	14号住居跡	7	279.880	279.665	22				15住	
121	14号住居跡	8	279.945	279.689	26				15住	
122	14号住居跡	9	279.963	279.829	13				15住	
123	14号住居跡	10	279.920	279.647	27				15住	
124	14号住居跡	11	279.843	279.615	23				15住	
125	14号住居跡	12	279.888	279.536	36				15住	
126	15号住居跡	1	278.570	278.349	32		○	16住	1	
127	15号住居跡	2	278.625	278.477	15				16住	16住
128	15号住居跡	3	278.625	278.546	8				16住	16住
129	15号住居跡	4	278.640	278.519	12				16住	16住
130	15号住居跡	5	278.640	278.509	13				16住	16住
131	15号住居跡	6	278.640	278.545	10				16住	16住
132	15号住居跡	7	278.697	278.574	12		○	16住	10住	2
133	15号住居跡	8	278.697	278.533	16				16住	16住
134	15号住居跡	9	278.697	278.352	15				16住	10住
135	15号住居跡	10	278.697	278.619	8				16住	10住
136	15号住居跡	11	278.712	278.527	19				16住	10住
137	15号住居跡	12	278.712	278.569	11				16住	10住
138	15号住居跡	13	278.712	278.603	11				16住	10住
139	15号住居跡	14	278.712	278.189	52				16住	10住
140	15号住居跡	15	278.712	278.530	18				16住	10住
141	15号住居跡	16	278.712	278.622	9				16住	10住
142	15号住居跡	17	278.819	278.539	26				16住	
143	15号住居跡	18	278.887	278.539	35				16住	
144	15号住居跡	19	278.887	278.732	15				16住	
145	15号住居跡	20	278.970	278.867	10				16住	
146	15号住居跡	21	278.887	278.627	26		○	16住	4	
147	15号住居跡	22	278.952	278.578	38		○	16住	5	
148	15号住居跡	23	278.952	278.697	25				16住	
149	15号住居跡	24	278.952	—	—				16住	
150	15号住居跡	25	278.952	278.535	42				16住	
151	15号住居跡	26	278.954	278.649	31				16住	
152	15号住居跡	27	278.954	278.883	7				16住	
153	15号住居跡	28	278.954	278.669	35				16住	
154	15号住居跡	29	278.954	278.627	33				16住	
155	15号住居跡	30	278.707	278.473	123				16住	10住
156	15号住居跡	31	278.707	278.630	8				16住	10住
157	15号住居跡	32	278.707	278.295	31				16住	10住
158	15号住居跡	33	278.707	278.507	30				16住	10住
159	15号住居跡	34	278.770	278.447	32				16住	10住
160	15号住居跡	35	278.770	278.619	15				16住	10住
161	15号住居跡	36	278.770	278.618	15				16住	10住
162	15号住居跡	37	278.822	278.684	14				16住	

第5表 柱穴一覧(4)

番号	通称名	柱穴名	株山面標高(m)	基面標高(m)	深さ(cm)	覆土	遺物	地盤風漸層	旧通称名	旧柱穴名
163	15号住居跡	38	278.882	278.600	28	-	○	10住	25	
164	15号住居跡	39	278.833	278.737	10	-	○	10住	24	
165	15号住居跡	40	278.854	278.560	40	-		10住		
166	15号住居跡	41	278.854	278.630	32	-	○	10住	6	
167	15号住居跡	42	278.858	278.759	16	-		10住		
168	15号住居跡	43	278.818	278.811	11	-		10住		
169	15号住居跡	44	278.848	278.628	29	-		10住		
170	15号住居跡	45	278.930	278.300	34	-	○	10住	7	
171	15号住居跡	46	278.830	278.827	10	-		10住		
172	15号住居跡	47	278.930	278.610	32	-	○	10住	8	
173	15号住居跡	48	278.930	278.365	37	-		10住		
174	15号住居跡	49	278.930	278.817	11	-		10住		
175	15号住居跡	50	278.930	278.762	17	-		10住		
176	15号住居跡	51	278.940	278.673	27	-		10住		
177	15号住居跡	52	278.940	278.577	36	-		10住		
178	15号住居跡	53	278.940	278.731	21	-		10住		
179	15号住居跡	54	278.940	278.620	32	-	○	10住	10	
180	15号住居跡	55	278.940	278.819	12	-		10住		
181	15号住居跡	56	278.940	278.747	19	-		10住		
182	15号住居跡	57	278.940	278.588	35	-	○	10住	9	
183	15号住居跡	58	278.936	278.622	31	-		10住		
184	15号住居跡	59	278.936	278.618	32	-		10住		
185	15号住居跡	60	278.930	278.678	25	-		10住		
186	15号住居跡	61	278.930	278.553	36	-		10住		
187	15号住居跡	62	278.930	278.629	30	-		10住		
188	15号住居跡	63	278.907	278.732	18	-		10住		
189	15号住居跡	64	278.907	-	-	-		10住		
190	15号住居跡	65	278.907	278.615	29	-		10住		
191	15号住居跡	66	278.907	278.607	30	-		10住		
192	15号住居跡	67	278.914	278.721	19	-		10住		
193	15号住居跡	68	278.914	278.519	40	-	○	10住	12	
194	15号住居跡	69	278.914	278.690	22	-	○	10住	11	
195	15号住居跡	70	278.914	278.703	21	-	○	10住	21	
196	15号住居跡	71	278.847	278.643	20	-	○	10住	13	
197	15号住居跡	72	278.825	278.729	20	-		10住		
198	15号住居跡	73	278.864	278.549	32	-		10住		
199	15号住居跡	74	278.872	278.624	25	-		10住		
200	15号住居跡	75	278.805	278.577	33	-		10住		
201	15号住居跡	76	278.900	278.327	37	-		10住		
202	15号住居跡	77	278.900	278.599	30	-		10住		
203	15号住居跡	78	278.900	278.615	26	-		10住		
204	15号住居跡	79	278.917	278.692	23	-		10住		
205	15号住居跡	80	278.920	278.626	29	-		10住		
206	15号住居跡	81	278.920	278.787	13	-		10住		
207	15号住居跡	82	278.920	278.672	25	-		10住		
208	15号住居跡	83	278.927	278.605	26	-	○	10住	16	
209	15号住居跡	84	278.913	278.823	9	-		10住		
210	15号住居跡	85	278.913	278.794	12	-		10住		
211	15号住居跡	86	278.920	278.644	38	-		10住		
212	15号住居跡	87	278.925	278.572	35	-	○	10住	15	
213	15号住居跡	88	278.935	278.737	20	-		10住		
214	15号住居跡	89	278.935	278.532	42	-		10住		
215	15号住居跡	90	278.890	278.587	30	-		10住		
216	15号住居跡	91	278.890	278.690	20	-	○	10住	14	

第5表 柱穴一覧(5)

番号	遺物名	柱穴名	後世面標高(m)	底面標高(m)	深さ(cm)	覆土	遺物	性別年齢	旧高精名	柱穴名
217	15号住居跡	92	278.890	278.638	25	-			10往	
218	15号住居跡	93	278.937	278.783	15	-			10往	
219	15号住居跡	94	278.944	278.686	26	-			10往	
220	15号住居跡	95	278.924	278.659	27	-	○		10往	17
221	15号住居跡	96	278.794	278.592	20	-			10往	
222	15号住居跡	97	278.944	278.483	46	-			10往	
223	15号住居跡	98	278.944	278.766	18	-			10往	
224	15号住居跡	99	278.794	278.659	14	-			10往	
225	15号住居跡	100	278.791	278.647	15	-			10往	
226	15号住居跡	101	278.929	278.537	39	-			10往	
227	15号住居跡	102	278.929	278.678	25	-			10往	
228	15号住居跡	103	278.929	278.747	18	-			10往	
229	15号住居跡	104	278.929	278.709	22	-			10往	
230	15号住居跡	105	278.917	278.499	42	-			10往	
231	15号住居跡	106	278.917	278.385	53	-			10往	
232	15号住居跡	107	278.923	278.708	22	-			10往	
233	15号住居跡	108	278.923	278.582	34	-			10往	
234	15号住居跡	109	278.923	278.754	17	-			10往	
235	15号住居跡	110	278.923	278.688	21	-			10往	
236	15号住居跡	111	278.923	278.759	17	-			10往	
237	15号住居跡	112	278.923	278.644	28	-			10往	
238	15号住居跡	113	278.923	278.773	15	-			10往	
239	15号住居跡	114	278.923	278.607	32	-			10往	
240	15号住居跡	115	278.923	278.792	13	-			10往	
241	15号住居跡	116	278.907	278.674	23	-			10往	
242	15号住居跡	117	278.907	278.737	17	-			10往	
243	15号住居跡	118	278.922	278.786	34	-	○	17往 P P 1	10往	26
244	15号住居跡	119	278.547	278.166	38	-	○	17往 P P 2	10往	27
245	15号住居跡	120	278.502	278.344	31	-		17往 P P 3	10往	
246	15号住居跡	121	278.597	278.318	28	-		17往 P P 4	10往	
247	15号住居跡	122	278.749	278.642	11	-			10往	
248	15号住居跡	123	278.590	278.502	8	-			17往 P P 5	10往
249	15号住居跡	124	278.775	278.707	7	-			10往	
250	15号住居跡	125	278.869	278.618	27	-	○		10往	23
251	15号住居跡	126	278.887	278.575	31	-			10往	
252	15号住居跡	127	278.887	278.690	20	-			10往	
253	15号住居跡	128	278.926	278.435	49	-			10往	
254	15号住居跡	129	278.905	278.064	90	-	○		10往	22
255	15号住居跡	130	278.965	278.376	60	-			10往	
256	15号住居跡	131	278.987	278.772	13	-			10往	
257	15号住居跡	132	278.897	278.731	17	-			10往	
258	15号住居跡	133	278.929	278.365	56	-			10往	
259	15号住居跡	134	278.869	278.706	17	-			10往	
260	15号住居跡	135	278.892	278.780	11	-			10往	
261	15号住居跡	136	278.925	278.226	70	-	○		10往	20
262	15号住居跡	137	278.925	278.622	30	-			10往	
263	15号住居跡	138	278.925	278.349	58	-	○		10往	18
264	15号住居跡	139	278.925	278.652	27	-			10往	
265	15号住居跡	140	278.933	278.699	29	-	○		10往	19
266	15号住居跡	141	278.994	278.547	5	-		17往 P P 9	10往	
267	15号住居跡	142	279.099	278.301	80	-		17往 P P 10	10往	
268	15号住居跡	143	278.506	278.438	12	-		17往 P P 11	10往	
269	15号住居跡	144	278.497	278.436	6	-		17往 P P 12	10往	
270	15号住居跡	1	278.764	278.518	25	-	○		14往	1

第5表 柱穴一覧 (6)

番号	道標名	柱穴名	施設面高(m)	施設側高(m)	深さ(cm)	覆土	洗浄	指標式遺跡	旧遺跡名	旧柱穴名
271	16号住居跡	2	278.632	278.487	15	-	○	14住	2	
272	16号住居跡	3	278.685	278.256	43	-	○	14住	3	
273	16号住居跡	4	278.803	278.744	6	-		14住		
274	16号住居跡	5	278.798	278.690	11	-		14住		
275	16号住居跡	6	278.813	278.730	8	-		14住		
276	17号住居跡	1	278.322	278.186	34	-	○	15住 P P 118	10・21住	26
277	17号住居跡	2	278.547	278.166	38	-	○	15住 P P 119	10・21住	27
278	17号住居跡	3	278.532	278.242	31	-		15住 P P 120	10・21住	
279	17号住居跡	4	278.597	278.318	28	-		15住 P P 121	10・21住	
280	17号住居跡	5	278.590	278.502	8	-		15住 P P 123	10・21住	
281	17号住居跡	6	278.579	278.397	18	-			21住	
282	17号住居跡	7	278.618	278.469	15	-			21住	
283	17号住居跡	8	278.609	278.479	13	-			21住	
284	17号住居跡	9	278.594	278.547	5	-		15P P 141	10・21住	
285	17号住居跡	10	279.099	278.304	80	-		15住 P P 142	10・21住	
286	17号住居跡	11	278.556	278.436	12	-		15CP P 143	10・21住	
287	17号住居跡	12	278.497	278.436	6	-		15住 P 144	10・21住	
288	19号住居跡	1	279.121	279.156	27	10YR2/2 黒褐色		20住 P P 1	11・22住	
289	19号住居跡	2	279.463	279.016	45	10YR2/2 田褐色	○	20住 P P 2	11・22住	1
290	19号住居跡	3	279.480	279.197	28	10YR2/2 黒褐色		20住 P P 3	11・22住	
291	19号住居跡	4	279.490	279.399	12	10YR2/2 黒褐色		20住 P P 4	11・22住	
292	19号住居跡	5	279.507	279.406	10	10YR2/2 黒褐色		20住 P P 5	11・22住	
293	19号住居跡	6	279.583	279.467	12	10YR2/2 黒褐色		20住 P P 7	11・22住	
294	19号住居跡	7	279.553	279.462	9	10YR2/2 黒褐色		20住 P P 8	11・22住	
295	19号住居跡	8	279.341	279.305	4	10YR2/2 黒褐色	○	20住 P P 9	11・22住	2
296	20号住居跡	1	279.421	279.156	27	10YR2/2 黒褐色		16住 P P 1	22住	
297	20号住居跡	2	279.463	279.016	45	10YR2/2 黒褐色	○	16住 P P 2	22住	1
298	20号住居跡	3	279.480	279.197	28	10YR2/2 黒褐色		16住 P P 3	22住	
299	20号住居跡	4	279.490	279.399	12	10YR2/2 黒褐色		16住 P P 4	22住	
300	20号住居跡	5	279.507	279.406	10	10YR2/2 黒褐色		16住 P P 5	22住	
301	20号住居跡	6	279.531	279.293	22	10YR2/2 田褐色			22住	
302	20号住居跡	7	279.585	279.467	12	10YR2/2 黑褐色		16住 P P 6	22住	
303	20号住居跡	8	279.533	279.492	9	10YR2/2 黒褐色		16住 P P 7	22住	
304	20号住居跡	9	279.341	279.305	4	10YR2/2 黑褐色	○	16住 P P 8	22住	2
305	20号住居跡	10	279.476	279.412	6	10YR2/2 黑褐色			22住	
306	20号住居跡	11	279.414	279.320	9	10YR2/2 黑褐色			22住	
307	20号住居跡	12	279.341	278.877	46	10YR2/2 黑褐色			22住	
308	20号住居跡	13	279.495	279.370	13	10YR2/2 黑褐色			22住	
309	20号住居跡	14	279.415	279.166	28	10YR2/2 黑褐色			22住	
310	20号住居跡	15	279.560	279.244	32	10YR2/2 黑褐色			22住	
311	20号住居跡	16	279.566	279.267	29	10YR2/2 黑褐色			22住	
312	22号住居跡	1	283.273	283.183	9	10YR2/1 黒色			17住	
313	22号住居跡	2	283.281	282.976	31	10YR2/1 黒色			17住	
314	22号住居跡	3	283.280	283.037	24	10YR2/1 黒色			17住	
315	22号住居跡	4	283.288	283.124	14	10YR2/1 黒色			17住	
316	22号住居跡	5	283.262	283.117	15	10YR2/1 黒色			17住	
317	22号住居跡	6	283.633	283.438	18	10YR2/1 黒色			17住	
318	22号住居跡	7	283.265	282.992	27	10YR2/1 黒色			17住	

5 出土遺物

(1) 土 器

土器が大コンテナ ($30 \times 40 \times 30\text{cm}$) で30箱程度出土した。総重量は419.8kg、グリッドごとの重量は第61図にしめた。

住居跡覆土内に遺物が多く含まれることから、05区中段平場 (70グリッド付近)、南斜面下部 (10Rグリッド付近)、06区谷部南 (12Mグリッド付近) に出土量が多い。これらの範囲では、遺物包含層も形成されており (III (~IV) 層) さらに量が増える。これに対し、中段平場より南のO~Sグリッド列では、遺構が確認されていない範囲にも包含層が存在し全体的に遺物が出土している。とくに住居跡よりも斜面下方のグリッドに遺物量が多く、9Pグリッドと10Pグリッドのように、斜面上方の住居覆土よりも斜面下方の包含層の方が遺物量の多い場合もみられる。住居の覆土上、斜面上方から下方へ向って堆積し、下方側の床面はこれに伴い削られ消失している例が多いことから、土器やこれ以外のものを含めて遺構内の遺物が斜面下方へ流れていったものと考えられる。南斜面中腹や谷部南の10L・11Lグリッド付近に多く包含層が形成されているのは斜面上方の遺構からの流れた結果と考えられる。遺構間、グリッド間でも斜面上方と下方の接合が多く、14号住居のように床面の遺物が新しく、覆土上部の方が古いという例もみられた。そのため斜面上方の出土地点を、その遺物の位置として掲載している (一部37・71のように、帰属遺構を間違えてしまったものもある。)。

土坑群の分布する06区谷部北 (5J付近)、07区では、遺構内に遺物はほとんど含まれず、包含層も形成されていない。06区西斜面では遺構が検出されないもの、少量ではあるが遺物が全体的に出土している。推測にしかならないが、06区西斜面は、07区土坑分布範囲から遺物が流入する傾斜方向ではないため、西斜面の北側、調査区外に遺構が存在する可能性が考えられる。

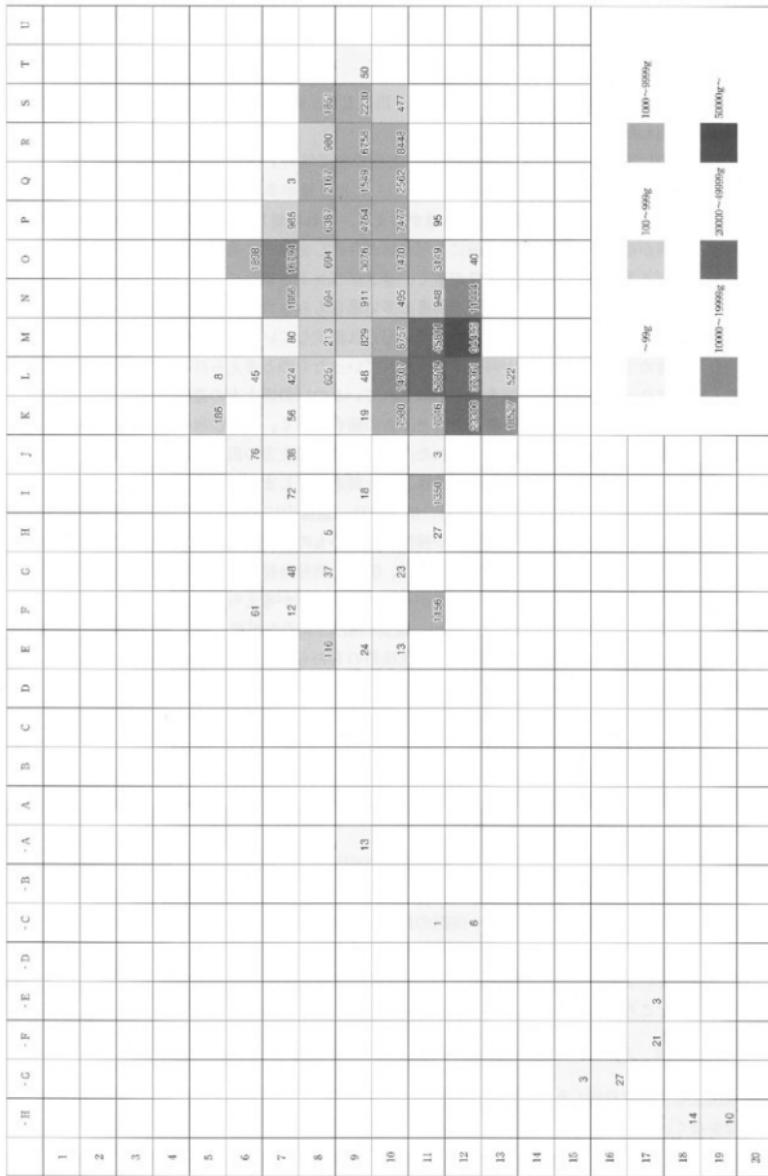
これらの出土土器は接合・復元作業を行い、選別の結果348点を掲載した。このうち大半が縄文時代後期のもので、これに次いで晩期、早期・弥生後期のものも若干含まれている。

後期の遺物は、竪穴住居跡の大半がこれに属するため、遺跡全体から出土する。初頭は少なく (414・518件)、次いで中葉 (83・115・133・157・240・411・582件)、後様のものが最も多い (44・50・53・73・197・282・330・334・344・559・574件)。これは住居跡の数に比例する。晩期の遺物 (116・253・259・300・470・550件) は06区谷部南と05区南斜面からの出土が多い。前者は住居跡が存在するが、後者は包含層のみである。弥生土器 (443・426・463・524・525・540件) も、05区谷部南に出土している。

早期の遺物総量は3.58kg、約150点である。大半が05区9Q~10Rグリッド付近に集中しており、07区中央~西斜面でも少量確認された。黒色土を主体とするVIb層下部から褐色土主体のVIc層上部、特に両層の境界に多く遺物が含まれる。06区の出土位置を示したのが第62・63図である。地点が離れて接合する例が多く確認されており、おそらく斜面上方から流れ込んだものと考えられる。同期の遺構は確認されていない。また、これらの土器のうち煤が付着しているものがあったため、これの年代測定を行ったところ、yrBP8345±47年という結果を得た。

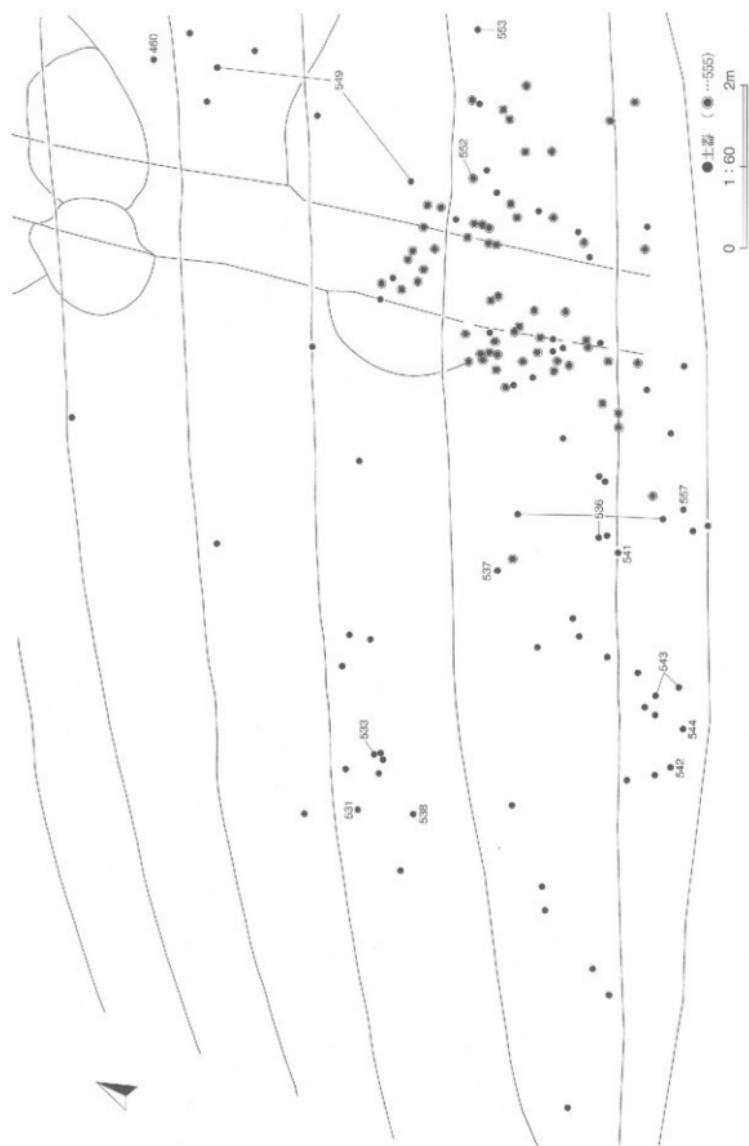
(2) 土 製 品

91点出土し、全点登録した。住居覆土およびIII層からの出土が多く上器と同様の状況を示すが、05区には少なく、06区谷部南に多く集中する。種類の内訳は土偶9点、スタンプ型土製品2点、球状土製品3点、有孔土製品1点、ミニチュア土器2点、粘土塊7点、円盤状土製品67点である。





第62図 早期遺物出土状況（1）



第63図 早期遺物出土状況（2）

土偶は完形のものではなく頭部3体、胴部3体、腕部1体、脚部2体、いずれも縄文時代後期のものである。730は7Eグリッドより胴部が、11Lグリッドより腕が出土し接合した。土偶以外の土製品はすべて、谷部南側より出土している。724は土製品として登録したが、割れ口にアスファルトが付着しており、土器の脚部の可能性が高い。円盤状土製品は、67点中37点が住居内から出土した。各住居とも1~4点程度であるが、19号住居からは9点と多い。同住居は円盤状石製品も8点（調査区全体では11点）出土している。

(3) 石 器

包含層から縄文時代早期の石器、堅穴住居を中心に縄文時代後期の石器が1015点出土した。これら多くの多くが主に11K~11Mグリッドより南、最も標高の低い谷部から出土している。石器の中でも磨製石斧の出土量が突出する。

石鎌

尖頭部を持つ石器で、50点出土している。基部の有無で大別し、無茎鎌のみ基部形状で細分している。石材は頁岩が主体である。

有茎鎌は14点掲載している（S-1・2・14・17・20・22・28・30~32・34・36・38・46）。綫長の形状（S-31ほか）と長軸と幅がほぼ同一の三角形の形状（S-30ほか）に分けられるが、ほぼ同じ削合で存在している。S-1は磨製石鎌。S-30・31は基部にアスファルトが付着している。S-32は形状は尖頭状を呈しているが、形状がS-31に類似していることから未製品もしくは失敗品を想定できる。S-148の土器内には完形品3点（S-7~9）がまとまって出土している。

無茎鎌は7点掲載している（S-3・4・16・24・26・35・49）。凹形のもの（S-35）、直線上や弧状のもの（S-26・49）、凸形のもの（S-16）、二次加工を伴わないもの（S-3・24）などがある。無茎鎌そのものが少ないことから、大半は有茎鎌の失敗品と考えられる。

石匙

摘み部と刃部により形成されている石器で、7点出土している。摘み部と刃部の角度により分類している。石材は頁岩が主体である。

摘み部と刃部が直交するものは1点ある（S-54）。摘み部と刃部が斜交するものは3点、（S-52・53・55）を掲載している。S-53は摘み部にアスファルトが付着している。

スクレイパー類

1個縁に半分以上に二次加工が施されている石器で、16点出土している。石材は頁岩が主体である。一個縁に二次加工が施され、背面もしくは腹面の片側に認められると両面に認められるもの（S-65）がある。二個縁以上に二次加工が施され、U・V字状の形状を呈するものが多く認められる（S-51・58・60・61・66）。周縁加工に加工が施されるものがあり、背面側のみ二次加工が認められるものの（S-73）と両面に二次加工が認められるもの（S-62・63・69・72）がある。

石錐

錐部が形成されている石器で、7点出土している。摘み部を有するもの（S-77・78）と摘み部が無い錐部のみのもの（S-74）がある。石材は頁岩が主体である。

不定形石器

スクレイバーに含まれない二次加工が施されているものをすべて含めている。18点出土している。石材は頁岩が主体である。

両面体に剥離が認められるもの（S-90）がある。

異形石器

1点（S-99）のみの出土で、三つ又の突起を有するものである。

楔形石器

両端に刃部が形成され、断面が紡錘形を有する石器で、59点出土している。石材は頁岩が主体である。基本的に1対の刃部を有するものである（S-104・118・124・132）。

石核

剥片剥離が行われているもので、5点出土している。S-162・159は集落の時期に伴う資料であり、不定形剥片を連続して剥離していたことが看取される。剥片は301点出土していることからも、積極的に剥片剥離作業が行われていたと窺える。S-160は早期に該当する資料である。

磨製石斧

研磨が施された石器で、88点出土している。完形品は少なく、製作段階中の欠損品が多く出土している。石材は安山岩が主体である。

完成品はS-201・204・220・236・246他である。一部に剥離及び敲打痕が認められるものの、表面は研磨が施されている。所謂「定格式」である。大きさは、10cm未満（小型）、10~14.9cm（中型）、15cm以上（大型）が認められるが、中型が多い。また、刃部が欠損品した後敲石に転用したものがある（S-188）。

欠損品は83点である。使用中に欠損したものと製作工程中（剥離・剥離+敲打・剥離+敲打+研磨・剥離+研磨）に欠損しその工程を把握できるものがある。

使用中による欠損と考えられるものにはS-173・218・219がある。全面が研磨されており、刃部もしくは基部が欠損している。

製作工程中の欠損と考えられるものもある。（剥離段階）は4点あり、どちらも自然面を残している（S-166・167・192・214）。（剥離+敲打）は、この工程で廃棄されているのは2点である（S-208・216）。（剥離+敲打+研磨）は、遺跡で多く出土している。中間部位で折れ破損しているものが多い（S-224・225他）。

製作段階で廃棄された遺物の中で全体形状を確認でき、規模を把握できるものから推定していくと全般的に中型を製作していたと考えられる。

製作工程別の欠損資料を概観する。製作段階で出る剥片が少ないと（剥離+敲打+研磨）の資料点数が多いことは、遺跡外の原材料を獲得しやすい場所で製作された（剥離）工程済みのものを遺跡内に持ち込み、（剥離+敲打）段階から遺跡内で作業が開始されていたと考えができる。このことから他の石器とは異なり磨製石斧を製作する上で、遺跡間の工程別作業形態が背景に成立していたと捉えられる。

石錘

19点出土している（S-260・265・266・268・269・272・273・275）。すべて両端に抉り部を有するものである。石材は頁岩が主体である。

砾石器

砾に敲打痕や擦痕を作うもので、形成箇所により以下のように区分できる。石材は安山岩が主体である。

敲石は敲打痕が認められる石器で、24点出土している。敲打痕の形成部位で分類でき、敲打痕が端部にあるもの（S-279他）、扁平な面にあるもの（S-289他）、全面にあり多面体形状のもの（S-284・338他）が認められる。

磨石は擦痕が形成されている石器で、17点出土している。磨面の形成部位で分類でき、扁平の面に磨面があるもの（S-306・310・354）と縁辺部に磨面があるもの（S-312～315・316）、全面に磨面があり多面体・サイコロ状のものが認められる。

敲打痕と磨面の両者が認められる石器で、53点出土している。周縁部に敲打痕と扁平部に磨痕で構成されている。使用している砾の形状は、円・椭円形を選択しているが、S-331・373のように小型の隅丸方形状なども認められる。

石皿は14点出土している。扁平な磨面が擦痕のみで形成されているもの（S-380・381）とそれに加えて溝状痕跡が認められるもの（S-379・383）がある。

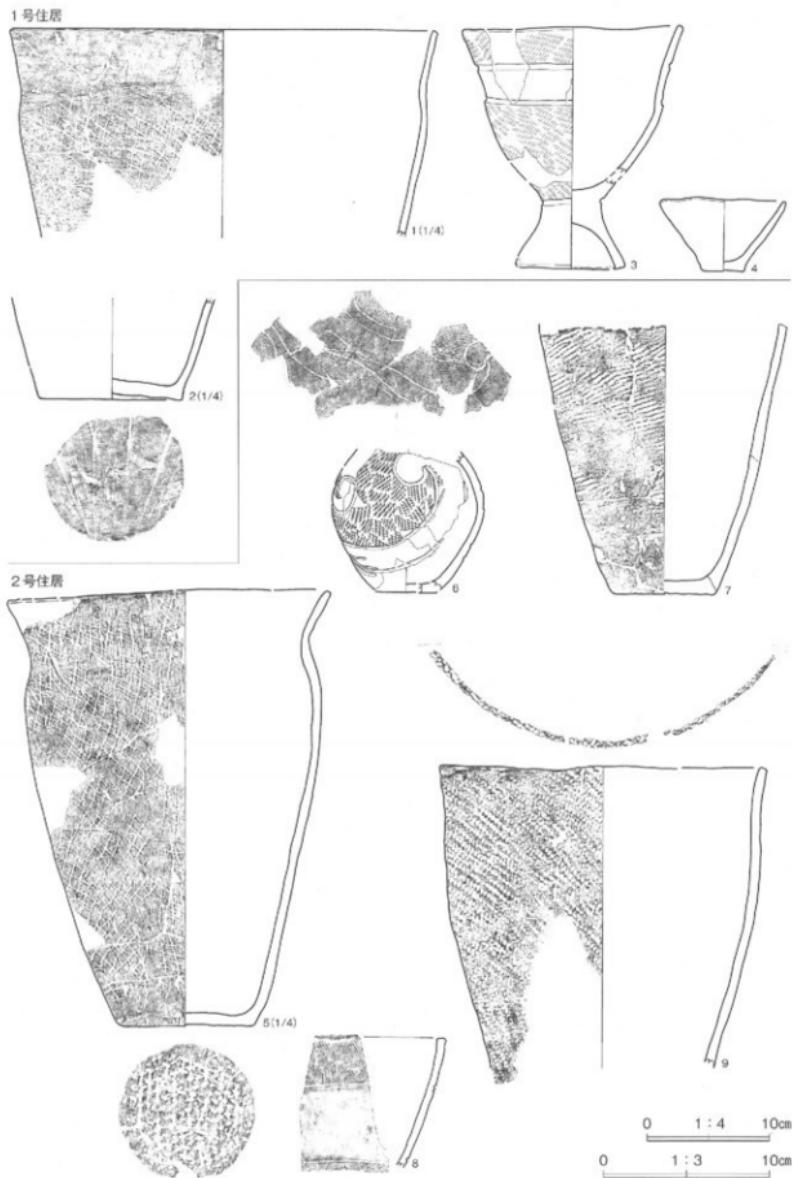
砾器は一部に刃部を作う石器で、18点出土している。S-395・397・398・400などが該当する。早期の可能性があるものはS-395・397・398である。

（4）石 製 品

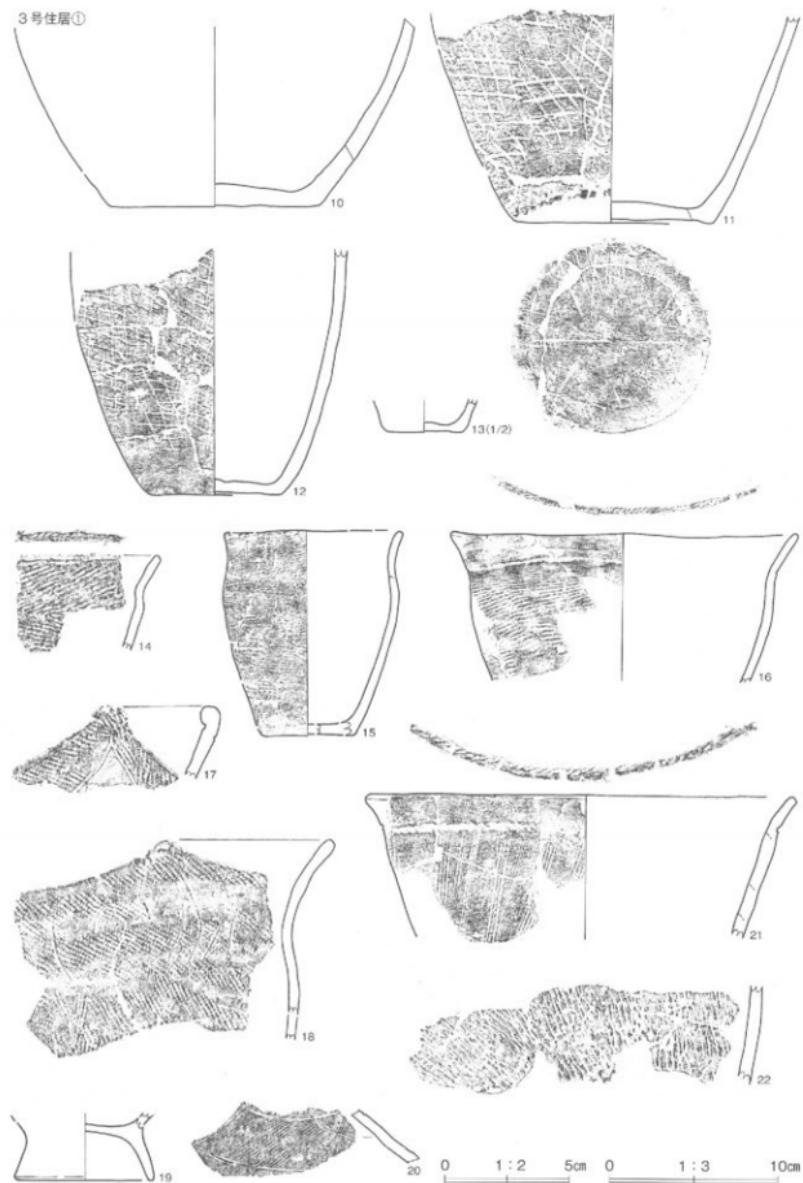
円盤状石製品は11点出土している。周縁に細かな二次加工が施されている。

浮右石製品は14点出土している。S-423は有孔のものである。石材はすべて軽石である。

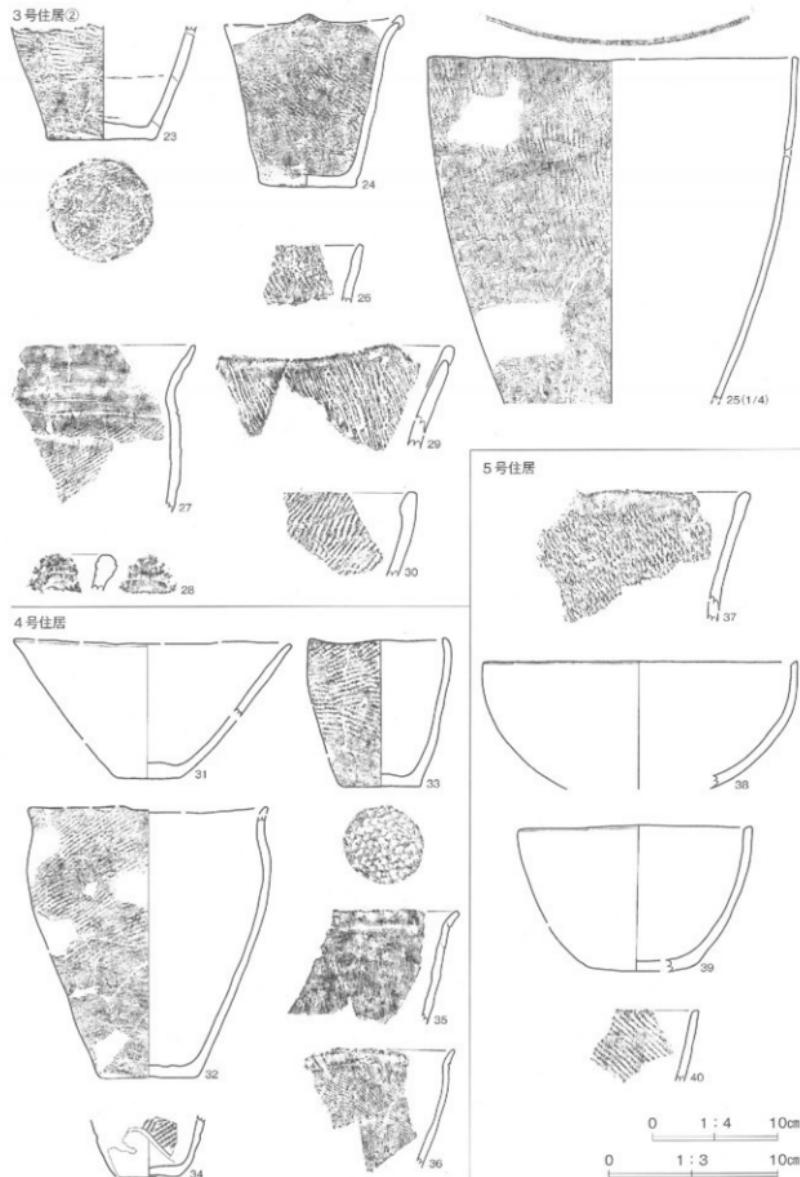
三角塔石製品は各面が磨面により形成されているものである（S-433）。



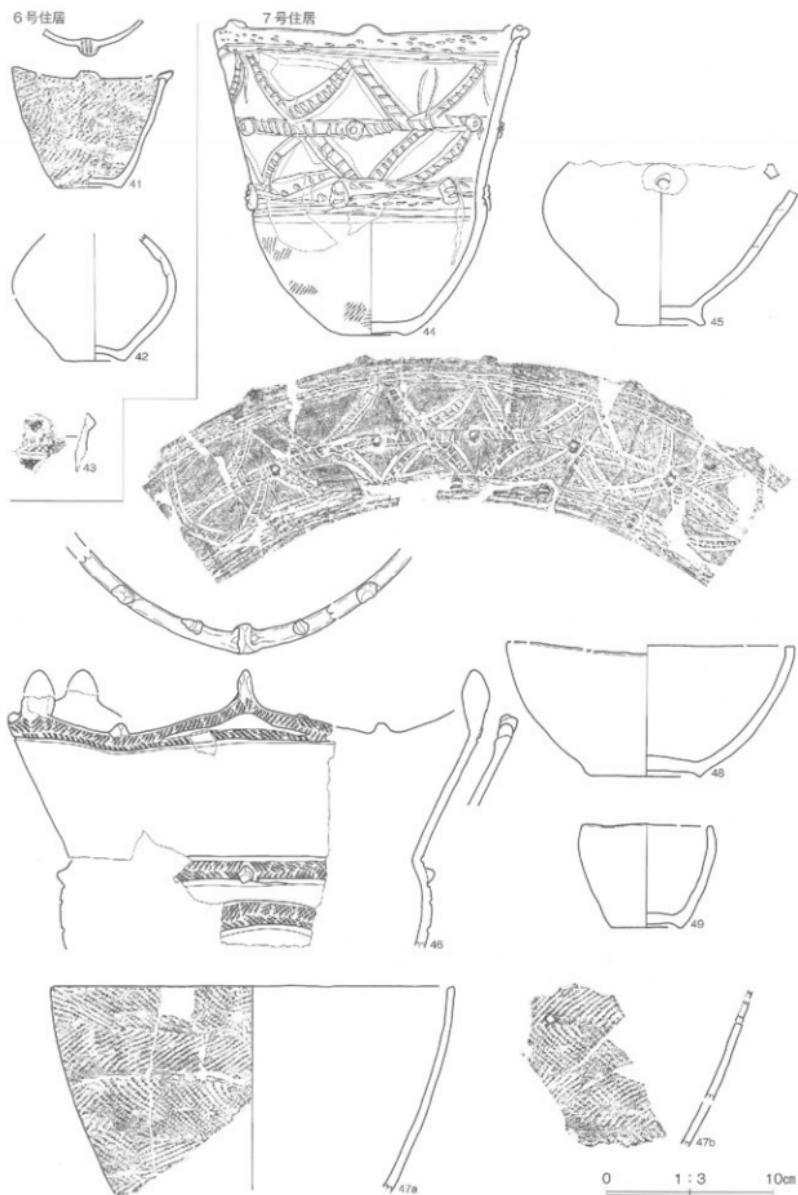
第64図 遺構内出土土器（1）



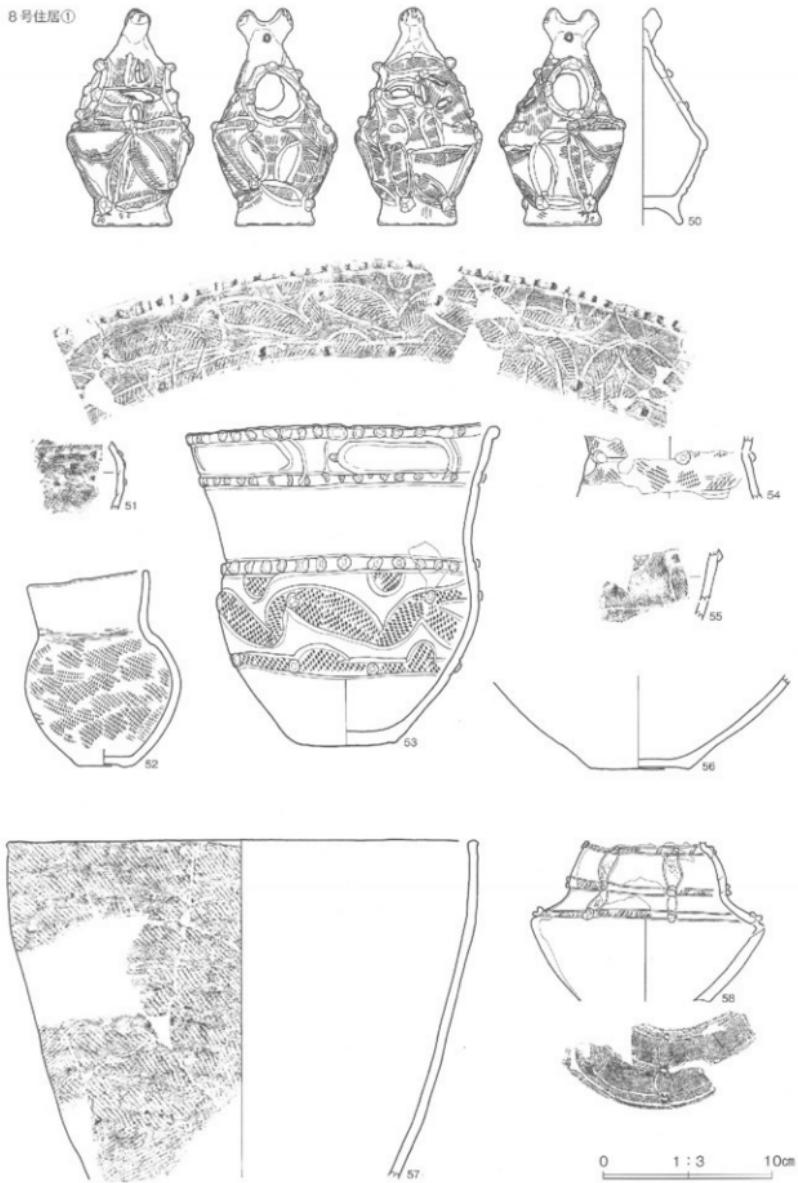
第65図 遺構内出土土器 (2)



第66図 遺構内出土土器 (3)

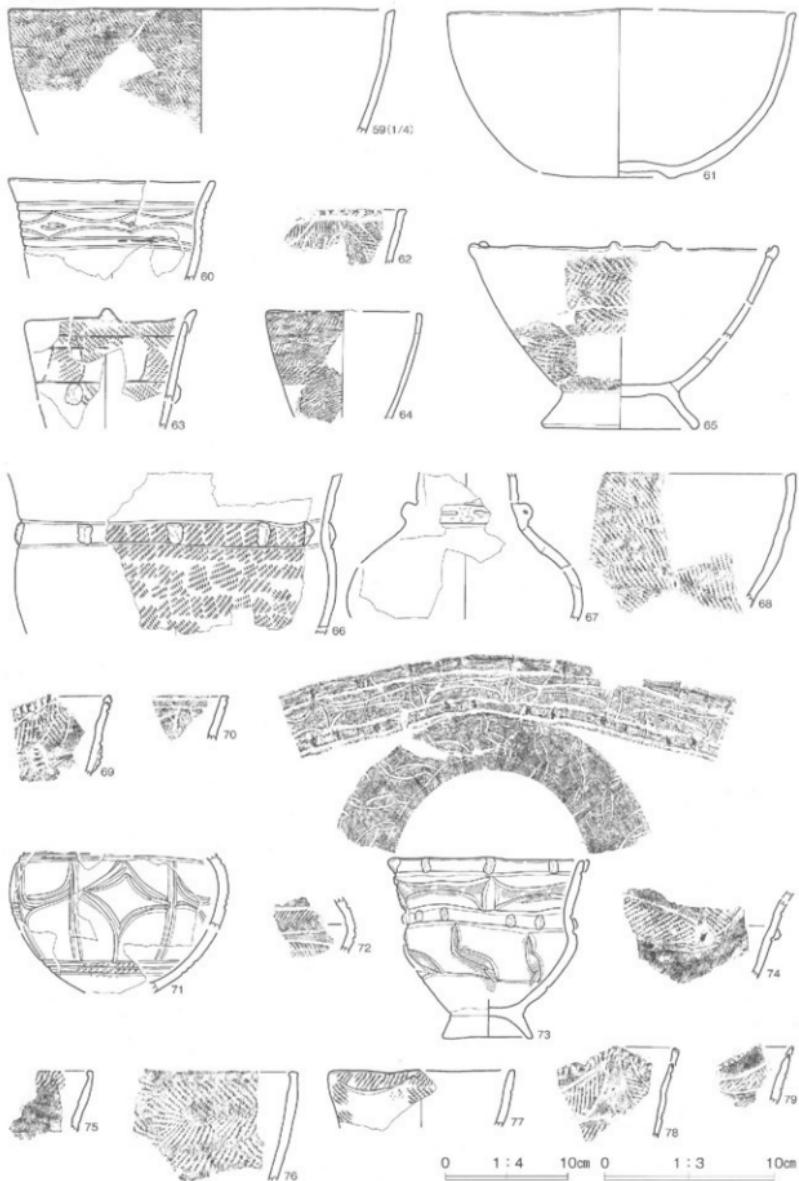


第67図 遺構内出土土器（4）



第68図 遺構内出土土器（5）

8号住居②

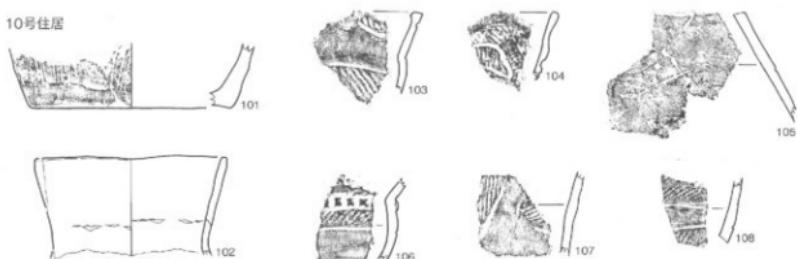


第69図 遺構内出土土器 (6)

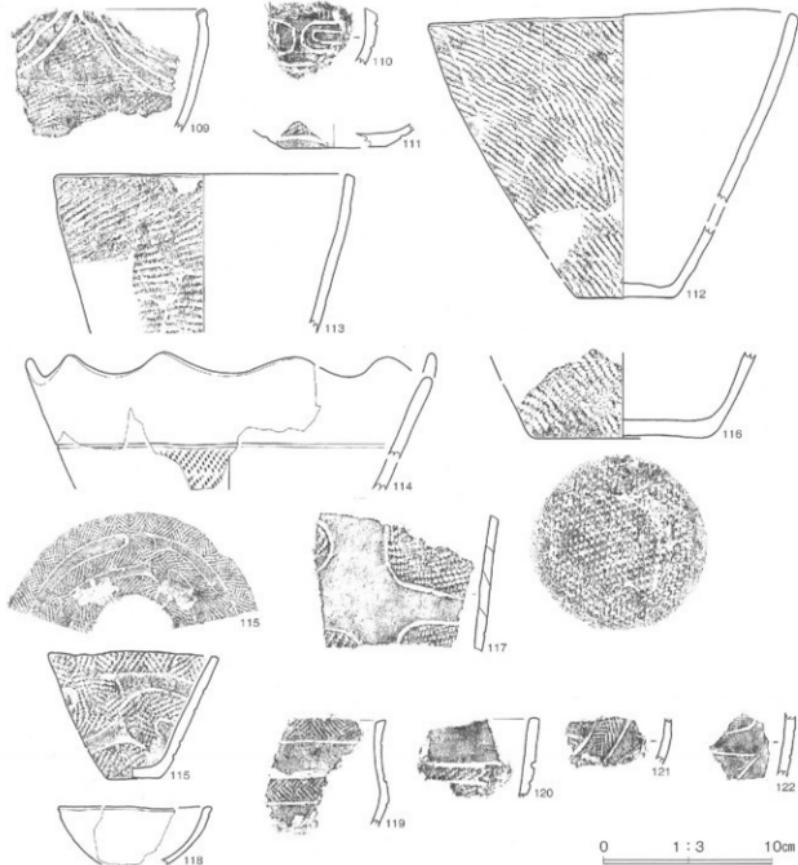


第70図 遺構内出土土器 (7)

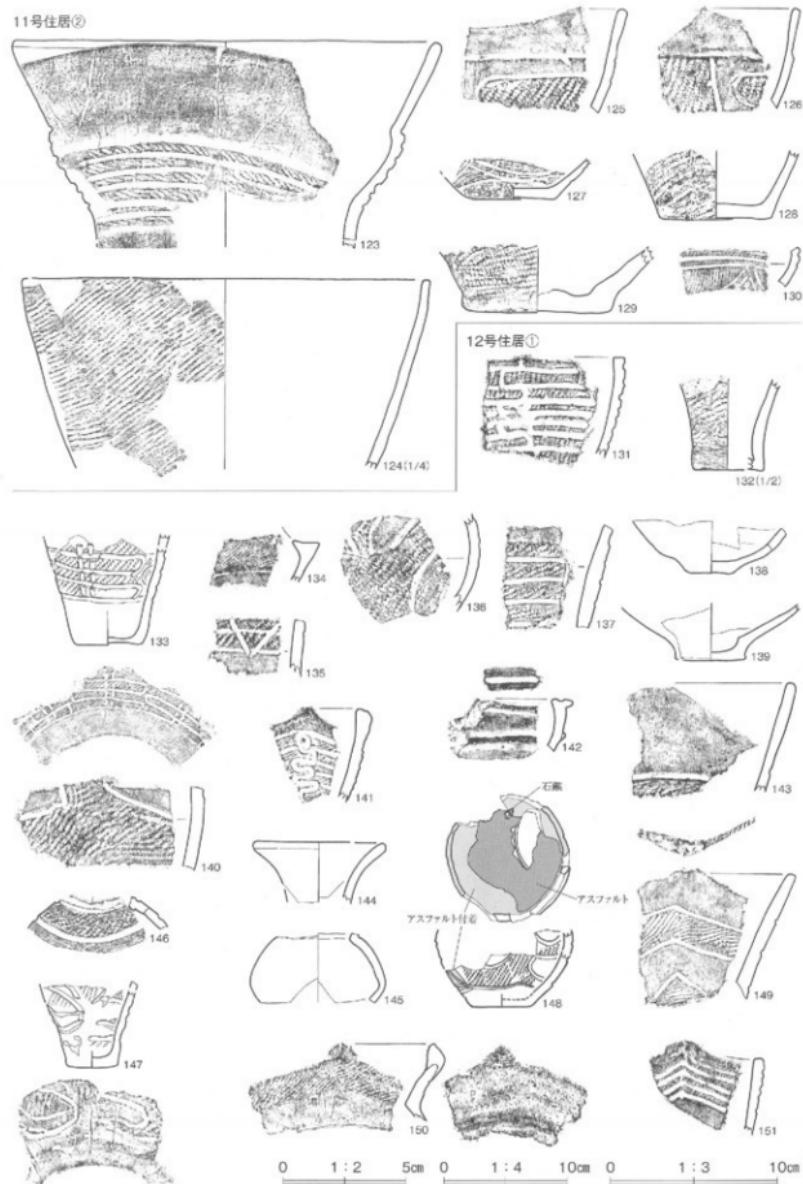
10号住居



11号住居①

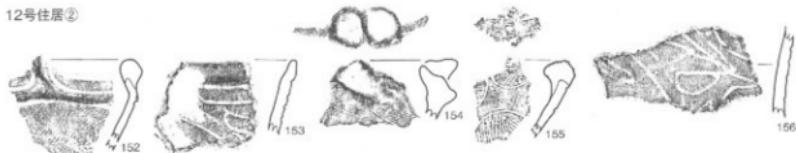


第71図 遺構内出土土器（8）

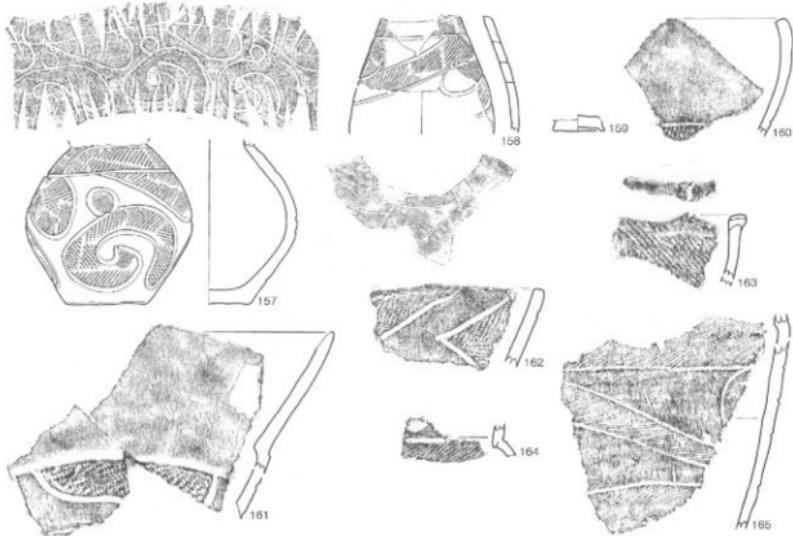


第72図 遺構内出土土器（9）

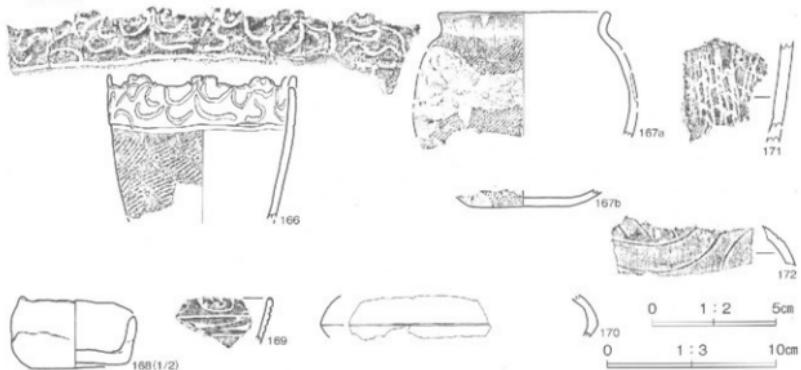
12号住居②



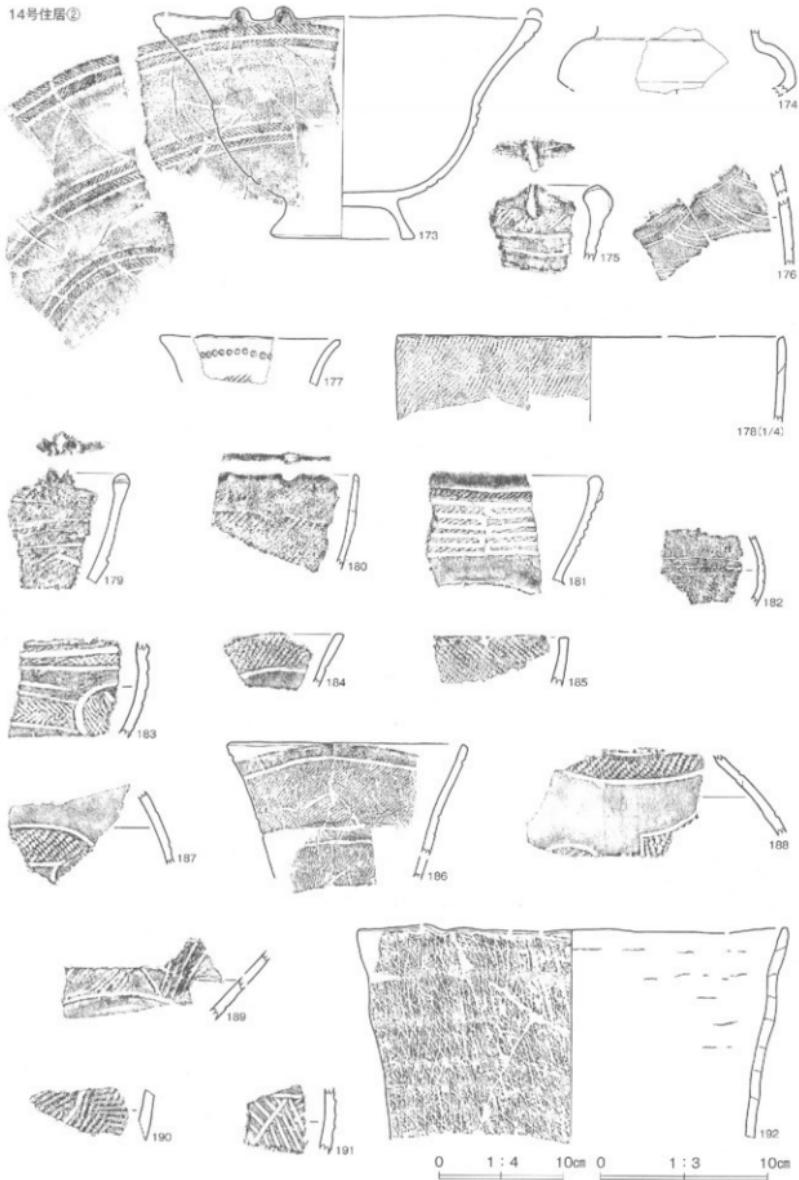
13号住居



14号住居①

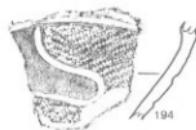
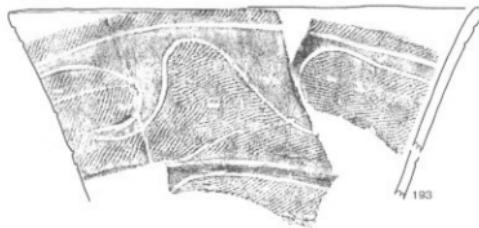
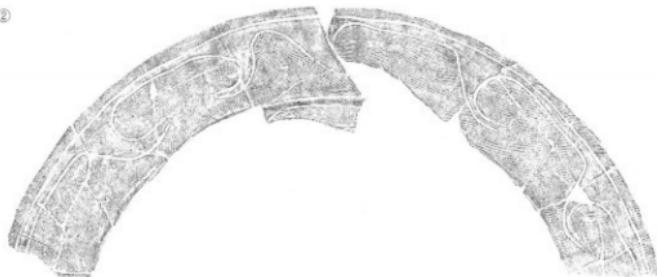


第73図 遺構内出土土器 (10)

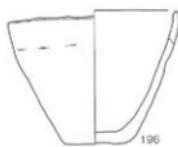
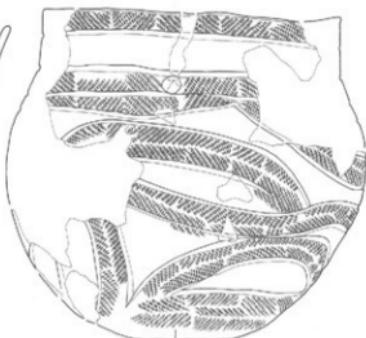
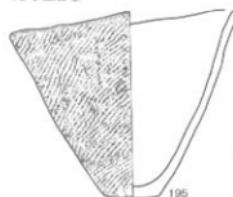


第74図 遺構内出土土器 (11)

14号住居②



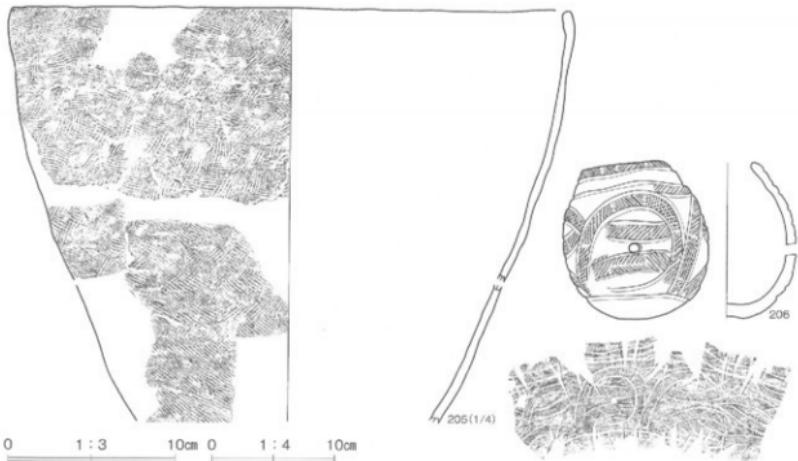
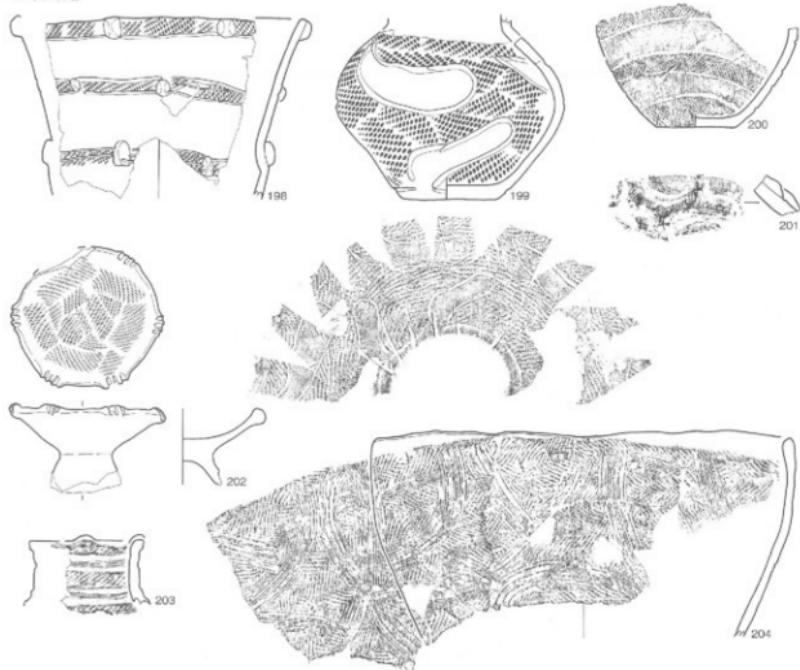
15号住居①



0 1 : 3 10cm

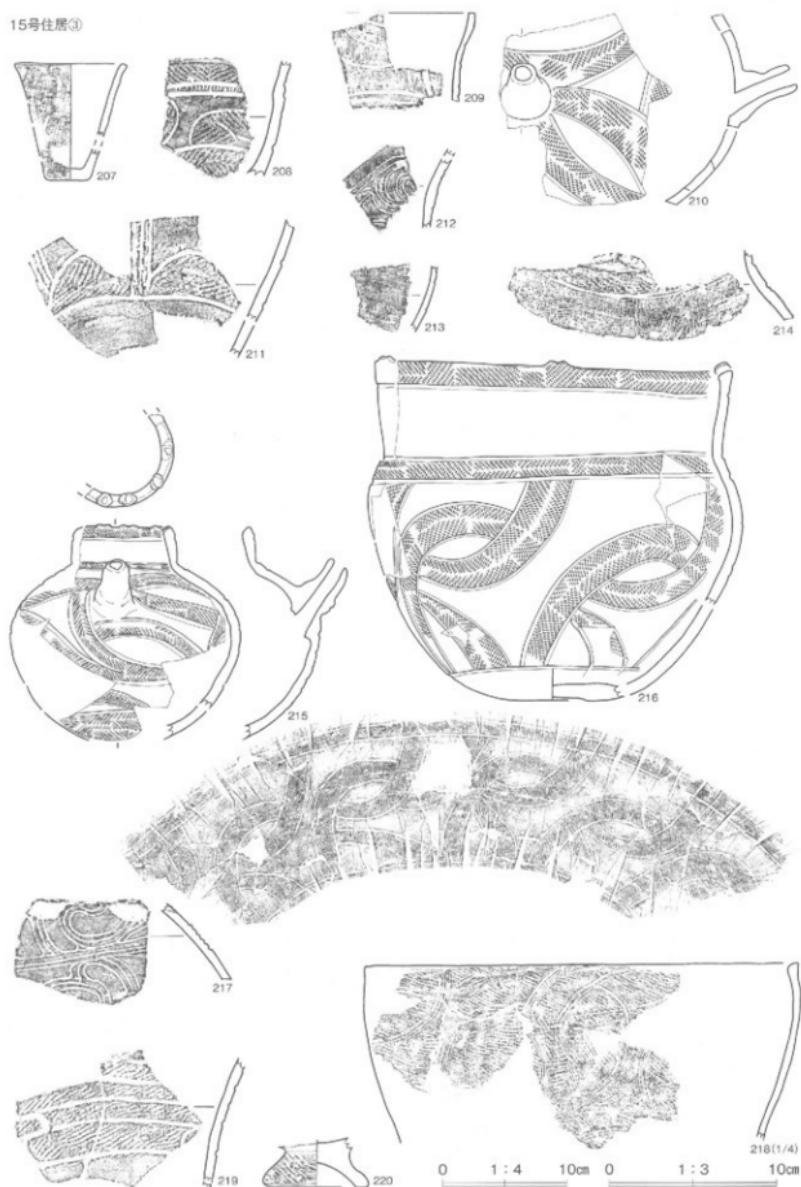
第75図 遺構内出土土器 (12)

15号住居②



第76図 遺構内出土土器 (13)

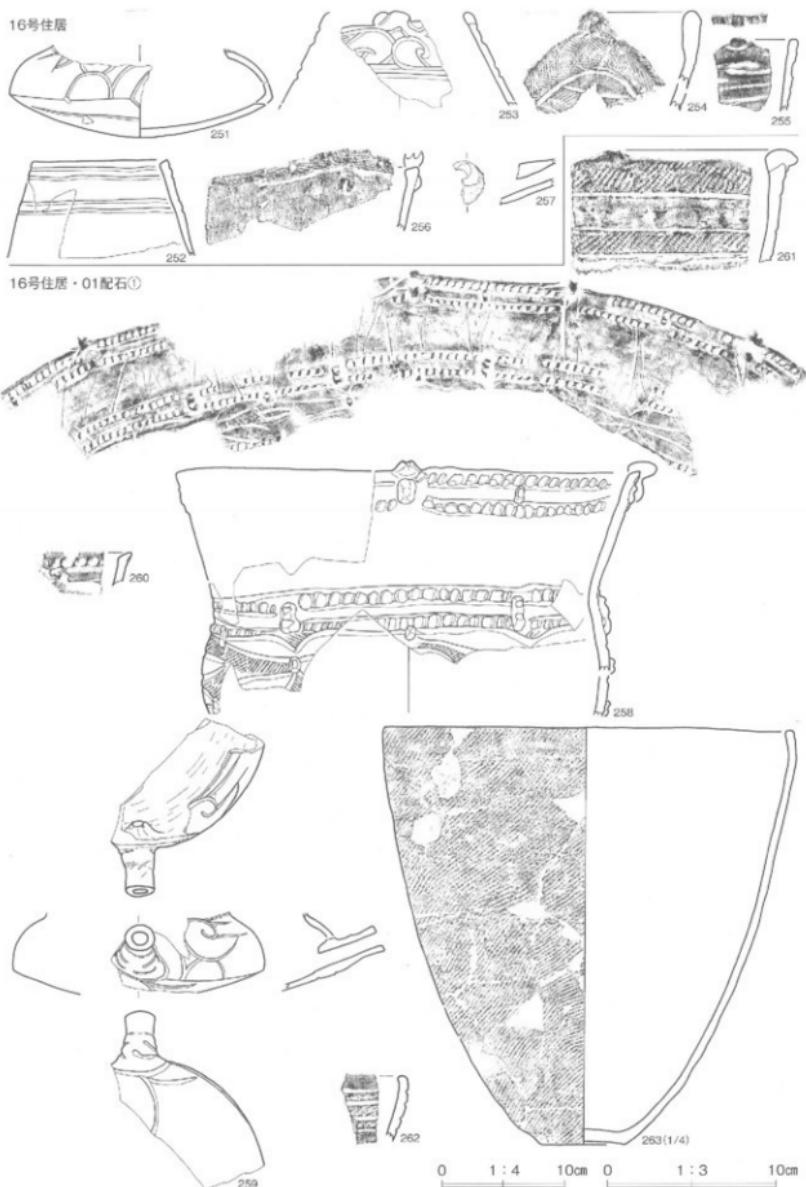
15号住居③



第77図 遺構内出土土器 (14)

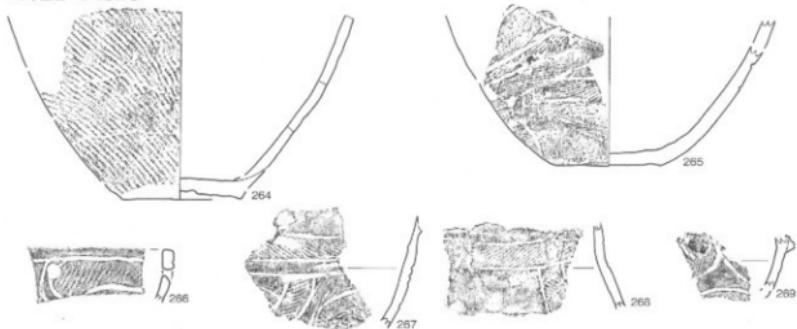


第78図 遺構内出土土器 (15)

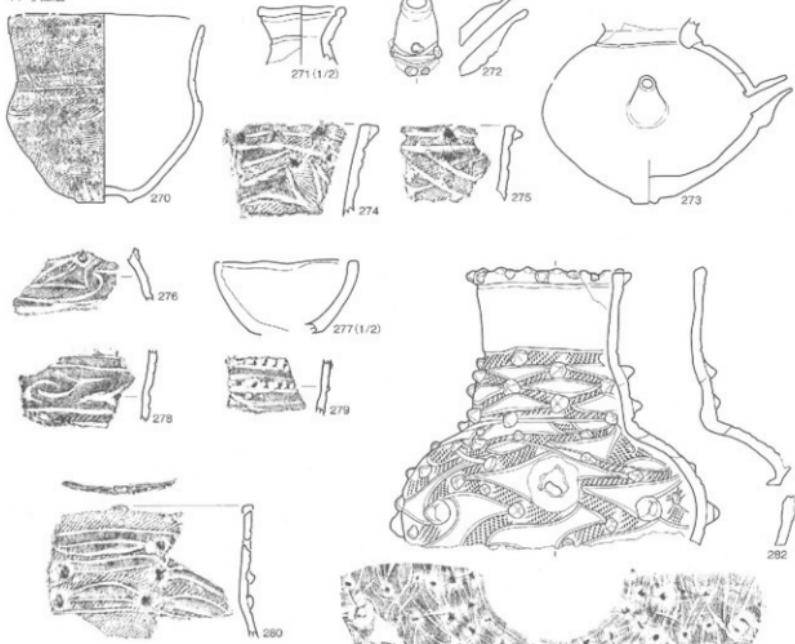


第79図 遺構内出土土器 (16)

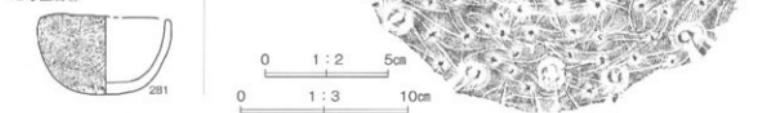
16号住居・01配石②



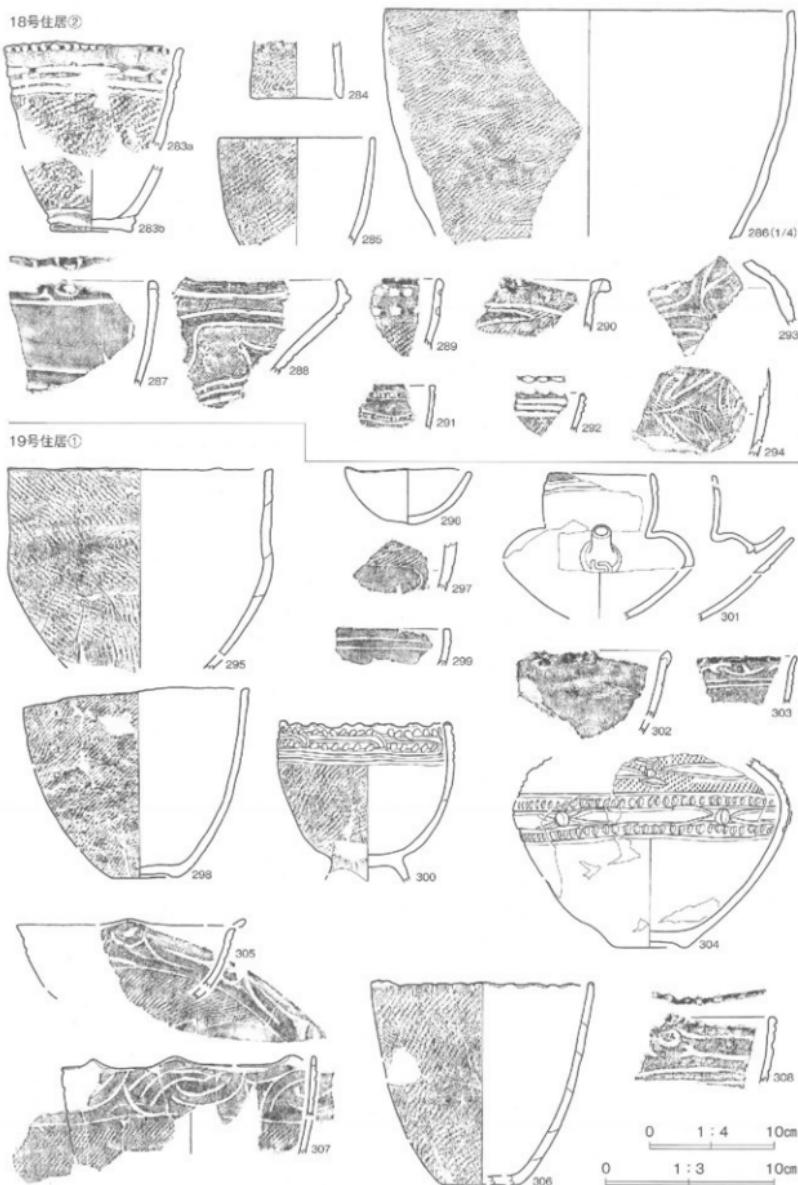
17号住居



18号住居①



第80図 遷構内出土土器 (17)

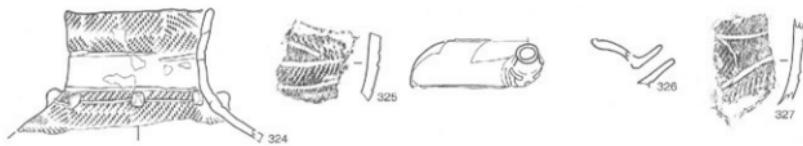


第81図 遺構内出土土器 (18)

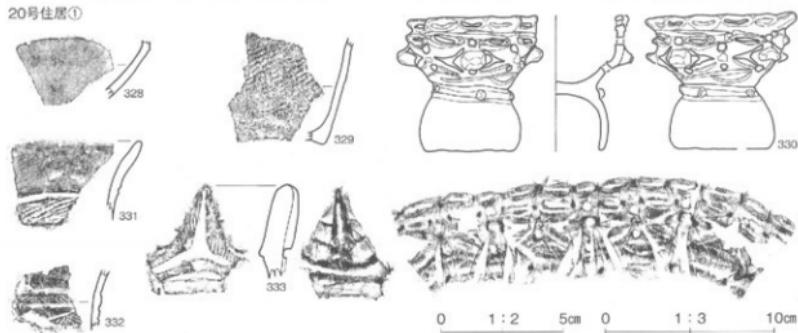
19号住居②



19・20号住居

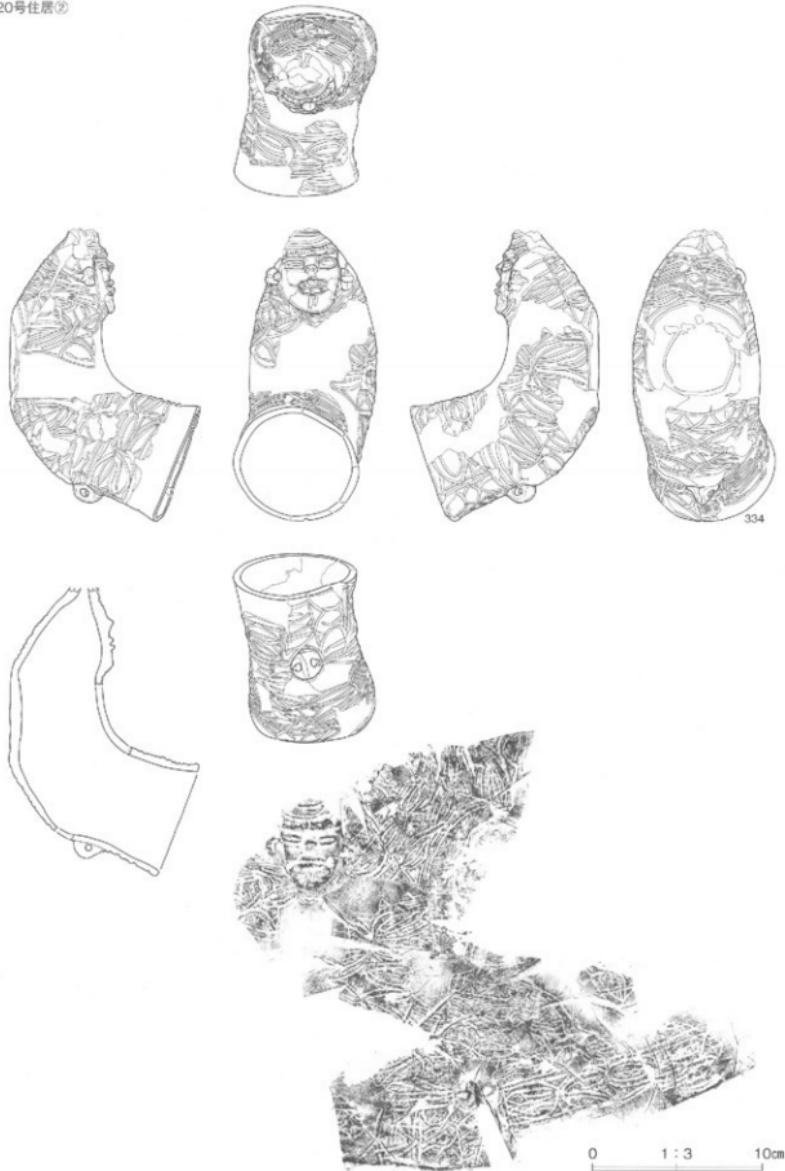


20号住居①



第82図 遺構内出土土器 (19)

20号住居②



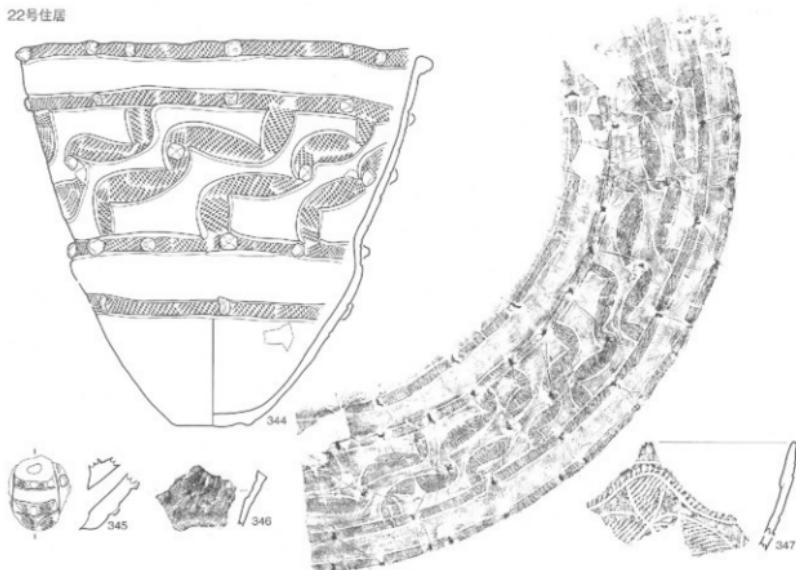
第83図 遺構内出土土器 (20)

21号住居

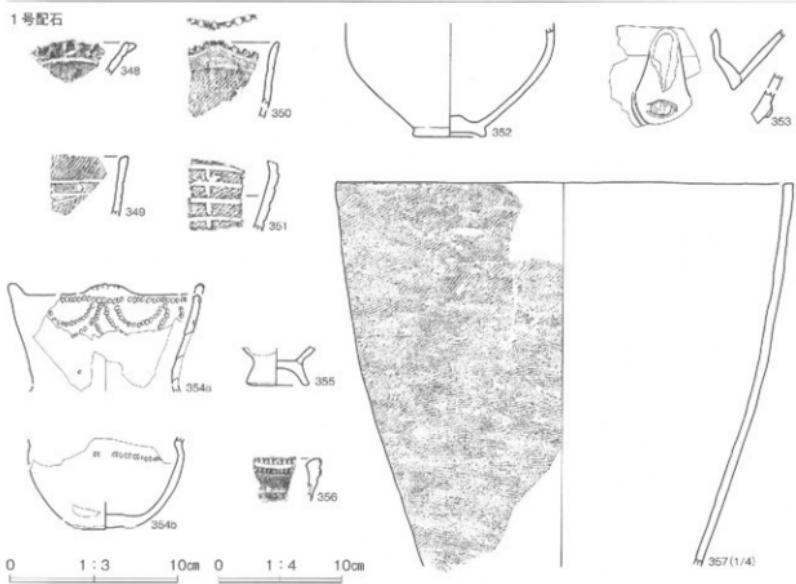


第84図 遺構内出土土器 (21)

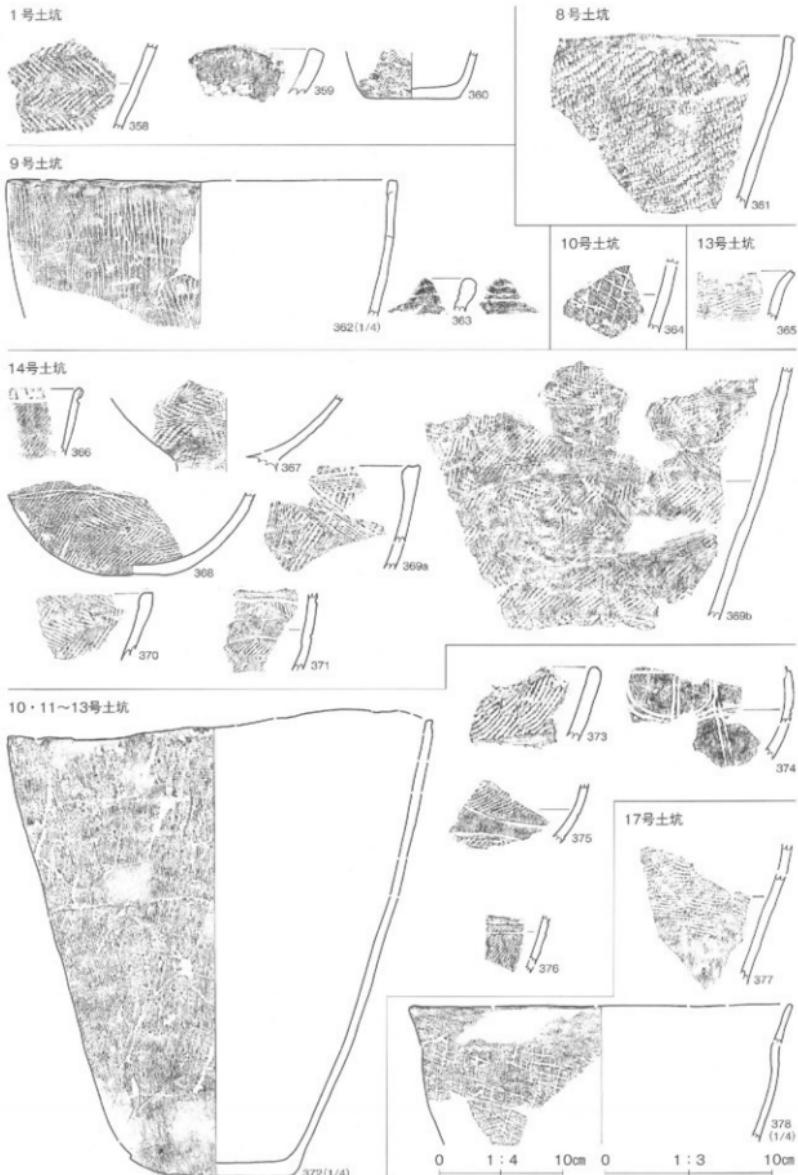
22号住居



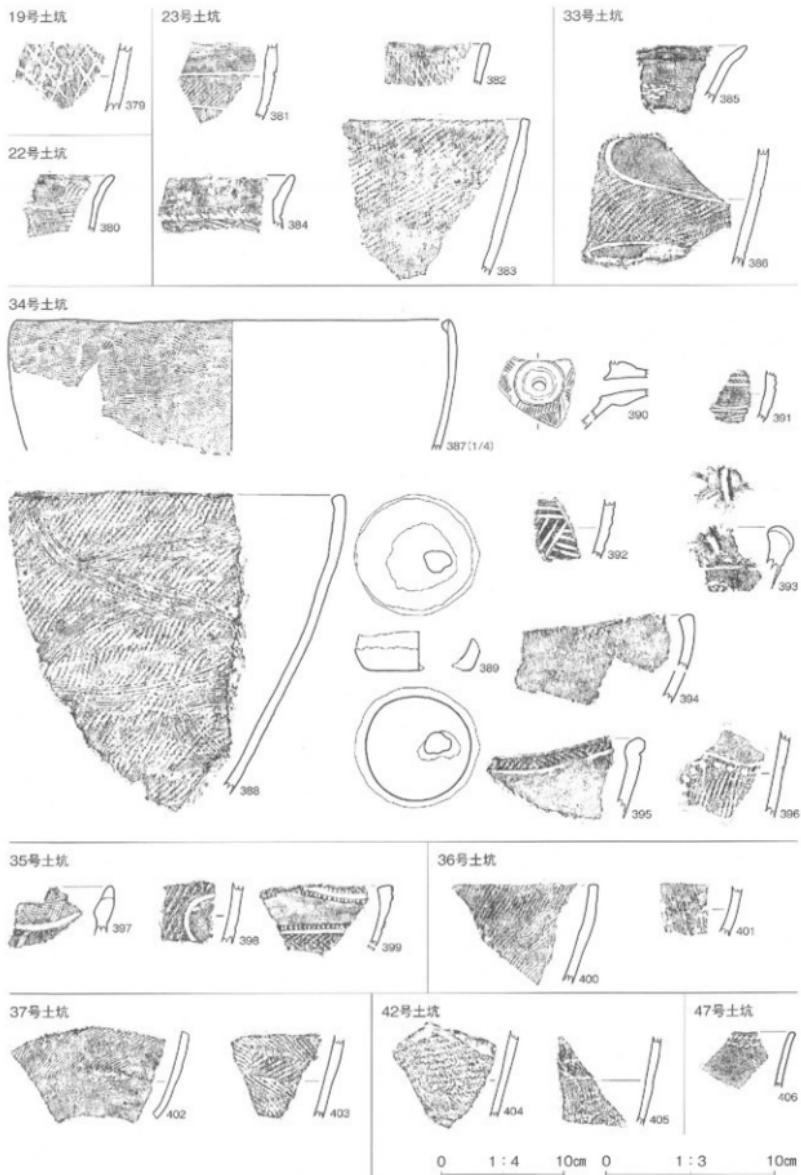
1号配石



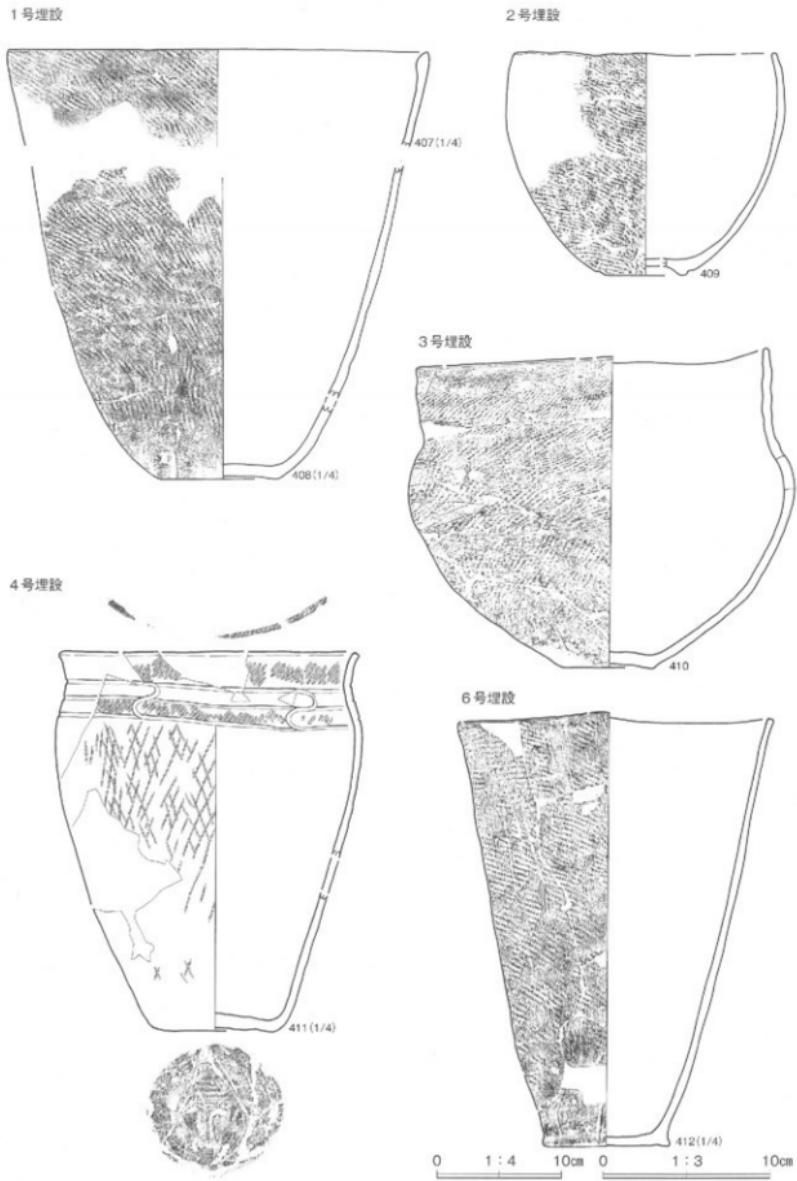
第85図 遺構内出土土器 (22)



第86図 遷構内出土土器 (23)



第87図 遺構内出土土器 (24)



第88図 遺構内出土土器 (25)

7号埋設



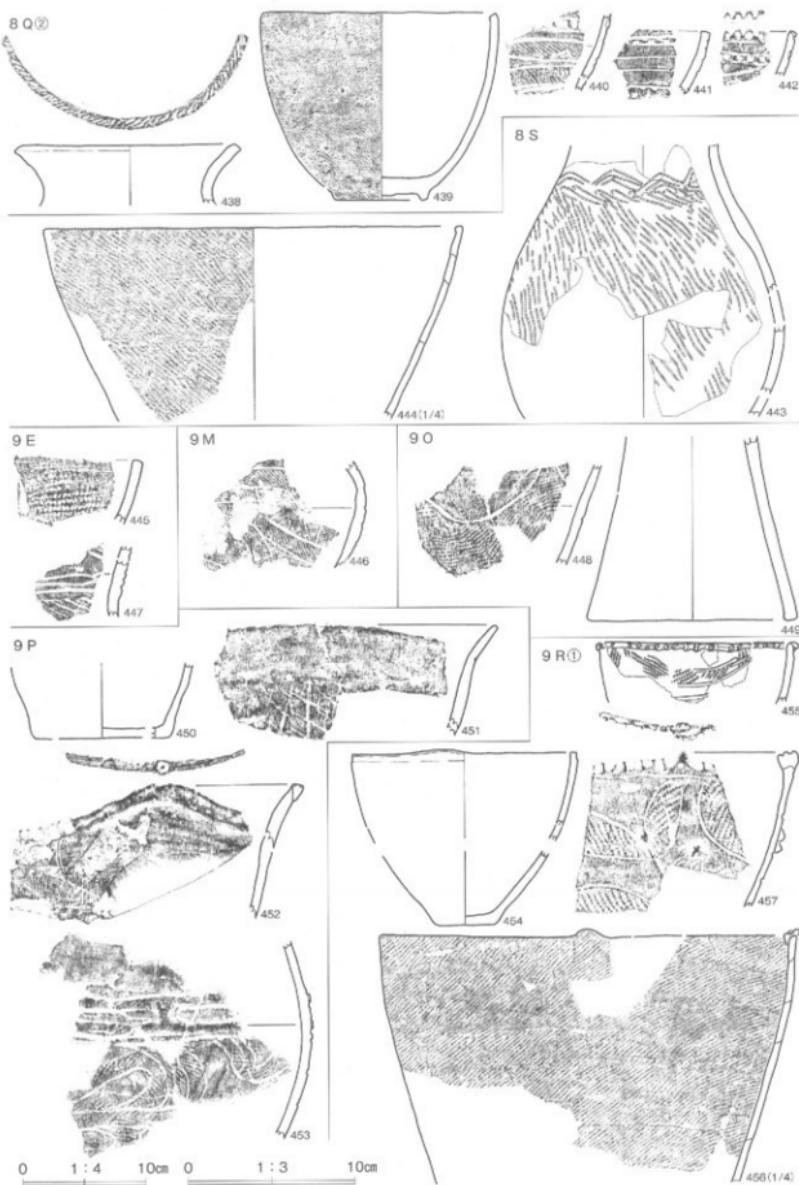
5号埋設



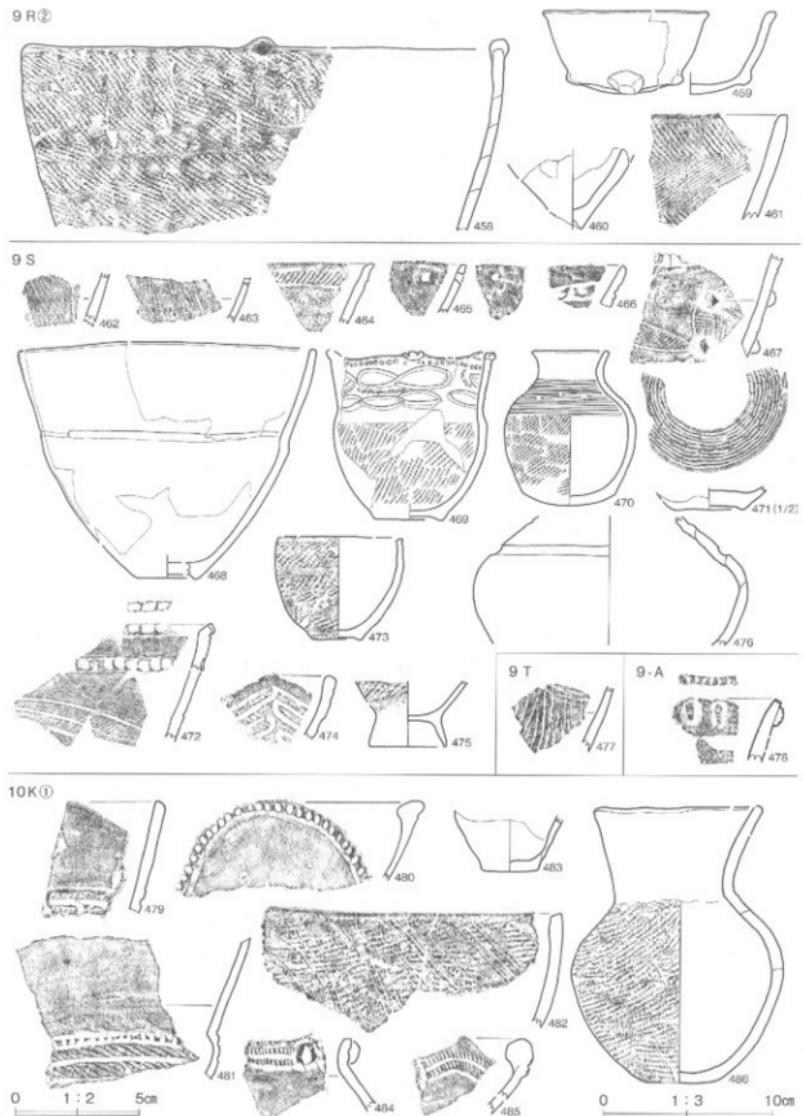
第89図 遺構内出土土器 (26)



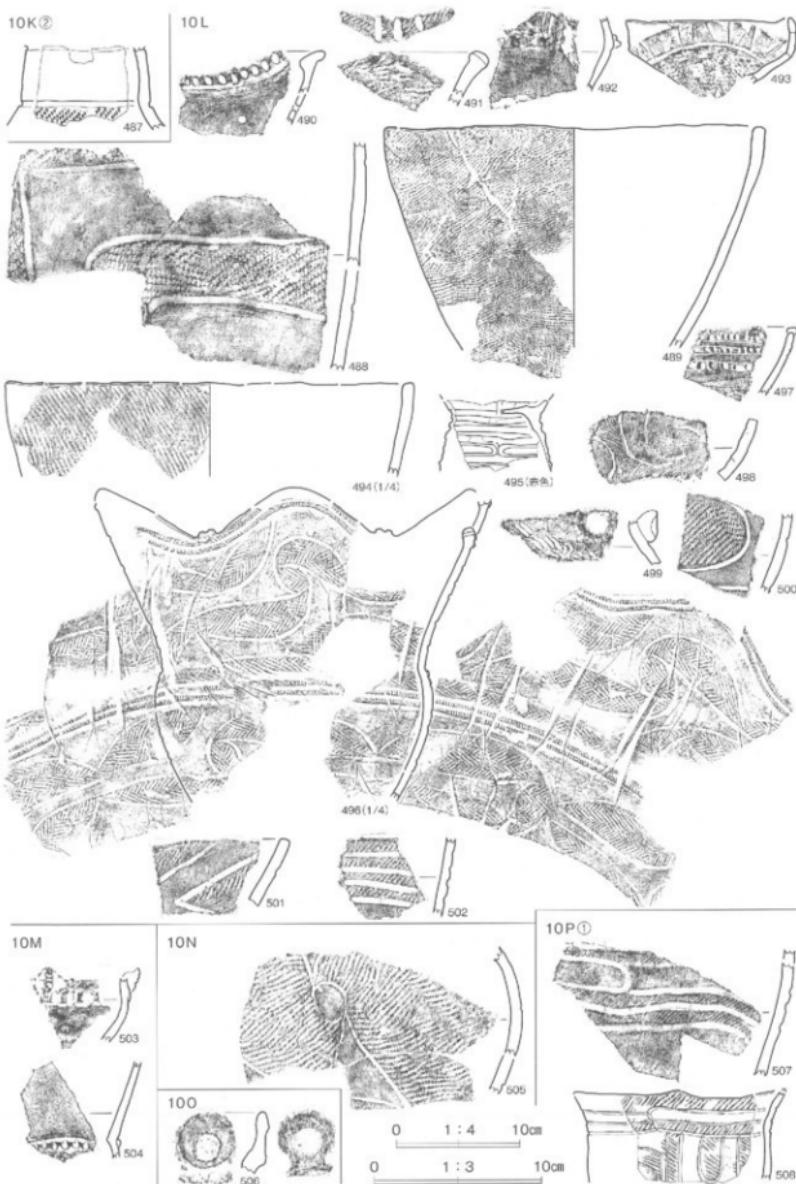
第90図 遺構外出土土器（1）



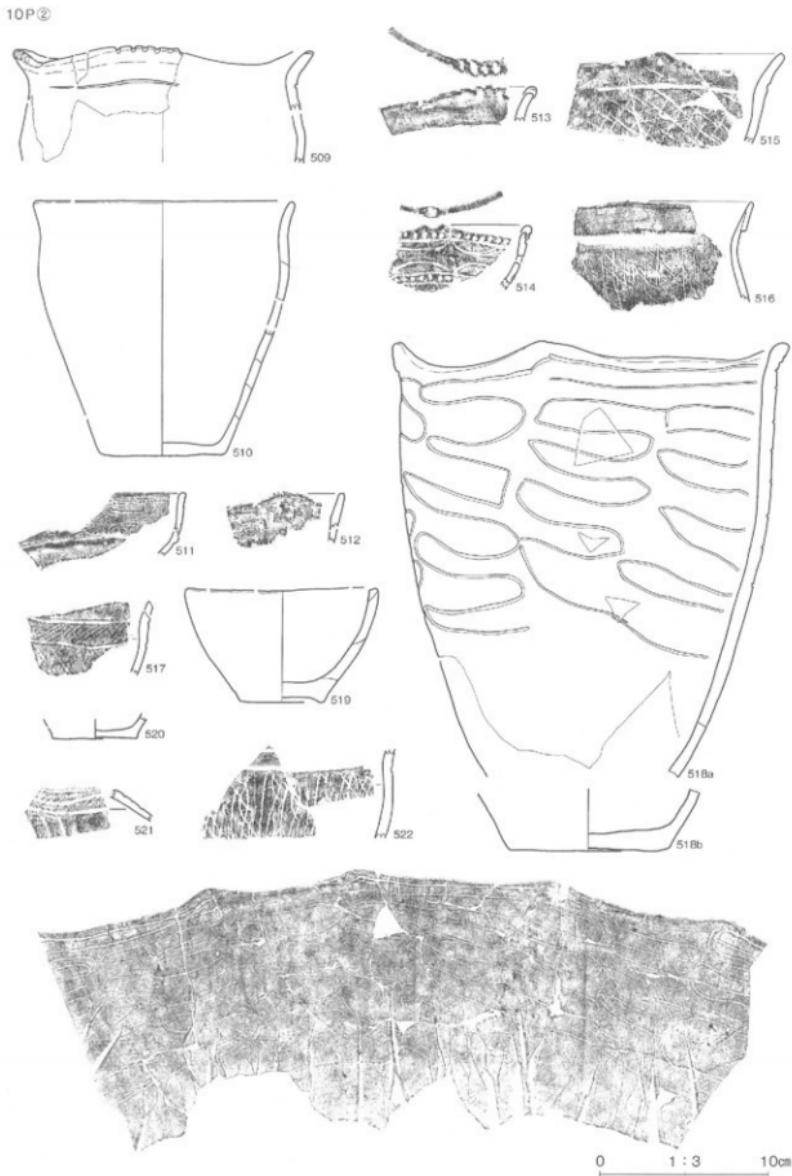
第91図 遺構外出土土器（2）



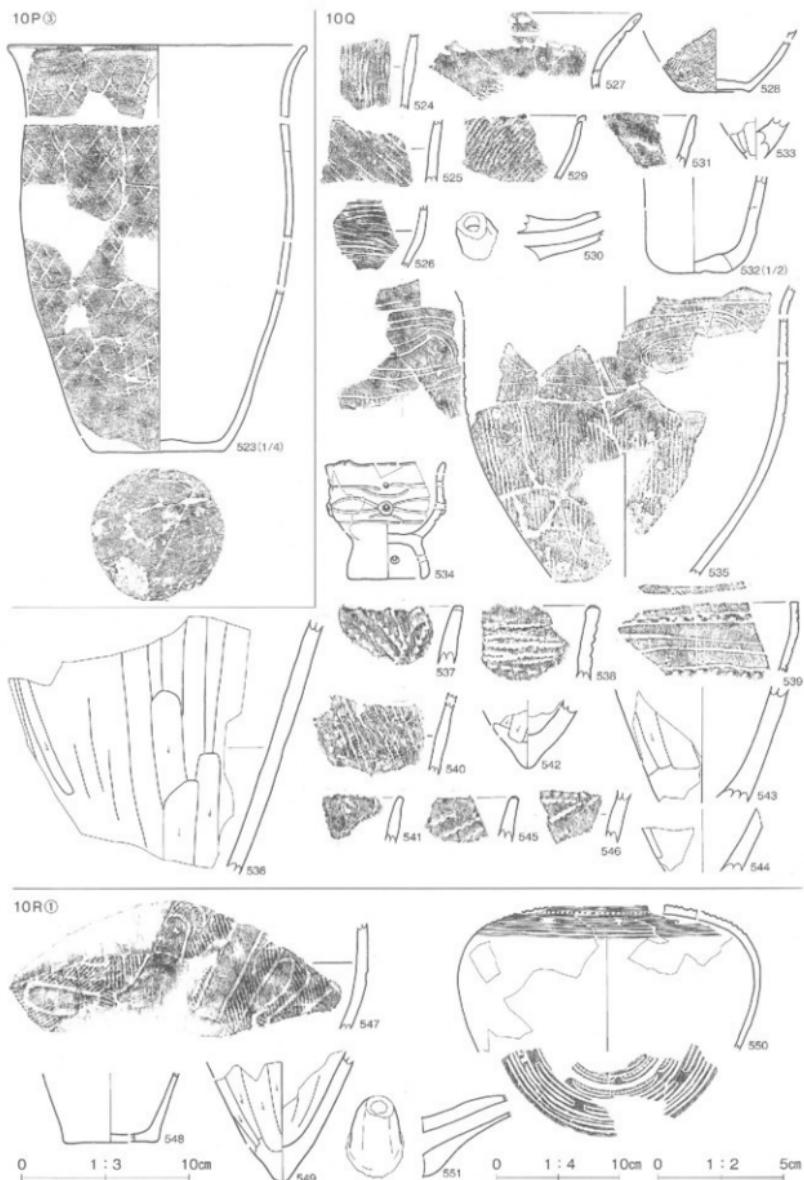
第92図 遺構外出土土器（3）



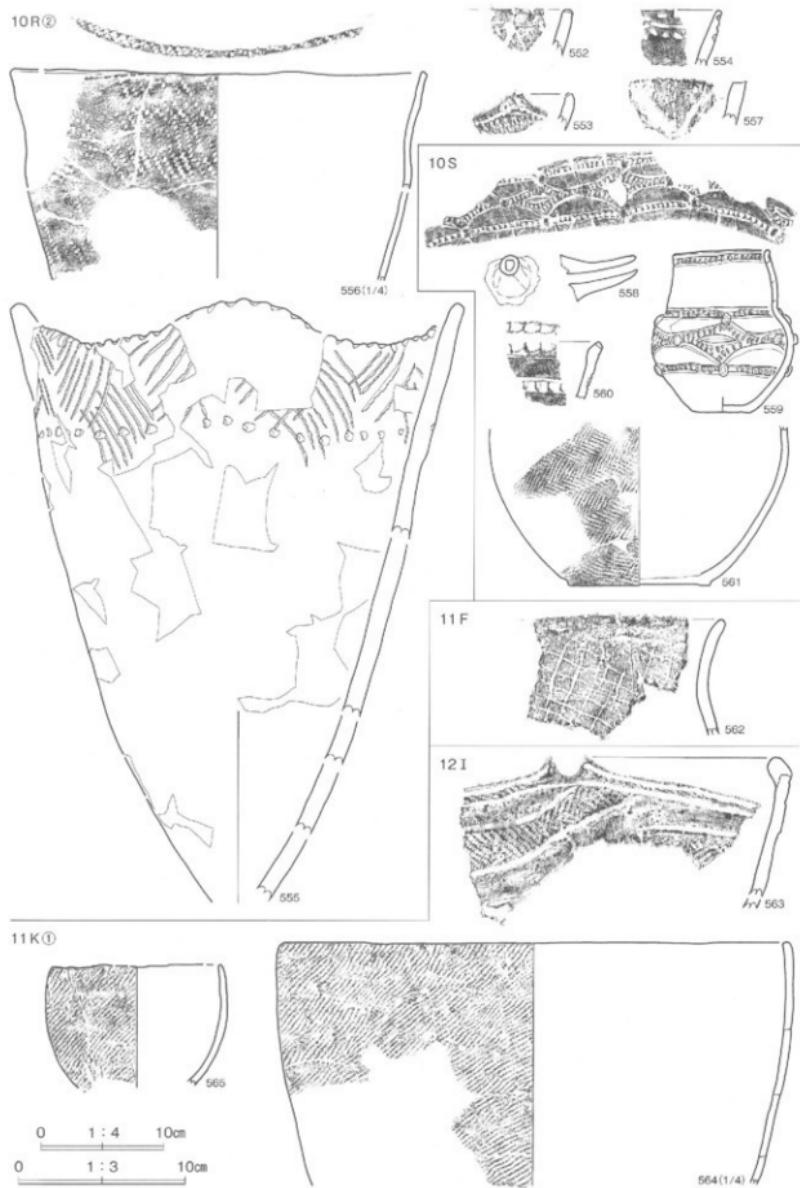
第93図 遺構外出土土器 (4)



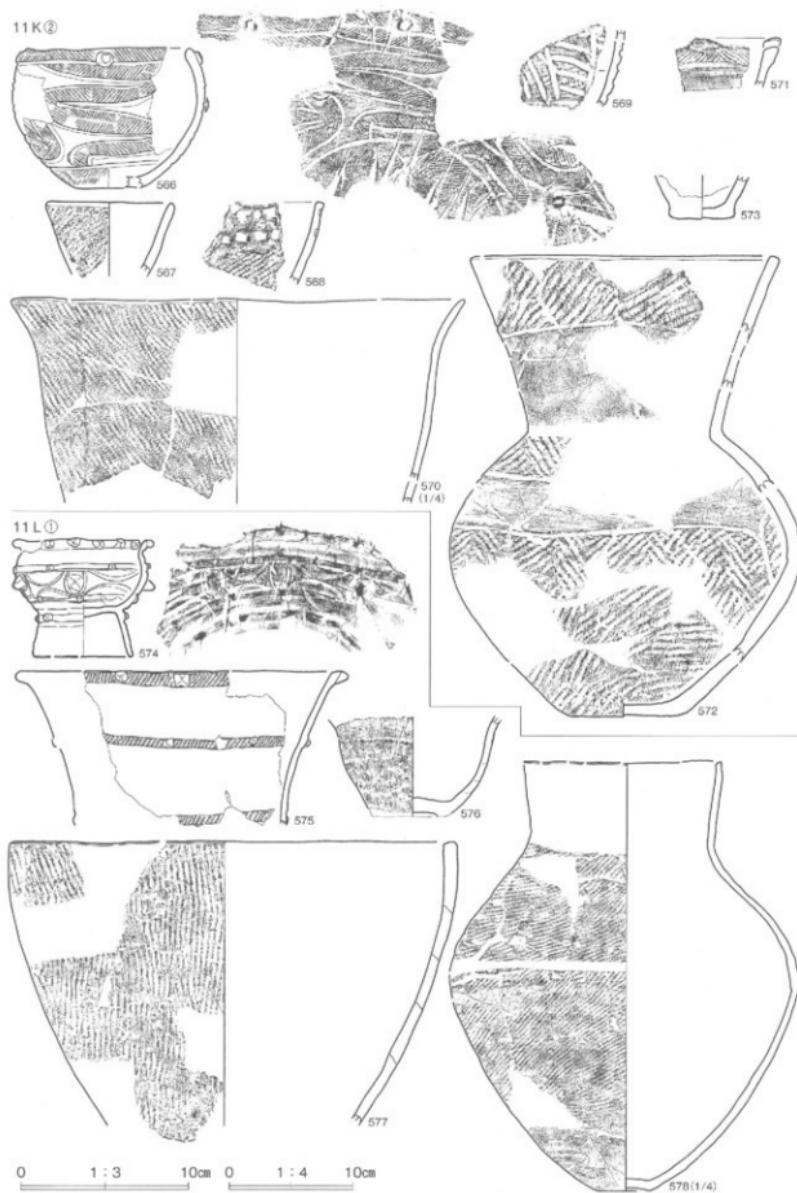
第94図 遺構外出土土器 (5)



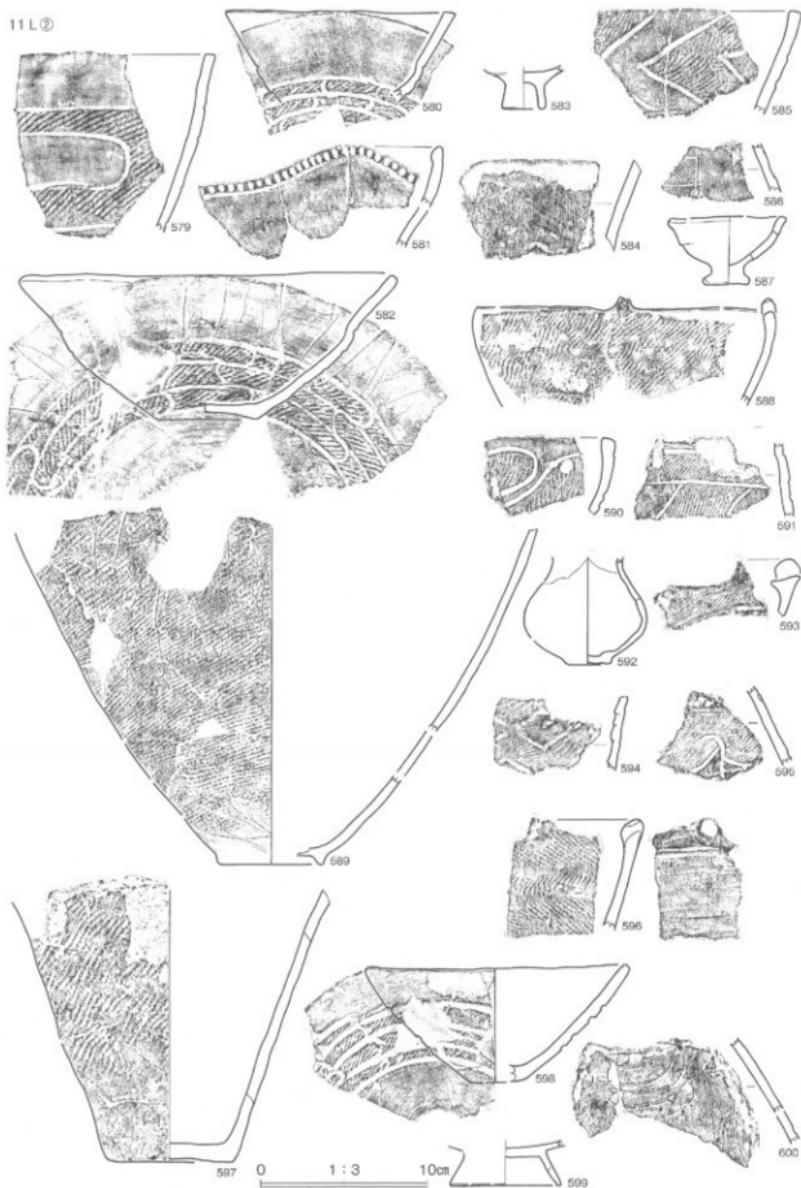
第95図 遺構外出土土器 (6)



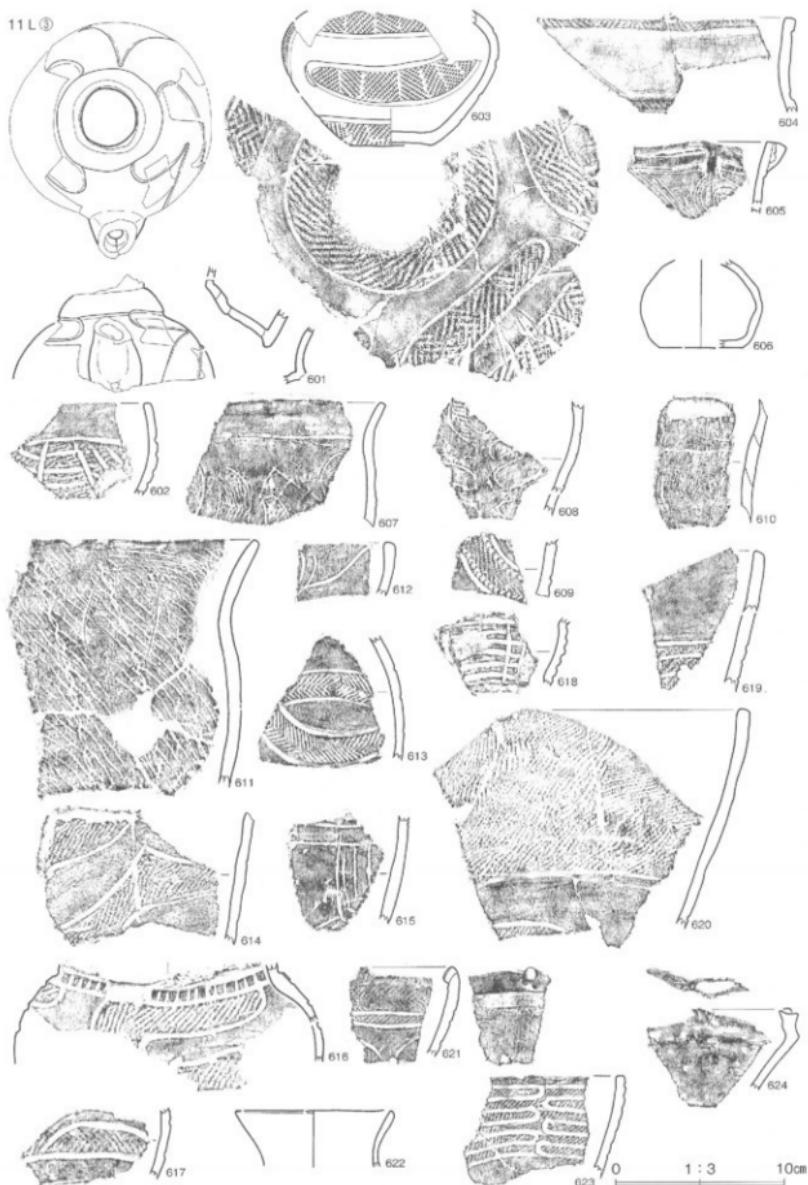
第96図 遺構外出土土器（7）



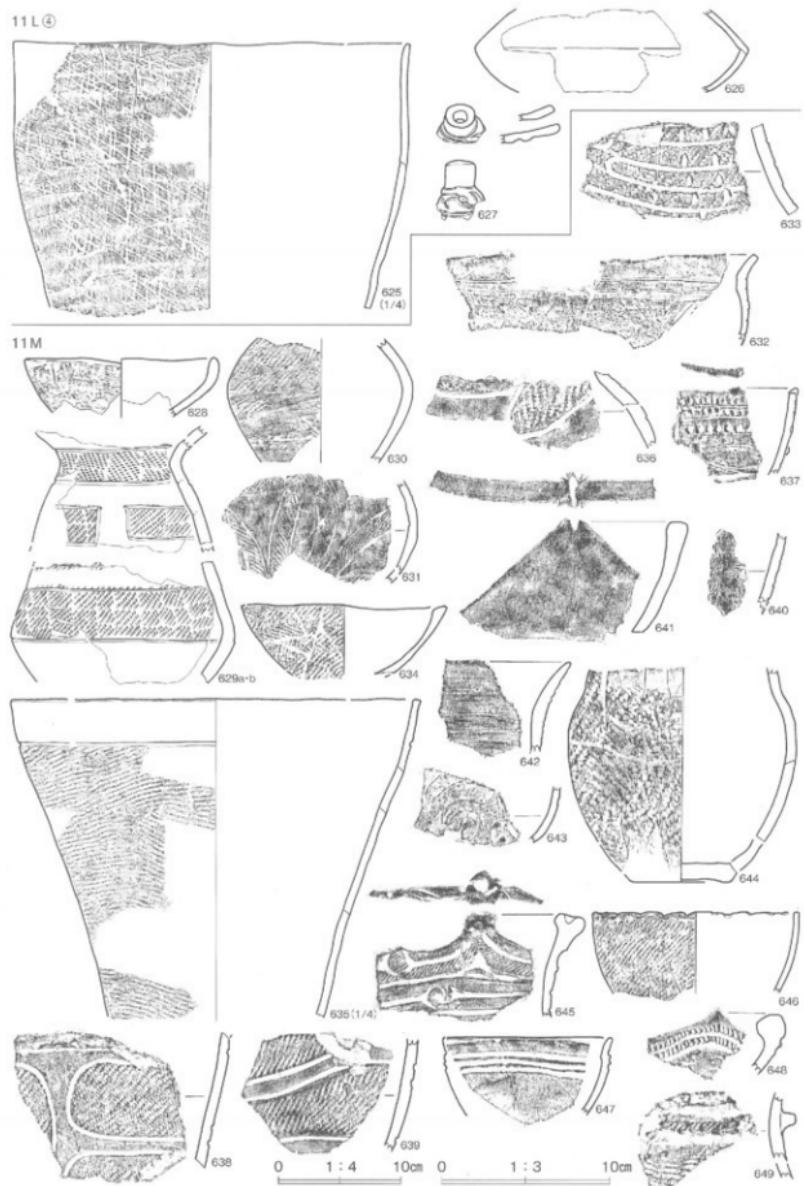
第97図 通構外出土土器 (8)



第98図 遺構外出土土器 (9)



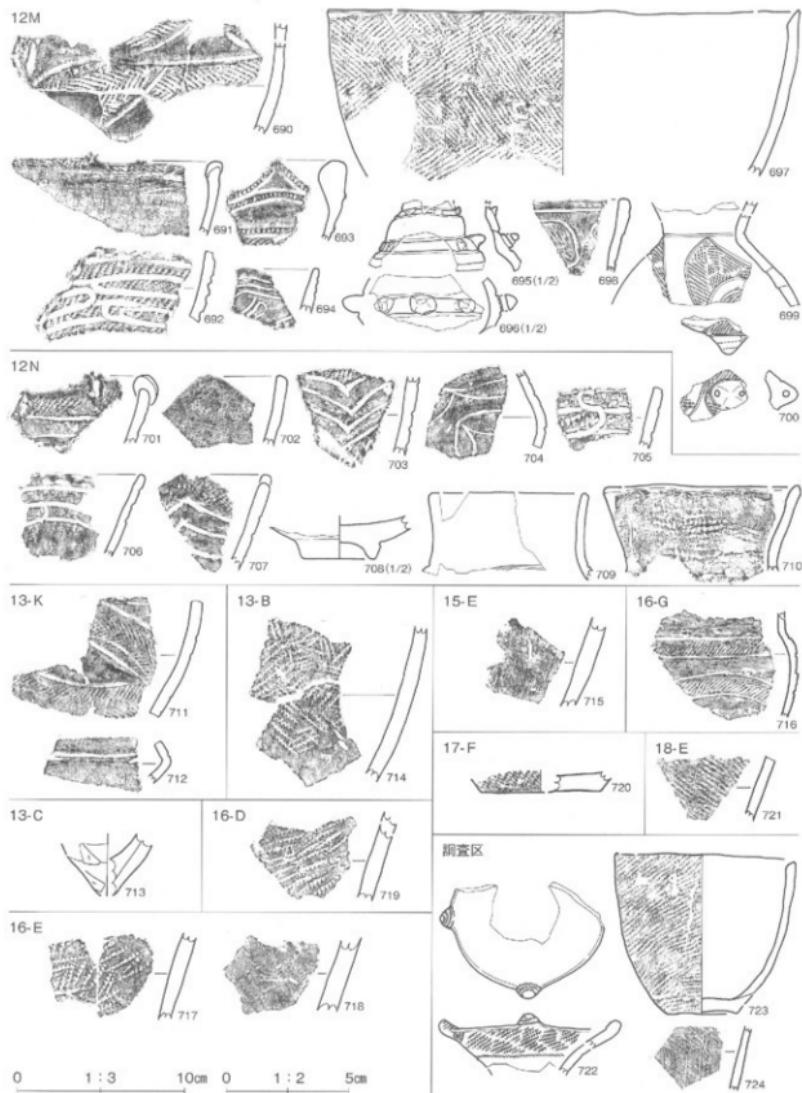
第99図 遷構外出土土器 (10)



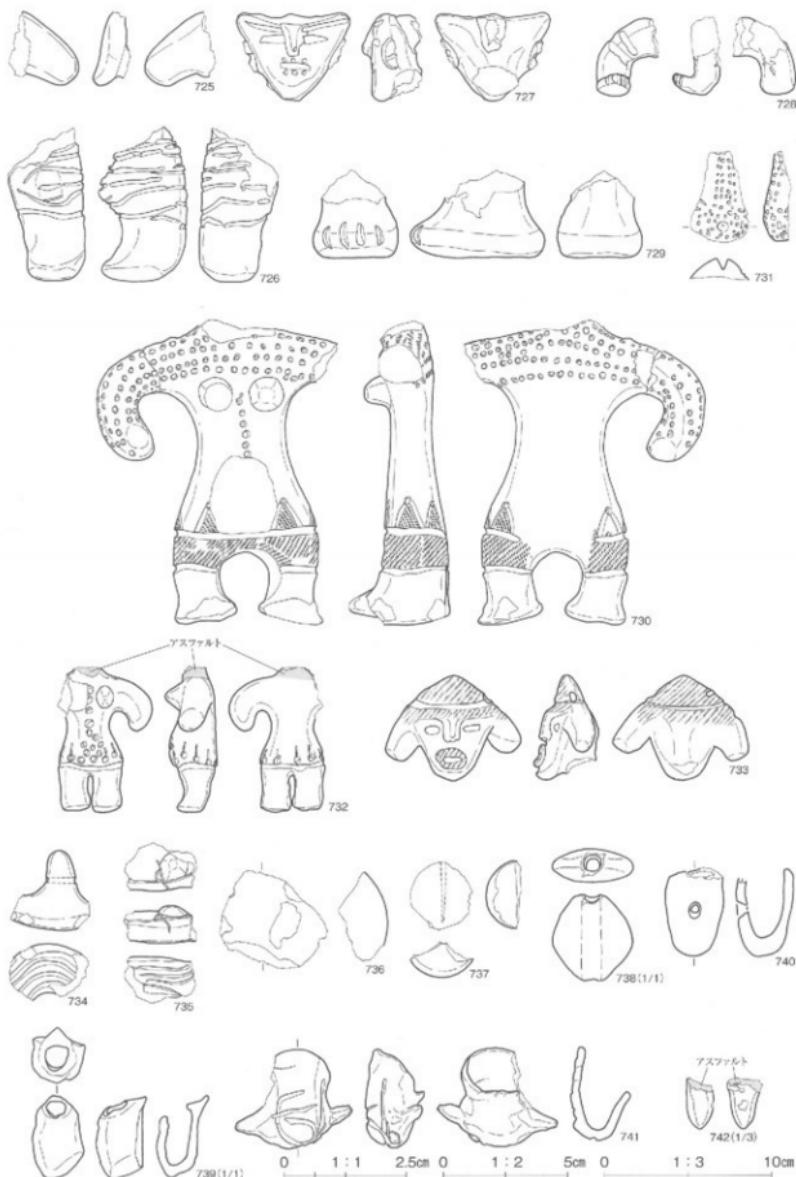
第100図 遺構外出土土器 (11)



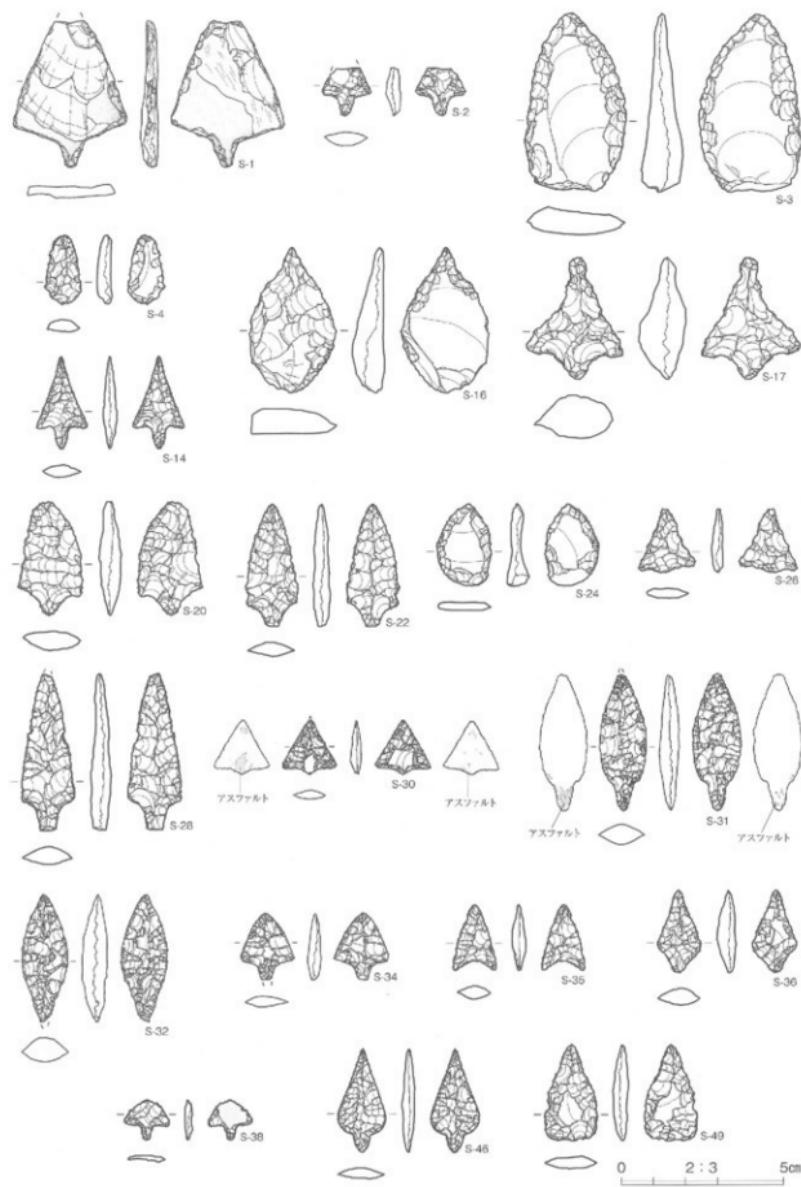
第101図 遺構外出土土器 (12)



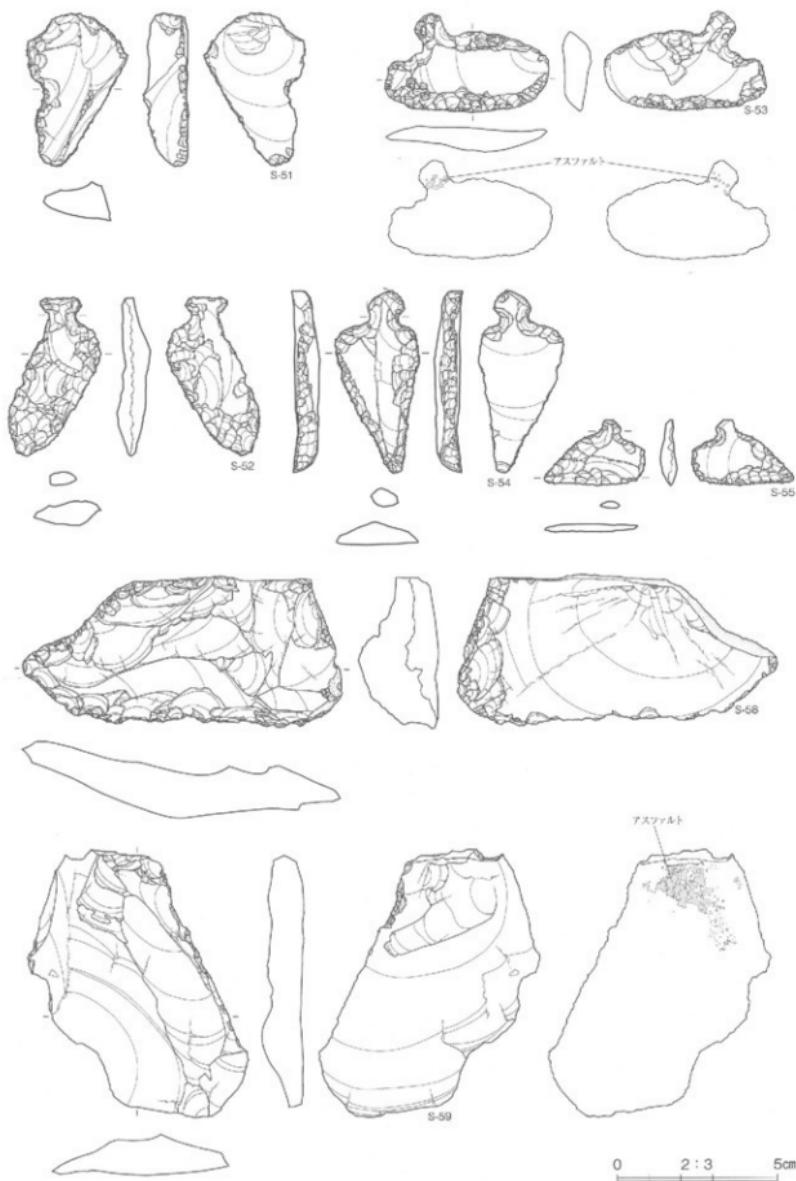
第102図 通溝外出土土器 (13)



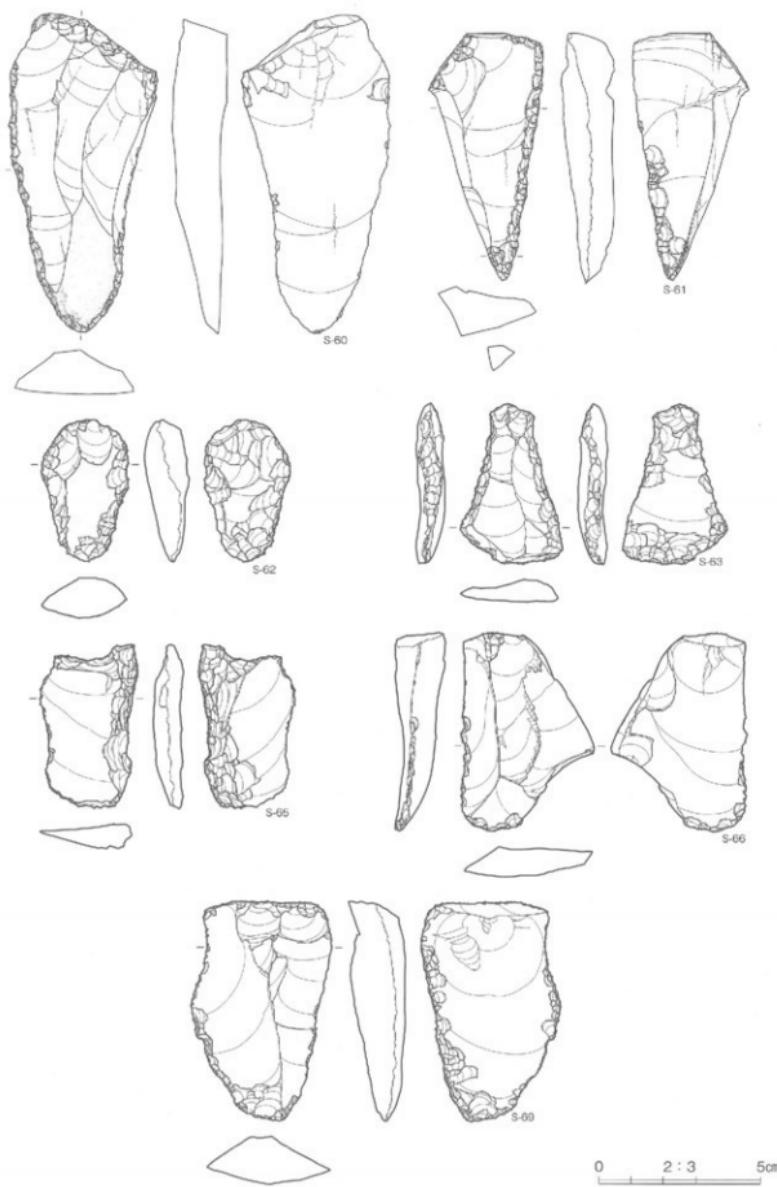
第103図 土製品



第104図 出土石器（1）



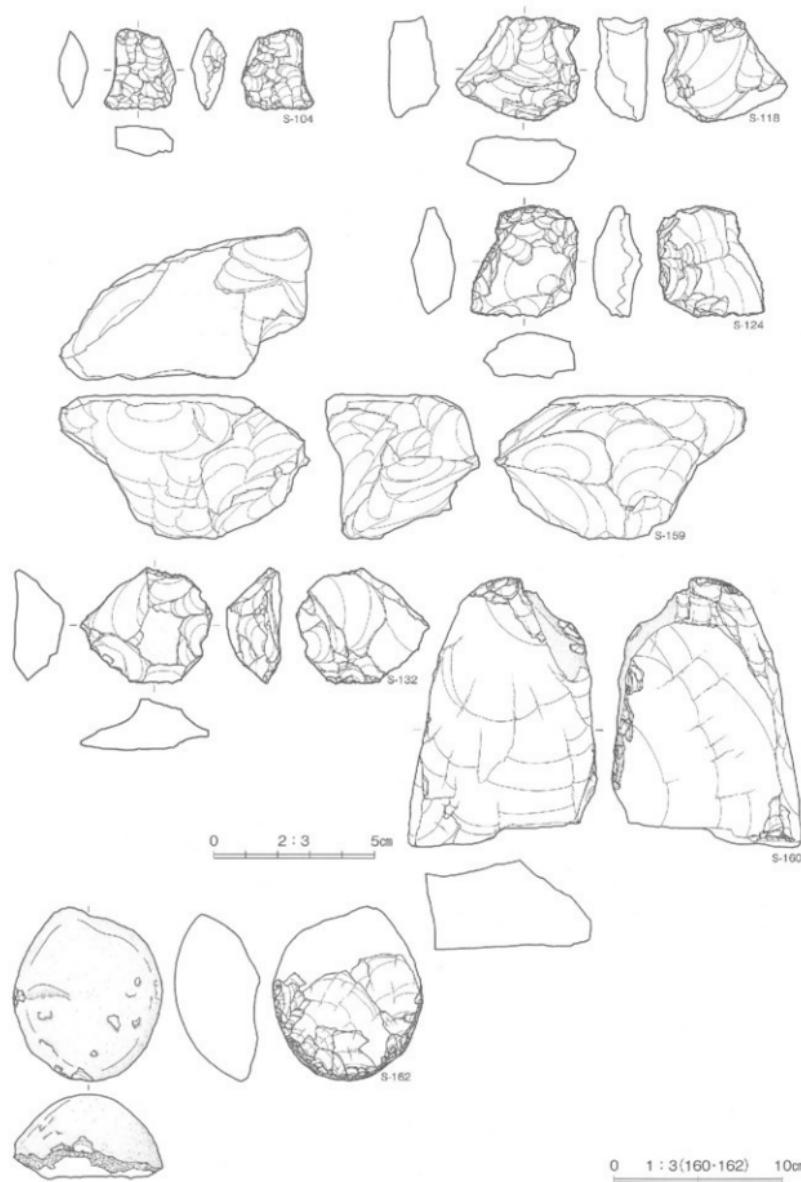
第105図 出土石器（2）



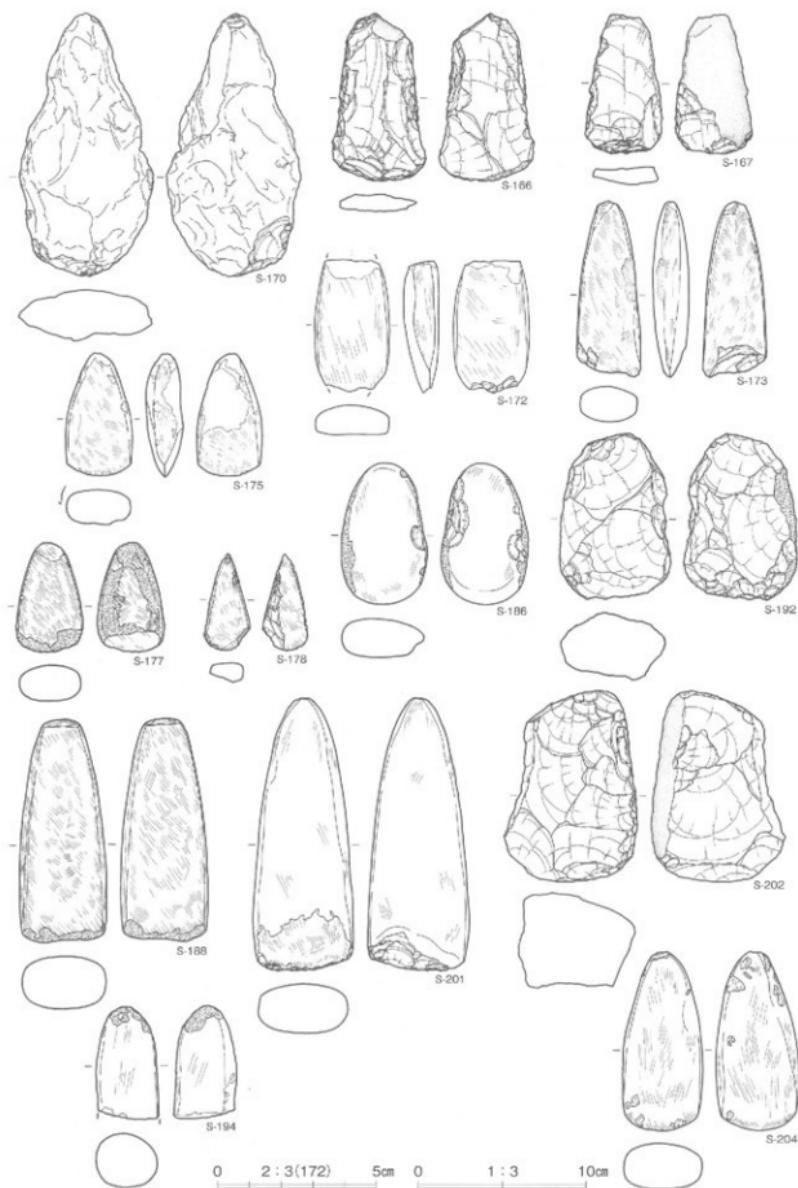
第106図 出土石器（3）



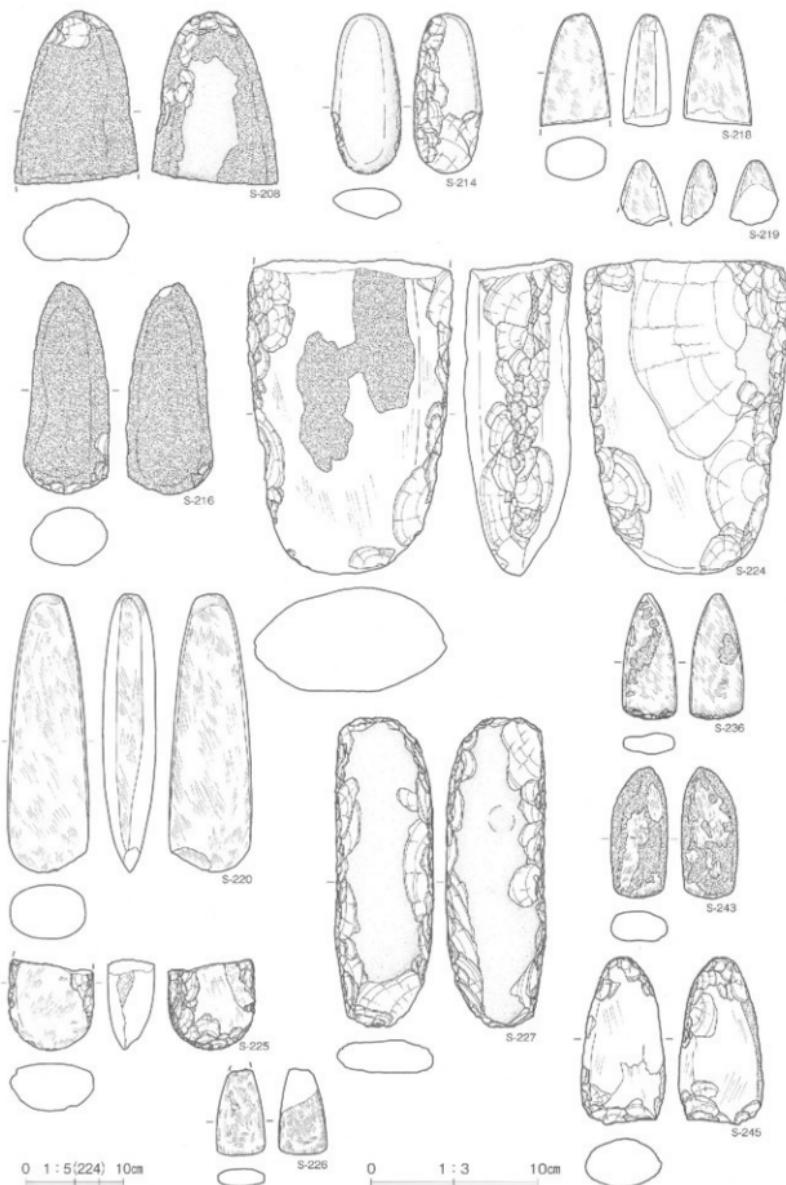
第107図 出土石器 (4)



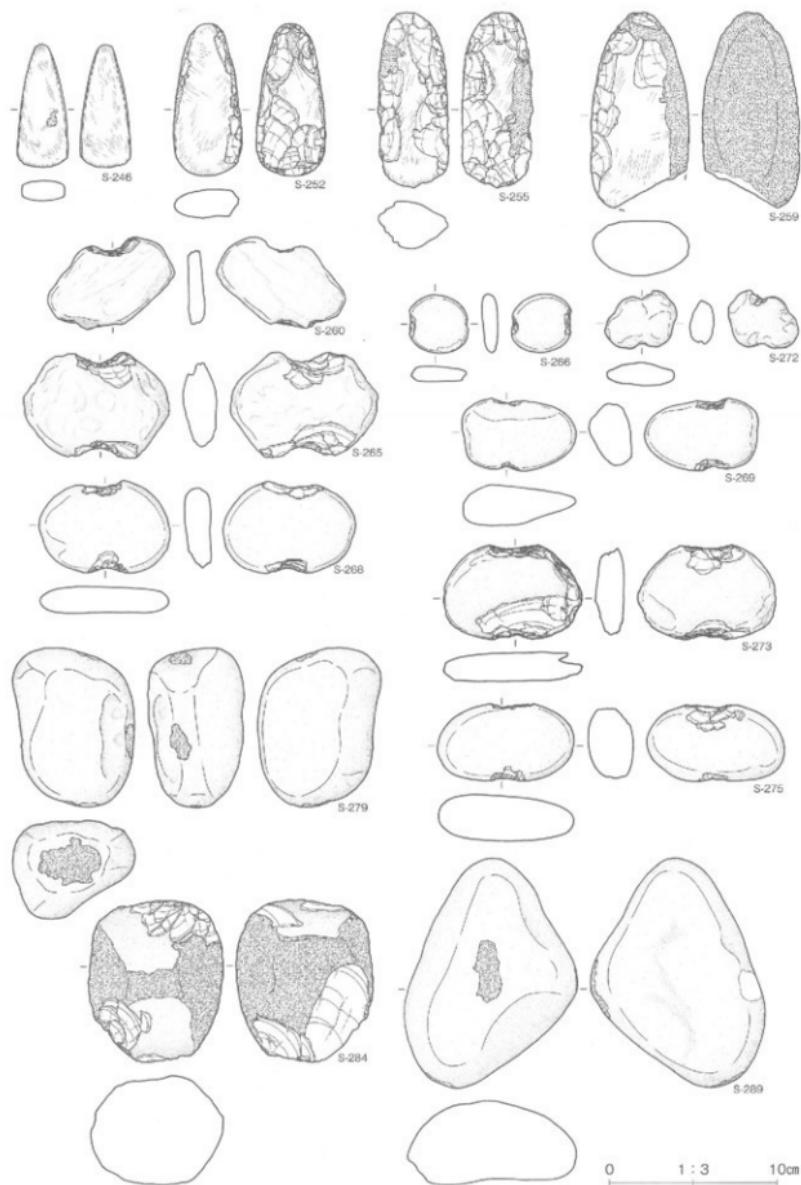
第108図 出土石器（5）



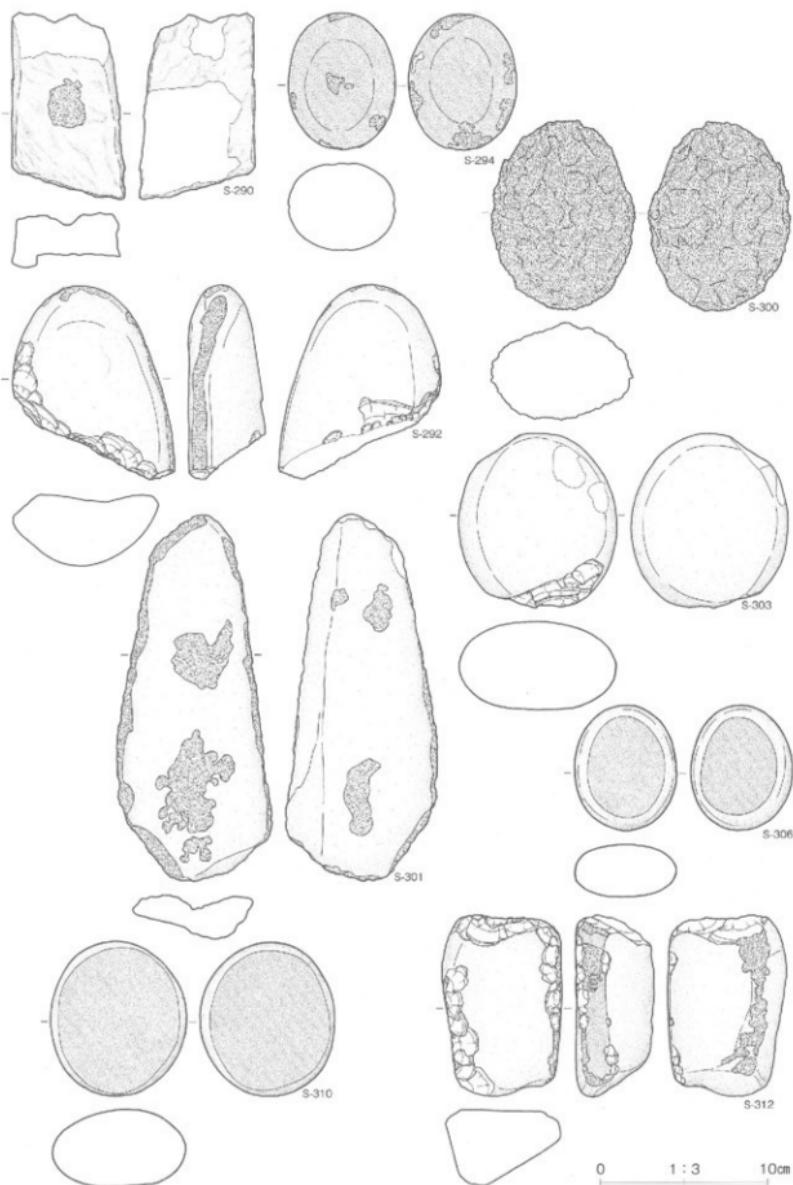
第109図 出土石器（6）



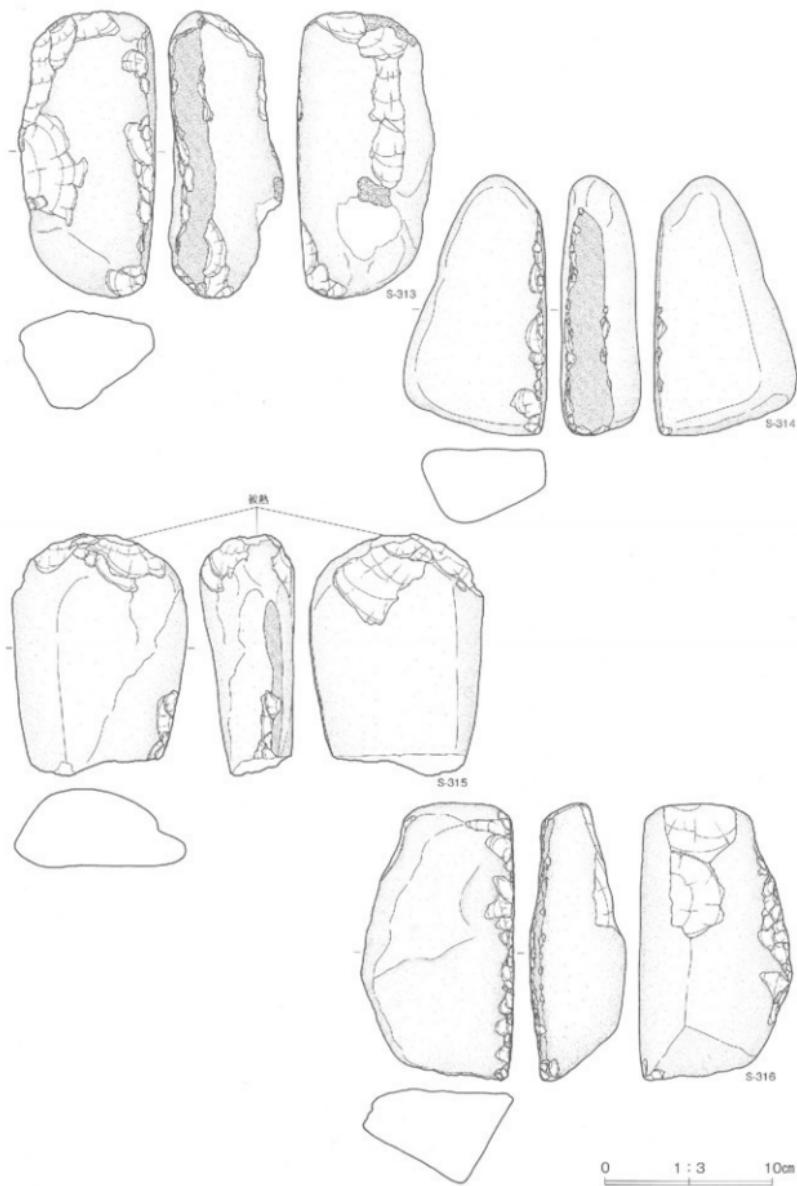
第110図 出土石器 (7)



第111図 出土石器 (8)



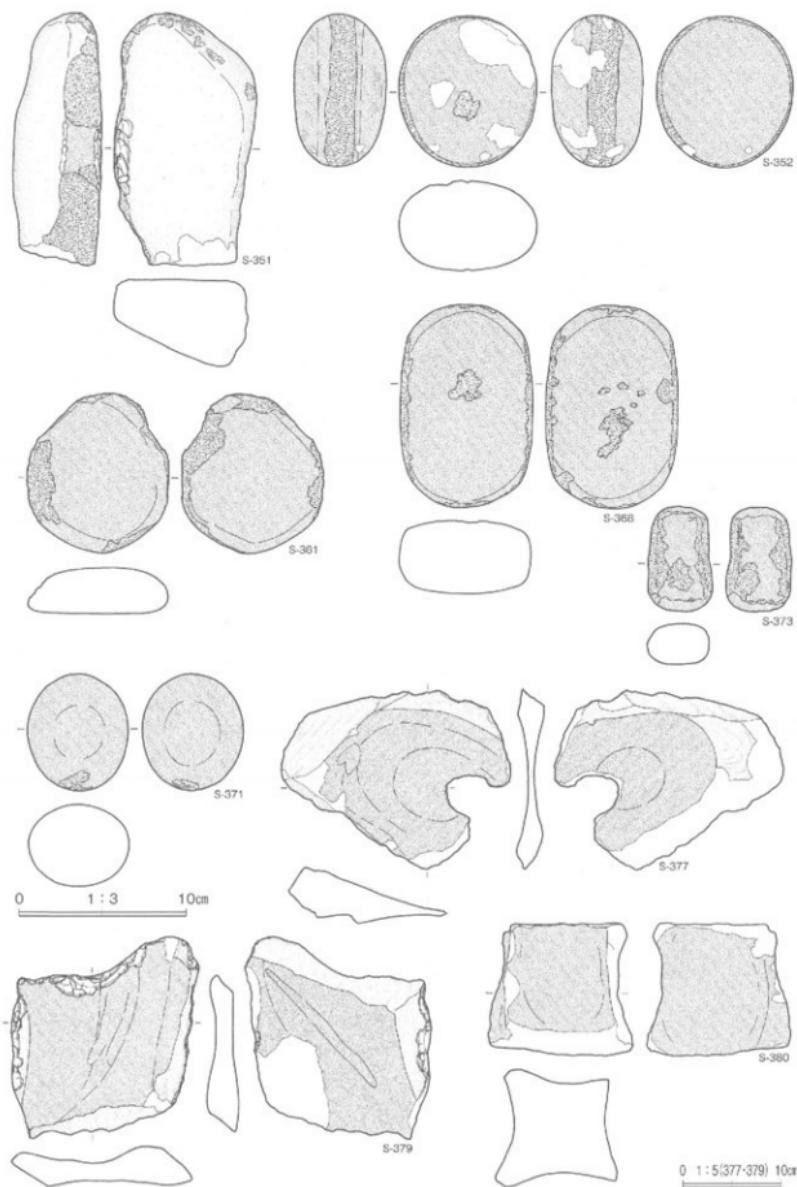
第112図 出土石器 (9)



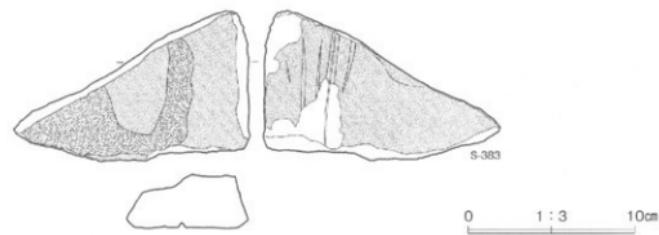
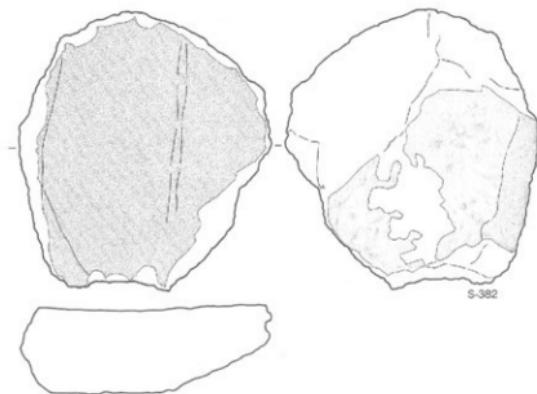
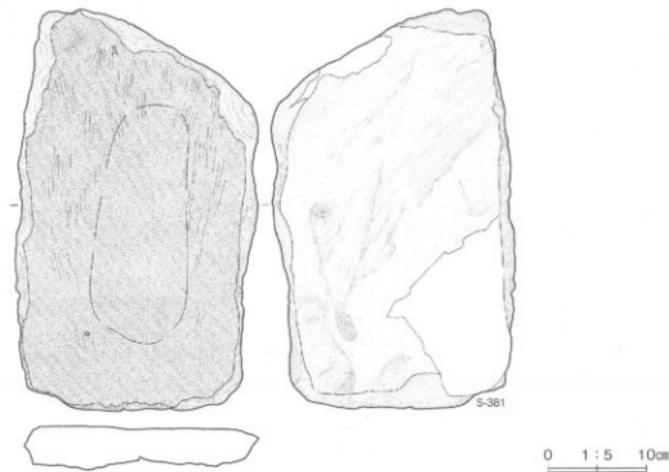
第113図 出土石器 (10)



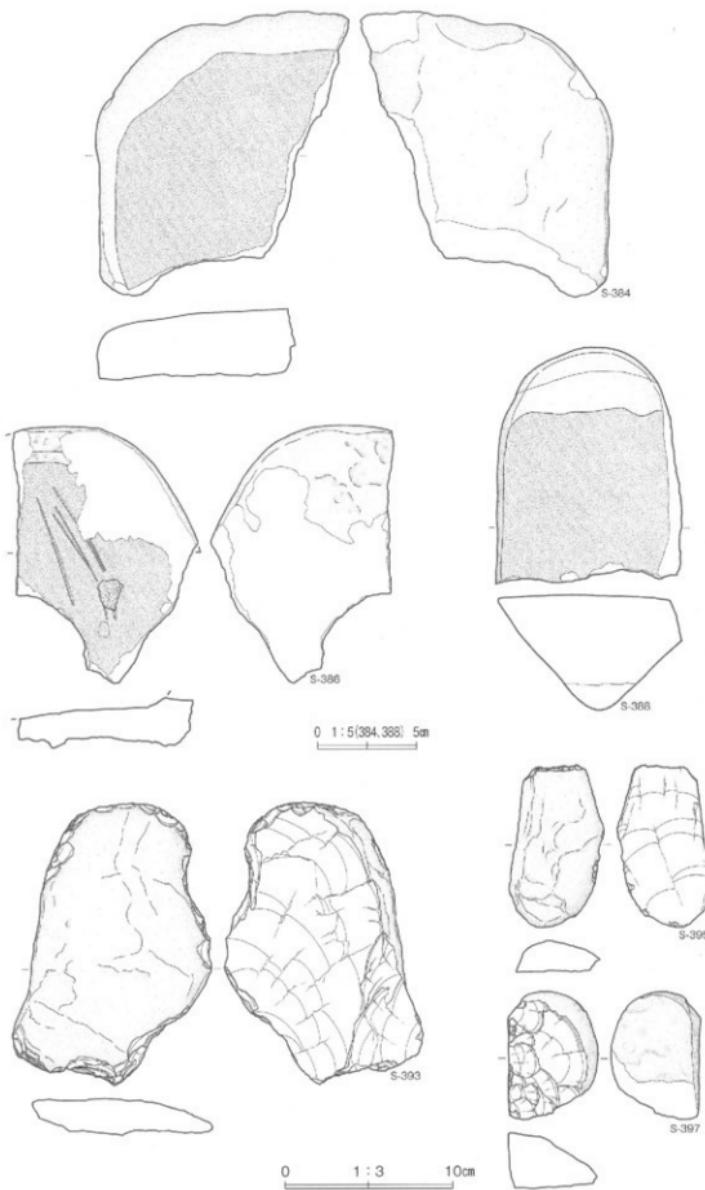
第114図 出土石器 (11)



第115図 出土石器 (12)



第116図 出土石器 (13)



第117図 出土石器 (14)



第118図 出土石器 (15)・石製品

第6表 出土遺物一覧（土器）（1）

施設 番号	遺物名	地点・部位	記述	発掘点番号	断面・断面形状		標高 (m.s.l)	地質 (m.s.l)	文様	種別	参考番 号	施設番 号
					横幅 (m)	厚さ (m)						
1 1号住居跡	漆器	下部(3層)・後壁裏面	口縁・内底	—	—	—	13.4	13.0	6.6	11.5	漆目状	—
2 1号住居跡	漆器	下部(3層)・側面裏面	深体・内底	—	—	—	(3.4)	(3.4)	—	—	—	96
3 1号住居跡	漆器	外(竹)	口縁・内底	—	—	—	7.6	4.5	2.5	漆目状	—	64
4 1号住居跡	漆器	上部	11世～10世	—	—	—	(26.2)	3.4	11.0	漆目状	—	64
5 2号住居跡	漆器	漆器	12世～11世	漆器内	—	—	(3.5)	(3.5)	漆文？	漆目状	—	64
6 2号住居跡	漆器	漆器	漆器～底	漆器内	—	—	(3.7)	(3.7)	漆文？	漆目状	—	64
7 2号住居跡	漆器	漆器	漆器～底	漆器内	—	—	(16.4)	6.2	—	—	—	4
8 3号住居跡	漆器	上部	—	漆器	—	—	—	—	—	—	—	64
9 3号住居跡	漆器	上部	漆器	漆器	—	—	—	—	—	—	—	94
10 3号住居跡	漆器	漆器	漆器	漆器	—	—	(10.9)	(10.4)	—	—	—	64
11 3号住居跡	漆器	漆器	漆器	漆器	—	—	(12.7)	12.0	漆目状	—	—	65
12 3号住居跡	漆器	漆器	漆器	漆器	—	—	(14.9)	8.0	漆目状	—	—	65
13 3号住居跡	漆器	漆器	漆器	漆器	—	—	(1.3)	(3.2)	ナメ	—	—	65
14 3号住居跡	漆器	漆器	漆器	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
15 3号住居跡	漆器	漆器	漆器	漆器	—	—	10.7	12.5	1.0	—	—	65
16 3号住居跡	漆器	漆器	漆器	漆器	—	—	(21.0)	(9.1)	無面？	—	—	7
17 3号住居跡	漆器	漆器	漆器	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
18 3号住居跡	漆器	8段上部	—	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
19 3号住居跡	漆器	6段中	漆器	漆器	—	—	(4.0)	(4.4)	—	—	—	65
20 3号住居跡	漆器	6段下	漆器	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
21 3号住居跡	漆器	3段上部	漆器	漆器	—	—	(26.0)	(8.7)	無面無目状	—	—	65
22 3号住居跡	漆器	下部・下部	漆器	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
23 3号住居跡	漆器	7段	漆器	漆器	—	—	(6.8)	6.2	漆文？	—	—	65
24 3号住居跡	漆器	1.75	漆器	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
25 3号住居跡	漆器	1.25	漆器	漆器	—	—	11.0	10.5	6.0	漆文？	—	65
26 3号住居跡	漆器	1.00	漆器	漆器	—	—	(20.0)	(28.3)	漆目L	漆目L	—	65
27 3号住居跡	漆器	上部	—	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
28 3号住居跡	漆器	—	—	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
29 3号住居跡	漆器	—	—	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
30 3号住居跡	漆器	—	—	漆器	—	—	—	—	—	—	—	65
31 4号住居跡	漆器	2段中	漆器	漆器	—	—	(16.8)	8.0	3.8	ナメ(タグリ)有り	—	65

注1：()内は基定期、()内は検査期

第6表 出土遺物一覧(土器)(2)

備考 番号	遺物名	地点・層位	器種	形質	遺物点数(石)	出土地点 (市・町)	地質 (cm.等)	測定 高さ(2)	測定 高さ(1)	文書	通号	参考	類別	分類		
32	17号住跡	2階中	鉢	口縁～底 905a	1	日野	144	66	48	LR	-	-	104	66	53	
33	17号住跡	2階中	鉢	口縁～底 905a	1	日野	85	56	48	LR	-	-	105	66	53	
34	19号住跡	1階	鉢	口縁～底 1100c	1	日野	-	(36)	(36)	LR	-	-	122	66	53	
35	19号住跡	F25-1層	鉢	口縁	1	日野	-	-	-	-	-	-	123	66	53	
36	26号住跡	上部	鉢	口縁	8号位	日野	-	-	-	-	-	-	122	66	53	
37	35号住跡	8号	鉢	口縁	900c, 1001c-2c	日野	-	-	-	-	-	-	124	66	53	
38	35号住跡	1階	鉢	口縁～底 1100c(1094)	1	日野	150	(75)	(75)	LR	-	-	125	66	53	
39	39号住跡	1階	鉢	口縁～底 1103c(1104c)	1	日野	142	89	(66)	ヨコナミヨコナデ ヨコナミヨコナデ	-	-	123	66	54	
40	40号住跡	1階	鉢	口縁	1	日野	-	-	-	-	-	126	66	54		
41	41号住跡	6階中-床引上部	浅鉢	口縁～底 905a, 1001a-1b, 1002a-2b	1	日野	92	73	38	LR	-	-	129	67	54	
42	46号住跡	1階下部	鉢	口縁～底 905a-2c	1	日野	-	(78)	38	ヨガキ	-	-	130	67	54	
43	46号住跡	上部	鉢	口縁	1	日野	-	-	-	-	-	-	128	67	54	
44	47号住跡	床引	鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	-	-	-	-	-	134	67	54	
45	47号住跡	1階	鉢	口縁～底 1101	1	日野	-	192	42	ヨコナミヨコナデ ヨコナミヨコナデ	-	-	132	67	54	
46	47号住跡	1階中-床引上部 (25号土器重複)	浅鉢	口縁～底 1004c(1014c), 1010a	1	日野	-	(101)	54	ヨコナミヨコナデ ヨコナミヨコナデ	-	-	125	67	54	
47	47号住跡	F25	浅鉢	口縁～底 1004c	1	日野	-	(287)	(170)	LR, RL, RLH, CR	流状(5号5号?)	-	126	67	54	
48	47号住跡	12階中	鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	172	75-82	65	ヨコナミヨコナデ	-	133	67	54	
49	47号住跡	12階	鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	76	63	43	ヨコナミヨコナデ	-	131	67	54	
50	48号住跡	床面	鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	-	132	47	ヨコナミヨコナデ	-	129	68	54	
51	48号住跡	床面	鉢	口縁	1	日野	-	-	-	-	-	-	125	68	54	
52	59号住跡	床L-1階	鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	73	110-129	30	RL, ヨコナミヨコナデ	-	129	68	54	
53	59号住跡	6階上	深鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	203	302	64	ヨコナミヨコナデ	-	122	68	55	
54	59号住跡	14-1階-11階	鉢	口縁	1	日野	-	(33)	-	LR	ヨコナミヨコナデ	-	127	68	55	
55	59号住跡	14-1階	鉢	口縁	1	日野	-	-	(57)	ヨガキ	-	-	125	68	55	
56	59号住跡	4階上	深鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	(283)	(207)	LR	ヨコナミヨコナデ	-	146	68	55	
57	59号住跡	1階-1階-3階中	深鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	(97)	-	RL	ヨコナミヨコナデ	-	141	68	55	
58	59号住跡	下等-2階中	深鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	(310)	(101)	-	RL	ヨコナミヨコナデ	-	175	68	55
59	59号住跡	下等-11階上	深鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	(124)	(61)	-	流状	-	196	69	55	
60	59号住跡	3階-1階上	深鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	(210)	62	ヨガキ	-	-	148	69	55	
61	59号住跡	1階-1階-1階	深鉢	口縁～底 905a	1	日野	-	-	-	-	-	-	143	69	55	

②(1) 7月4日発掘 ②(2) 7月12日発掘

第6表 出土遺物一覧（土器）（3）

部品 番号	施標名	施点・層位	花地	器底	周辺の通溝石		口沿 (cm) 直径 (cm) 高さ (cm)	蓋 (cm) 直径 (cm) 高さ (cm)	柄	蓋	底各部	内側 内面	
					1号	2号							
62	8号付瓦踏	下部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	175 69 35
63	8号付瓦踏	上部	1.9-10.9	深井	口沿～底付 斜	口沿～底付 斜	E-直管	(9.8) (7.2)	直縁コブ→E	直縁コブ→E	直縁	149 69 35	
64	8号付瓦踏	上部	—	—	—	—	E-直管	(9.4) (6.6)	直縁コブ→E	直縁コブ→E	直縁	135 69 35	
65	8号付瓦踏	上部	—	—	—	—	E-直管	(13.5) 11.5	直縁コブ→E	直縁コブ→E	直縁	140 69 35	
66	8号付瓦踏	上部	—	—	—	—	E-直管	—	直縁コブ→E	直縁コブ→E	直縁	145 69 35	
67	8号付瓦踏	中段	1.76	金	斜25°	斜25°	B脚	—	直縁コブ→E	直縁コブ→E	直縁	137-141 69 35	
68	8号付瓦踏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	179 69 35
69	8号付瓦踏	下部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	171 69 35
70	8号付瓦踏	上部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	173 69 35
71	8号付瓦踏	椚出裏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	187-188 69 35
72	8号付瓦踏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	139 69 35
73	8号付瓦踏	隅又堤防用出裏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	142 69 35
74	8号付瓦踏	傾山頭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	171 69 35
75	8号付瓦踏	里側-外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	166 69 35
76	8号付瓦踏	里側-外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	172 69 35
77	8号付瓦踏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	167-163 69 35
78	8号付瓦踏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	160 69 35
79	8号付瓦踏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	164 69 35
80	9号付瓦踏	深井	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	203B 70 56
81	9号付瓦踏	床頭(10.9付地山)・下部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	212.3 70 56
82	9号付瓦踏	床頭(10.9付地山)・下部	深井	1.18-地井	16.9付	—	—	—	—	—	—	—	200.2 70 56
83	9号付瓦踏	床頭(10.9付地山)・上部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	212.4 70 56
84	9号付瓦踏	下部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	203.1 70 56
85	9号付瓦踏	下部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200.7 70 56
86	9号付瓦踏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	201.0 70 56
87	9号付瓦踏	下部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200.9 70 56
88	9号付瓦踏	下部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	201.7 70 56
89	9号付瓦踏	上部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200.4 70 56
90	9号付瓦踏	上部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	201.1 70 56
91	9号付瓦踏	下部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	203.6 70 56
92	9号付瓦踏	上部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	203.2 70 56

※1 () 内は変形 ⑨2 () 内は変形

第6表 出土遺物一覧(土器) (4)

地點 部番 番号	遺物名	底火・輪形	器形	部位	真面目な形質	素地の性質	(cm) A 所・輪径	(cm) B (cm) C	輪径 (cm) D	文部	備考	食器等 類別	類別
93 9号住跡	上部	1.80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2006	70
94 9号住跡	下部	1.82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2006	70
95 9号住跡	上部	1.82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2006	70
96 9号住跡	下部	—	深形	—	—	—	—	—	—	—	—	2013	70
97 9号住跡	上部	—	深形	—	—	—	—	—	—	—	—	2013	70
98 9号住跡	上部	1.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2015	70
99 9号住跡	上部	—	深形	—	—	—	—	—	—	—	—	2012	70
100 9号住跡	9件家-104上部	—	深形	1.80~1.85	—	—	—	—	—	—	—	2003	70
101 10号住跡	上部-7.5cm	深形	直底	9.75	下端	—	—	—	—	—	—	2003	70
102 10号住跡	下部	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2004	71
103 10号住跡	下部	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	2004	71
104 10号住跡	—45	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	2004	71
105 10号住跡	—45	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2004	71
106 10号住跡	—45	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2002	71
107 10号住跡	—45	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2004	71
108 10号住跡	—45	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2004	71
109 11号住跡	2脚上・下	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2003	71
110 11号住跡	2脚上・下	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2001	71
111 11号住跡	2脚上・下	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2002	71
112 11号住跡	1脚・増加より	深形	直底	1.80~1.85	—	—	22.3	17.7	5.8	—	—	2000	71
113 11号住跡	上部-2脚・かき下	深形	口縁	1.82~1.85	—	—	—	—	—	—	—	2122	71
114 11号住跡	1脚-2脚・かき下	深形	直底	1.80~1.85	—	—	—	—	—	—	—	2004	71
115 11号住跡	1脚下部	直底	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2002	71
116 11号住跡	1脚下部	直底	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2007	71
117 11号住跡	1脚	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2003	71
118 11号住跡	下部	直底	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2005	71
119 11号住跡	下部	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2002	71
120 11号住跡	下部	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2007	71
121 11号住跡	下部	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2005	71
122 11号住跡	下部	—	直底	—	—	—	—	—	—	—	—	2000	71
123 11号住跡	下部-上部	直底	直底	1.80~1.85	—	—	—	—	—	—	—	2004	72

参考 () 内は測定値 () 内は概算値

第6表 出土遺物一覧(土器)(5)

編號 番号	遺物名	場所・層位		部位	遺物名	墓地・埋葬場名		墓地・ 埋葬場名 (原・副)	上井 (m)	井深 (m)	文様	備考	報告者	提出 回数	
		上部	下部		口縁	11號	口縁								
124 11号住居跡	上部	口縫	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2053	72 57
125 11号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2063	72 57
126 11号住居跡	上部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2066	72 57
127 11号住居跡	上部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2066	72 57
128 11号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2069	72 57
129 11号住居跡	上部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2068	72 57
130 11号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2079	72 57
131 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2092	72 57
132 12号住居跡	上部	—	—	口縫	125~126	—	—	—	—	—	—	—	—	2067	72 57
133 12号住居跡	上部	—	—	口縫	125~126	—	—	—	—	—	—	—	—	2082	72 57
134 12号住居跡	上部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2088	72 57
135 12号住居跡	上部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2113	72 57
136 12号住居跡	上部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2117	72 57
137 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2111	72 57
138 12号住居跡	上部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2084	72 57
139 12号住居跡	上部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2085	72 57
140 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2119	72 57
141 12号住居跡	木板内	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2066	72 57
142 12号住居跡	木板内	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2109	72 57
143 12号住居跡	木板内	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2101	72 57
144 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2066	72 57
145 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2080	72 57
146 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2114	72 57
147 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2083	72 57
148 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2123	72 57
149 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2090	72 57
150 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2081	72 57
151 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2053	72 57
152 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2056	73 57
153 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2059	73 57
154 12号住居跡	下部	—	—	口縫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2067	73 57

第6表 出土遺物一覽（土器）（6）

編號 分類	遺物名	出土 地點	形狀	測定 方法	測定 (mm)±1	測定 (mm)±2 (mm)±1	測定 (mm)±1	測定 (mm)±2 (mm)±1	備考	長寬 高	圓周 面積
155 12号住居跡	一柄	-	口沿 深5cm	-	-	-	-	-	-	2102	73 57
156 12号住居跡	一柄	-	口沿 深5cm	-	-	-	-	-	-	2110	73 57
157 13号住居跡	集團	深5cm	底部～底部 殘品	-	(98)	(48)	LR(窓孔)→底面	-	-	2179	73 57
158 13号住居跡	集團	底	底部	-	(72)	-	LR(窓孔)→底面	-	-	2314	73 57
159 13号住居跡	集團	-	底部	-	-	(12)	32 37	-	-	2361	73 57
160 13号住居跡	1M48 上部	-	口沿 斜付足	-	-	-	-	-	-	2315	73 57
161 13号住居跡	1M48 上部	-	口沿 斜付足	-	-	-	-	-	-	2317	73 57
162 13号住居跡	1M48	-	口沿	-	-	-	-	-	-	2106	73 58
163 13号住居跡	1M48	-	1M48	-	-	-	-	-	-	2109	73 58
164 13号住居跡	瓶(包含蓋)(?)	-	瓶底	-	-	-	-	-	-	2184	73 58
165 13号住居跡	一柄(包含蓋)(?)	-	瓶底	-	-	-	-	-	-	2185	73 58
166 14号住居跡	杯	-	口沿～瓶底	-	(115)	(60)	-	-	-	2154	73 58
167 14号住居跡	床頭	44	口沿～瓶底	A105 a(76) b(11)	a(60)	LR	-	-	-	2251	73 58
168 14号住居跡	集團	底	1M48～底部	-	4.6	29	4.0 37	-	-	2257	73 58
169 14号住居跡	集團上	-	1M48	-	-	-	-	-	-	2382	73 58
170 14号住居跡	全周身	-	口沿	-	-	-	-	-	-	2420	73 58
171 14号住居跡	5個上・下	-	口沿	-	-	-	-	-	-	2575	73 58
172 14号住居跡	5個上・下	-	瓶底	-	-	-	-	-	-	2376	73 58
173 14号住居跡	2・5個上・下(含蓋上・下)	-	口沿付 瓶底	1M36n-11M36 1M36	(232)	(84.1)	(87.7) LR(窓孔)→底面	然然然然然然然然 然然然然然然然然	-	2362	74 58
174 14号住居跡	集團	口沿	瓶底	-	(38)	-	1.59±	-	-	2421	74 58
175 14号住居跡	集團	-	口沿	-	-	-	-	-	-	2361	74 58
176 14号住居跡	集團	口沿付	瓶底	-	-	-	-	-	-	2365	74 58
177 14号住居跡	瓶	1M48	-	-	(108)	(26)	-	-	-	2394	71 58
178 14号住居跡	瓶	1M48	口沿	-	(31.0)	(21)	LR	-	-	2355	71 58
179 14号住居跡	瓶子	1M48	口沿	-	-	-	-	-	-	2358	74 58
180 14号住居跡	嘴上一杯	-	1M48	-	-	-	-	-	-	2363	74 58
181 14号住居跡	嘴上一杯	-	1M48	-	-	-	-	-	-	2359	74 58
182 14号住居跡	瓶子	-	1M48	-	-	-	-	-	-	2369	74 58
183 14号住居跡	瓶子	-	瓶底	-	-	-	-	-	-	2371	74 58
184 14号住居跡	瓶子	-	口沿	-	-	-	-	-	-	2360	74 58

第6表 出土遺物一覧（土器）（7）

編番 番号	施設名	施入部位	器種	出處	質地・表面性状	量地・底地	底径 (cm) (mm)	口径 (cm) (mm)	文様	備考	長さ (cm)	幅 高さ (cm)
105 14号住居跡	窓 - 1 窓	-	口縁	口縁～底部	-	-	-	-	LR・光沢	-	298.2	71.58
106 14号住居跡	窓 - 1 窓 (内壁 施地の有りなし)	体	口縁	口縁～底部	-	-	(147)	(83)	-	-	293.3	74.58
107 14号住居跡	12N15.1 4.5m (底面有りなし)	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	231.2	74.58
108 14号住居跡	12N15.1 3.5m (底面有りなし)	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	232.2	74.58
109 14号住居跡	12N15.1 3.5m (底面有りなし)	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	236.5	74.58
110 14号住居跡	11M15.2 6.5m (底面有りなし)	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	235.6	74.58
111 14号住居跡	11M15.2 6.5m (底面有りなし)	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	236.6	74.58
112 14号住居跡	12N15.1 4.5m (底面有りなし)	深鉢	口縁～底部	口縁～底部	(540)	(22.8)	-	-	浦沢式	-	256.6	71.58
113 14号住居跡	11M15.1 3.5m (底面有りなし)	深鉢	口縁～底部	口縁～底部	28.3	(11.8)	-	LR	-	-	250.0	75.38
114 14号住居跡	11M15.1 3.5m (底面有りなし)	深鉢	口縁～底部	口縁～底部	-	-	-	-	-	-	250.0	75.38
115 14号住居跡	11M15.1 3.5m (底面有りなし)	深鉢	口縁～底部	口縁～底部	140	11.4	31	LR	-	-	229.9	75.38
116 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	104	8.1	40	7.7	外周部	-	222.8	75.38
117 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	80	20.3	(52)	3.7→LR→BL→BL→光沢	-	-	222.8	75.39
118 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	(172)	(11.0)	-	LR→BL→光沢	-	-	214.6	76.36
119 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	-	(14.0)	(55)	LR・光沢	-	-	231.1	76.36
120 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	-	(61.1)	48	LR・BL・光沢	-	-	223.0	76.36
121 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	-	-	-	-	小原奈良・MIA3	-	228.7	76.36
122 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	94	(5.4)	-	光沢・BL	-	-	232.2	76.36
123 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	(70)	(5.3)	-	LR・光沢	-	-	234.9	76.36
124 15号住居跡	漆面	-	口縁～底部	口縁～底部	(260)	(12.7)	-	BL	-	-	222.7	76.36
125 15号住居跡	下窓 標記2.2m×3.0m	-	口縁～底部	口縁～底部	(430)	(33.8)	-	LR・BL・光沢	-	-	218.8	76.59
126 15号住居跡	12N15.2 7.0m (底面有りなし)	体	口縁～底部	口縁～底部	50	9.6	18	LR・BL・光沢	光沢	231.3	76.59	
127 15号住居跡	12N15.2 7.0m (底面有りなし)	側面	口縁～底部	口縁～底部	(69)	7.1	27	ナラリ	楕円形ナラリ・楕丸	-	222.8	77.59
128 15号住居跡	7.0mより下	側面	側面	側面	-	-	-	-	-	-	285.1	77.59
129 15号住居跡	12N15.2 7.0mより下	側面	口縁～底部	口縁～底部	-	-	-	-	-	-	235.7	77.59
130 15号住居跡	6.5mより下	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	231.1	77.59
131 15号住居跡	6.5mより下	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	250.0	77.59
132 15号住居跡	6.5mより下	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	227.0	77.59
133 15号住居跡	6.5mより下	-	側面	側面	-	-	-	-	-	-	232.1	77.59

※1 () 内は測定値 ※2 () 内は概算値

第6表 出土遺物一覧(土器) (8)

器種 分類	通稱名	施主・埋立区	形態	部位	測量及重量	測量 計上重(目)	測量 計上重(目)	門檻 (mm) 重(目)	門檻 (mm) 重(目)	支脚	標号	保存状 況	出所
215 15号住居跡	1~3号(焼け立)下	井口	1.18~1.20cm	口縁~底部	128.02	21.9	20.7	(3.7) (12.9)	-	LK→新石器時代	2242	77	59
216 15号住居跡	126.02 6号(2~4層) 126.02 7号(1~6層)	井	-	口縁~底部	-	-	-	LK→新石器時代	-	2225	77	60	
217 15号住居跡	128.02 2~4層	井	-	口縁~底部	-	-	-	-	-	2289	77	60	
218 15号住居跡	128.02 2~4層 1~6層	井	-	口縁~底部	-	-	-	-	-	2234	77	60	
219 15号住居跡	128.02 下部	井	-	井底	128.02	-	-	-	-	2278	77	60	
220 15号住居跡	1~3号	台付舟	1.05~1.08cm	口縁~底部	-	-	-	(3.1) (6.5)	IL.	-	2340	77	60
221 15号住居跡	3号上(1~3層含む)	浅井	1.18~1.20cm	口縁~底部	-	-	-	(3.3) (5.7)	-	LK	2250	78	60
222 15号住居跡	3号上(2~4層含む)	深井	-	口縁	-	-	-	(1.4)	アツ	-	2255	78	60
223 15号住居跡	3号上(3~4層含む)	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2259	78	60	
224 15号住居跡	3号上(1~3層含む)	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2263	78	60	
225 15号住居跡	3号上(1~3層含む)	-	-	井底	-	-	-	-	-	2268	78	60	
226 15号住居跡	2号上 1号	-	-	井底	-	-	-	-	-	2272	78	60	
227 15号住居跡	128.02 1号(1~3層含む)	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2276	78	60	
228 15号住居跡	128.02 1号(1~3層含む)	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2277	78	60	
229 15号住居跡	128.02 1号(1~3層含む)	-	-	井底	-	-	-	-	-	2273	78	60	
230 15号住居跡	128.02 1号(1~3層含む)	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2282	78	60	
231 15号住居跡	1号(1~3層含む)	井	-	井底	-	-	-	(1.3) (2.0)	コゾ・輪郭・4R	-	2237	78	60
232 15号住居跡	F122	-	1.18	-	-	-	-	-	-	2290	78	60	
233 15号住居跡	F129	深井	1.18~1.20cm	口縁	-	-	-	(1.65) (7.4)	LK→新石器時代	6号立?	2233	78	60
234 15号住居跡	F147	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2245	78	60	
235 15号住居跡	F166	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2260	78	60	
236 15号住居跡	F170	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2304	78	60	
237 15号住居跡	F173	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2307	78	60	
238 15号住居跡	F179	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2308	78	60	
239 15~16号住居跡	128.02 1号(7層以下)	-	-	口縁	-	-	-	-	-	2267	78	60	
240 15~16号住居跡	126.0~126.5 1号(4~6層)	深井	-	井底	128.02	-	-	(1.2)	カナ・北端	-	2246	78	60
241 15~17号住居跡	15号(1~3層)	斜井?	-	井底	-	-	-	(4.3)	アツ	-	2256	78	60
242 15~17号住居跡	15号(4~6層)	深井	奥底	-	-	-	(1.2)	カナ	-	2249	78	60	
243 15~17号住居跡	15号(1~3層)	-	口縁	-	-	-	-	-	-	2264	78	60	
244 15~17号住居跡	15号(4~6層)	井	井底	-	-	-	(3.5)	カナ	-	2253	78	60	
245 15~17号住居跡	126.3~126.5 1号(7層以下)	台付	口縁~底部	-	-	-	72	34	アツ(一部)・カナ	-	2258	78	60

※1 () 内は測定値、※2 () 内は算出値

第6表 出土遺物一覽〈土器〉(9)

第6表 出土遺物一覧(土器)(10)

通號	遺物名	出土位置	器種	部位	測量点 泥土層位	測量点 泥土層位	口径 (cm) 1	口径 (cm) 2	底径 (cm) 3	参考	参考	回収	写真
277	17号住跡	1段2.0上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2229	60
278	17号住跡	1段3.0上	灰陶	口縫~底部	75	—	—	—	—	—	—	2225	61
279	17号住跡	—1段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2080	61
280	17号住跡	—1段	灰陶	口縫~底部	78	—	—	—	—	—	—	2294	61
281	18号住跡	半周	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2065	61
282	18号住跡	1段	灰陶	口縫~底部	79	49	43	LR	—	—	—	2065	61
283	18号住跡	2段	灰陶	口縫~底部	96	122	—	コブ→LR→底	—	—	—	2065	61
284	18号住跡	3段	灰陶	口縫~底部	109	65	64	LR	—	—	—	2065	61
285	18号住跡	4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2069	61
286	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2088	61
287	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2067	61
288	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2415	61
289	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2411	61
290	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2410	61
291	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2412	61
292	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2414	61
293	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2413	61
294	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2417	61
295	18号住跡	—4段	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2418	61
296	19号住跡	1段2.0上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2159	61
297	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2157	61
298	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2152	61
299	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2132	61
300	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	119	123cm	—	—	—	—	—	2111	61
301	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	111	—	—	—	—	—	—	2131	61
302	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2156	61
303	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2140	61
304	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2143	61
305	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2130	61
306	19号住跡	1段2.0伊の上	灰陶	口縫~底部	—	—	—	—	—	—	—	2155	61
							—	—	—	—	—	2128	61

①() 内は基準値 ②() 内は実測値

第6表 出土遺物一覽〈土器〉(11)

卷之二

第6表 出土遺物一覧（土器）（12）

器種 部品 番号	通称名	地点・部位		部位	其他必須備考		置場点 (出土層)	1層 (cm) 0.1	2層 (cm) 0.2	3層 (cm) 0.1	文様	備考	保存状 態	図版 番号
		地點	部位		（測定値）	（測定値）								
338 21号柱上部	焼付陶	洗朴	口縁	—	—	—	—	(36.6)	—	—	—	—	—	2173 A4 63
339 21号柱下部	焼付陶	洗朴面	—	焼付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2177 B4 63
340 21号柱三段階	—	—	—	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2178 B4 63
341 21号柱中段	小管・柱底瓦土	洗朴	器底～底部	10.044	—	—	—	(27.2)	(9.1)	—	—	—	—	2171 B4 63
342 21号柱中段	小管・柱底瓦土	洗朴	口縁～底部	—	—	—	—	(33.0)	32.6	(13.2)	網目状	—	—	3235 B4 64
343 21号柱柱頭部	小管・柱底瓦土	洗朴	口縁～底部	—	—	—	—	(3.8)	8.4	2.2	ナガコロ	—	—	2311 B4 64
344 21号柱柱頭部	小管	洗朴	口縁～底部	—	—	—	—	(1.6)	4.6	コゾ→K(先端)→直線	—	—	—	2187 B5 64
345 22号柱柱頭部	小管	洗朴	口縁	—	陶器	—	—	—	—	—	コゾ→K(先端)→直線	—	—	2193 B5 64
346 22号柱柱頭部	小管	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2192 B5 64
347 22号柱柱頭部	小管	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2191 B5 64
348 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2306 B5 64
349 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2305 B5 64
350 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2304 B5 64
351 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	2307 B5 64
352 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2319 B5 64
353 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	内面底辺に直口彎心の 點打痕	—	2319 B5 64
354 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2319 B5 64
355 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2321 B5 64
356 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	ナガコロ(ガキに2点打)	—	2349 B5 64
357 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	(5.8)	4.5	ミガキ	—	—	—	2357 B5 64
358 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	(8.8)	6.5	ヒガタ	—	—	—	2357 B5 64
359 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	(6.5)	6.5	ヒガタ	—	—	—	2357 B5 64
360 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	(2.4)	(3.6)	ナガコロ(ガキに2点打)	—	—	—	2349 B5 64
361 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	(31.3)	—	—	—	—	—	2357 B5 64
362 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	(36.0)	—	—	—	—	—	2359 B5 64
363 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	(31.3)	—	—	—	—	—	2359 B5 64
364 10号土瓶	—	陶器	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	51 B6 64
365 10号土瓶	—	陶器	口縁	—	—	—	—	(2.8)	(6.0)	H.L.?	—	—	—	55 B6 64
366 10号土瓶	—	陶器	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	56 B6 64
367 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	58 B6 64
368 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	61 B6 64
369 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	59 B6 64
370 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29 B6 64
371 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	62 B6 64
372 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	63 B6 64
373 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	64 B6 64
374 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	65 B6 64
375 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	66 B6 64
376 1号柱石造基	柱	洗朴	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	67 B6 64

※() 内は完底、空() 内は残存

第6表 出土遺物一覽〈土器〉(13)

卷之二 (內證氣存脈)

第6表 出土遺物一覽（土器）（14）

編號 番号	遺物名	施入部位		器種	等位	所在地點名	測量位置 測量高度 (m)±0.1	口徑 (m)±0.1	結合 (m)±0.1	底徑 (m)±0.1	性質	食器等 類別	標本 號碼
		橫剖面	縱剖面										
349 1號	輪胎	—	口徑	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2199
365 267土壤	輪胎	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2205
366 253土壤	上部(包含底)	—	口徑	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2212
368 355土壤	上部(包含底)	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2215
369 355土壤	—(底)(包含底)	—	口徑	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2211
400 365土壤	下部	—	口徑	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2221
401 360土壤	下部	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2222
402 359土壤	—(底)	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2223
403 357土壤	—(底)	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2224
404 424土壤	—(底)	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2216
405 425土壤	—(底)	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2217
406 427土壤	—(底)	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
407 1号土壤	中土	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
408 1号土壤	輪胎	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
409 2号土壤	輪胎	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
410 3号土壤	輪胎	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
411 4号土壤	輪胎	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
412 6号土壤	輪胎+25	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
413 7号土壤	輪胎	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
414 52号土壤	輪胎+25	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	2207
415 5K	木桶內	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	106
416 5K	木桶內	—	口徑	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	103
417 5K	木桶內	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	104
418 5K	木桶內	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	105
419 71a	褐色(灰層)	—	口徑	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	1007
420 201-205土壤	褐色(灰層)	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	1025
421 704	褐色(灰層)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1039
422 70	褐色	—	輪胎	輪胎	—	—	—	—	—	—	—	—	1040
423 775e	褐色(灰層)	—	口徑	[90]a	—	—	—	—	—	—	—	—	1190
424 8E	木桶內	—	—	[18]	—	—	—	—	—	—	—	—	2629
425 8E	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2625

(注) ()内は重複値 ()内は重複値

第6表 出土遺物一覧（土器）（15）

品番	通称名	地点・部位	層位	年代	所在地及器物名	測量点 上・下限 (m.s)	寸法 (m.s)	断面 (m.s)	文様		参考	保有者	保管 状況
									直角	斜角			
426 881e	木製舟?	木製舟?	-	-	口縁	-	-	-	-	-	-	1057	90 67
427 884c	圓筒土(直筒?)	圓筒土(直筒?)	-	-	輪形	-	-	-	-	-	-	1057	90 67
428 891g	木舟内	木舟内	-	-	口縁	90lb-c	-	-	-	-	-	1057	90 67
429 891b	圓筒土(直筒?)木舟内?	圓筒土(直筒?)木舟内?	-	-	口縁	1袋	-	-	-	-	-	1057	90 67
430 891c	圓筒土(直筒?)木舟内?	圓筒土(直筒?)木舟内?	-	-	口縁	口縁~底縁 輪形~底縁	-	-	-	-	-	1056	90 67
431 891c	圓筒土(直筒?)	圓筒土(直筒?)	-	-	口縁	口縁~底縁 輪形~底縁	-	-	-	-	-	1057	90 67
432 892a	木舟内	木舟内	13-15.1枚	10枚	口縁	70lb-d	-	-	-	-	-	1057	90 67
433 892b	木舟内	木舟内	-	-	口縁	80lb-d	-	-	-	-	-	1057	90 67
434 892a	褐色土(直筒?)	褐色土(直筒?)	-	-	口縁	70lb-d	-	-	-	-	-	1058	90 67
435 892a	褐色土(直筒?)	褐色土(直筒?)	-	-	口縁	70lb-d	-	-	-	-	-	1071	90 67
436 891d	直筒	直筒	-	-	口縁	口縁~手縁 70lb-d	-	-	-	-	-	1052	90 67
437 891c	直筒	直筒	片口	-	口縁~底縁 80lb-c	-	-	-	直筒	直筒	-	1054	90 67
438 892b	直筒	直筒	直筒	-	口縁	80lb-c	-	-	直筒~手縁 70lb-d	直筒	-	1056-1122	91 67
439 894e	褐色土(直筒?)直筒	褐色土(直筒?)直筒	-	-	口縁	口縁~底縁 80lb-c	-	-	直筒	直筒	-	1059	91 67
440 893b	直筒	直筒	-	-	輪形	-	-	-	-	-	-	1106	91 67
441 893e-902c-2c-903d-2b	褐色土(直~直筒)	褐色土(直~直筒)	-	-	口縁	-	-	-	-	-	-	1358	91 67
442 893e-902c-2c-903d-2b	褐色土(直~直筒)	褐色土(直~直筒)	-	-	輪形	-	-	-	-	-	-	1359	91 67
443 893c	直筒	直筒	-	-	口縁	口縁~底縁	-	-	直筒	直筒	-	1134	91 67
444 895c	直筒	直筒	-	-	輪形	-	-	-	直筒	直筒	-	1165	91 66
445 902c	直筒	直筒	-	-	口縁	-	-	-	直筒	直筒	-	1354	91 68
446 903e	褐色土(直筒?)	褐色土(直筒?)	-	-	輪形	-	-	-	-	-	-	1559	91 68
447 934	褐色土(直~直筒)	褐色土(直~直筒)	-	-	輪形	-	-	-	-	-	-	1170	91 68
448 942b	褐色土(直~直筒)	褐色土(直~直筒)	-	-	輪形	80lb-c	-	-	-	-	-	1139	91 68
449 905b	直筒	直筒	底透(直筒)	110	直筒	直筒	-	-	直筒	直筒	-	1377	91 68
450 902b	直筒	直筒	底透	-	直筒	直筒	-	-	直筒	直筒	-	1196	91 68
451 903b	直筒	直筒	-	-	口縁	-	-	-	-	-	-	1143	91 68
452 905a	直筒	直筒	-	-	輪形	90lb-c	-	-	-	-	-	1154	91 68
453 905a	直筒	直筒	-	-	口縁~底縁 輪形~底縁	90lb-c	-	-	-	-	-	1163	91 68
454 901b	褐色土(直筒?)直筒より下	褐色土(直筒?)直筒より下	-	-	口縁	口縁~底縁 輪形~底縁	-	-	直筒	直筒	-	1226-1229	91 68
455 901b-c	直筒より上	直筒より上	-	-	口縁	10lb-c	-	-	直筒	直筒	-	1408	91 68

※1 ()内は空塗装、()外は充塗装

第6表 出土遺物一覽〈土器〉(16)

◎1()內註經定稿 錄2()內註存稿

第6表 出土遺物一覽〈土器〉(17)

編號 番号	遺物名 遺物名	出土單位 出土地點	器形 形狀	部位 部位	測量方法 測量方法	測量值 測量值 (m)	口徑 口徑 (m)	體積 體積 (m) ³	燒失 燒失 (%)	文獻 文献 記載	備考 備考	灰分 灰分 (%)	陶質 陶質 (%)
										LK→泥板 LK→泥板	LR LR		
487 106K	直筒	—	瓶底	111.2c	—	—	—	—	—	—	—	30.67	93 69
488 106.2b	直筒	—	瓶底	111.2c	口沿~瓶底	10.40	10.40	—	—	—	—	31.47	93 69
489 106.2b	直筒	—	瓶底	111.2c	口沿~瓶底	10.40	10.40	—	—	—	—	30.65	93 69
490 106.4a	—	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
491 106.4a~5a.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	30.65	93 69
492 106.4a~5a.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	30.75	93 69
493 106.4a~5a.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	30.68	93 69
494 107.4c	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	30.60	93 69
495 107.5a	直筒	—	瓶底(合縫)	—	—	—	—	—	—	—	—	30.69	93 69
496 107.5a	直筒	—	口沿	111.5a	口沿~瓶底	111.5a	111.5a	—	—	—	—	30.69	93 69
497 107.5c	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	30.63	93 69
498 107.5c	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	30.72	93 69
499 107.5c	直筒	—	瓶底	—	—	—	—	—	—	—	—	30.74	93 69
500 107.5c	直筒	—	瓶底	—	—	—	—	—	—	—	—	30.70	93 69
501 107.5c	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	30.62	93 69
502 107.5e	直筒	—	瓶底	—	—	—	—	—	—	—	—	30.71	93 69
503 108.1b	輪底土(直筒)	—	瓶底	—	—	—	—	—	—	—	—	30.73	93 69
504 108.1a	直筒	—	瓶底	—	—	—	—	—	—	—	—	31.76	93 69
505 108.1(B~IV型)	直筒	—	瓶底	—	—	—	—	—	—	—	—	31.87	93 69
506 108.5e	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	31.80	93 69
507 109.1b	深色(口沿~直筒)	—	瓶底	—	a = 107.4c / 109.2c; b = 300.25	—	—	—	—	—	—	31.63	93 69
508 109.1b	直筒	—	口沿~瓶底	—	—	—	—	—	—	—	—	31.26	93 69
509 109.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	31.85	94 69
510 109.2b	直筒	—	口沿~瓶底	—	—	—	—	—	—	—	—	31.18	94 69
511 109.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	31.10	94 69
512 109.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	31.13	94 69
513 109.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	31.12	94 69
514 109.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	31.15	94 69
515 109.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	31.86	94 69
516 109.2b	直筒	—	口沿	—	—	—	—	—	—	—	—	31.17	94 69

註(1) 内地鑑定値 36.2 () 内地鑑定値

第6表 出土遺物一覽（土器）（18）

參1()內註釋完備 參2()內註釋存偏

第6表 出土遺物一覧〈土器〉(19)

品番	通番号	地点・層位	形状	部位	表面	底面	内壁	外壁	底面	側面	底面	側面	底面
547 [GR]a	[GR]a	黒色土(灰土・瓦当)	一	鉢底	90.5a	直筒							
548 [GR]a	[GR]a	黒色土(灰土・瓦當)	鉢	底部	110d~3d	直筒							
549 [GR]b	[GR]b	漆器	深杯	底部	108.0b	直筒							
550 [GR]c	[GR]c	漆器	盤	底部	108.2c	直筒							
551 [GR]d	[GR]d	漆器	盤	底部	108.2d	直筒							
552 [GR]e	[GR]e	漆器	盤	底部	108.2e	直筒							
553 [GR]f	[GR]f	漆器	盤	底部	108.2f	直筒							
554 [GR]g	[GR]g	漆器	一	口縁	11.1g	直筒							
555 [GR]h	[GR]h	漆器	深杯	口縁～脚部	106.3e~106.2c~2~2c~2c	直筒							
556 [GR]i	[GR]i	漆器	深杯	口縁～脚部	108.4d~108.5b	直筒							
557 [GR]j	[GR]j	漆器	盤	口縁	107.5	直筒							
558 [GR]k	[GR]k	漆器	盤	口縁	107.1	直筒							
559 [GR]l	[GR]l	漆器	盤	口縁	107.5	直筒							
560 [GR]m	[GR]m	漆器	盤	口縁	107.5	直筒							
561 [GR]n	[GR]n	漆器	盤	口縁	107.5	直筒							
562 [GR]o	[GR]o	漆器	一	口縁	11.1o	直筒							
563 [GR]p	[GR]p	漆器	一	口縁	11.1p	直筒							
564 [GR]q	[GR]q	漆器	一	口縁	11.1q	直筒							
565 [GR]r	[GR]r	漆器	一	口縁	11.1r	直筒							
566 [GR]s	[GR]s	漆器	一	口縁	11.1s	直筒							
567 [GR]t	[GR]t	漆器	一	口縁	11.1t	直筒							
568 [GR]u	[GR]u	漆器	一	口縁	11.1u	直筒							
569 [GR]v	[GR]v	漆器	一	口縁	11.1v	直筒							
570 [GR]w	[GR]w	漆器	一	口縁	11.1w	直筒							
571 [GR]x	[GR]x	漆器	一	口縁	11.1x	直筒							
572 [GR]y	[GR]y	漆器	一	口縁	11.1y	直筒							
573 [GR]z	[GR]z	漆器	一	口縁	11.1z	直筒							
574 [GR]aa	[GR]aa	漆器	一	口縁	11.1aa	直筒							
575 [GR]ab	[GR]ab	漆器	一	口縁	11.1ab	直筒							
576 [GR]ac	[GR]ac	漆器	一	口縁	11.1ac	直筒							
577 [GR]ad	[GR]ad	漆器	一	口縁	11.1ad	直筒							

表1 () 内は測定値 () 内は実寸

第6表 出土遺物一覽〈土器〉(20)

卷二()內註釋定值

第6表 出土遺物一覧〈土器〉(21)

登録号	通称名	地点名	出土箇所	部位	其他分類名	埋藏条件 出土層位	口径 (cm) 直径 (cm) 高さ (cm) 厚さ (mm)	文様	備考	参考番 号	出図番 号
609	II1L2d	Ⅱ号	-	新窓	-	-	-	-	-	3128	99
610	II1L2d	Ⅱ号	-	新窓	口縁-新窓	II1L2e	-	-	-	3127	99
611	II1L2d	Ⅱ号	-	新窓	口縁	-	-	-	-	3065	99
612	II1L2e	Ⅱ号	-	新窓	新窓	-	-	-	-	3114	99
613	II1L2e	Ⅱ号	-	新窓	新窓	-	-	-	-	3132	99
614	II1L4a	Ⅱ号	-	新窓	新窓	-	-	-	-	3131	99
615	II1L4a	Ⅱ号	-	新窓	新窓	-	-	-	-	3130	99
616	II1L4a	Ⅱ号	壁	新窓	-	-	(6.2)	LR(安納)-波打模入	-	3098	99
617	II1L4d	Ⅱ号	-	新窓	-	-	-	-	-	3140	99
618	II1L4c	Ⅱ号	-	新窓	-	-	-	-	-	3142	99
619	II1L4e	Ⅱ号	-	口縁	-	-	-	-	-	3116	99
620	II1L5c	Ⅱ号	-	口縁	-	-	-	-	-	3066	99
621	II1L4c	Ⅱ号	-	口縁	口縁	-	-	-	-	3121	99
622	II1L5d	Ⅱ号	-	口縁	口縁	-	95	1.35	1.39全	3069	99
623	II1L5b	Ⅱ号	-	口縁	口縁	-	-	-	-	3125	99
624	II1L5b	Ⅱ号	-	口縁	口縁	-	-	-	-	3112	99
625	II1L5b	Ⅱ号	洋縁	口縁-洋縁	II1L5b-5c	河内	(32.2)	(21.8)	-	3069	100
626	II1L5b-5c	Ⅱ号	洋縁	口縁	口縁	-	(5.1)	-	1.39全	3151	100
627	II1L5-9d	Ⅱ号	-	新窓	-	-	-	-	-	3183	100
628	II1M1a	B号	-	口縁-新窓	II1M2a	直唇	-	-	-	3194	100
629	II1M1a	B号	-	新窓	口縁-新窓	II1M2a	b-1.5cm	a(7.7)	LR	1322	100
630	II1M1c	地盤上(?)	新	新窓	新窓	-	-	(7.6)	-	1330	100
631	II1M1e	地盤上(?)	新	新窓	II1M1d	直唇	-	-	-	1356	100
632	II1M1e	地盤上(?)	-	新窓	II1M2a-11M2b-13M2c-13M2d-13M2e	-1.5	-	-	-	3191	100
633	II1M2a	Ⅱ号	-	新窓	新窓	-	-	-	-	3114	100
634	II1M2b	Ⅱ号	-	新窓	口縁-新窓	-	6.5	(4.1)	直口1.5cm	3186	100
635	II1M2b	地盤上(?)	新	新窓	新窓	-	(34.0)	(26.1)	LR(直縁)	1355	100
636	II1M2b	地盤上(?)	-	新窓	新窓	-	-	-	-	1372	100
637	II1M2c-2d	Ⅱ号	新窓	口縁	口縁	-	-	-	-	3195	100
638	II1M2c	Ⅱ号	-	新窓	新窓	-	-	-	-	3111	100

注(1) 内は筆者 (2) 内は発行者

第6表 出土遺物一覽(土器) (22)

器種 器物番号	出土点・地質	器種	部位	所在地・遺物名	測量点 出土位置	口径 (m)(t)	周長 (m)(t)	参考	参考分 類別	参考 符號
639 11M5a	Ⅰ層	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	2012 100 74
640 11M5b	輪底上(Ⅱ層)	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	1512 100 74
641 11M5b	Ⅰ層	-	口沿	-	-	-	-	-	-	3500 100 74
642 11M5b	Ⅰ層	-	口沿	-	-	-	-	-	-	2016 100 74
643 11M5b	Ⅰ層	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	2013 100 74
644 11M5c	Ⅰ層	柱	鋸齿-瓶蓋 11M4c	Ⅲ層	-	(13.0) (6.2) LR	-	-	-	3190 100 74
645 11M5d	Ⅰ層	-	口沿	-	-	-	-	-	-	2014 100 74
646 11M4c	Ⅰ層	深鉢	1.68~1.75 11M5c	Ⅳ層	(12.4) (5.0) -	LR	-	-	-	2187 100 74
647 11M4c	Ⅰ層	盆	口沿~瓶蓋 11M4d	Ⅳ層	(10.2) (4.8) -	底盤	-	-	-	3192 100 74
648 11M5b	Ⅰ層	-	口沿	-	-	-	-	-	-	2022 100 74
649 11M5d	Ⅰ層	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	3206 100 74
650 11N3d	Ⅰ層	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	1422 101 74
651 11N3a	褐色土上(Ⅲ層 混合土)	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	1425 101 74
652 11O1a	褐色土(Ⅲ層)	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	1431 101 74
653 11O1a	水田土?	-	口沿	11N5d	Ⅲ層	-	-	-	-	1458 101 74
654 11O1ad	Ⅲ層	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	1446 101 74
655 11O1ad	Ⅲ層	-	鋸齿	-	-	-	-	-	-	1442 101 74
656 11O5a	V帶上り上	浅鉢	1.90~2.05	-	(18.1) (6.1) -	LR	-	-	-	1469 101 74
657 12K2b-2c-2b-2c	水田内	浅鉢	1.90~2.05	-	(6.6) (18.5) -	LR	-	-	-	2036 101 74
658 12K2b-2c-3b-3c	水田内	盆	口沿~乳頭	-	10.2 (1.9) (1.8) ドラマリ	(2.0) 4.7	-	-	-	3046 101 75
659 12K2b-2c-3b-3c	水田内	盆	口沿	-	-	(2.0) 4.7	-	-	-	2020 101 75
660 12K2b-2c-3b-3c	水田内	盆?	底盤	-	-	LR ~底盤	-	-	-	3038 101 75
661 12K2b-2c-3b-3c	水田内	盆	口沿~底盤	-	10.4 (2.8) (2.0) 4.7	LR	-	-	-	3034 101 75
662 12K2b-2c-3b-3c	水田内	深鉢	9号位	-	(7.1) -	底盤 鋸歯状~底盤 瓶底	-	-	-	3037 101 75
663 12K2b-2c-3b-3c	水田内	浅鉢	口沿~瓶蓋	-	13.3 (9.0) -	瓶底	-	-	-	3035 101 75
664 12K2c	Ⅱ層	-	口沿	-	-	-	-	-	-	3031 101 75
665 12K2c	Ⅱ層	4.80t	-	-	(10.0) (4.1) -	底盤	-	-	-	3032 101 75
666 12K2c	Ⅱ層	10.8t	10.8t	包含器	8.4 6.9	3.5 ドラマリ	-	-	-	3022 101 75
667 12K3d	Ⅱ層	-	底盤	-	-	-	-	-	-	3027 101 75
668 12K3e-3e	河岸(-D層)	-	底盤	-	-	-	-	-	-	3001 101 75
669 12K5e	Ⅱ層	-	底盤	-	-	-	-	-	-	3023 101 75

表1 ()内は断定標 ()内は疑問標

第6表 出土植物一覧（土器）(23)

編號	植物名	产地、部位	器形	部位	測定六箇部位名	測定部位	實驗室編號	門類 (cm) (cm)	花瓶 (cm) (cm)	備考	食否	附註	
670	12K5d	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	305	101 75	
671	12K5d-1-1SK4d	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	305	101 75	
672	12K5d-1-1L	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3023	101 75	
673	12L1a	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3153	101 75	
674	12L1a	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3164	101 75	
675	12L1a	日壙	身	口沿~底緣 19号付125.1b	1-底~頂部 66	66	(110) 10.8	-	-	4等級	3148	101 75	
676	12L1e	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3166	101 75	
677	12L2a	日壙	口沿~底緣 10号	身	-	-	(40) 11.8	0.8	北端~南端 (61)	圓穿孔孔	3152	101 75	
678	12L2a	河原	身	身	-	-	(38)	-	3.9%	-	3149	101 75	
679	12L3b	河原	身	口沿~底緣 10号	-	(76) (36)	1.8	-	-	-	3155	101 75	
680	12L3c	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3153	101 75	
681	12L3c	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3160	101 75	
682	12L3c 12L3e	日壙 (-底緣寬1.2)	身	口沿	-	-	(28) (24)	-	2.4%	-	3154	101 75	
683	12L3d	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3168	101 75	
684	12L4e	日壙	-	身	CH8	-	-	-	-	-	3159	101 75	
685	12L4f-5d	木口付?	-	口沿	-	(98) (53)	1.8	-	-	-	3157	101 75	
686	12L4g	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3170	101 75	
687	12L5c	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3172	101 75	
688	12L5c-5d	河原~根~木口付	-	身	-	-	-	-	-	-	3174	101 75	
689	12L5c-5d	河原~根~木口付	858	口沿~底緣 12号	-	59	24	(20)	2.9%	-	-	3151	101 75
690	12M2a	日壙	-	身	12号 12M3b	12号 15-16号	-	-	-	-	3169	102 75	
691	12M2c	日壙	-	口沿	-	-	-	-	-	-	3234	102 75	
692	12M2c	日壙	-	身	CH8	-	-	-	-	-	3238	102 75	
693	12M3b	日壙~底緣 12号	-	身	CH8	-	-	-	-	-	3246	102 75	
694	12M3b	日壙~底緣 12号	-	身	CH8	-	(29)	-	-	-	3233	102 75	
695	12M3b	日壙	-	身	-	-	-	-	-	-	3234	102 75	
696	12M3b	日壙~底緣 12号	-	身	CH8	-	(23)	-	-	-	3235	102 75	
697	12M3c	日壙~底緣 12号	-	身	CH8	-	(101)	-	LRK穿孔	-	3232	102 75	
698	12M3c	日壙	-	身	CH8	-	-	-	-	-	3232	102 75	
699	12M3c	日壙	-	身	CH8	-	(6.1)	-	LRK穿孔~底緣	-	3236	102 75	
700	12M	-	-	身	CH8	-	-	-	-	-	3237	102 75	

全1 (内は充電 812 (内は充電

第6表 出土遺物一覧(土器) (24)

遺物 部類 番号	遺物名	地点・状況	器種	部位	表面	表面处理	断面	口径 (cm) (寸)	底径 (cm) (寸)	厚さ (cm) (寸)	備考	参考	測定 範囲	測定 範囡
701 12N1a	直筒	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	324	102 75
702 12N1a	直筒	-	口縁	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	303	102 75
703 12N1a	直筒	-	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	306	102 75
704 12N1a	直筒	-	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	307	102 75
705 12N1a	直筒	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	308	102 75
706 12N1a	直筒(直筒)	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	329	102 75
707 12N1a	筒形 1.16 (縦)	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	160	102 75
708 12N1a	筒形 1.16 (縦)	井戸 (竹)	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	147	102 75
709 12N1c	直筒	井戸	口縁	1.76	-	-	-	1.8	1.0	-	-	-	142	102 75
710 12N2b	直筒	井戸	口縁	-	-	-	-	2.00	1.53	-	-	-	325	102 75
711 12K1c	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.19	0.54	-	-	-	359	102 75
712 12K3c	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.20	0.55	-	-	-	361	102 75
713 12C5c	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.20	0.55	-	-	-	326	102 75
714 12B5a	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.20	0.55	-	-	-	351	102 75
715 12E5	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.20	0.55	-	-	-	322	102 75
716 12G5	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.20	0.55	-	-	-	329	102 75
717 12E	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.20	0.55	-	-	-	324	102 75
718 12E	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.20	0.55	-	-	-	325	102 75
719 12d	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.20	0.55	-	-	-	323	102 75
720 12f	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	1.40	1.0	-	-	-	316	102 75
721 12H1	直筒	井戸	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	251	102 75
722 丙折面直筒	筒形 1.16 (縦・横)	井戸	口縁	1.76	-	-	-	1.15	0.58	-	-	-	126	102 75
723 丙折一直筒	井戸	1.16 (直・横)	底部	-	-	-	-	0.69	0.58	(4.3)	LR	-	328	102 75
724 丙折内縫	-	-	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	251	102 75

第6表 出土遺物一覧〈土製品〉(1)

編號 番号	遺物名 遺物名	出土地點 出土地點	陶質		灰陶		滑石 滑石		漆器 漆器		漆器 漆器	
			土質(鉛灰)	(30)	土質(鉛灰)	(29)	土質(鉛灰)	(28)	土質(鉛灰)	(25)	漆器 漆器	漆器 漆器
725 12号住居	下部				土質(鉛灰)	(31)					7.2	69.5
726 10号住居・1号配石	12M1b-S5				土質(鉛灰)	(31)					5.1	69.6
727 16号住居・1号丸石	-14		1脚(原底)		4.7	(35)					24.8	69.9
728 17号住居	下部		土質(鉛灰)		3.3	(25)					8.0	69.8
729 20号住居	12.4d	15.5	土質(鉛灰)		3.7	(36)					67.8	69.8
730 735*111.4e	底部		1脚(原底)		12.0	(37)					209.9	69.9
731 8/3a	地		土質(鉛灰)		3.6	(37)					14.1	69.9
732 111.2c	頂部		土質(鉛灰)		6.6	(39)					11.1	69.9
733 111.2b	頂部		土質(鉛灰)		4.4	(56)					21.1	70.8
734 111.3e	頂部		スラング形・輪底		3.3	(32)					26.6	70.8
735 12M4b	頂部		スラング形・輪底		1.6	(29)					23.0	70.8
736 26号住居	上部		環状土製品		0.76	(44)					6.5	70.6
737 14号住居	上部(底含む?)		環状土製品		0.83	(25)					12.9	70.6
738 16号住居	底部		環状土製品(穿孔あり)		1.8	(25)					6.1	70.6
739 111.1f	底部		有孔土製品		1.7	1.0					1.1	70.6
740 9号住居	上部		小口土器?		3.5	2.4					24	70.6
741 5号住居	上部		小口? 花?		3.6	4.8					11.7	70.6
742 9号住居	上部		土器貝? 手縫合部?		3.1	2.1					6.7	70.6
743 14号住居	底部		植生灰		1.5	1.5					6.6	70.6
744 15号住居	上部		毛瓶		2.7	2.1					21	70.9
745 15号住居	上部		毛土瓶		2.5	1.6					20	70.9
746 111.1b	底部		植生灰		2.5	1.4					12.4	70.9
747 111.1e	底部		植生灰?		3.6	3.2					27	70.9
748 11M2a	底部		植生灰		2.3	1.8					1.6	70.9
749 13号	底部		植生灰		2.9	2.3					65	70.9
750 9号住居	上部		中國灰土製品		2.6	2.7					15.6	70.9
751 9/44.67			門狀土製品		2.2	2.4					4.6	70.9
752 9/44.68			門狀土製品		2.7	2.9					4.8	70.9
753 9号住居			門狀土製品		3.2	3.4					2.1	70.9
754 10号住居			中國灰土製品		3.4	3.1					6.7	70.9
755 11号住居	-15		門狀土製品		3.7	3.9					7.3	70.9
			門狀土製品		3.7	3.9					12.8	70.9

第6表 出土遺物一覽〈土製品〉(2)

器名 器号	通體長 mm	底直徑 mm	側面 形狀	輪胎 (mm)		厚さ (mm)	底深 (mm)	底面 (mm)	底面 形狀
				外	内				
736 12号住居	上部 146	下部 146	圓盤狀土製品	2.3	2.2	0.7	2.9	2.9	方孔 圓盤
737 12号住居	上部 125	下部 125	圓盤狀土製品	2.9	3.5	0.9	8.5	8.5	方孔 圓盤
738 12号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	2.7	2.8	0.7	6.2	6.2	方孔 圓盤
739 12号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	2.8	2.5	0.8	5.7	5.7	方孔 圓盤
740 13号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	3.4	3.5	0.7	8.1	8.1	方孔 圓盤
741 13号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	3.5	3.5	0.7	10.2	10.2	方孔 圓盤
742 13号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	3.6	3.1	0.6	8.0	8.0	方孔 圓盤
743 14号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	4.5	4.7	0.8	13.3	13.3	方孔 圓盤
744 14号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	3.7	3.8	0.6	9.6	9.6	方孔 圓盤
745 14号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	3.4	4.2	0.6	11.5	11.5	方孔 圓盤
746 15号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	3.5	4.6	0.9	15.8	15.8	方孔 圓盤
747 15号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	4.1	3.9	0.9	15.5	15.5	方孔 圓盤
748 15号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	2.9	2.2	0.8	3.0	3.0	方孔 圓盤
749 15号住居	上部 134	下部 134	圓盤狀土製品	2.8	3.2	0.5	5.5	5.5	方孔 圓盤
750 15-16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	2.6	2.9	1.0	8.6	8.6	方孔 圓盤
751 15-16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	2.8	2.6	0.6	4.9	4.9	方孔 圓盤
752 15号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.1	3.0	0.6	5.4	5.4	方孔 圓盤
753 15号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.0	3.0	0.7	6.5	6.5	方孔 圓盤
754 15号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.2	3.1	0.6	6.1	6.1	方孔 圓盤
755 15号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.7	3.3	0.7	9.1	9.1	方孔 圓盤
756 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.1	2.9	0.8	6.7	6.7	方孔 圓盤
757 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.0	3.9	0.7	6.5	6.5	方孔 圓盤
758 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.1	2.9	0.6	6.5	6.5	方孔 圓盤
759 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.4	3.5	0.8	10.7	10.7	方孔 圓盤
760 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.5	3.1	0.6	7.8	7.8	方孔 圓盤
761 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.7	3.6	0.7	11.3	11.3	方孔 圓盤
762 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.8	3.9	0.6	6.0	6.0	方孔 圓盤
763 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.9	6.1	0.7	20.4	20.4	方孔 圓盤
764 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	4.4	4.4	0.7	13.4	13.4	方孔 圓盤
765 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.6	3.4	0.7	9.9	9.9	方孔 圓盤
766 16号住居	上部 124.5	下部 124.5	圓盤狀土製品	3.6	3.6	0.7	9.5	9.5	方孔 圓盤

第6表 出土遺物一覧(土製品) (3)

器種	通名	地點番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)
787 101.2b	直筒		円錐状土製品	26	27	6.8	6.4	6.08	—	—	—	—
788 101.5a	直筒		円錐状土製品	27	27	6.5	3.5	6.09	—	—	—	—
789 101.2d	直筒		円錐状土製品	6.0	5.1	1.2	—	—	—	—	—	—
790 111.5e	直筒(一本足)		円錐状土製品	37	34	6.8	9.8	—	—	—	—	—
791 111.1b	直筒(一本足)		円錐状土製品	35	33	6.8	10.3	—	—	—	—	—
792 111.1c	直筒		円錐状土製品	27	28	6.7	5.5	—	—	—	—	—
793 111.1c	直筒		円錐状土製品	39	37	6.9	12.6	—	—	—	—	—
794 111.2c	直筒		円錐状土製品	45	41	6.9	16.8	—	—	—	—	—
795 111.2c	直筒		円錐状土製品	39	43	6.2	—	—	—	—	—	—
796 111.2d	直筒		円錐状土製品	29	34	6.2	7.5	—	—	—	—	—
797 111.2d	直筒		円錐状土製品	36	36	6.7	8.5	—	—	—	—	—
798 111.2d	直筒		円錐状土製品	26	42	6.8	14.4	—	—	—	—	—
799 111.2c	直筒		円錐状土製品	36	32	6.7	7.9	—	—	—	—	—
800 111.2a	直筒		円錐状土製品	34	34	6.6	7.8	—	—	—	—	—
801 111.4a	直筒		円錐状土製品	29	22	6.7	6.7	—	—	—	—	—
802 111.4e	直筒		円錐状土製品	2.3	3.7	1.1	14.0	—	—	—	—	—
803 111.2b	直筒		円錐状土製品	31	32	6.8	7.9	—	—	—	—	—
804 111.1a	直筒		円錐状土製品	39	36	6.7	10.3	—	—	—	—	—
805 111.1a	直筒		円錐状土製品	36	34	6.2	9.8	—	—	—	—	—
806 111.2c	直筒		円錐状土製品	34	32	6.6	7.8	—	—	—	—	—
807 111.2c	直筒		円錐状土製品	29	39	6.7	5.9	—	—	—	—	—
808 111.2b	直筒		円錐状土製品	40	41	6.9	16.1	—	—	—	—	—
809 121.1d	直筒		円錐状土製品	40	43	6.7	—	—	—	—	—	—
810 121.1d	直筒		円錐状土製品	4.3	—	—	—	—	—	—	—	—
811 121.1d	直筒		円錐状土製品	5.5	5.4	—	26.1	—	—	—	—	—
812 121.3d	直筒		円錐状土製品	25	36	6.6	11.8	—	—	—	—	—
813 121.3d	直筒		円錐状土製品	33	32	6.8	9.9	—	—	—	—	—
814 121.2c	直筒		円錐状土製品	25	25	6.6	10	—	—	—	—	—
815 121.2b	直筒		円錐状土製品	31	34	6.6	8.1	—	—	—	—	—
816 121.2b	直筒		円錐状土製品	35	29	6.6	6.3	—	—	—	—	—

第6表 出土遺物一覧〈石器〉(1)

通番 番号	遺物名	出土場所	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	地表状 態	測量(cm) φ1	測量(cm) φ2	石圓	環形 石圓	環形 石圓	石圓	
S401 12号住跡	範内	13號小	石盤	3.40	0.90	0.95	6.28	6.28	良賀・新代原第三紀・奥田山地	—	—	13 104 78	
S402 3号住跡	—	—	石盤	1.15	1.50	0.45	0.62	0.62	良賀・新代原第三紀・奥田山地	—	—	7 104 78	
S403 9号住跡	下塚	—	石盤	5.30	3.00	1.10	15.50	15.50	15号・古・中生代・北・山地	—	—	210 104 78	
S404 9号住跡	上塚	—	石盤	2.10	1.10	0.60	0.80	0.80	15号・古・中生代・北・山地	—	—	209 104 78	
S405 11号住跡	288より下	—	石盤	2.10	1.50	0.60	0.80	0.80	15号・古・中生代・北・山地	—	—	221 104 78	
S406 11号住跡	135号・2c・一括	—	石盤	2.35	1.10	0.70	1.50	1.50	15号・古・中生代・北・山地	—	—	240 104 78	
S407 12号住跡	146号・土器・石器・木柄	—	石盤	3.90	1.50	0.60	1.20	1.20	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	654 104 78	
S408 12号住跡	148号・土器・石器・木柄	—	石盤	1.70	1.40	0.50	1.10	1.10	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	655 104 78	
S409 12号住跡	149号・土器・石器・木柄	—	石盤	—	—	—	—	—	15号・古・中生代・北・山地	—	—	657 104 78	
S410 12号住跡	135号・142号・147号	—	石盤	2.60	1.60	0.60	1.70	1.70	15号・古・中生代・北・山地	—	—	234 104 78	
S411 12号住跡	一括	—	石盤	1.30	1.50	0.50	1.10	1.10	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	225 104 78	
S412 12号住跡	木柄より下	—	石盤	1.90	1.60	0.50	1.20	1.20	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	225 104 78	
S413 12号住跡	17號より下	—	石盤	2.40	1.20	0.50	0.70	0.70	15号・古・中生代・北・山地	—	—	223 104 78	
S414 14号住跡	瓦十・鉢	—	石盤	2.80	1.50	0.60	0.80	0.80	15号・古・中生代・北・山地	—	—	212 104 78	
S415 14号住跡	113号の「桶」より	—	石盤	2.40	1.00	0.50	0.70	0.70	15号・古・中生代・北・山地	—	—	222 104 78	
S416 15号住跡	縁より下	—	石盤	4.00	2.60	0.90	10.00	10.00	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	203 104 78	
S417 15号住跡	縁より下	—	石盤	3.70	2.50	1.40	6.30	6.30	15号・古・中生代・北・山地	—	—	205 104 78	
S418 15号住跡	1-6號	—	石盤	2.10	1.30	0.60	1.50	1.50	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	217 104 78	
S419 16号住跡	123号の「桶」より	—	石盤	3.20	1.50	0.80	4.10	4.10	15号・古・中生代・北・山地	—	—	237 104 78	
S420 15号住跡	1-2号	—	石盤	3.40	1.40	0.60	3.60	3.60	15号・古・中生代・北・山地	—	—	234 104 78	
S421 15号住跡	123号の「桶」	—	石盤	1.90	1.50	0.80	0.70	0.70	15号・古・中生代・北・山地	—	—	208 104 78	
S422 15号住跡	123号の「桶」	—	石盤	3.70	1.60	0.50	2.20	2.20	15号・古・中生代・北・山地	—	—	202 104 78	
S423 15号住跡	15号・新・土器・木柄	—	石盤	3.00	2.70	0.60	7.90	7.90	15号・古・中生代・北・山地	—	—	216 104 78	
S424 16号住跡	123号の「桶」	—	石盤	2.50	1.60	0.60	2.00	2.00	15号・古・中生代・北・山地	—	—	206 104 78	
S425 16号住跡	123号の「桶」より	—	石盤	—	(2.00)	1.00	1.40	1.40	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	239 104 78	
S426 16号住跡	122-2c・1-4號	—	石盤	—	1.10	1.70	0.30	0.70	0.70	15号・古・中生代・北・山地	—	—	207 104 78
S427 19号住跡	123号の「桶」	—	石盤	—	2.10	1.20	0.40	0.80	0.80	15号・古・中生代・北・山地	—	—	220 104 78
S428 19号住跡	底・内側心	—	石盤	4.69	1.60	0.60	3.30	3.30	15号・古・中生代・北・山地	—	—	208 104 78	
S429 19号住跡	一括	—	石盤	(2.00)	1.60	0.30	0.70	0.70	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	219 104 78	
S430 19号住跡	1-3号	—	石盤	—	(1.70)	1.65	0.30	0.54	0.54	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	203 104 78
S431 805c	直筒	—	石盤	(3.00)	1.40	0.80	3.79	3.79	15号・新代原第三紀・奥田山地	—	—	73 104 78	

器種	通称名	地名・場所	石種	大きさ (cm) 幅×高さ (cm) 厚さ	断面形状 (cm) 幅×高さ (cm) 厚さ	断面形状 (cm) 幅×高さ (cm) 厚さ	合算	備考	出所	
S403 10K4e	石斧	石塚	石塚	2.20 / 1.80 / 0.50	1.65 / 1.05 / 0.40	0.50 / 0.40 / 0.30	1.50	打削面凹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	227	-
S403 10M1a	石斧	石塚	石塚	2.00 / 1.20 / 0.40	—	0.40 / 0.30 / 0.20	0.89	貝壳・新石器第三紀・奥羽山脈	58	104, 78
S403 10Q4e	石斧	石塚	石塚	2.50 / 1.20 / 0.50	—	0.40 / 0.30 / 0.20	1.10	打削・竹・中生代・北上山地	201	104, 78
S408 11K1e	石斧	河原(～岩)	石塚	1.60 / 1.00 / 0.30	—	0.30 / 0.20 / 0.10	0.89	打削・竹・中生代・北上山地	214	104, 78
S407 11K3e	石斧	石塚	石塚	1.20 / 1.30 / 0.20	—	0.20 / 0.15 / 0.10	0.89	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	228	-
S408 11L1a	石斧	石塚	石塚	3.10 / 1.80 / 0.60	—	0.70 / 0.40 / 0.20	2.70	打削・竹・中生代・北上山地	213	104, 78
S409 11L2e	石斧	石塚	石塚	2.30 / 1.70 / 0.50	—	0.40 / 0.30 / 0.20	1.40	角形・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	220	-
S401 11L2c	石斧	石塚	石塚	2.40 / 1.30 / 0.60	—	0.70 / 0.40 / 0.20	1.70	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	231	-
S401 11L3d	石斧	石塚	石塚	2.20 / 1.30 / 0.60	—	0.60 / 0.30 / 0.20	0.98	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	232	-
S401 11L4c	石斧	石塚	石塚	2.10 / 1.10 / 0.60	—	0.60 / 0.30 / 0.20	0.90	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	234	-
S404 11L4d	石斧	石塚	石塚	3.00 / 2.30 / 0.60	—	0.60 / 0.40 / 0.20	1.60	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	233	-
S405 11A4b	石斧	石塚	石塚	2.30 / 1.20 / 0.70	—	0.70 / 0.40 / 0.20	2.50	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	235	-
S406 11K2b-2c-2b-2c	木柄刀	石塚	石塚	3.10 / 1.60 / 0.60	—	1.10 / 0.60 / 0.20	2.90	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	211	104, 78
S407 12M3a	石斧	石塚	石塚	2.00 / 1.20 / 0.60	—	0.60 / 0.30 / 0.20	1.20	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	236	-
S408 12M3a	石斧	石塚	石塚	2.00 / 1.20 / 0.60	—	0.60 / 0.30 / 0.20	1.20	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	238	-
S409 11R2a	石斧	石塚	石塚	2.00 / 1.60 / 0.60	—	0.60 / 0.40 / 0.20	1.80	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	215	104, 78
S406 11R4f	一端	石塚	石塚	2.30 / 1.90 / 0.50	—	0.50 / 0.30 / 0.20	1.50	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	241	-
S406 14生齿棒	石斧	石塚	石塚	4.70 / 2.10 / 1.20	—	0.80 / 0.40 / 0.20	3.00	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	243	105, 78
S405 11号生齿棒	石斧	石塚	石塚	4.90 / 2.80 / 1.20	—	0.80 / 0.40 / 0.20	3.00	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	242	105, 78
S403 10T6e	石斧	石塚	石塚	3.00 / 2.00 / 0.50	—	0.80 / 0.40 / 0.20	1.90	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	65	105, 78
S404 10J5b	石斧	石塚	石塚	5.20 / 2.60 / 0.80	—	0.80 / 0.40 / 0.20	2.40	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	244	105, 78
S405 11M3a	石斧	石塚	石塚	2.00 / 1.60 / 0.50	—	0.50 / 0.30 / 0.20	1.90	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	245	105, 78
S406 12K5d	石斧	石塚	石塚	2.70 / 1.30 / 0.60	—	0.60 / 0.30 / 0.20	1.50	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	246	-
S405 12N1a	石斧	石塚	石塚	1.70 / 1.20 / 0.50	—	0.50 / 0.30 / 0.20	0.80	打削・新石器第三紀・奥羽山脈	61	-
S406 8号尖端	石斧	石塚	石塚	4.66 / 9.70 / 2.45	—	1.70 / 1.00 / 0.50	7.70	打削・新石器第三紀・奥羽山脈	34	105, 78
S409 8号尖端	石斧	石塚	石塚	8.25 / 7.10 / 2.30	—	1.70 / 1.00 / 0.50	6.24	打削・新石器第三紀・奥羽山脈	35	105, 78
S400 8号尖端	石斧	石塚	石塚	9.75 / 4.50 / 1.65	—	1.65 / 1.00 / 0.50	6.45	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	38	105, 78
S401 8号尖端	石斧	石塚	石塚	7.60 / 3.30 / 1.60	—	1.60 / 1.00 / 0.50	5.00	打削・新石器第三紀・奥羽山脈	37	106, 79
S405 14号尖端	石斧	石塚	石塚	4.40 / 2.70 / 1.20	—	1.20 / 0.80 / 0.50	1.35	打削・竹・中生代・北上山地	255	106, 79
S403 15号尖端	石斧	石塚	石塚	4.90 / 3.20 / 0.80	—	1.10 / 0.70 / 0.50	1.10	打削・竹・中生代・北上山地	255	106, 79
S406 10J4b	石斧	石塚	石塚	5.30 / 3.40 / 1.10	—	1.10 / 0.70 / 0.50	2.00	打削・竹・中生代・ツバキ・ラ配・北上山地	652	-

第6表 出土遺物一覧(石器) (3)

地番 施設 区分	遺物名	出土場所	形態	最大幅 (mm)	最大幅 (mm)	重量(g)	石質	灰岩等 の岩種	出土地 名
S406 315 土坑	一斤		スカラップバーン	5.10	3.00	1.00	日暮古~中生代~北上山地		
S406 315 4%e	-15		スカラップバーン	6.0	4.0	1.20	日暮古~中生代~北上山地		
S407 10P3d	直筒		スカラップバーン	2.90	2.10	0.70	貝壳~中生代新二紀~海相地層		
S408 10P3e	直筒		スカラップバーン	3.09	3.10	0.90	貝壳~中生代~貝壳地層		
S409 11L2a	直筒		スカラップバーン	6.70	4.20	1.60	貝壳~中生代~貝壳地層		
S407 11L4e	丸上		スカラップバーン	14.80	7.00	1.90	貝壳~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S407 11N6	直筒		スカラップバーン	3.00	3.20	1.20	貝壳~中生代~貝壳地層		
S407 12K2b-2c-3b-3c	半周内		スカラップバーン	3.20	2.70	0.80	貝壳~古~中生代~北上山地		
S407 12L2e	直筒		スカラップバーン	3.00	1.70	0.70	貝壳~古~中生代~北上山地		
S407 14分岐鉢	12M1b 2-5周	台面	直筒	4.40	0.90	0.70	貝壳~古~中生代~北上山地		
S407 14分岐鉢	一斤(4.7kg)	石縫	直筒	2.80	1.80	0.40	貝壳~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S406 13分岐鉢	12M2b 7周より下	石縫	直筒	2.80	1.80	0.90	貝壳~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S407 15分岐鉢	6周より下	石縫	直筒	6.00	1.60	0.60	貝壳~古~中生代~北上山地		
S408 15分岐鉢	6周より下(1倍合む)	石縫	直筒	3.30	1.70	0.90	貝壳~古~中生代~北上山地		
S407 15分岐鉢	直筒		直筒	3.46	1.20	0.60	貝壳~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S408 12K2b-2c-3b-3c	木筒内		直筒	3.00	0.90	0.80	貝壳~中生代新二紀~貝壳地層		
S408 11分岐鉢	上部		不完全	1.40	1.30	0.50	貝壳~中生代~貝壳地層		
S408 12号直筒	F型		不完全	3.09	1.90	0.90	貝壳~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S408 12号直筒	下部		不完全	1.00	0.90	0.40	貝壳~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S408 14分岐鉢	11M1b 両手+一部		不完全	2.00	3.60	0.80	貝壳~中生代新二紀~貝壳地層		
S408 74分岐土坑	上部		不完全	3.50	3.16	1.40	貝壳~古~中生代~貝壳地層		
S408 74分岐土坑	施設周		不完全	3.20	0.70	1.20	貝壳~古~中生代~北上山地		
S408 74分岐土坑	下部		不完全	3.70	3.30	0.80	貝壳~古~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S408 90Hc	直筒		不完全	2.80	2.80	0.80	貝壳~古~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S409 10P2b	直筒		不完全	2.80	2.00	1.00	貝壳~古~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S409 11K3e	直筒		不完全	2.90	2.00	1.40	貝壳~古~中生代~貝壳地層		
S409 11L1d	直筒		不完全	1.90	2.80	0.80	貝壳~古~中生代~北上山地		
S409 11L5e	直筒		不完全	4.20	4.10	0.70	貝壳~古~中生代三疊~ジユウガイ~北上山地		
S409 11M3a	直筒		不完全	(2.76)	2.80	1.00	貝壳~新二紀~貝壳地層		
S409 12K2b-2c-3b-3c	木筒内		不完全	3.20	3.00	0.80	貝壳~古~中生代新二紀~貝壳地層		
S409 12L2e	直筒		不完全	5.30	5.70	1.50	貝壳~古~中生代新二紀~貝壳地層		
S408 12L2c	直筒		不完全	3.50	4.50	1.80	貝壳~古~中生代~北上山地		

出土地名

第6表 出土遺物一覧(石器) (4)

品名 番号	遺物名	出土場所	分類	測定長 (mm)	測定幅 (mm)	重量(g)	参考書 図版	
S-007 15号骨鏃	直角	不毛地	480 (2,460)	1.30	11.80	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-008 12号骨鏃	直角	小穴地	620 (3,000)	1.20	33.20	員名 不毛地-中生代-北上山地	-	
S-009 15号骨鏃	W形	樹干石器	280 (2,000)	0.80	4.40	員名 不毛地-中生代-北上山地	-	
S-010 4号骨鏃	L形	樹干石器	280 (2,000)	1.60	3.65	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-011 8号骨鏃	圓筒	樹干石器	280 (2,000)	1.60	4.80	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-012 9号骨鏃	Y形	樹干石器	230 (2,000)	1.10	2.60	員名 不毛地-中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-013 9号骨鏃	Y形	樹干石器	300 (2,000)	3.00	1.00	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-014 9号骨鏃	上部	樹干石器	250 (2,000)	2.20	1.00	員名 不毛地-中生代-北上山地	-	
S-015 9号骨鏃	上部	塊形石器	190 (2,000)	2.00	0.90	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-016 9号骨鏃	L形	樹干石器	310 (2,000)	1.20	0.90	員名 不毛地-中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-017 10号骨鏃	-	樹干石器	270 (2,000)	1.90	0.70	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-018 10号骨鏃	-	樹干石器	150 (2,000)	1.80	1.10	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-019 11号骨鏃	L形	樹干石器	360 (2,000)	3.10	0.90	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-020 11号骨鏃	Y形	樹干石器	220 (2,000)	1.90	1.10	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-021 11号骨鏃	Y形	樹干石器	210 (2,000)	1.40	0.80	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-022 11号骨鏃	上部	樹干石器	310 (2,000)	2.40	1.00	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-023 11号骨鏃	上部	樹干石器	140 (2,000)	1.50	0.50	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-024 12号骨鏃	上部	樹干石器	250 (2,000)	2.60	0.90	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-	
S-025 12号骨鏃	北直角	樹干石器	450 (2,000)	5.30	1.50	37.30	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-026 13号骨鏃	直角	樹干石器	320 (2,000)	4.50	1.30	38.70	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-027 14号骨鏃	直角	樹干石器	300 (2,000)	3.50	1.00	24.00	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-028 14号骨鏃	直角	樹干石器	320 (2,000)	3.80	1.50	19.10	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-029 14号骨鏃	直角	樹干石器	300 (2,000)	3.50	1.50	18.10	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-030 14号骨鏃	直角	樹干石器	350 (2,000)	3.70	1.30	24.20	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-031 14号骨鏃	直角	樹干石器	360 (2,000)	4.20	0.90	16.50	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-032 14号骨鏃	直角	樹干石器	220 (2,000)	2.60	1.00	5.00	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-033 15号骨鏃	(282c)	樹干石器	210 (2,000)	2.20	1.10	5.20	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-034 15号骨鏃	(66より)	樹干石器	340 (2,000)	3.20	1.50	15.10	員名 不毛地-中生代-北上山地	-
S-035 15号骨鏃	(66より)	樹干石器	310 (2,000)	2.60	0.80	7.90	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-036 15号骨鏃	Y形	樹干石器	210 (2,000)	1.80	0.60	2.40	井手兵呂 員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-037 15号骨鏃	Y形	樹干石器	130 (2,000)	1.90	0.80	2.50	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-
S-038 15号骨鏃	Y形	樹干石器	300 (2,000)	2.20	1.00	5.40	員名 中生代二疊-ジュラ紀-北上山地	-

表4(1) 内は検査値

第6表 出土遺物一覧(石器) (5)

品番	通称	出土場所	形態	縦横 (mm)	縦横 (mm)	縦横 (mm)	縦横 (mm)	表面	石質	年紀	地質
S-329 15-17号住居跡	壁より下	焼け石器	筒形石器	280	180	069	110	570	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	253	-
S-330 15-17号住居跡	2-5mm	筒形石器	筒形石器	320	210	089	270	570	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	332	-
S-331 15-17号住居跡	[5cm]底下部(3mm)	焼け石器	筒形石器	170	210	089	170	1780	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	285	-
S-332 15-17号住居跡	-底(=下部)	焼け石器	筒形石器	380	400	170	380	1780	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	284	108 79
S-333 15-17号住居跡	-底(=下部)	焼け石器	筒形石器	250	260	089	240	740	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	289	-
S-334 16号住居跡	底(=下部)	焼け石器	筒形石器	260	230	089	180	180	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	300	-
S-335 17号住居跡	下部	焼け石器	筒形石器	370	230	070	650	650	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	317	-
S-336 17号住居跡	-底	焼け石器	筒形石器	270	260	089	520	520	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	311	-
S-337 17号住居跡	-折	焼け石器	筒形石器	290	140	010	140	140	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	312	-
S-338 17号住居跡	-底	焼け石器	筒形石器	150	120	050	650	650	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	313	-
S-339 17号住居跡	-底	焼け石器	筒形石器	240	150	059	140	140	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	314	-
S-340 17号住居跡	12.34.1-1-4	焼け石器	筒形石器	260	250	059	480	480	小井窯付-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	320	-
S-341 17号住居跡	-底	焼け石器	筒形石器	500	320	069	1250	1250	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	329	-
S-342 19号住居跡	[5cm]底下部	焼け石器	筒形石器	220	220	020	190	190	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	321	-
S-343 20号住居跡	PP11-1瓶	焼け石器	筒形石器	380	330	110	1220	1220	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	315	-
S-344 95d1-a	日輪	焼け石器	筒形石器	270	380	089	1012	1012	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	102	-
S-345 96d4	日輪	焼け石器	筒形石器	290	270	100	850	850	小井窯付-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	319	-
S-346 96d5	河原(=下部)	焼け石器	筒形石器	320	350	130	1320	1320	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	320	-
S-347 97f5a	瓦器	焼け石器	筒形石器	180	260	070	360	360	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	321	-
S-348 10f6b	瓦器	焼け石器	筒形石器	170	190	060	189	189	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	94	-
S-349 11f2c	瓦器	焼け石器	筒形石器	200	210	080	500	500	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	322	-
S-350 11f2d	瓦器	焼け石器	筒形石器	140	250	060	170	170	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	323	-
S-351 11f3e	瓦器	焼け石器	筒形石器	190	350	170	1130	1130	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	324	-
S-352 11f3e	瓦器	焼け石器	筒形石器	310	150	140	580	580	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	325	-
S-353 11f5b	瓦器	焼け石器	筒形石器	280	350	120	860	860	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	326	-
S-354 11f5b	瓦器	焼け石器	筒形石器	320	280	120	6190	6190	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	327	-
S-355 12f5d	日輪	焼け石器	筒形石器	240	250	100	640	640	小井窯付-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	328	-
S-356 12f5e	日輪	焼け石器	筒形石器	230	280	100	650	650	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	329	-
S-357 12f5e	日輪	焼け石器	筒形石器	350	270	600	720	720	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	330	-
S-358 12f5e	日輪	焼け石器	筒形石器	230	210	070	1300	1300	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	321	-
S-359 11f5b6	瓦器	焼け石器	筒形石器	445	765	470	14150	14150	瓦片-中生代-第三紀-ジオラ紀-北上山地	639	108 79
S-360 10Q5b	瓦器	焼け石器	筒形石器	1650	1145	1555	37610	4740	ナガト古-中生代-北上山地	659	108 79

第6表 出土遺物一覧(石器)(6)

編號	遺物名	地点・層位	形態	長さ(cm)	幅・高さ(cm)	地質	石質	重量(g)	長さ(cm)	幅・高さ(cm)	地質	石質	重量(g)
S-161 111.2a	瓦片	石炭 石炭	石核	5.20	5.60	2.40	62.30	瓦片-砂岩-ジルコニア-北上山地	6.09	10.8	8.0	-	-
S-162 110.4d	瓦片	木炭内	石核	10.60	9.00	2.20	539.25	ガード-中生代-珪化木-北上山地	6.0	10.8	8.0	-	-
S-163 120.1a	瓦片	木炭内	石核	3.10	2.40	1.50	6.05	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.65	-	-	-	-
S-164 136.24	瓦片	木炭内	石核	6.40	5.50	2.20	114.90	瓦片-中生代-粘土-北上山地	8.45	-	-	-	-
S-165 100.4c	瓦片	木炭内	石核	18.00	(7.00)	2.70	149.80	瓦片-中生代-珪化木-北上山地	5.65	10.9	8.0	-	-
S-166 100.4c	瓦片	木炭内	石核	10.15	5.70	1.10	8.40	瓦片-中生代-珪化木-北上山地	8.44	10.9	8.0	-	-
S-167 100.4e	瓦片	木炭内	石核	8.30	4.70	1.10	52.00	瓦片-中生代-珪化木-北上山地	8.65	-	-	-	-
S-168 100.4e	瓦片	木炭内	石核	16.00	(6.80)	1.40	88.40	瓦片-中生代-粘土-北上山地	8.75	-	-	-	-
S-169 100.5c	瓦片	木炭内	石核	14.20	6.00	1.40	13.50	瓦片-中生代-ジルコニア-北上山地	7.63	10.9	8.0	-	-
S-170 110.1b	瓦片	木炭内	石核	16.35	8.05	1.10	415.00	瓦片-中生代-ジルコニア-北上山地	7.64	-	-	-	-
S-171 100.5c	瓦片	木炭内	石核	13.30	7.70	1.50	402.80	瓦片-中生代-ジルコニア-北上山地	4.3	10.9	8.0	-	-
S-172 11号直筒	瓦片	木炭内	石核	14.10	2.20	1.05	15.79	瓦片-中生代-粘土-北上山地	6	10.9	8.0	-	-
S-173 23号直筒	瓦片	木炭内	石核	10.70	(3.85)	0.20	127.54	瓦片-中生代-粘土-北上山地	-	-	-	-	-
S-174 3号直筒	瓦片	木炭内	石核	12.80	(1.70)	0.20	1.27	瓦片-中生代-粘土-北上山地	14	-	-	-	-
S-175 8号直筒	瓦片	木炭内	石核	7.15	4.00	2.30	92.36	瓦片-中生代-粘土-北上山地	36	10.9	8.0	-	-
S-176 95号直筒	瓦片	木炭内	石核	17.80	5.50	3.20	225.70	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.65	-	-	-	-
S-177 9号直筒	瓦片	木炭内	石核	6.60	4.10	2.15	93.30	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.67	10.9	8.0	-	-
S-178 11号直筒	瓦片	木炭内	石核	5.80	2.75	1.15	262.30	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.69	10.9	8.0	-	-
S-179 11号直筒	瓦片	木炭内	石核	16.50	6.20	3.60	211.60	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.68	-	-	-	-
S-180 11号直筒	瓦片	木炭内	石核	17.00	5.80	3.30	212.90	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.69	-	-	-	-
S-181 11号直筒	瓦片	木炭内	石核	17.10	5.00	2.50	172.20	瓦片-中生代-粘土-北上山地	8.41	-	-	-	-
S-182 13号直筒	瓦片	木炭内	石核	17.00	5.60	2.00	205.70	瓦片-中生代-粘土-北上山地	8.25	-	-	-	-
S-183 13号直筒	瓦片	木炭内	石核	14.20	4.30	2.40	68.20	瓦片-中生代-粘土-北上山地	8.35	-	-	-	-
S-184 13号直筒	瓦片	木炭内	石核	15.10	(5.30)	1.20	98.70	瓦片-中生代-粘土-北上山地	8.27	-	-	-	-
S-185 13号直筒	瓦片	木炭内	石核	7.00	4.00	2.50	103.10	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.66	-	-	-	-
S-186 14号直筒	瓦片	木炭内	石核	6.50	4.00	1.50	174.70	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.65	10.9	8.0	-	-
S-187 14号直筒	瓦片	木炭内	石核	13.65	3.25	1.25	100.30	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.62	-	-	-	-
S-188 14号直筒	瓦片	木炭内	石核	4.90	(3.80)	1.60	48.80	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.63	10.9	8.0	-	-
S-189 15号直筒	瓦片	木炭内	石核	10.90	(5.00)	3.20	225.0	瓦片-中生代-粘土-北上山地	8.01	-	-	-	-
S-190 15号直筒	瓦片	木炭内	石核	7.65	4.90	2.70	206.80	瓦片-中生代-粘土-北上山地	8.02	-	-	-	-
S-191 15号直筒	瓦片	木炭内	石核	10.60	6.80	1.05	42.40	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.73	-	-	-	-
S-192 15号直筒	瓦片	木炭内	石核	7.60	6.00	1.05	27.00	瓦片-中生代-粘土-北上山地	7.69	10.9	8.0	-	-

第6表 出土遺物一覧(石器) (7)

類別 番号	遺物名	組点・部位	大きさ (cm)	厚さ (cm)	重さ(g)	小質	組番	測量 寸法	測量 寸法
S-194 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	(7.10) (6.50)	3.65 (3.40)	163.70	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	780	-	-
S-195 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	9.40 (5.60)	5.80 (4.30)	236.70 92.00	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	771 772	-	-
S-196 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	7.30 (9.10)	3.00 5.30	180.00 145.20	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	773	-	-
S-197 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	7.40 (7.40)	5.30 5.30	243.00 243.00	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	777	-	-
S-198 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.00 (16.45)	5.00 6.15	372.10 472.00	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	780	-	-
S-199 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	11.70 (12.20)	8.10 (3.80)	462.00 411.00	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	770 769	100 109	80
S-200 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 (3.00)	275.40 234.40	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775	-	-
S-201 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	15.00 (15.00)	3.70 1.80	462.00 318.00	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	776	-	-
S-202 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.80 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-203 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-204 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-205 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-206 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-207 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-208 15号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-209 16号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-210 17号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-211 18号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-212 18号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-213 19号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-214 19号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-215 19号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-216 19号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-217 21号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-218 20号立脚	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-219 805c, 901c, 901a, 12a	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-220 905c-	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-221 101-4c, 101-3c, 2b	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-222 101-5a	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-223 101-6b	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80
S-224 101-7b	縫合石斧	縫合石斧	13.20 (13.20)	4.90 4.80	462.00 454.10	刃部・中生代(白堊紀)・北上山地	775 782	100 110	80

表()内は参考値

第六表 出土遗物一覽(石器)(8)

器物 番号	遺物名	発見地・時代	器種	最大長 (mm) (cm)	最大幅 (mm) (cm)	重量(g)	位置	参考文 献
S225 [10]Id	刮削器	滑石斧	刮削器	5300 (5.30)	2.90 (0.29)	118.94	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	67 110 81
S226 [1K]2c	刮削器	刮削器	刮削器	5320 (5.30)	2.90 (0.29)	22.90	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S227 [1L]1b	刮削器(?)	刮削器	刮削器	18.90 (1.80)	6.10 (1.60)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S228 [1L]1c	刮削器	刮削器	刮削器	13.00 (1.30)	4.80 (1.60)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S229 [1L]1c	刮削器	刮削器	刮削器	15.10 (1.50)	4.80 (1.60)	2.20	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S230 [1L]2c	刮削器	刮削器	刮削器	15.00 (1.50)	4.60 (1.60)	2.20	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S231 [1L]2c	刮削器	刮削器	刮削器	17.20 (1.70)	6.10 (1.60)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S232 [1L]2b	刮削器(?)	刮削器	刮削器	13.00 (1.30)	4.80 (1.60)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S233 [1L]2c	刮削器(?)	刮削器	刮削器	16.80 (1.60)	4.60 (1.60)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S234 [1L]3c	刮削器	刮削器	刮削器	2.40 (0.24)	1.90 (0.19)	1.20	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S235 [1L]3c	刮削器	刮削器	刮削器	15.10 (1.50)	4.80 (1.60)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S236 [1L]3c	刮削器	刮削器	刮削器	17.60 (1.76)	6.10 (1.60)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S237 [1L]4a	刮削器	刮削器	刮削器	10.70 (1.07)	5.10 (1.51)	2.80	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S238 [1L]4d	刮削器	刮削器	刮削器	9.90 (0.99)	6.00 (1.60)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S239 [1L]4e	刮削器	刮削器	刮削器	8.70 (0.87)	4.30 (1.30)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S240 [1L]5a	刮削器	刮削器	刮削器	15.40 (1.54)	4.10 (1.41)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S241 [1L]5a	刮削器	刮削器	刮削器	9.40 (0.94)	5.00 (1.50)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S242 [1L]5c	刮削器	刮削器	刮削器	7.90 (0.79)	5.10 (1.51)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S243 [1M]2a	刮削器	刮削器	刮削器	8.60 (0.86)	3.50 (1.08)	1.80	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S244 [1M]2b	刮削器	刮削器	刮削器	6.60 (0.66)	4.30 (1.30)	2.50	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S245 [1M]4b	刮削器	刮削器	刮削器	10.20 (1.02)	5.20 (1.52)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S246 [1M]5a	刮削器	刮削器	刮削器	7.40 (0.74)	3.05 (1.05)	1.20	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S247 [1M]5a	刮削器	刮削器	刮削器	7.50 (0.75)	5.10 (1.51)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S248 [1O]d	刮削器	刮削器	刮削器	8.60 (0.86)	6.20 (1.62)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	68 80 81
S249 [1K]e	刮削器	刮削器	刮削器	17.00 (1.70)	5.70 (1.57)	2.00	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S250 [1K3b-2c-3c]	木柄内	木柄内	木柄内	6.92 (0.69)	5.00 (1.50)	1.50	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	79 80 81
S251 [12]3a	刮削器	刮削器	刮削器	6.80 (0.68)	4.30 (1.30)	1.50	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	79 80 81
S252 [1M]3a	刮削器	刮削器	刮削器	9.15 (0.91)	4.50 (1.45)	1.75	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S253 [2M]d	刮削器	刮削器	刮削器	5.30 (0.53)	3.60 (1.08)	1.20	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S254 [1M]4b	刮削器	刮削器	刮削器	11.10 (1.11)	5.40 (1.54)	2.40	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S255 [12]3b	刮削器	刮削器	刮削器	10.5 (1.05)	4.30 (1.30)	1.50	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81
S256 [12]3b	刮削器	刮削器	刮削器	7.70 (0.77)	4.00 (1.20)	1.20	△小谷・中生代白堊紀・北上山地	80 110 81

第6表 出土遺物一覧(石器) (9)

品種 組番 番号	通巻名	地點・層次	形態	最大厚 (mm)	最大幅 (mm)	重量(g)	剖面	外觀
S-257 138c	直切	新幹	斧頭形	15.90	15.0	2.20	斧頭-中生代三級-北上山地	862 -
S-258 667	-	新幹	斧頭形	6.90	4.20	2.50	斧頭-中生代三級-北上山地	901 -
S-259 668-谷間	直切	新幹	斧頭形	11.85	5.05	2.25	斧頭-中生代三級-北上山地	881 111 81
S-260 39号回路	直切	新幹	斧頭	5.60	7.70	1.00	斧頭-中生代三級-北上山地	11 111 81
S-261 11号住居	-	新幹	斧頭	5.30	6.40	1.00	斧頭-中生代三級-北上山地	664 -
S-262 12号住居	-	新幹	斧頭	6.80	6.80	1.40	斧頭-中生代三級-北上山地	665 -
S-263 15号住居	-	新幹	斧頭	8.20	8.60	1.20	斧頭-中生代三級-北上山地	663 -
S-264 19号	-	新幹	斧頭	6.60	4.10	1.50	斧頭-中生代三級-北上山地	660 -
S-265 96475	直切	新幹	斧頭	6.80	8.90	2.05	斧頭-中生代三級-北上山地	56 111 81
S-266 96226	直切	新幹	斧頭	3.25	3.65	1.00	斧頭-古-中生代三級-北上山地	643 111 81
S-267 103.5c	直切	新幹	斧頭	5.10	6.10	1.20	斧頭-古-中生代三級-北上山地	667 -
S-268 111.1e	内窓(-方頭)	石塊	石塊	5.35	8.10	1.65	石塊-古-中生代三級-北上山地	669 111 81
S-269 111.1a	直切	石塊	石塊	4.40	6.90	1.20	石塊-古-中生代三級-北上山地	669 111 81
S-270 111.2c	直切	石塊	石塊	4.90	8.20	1.20	石塊-古-中生代三級-北上山地	670 -
S-271 111.2c	直切	石塊	石塊	5.40	7.70	1.20	石塊-古-中生代三級-北上山地	671 -
S-272 111.5a	直切	石塊	石塊	3.50	4.30	1.15	石塊-古-中生代三級-北上山地	672 111 81
S-273 111.5a	直切	石塊	石塊	5.80	8.25	1.75	石塊-古-中生代三級-北上山地	673 111 81
S-274 111.5a	直切	石塊	石塊	4.40	7.40	1.10	石塊-古-中生代三級-北上山地	674 -
S-275 12.4a	直切	石塊	石塊	4.70	8.30	1.55	石塊-古-中生代三級-北上山地	675 111 81
S-276 12M2c	直切	石塊	石塊	6.00	7.50	1.90	石塊-古-中生代三級-北上山地	676 -
S-277 664	直切	石塊	石塊	5.90	7.50	1.80	石塊-古-中生代三級-北上山地	664 -
S-278 663	-	石塊	石塊	6.20	7.20	2.20	石塊-古-中生代三級-北上山地	662 -
S-279 8号住居	-	石塊	石塊	9.70	7.45	1.50	石塊-古-中生代三級-北上山地	31 111 81
S-280 8号住居	-	石塊	石塊	18.50	7.70	2.40	石塊-古-中生代三級-北上山地	39 -
S-281 12号住居	上部	敲石	敲石	8.90	5.80	2.60	敲石-古-中生代三級-北上山地	740 -
S-282 12号住居	-	敲石	敲石	9.40	6.00	1.20	敲石-古-中生代三級-北上山地	732 -
S-283 12号住居	敲石(木製合せ)	敲石	敲石	9.40	6.60	2.40	敲石-古-中生代三級-北上山地	721 -
S-284 15号住居	木製下	敲石	敲石	9.90	8.25	1.65	敲石-古-中生代三級-北上山地	718 111 82
S-285 15号住居	木製上	敲石	敲石	10.50	7.60	2.30	敲石-古-中生代三級-北上山地	728 -
S-286 15.17号住居	-	敲石	敲石	10.80	8.70	1.90	敲石-古-中生代三級-北上山地	734 -
S-287 16号住居	-	敲石	敲石	6.90	5.30	1.20	敲石-古-中生代三級-北上山地	719 -
S-288 23号住居	-	敲石	敲石	13.80	9.00	1.40	敲石-古-中生代三級-北上山地	729 -

表1 () 内は複数個

第6表 出土遺物一覧(石器) (10)

件番	遺物名	出土地点・部位	器地	縦幅 (cm)	横幅 (cm)	厚さ (mm)	測定部 (cm)	備考	石器	瓦	灰陶	圓陶
S-289 12号石器	骨針	壁より上	骨石	1.00	10.5	5.0	1196.20	円筒・片手爪・金子山地				
S-289 1004ta	骨器		骨石	11.30	6.95	3.35	335.70	透かし・手爪・金子山地				
S-290 1002c	骨器		骨石	9.70	7.80	7.70	626.29	丸形骨器・中空爪・白堀記・北山地				
S-292 1004c	骨器	Ⅲ-VI層	骨石	11.90	9.80	1.60	535.50	透かし・手爪・金子山地				
S-292 1002b	骨器	Vc-d	骨石	8.20	7.20	5.30	470.75	透かし・手爪・金子山地				
S-294 10R	骨器	一65	骨石	8.20	6.50	5.20	434.70	透かし・手爪・金子山地				
S-295 1112b	骨器		骨石	10.90	5.60	3.10	921.10	片手爪・三連・ジム・金子山地				
S-296 11L3a	骨器		骨石	12.00	6.80	3.20	282.30	瓦形・手爪・ジム・金子山地				
S-297 11L3c	骨器		骨石	10.30	5.50	2.90	231.80	瓦形・手爪・ジム・金子山地				
S-298 12K-12L	骨器		骨石	7.50	7.00	2.80	186.80	瓦形・手爪・金子山地				
S-299 13L1c	骨器		骨石	10.30	3.90	2.60	357.10	瓦形・手爪・ジム・金子山地				
S-300 12L2e	骨器		骨石	11.35	8.70	5.65	719.70	瓦形・手爪・ジム・金子山地				
S-301 12L4c-Sc-d-5d	骨器	水桶内	骨石	22.25	9.30	2.65	512.10	透かし・片手爪・金子山地				
S-302 12L5c	骨器		骨石	6.80	4.50	2.80	178.40	瓦形・透かし・金子山地				
S-303 14F	骨器	Ⅲ-VI層	骨石	10.70	9.40	5.40	886.40	透かし・手爪・金子山地				
S-304 13K2d	骨器		骨石	11.10	4.50	2.00	136.10	瓦形・手爪・ジム・金子山地				
S-305 1号骨器	骨器		骨石	10.00	5.00	2.00	722.27	透かし・手爪・金子山地				
S-306 11号骨器	骨器	1号	骨石	7.60	6.20	3.30	211.30	透かし・手爪・北山地				
S-307 15号骨器	骨器	1号-a-f・脚	骨石	7.50	5.80	3.50	212.40	透かし・手爪・金子山地				
S-308 15号骨器	骨器	2-5號	骨石	4.60	4.10	3.40	355.20	瓦形・手爪・金子山地				
S-309 16号骨器	骨器	11件(新規・中古-a~f)	骨石	7.20	5.00	2.10	101.10	透かし・手爪・金子山地				
S-310 34号土坑	土器		骨石	9.40	4.20	1.70	611.20	透かし・手爪・金子山地				
S-311 965d	瓦		瓦石	5.80	6.20	5.60	351.10	瓦形・手爪・金子山地				
S-312 964e	瓦		瓦石	11.10	7.20	4.70	519.80	透かし・手爪・金子山地				
S-313 964e	瓦		瓦石	17.50	8.25	4.60	118.40	透かし・手爪・金子山地				
S-314 10Qb	瓦		瓦石	15.00	8.65	4.85	870.00	透かし・手爪・金子山地				
S-315 10Qd	瓦		瓦石	14.80	8.00	5.65	1078.20	透かし・手爪・金子山地				
S-316 10Qd	瓦		瓦石	16.00	9.20	5.75	971.20	透かし・手爪・金子山地				
S-317 10Qc	瓦		瓦石	6.30	6.00	3.00	255.90	透かし・手爪・金子山地				
S-318 10R1a	瓦		瓦石	17.00	8.20	3.50	207.00	透かし・手爪・金子山地				
S-319 10R1a	瓦		瓦石	17.60	5.60	1.50	292.10	透かし・手爪・金子山地				
S-320 14D	水桶内		瓦石	01.20	3.90	3.40	419.20	透かし・手爪・金子山地				

第6表 出土遺物一覧(石器) (11)

所持 番号	遺漏名	出土割位	部地	最大 (mm)	最小 (mm)	断面幅 (mm)	断面高 (mm)	断面積 (mm ²)	石質	新奇 度数	類別
S-321 107-1上層	灰土	磨石	磨石	9.10	9.00	6.20	6.20	37.60	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	903	114 83
S-322 107-1中層 2期	灰土	磨石(磨石)	磨石	4.80	4.80	6.20	6.20	23.04	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	9	-
S-323 107-1下層 3期	灰土	砾石(磨石)	砾石	9.00	6.60	2.40	28.00	243.60	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	684	-
S-324 107-1下層 4期	灰土	磨石(磨石)	磨石	3.60	1.80	1.10	1.10	1.72	-	717	-
S-325 12号墳周壁 12号墳内周壁	灰土	磨石(磨石)	磨石	2.00	1.70	0.20	1.20	-	-	706	-
S-326 12号墳内周壁 12号墳内周壁	灰土	磨石(磨石)	磨石	19.70	13.10	2.70	10.70	210.70	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	748	114 84
S-327 13号墳周壁 13号墳周壁	下部	砾石(磨石)	砾石	6.10	4.80	1.90	1.90	19.60	-	692	-
S-328 14号墳周壁 14号墳周壁	下部	砾石(磨石)	砾石	6.10	4.60	1.60	1.60	18.30	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	747	-
S-329 14号墳周壁 14号墳周壁	北東周壁	砾石(磨石)	砾石	4.80	3.60	1.70	1.70	12.50	-	707	-
S-330 14号墳周壁 14号墳周壁	配石-15	砾石(磨石)	砾石	9.70	7.40	3.50	6.20	62.70	-	694	-
S-331 14号年輪 14号年輪	灰土	砾石(磨石)	砾石	6.50	5.35	2.0	15.40	10.70	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	729	114 83
S-332 15号年輪 15号年輪	下部	砾石(磨石)	砾石	9.00	8.10	5.10	5.10	51.30	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	684	-
S-333 15号年輪 15号年輪	下部より下 (標記より下)	砾石(磨石)	砾石	6.80	6.00	2.80	17.60	48.00	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	682	-
S-334 15号年輪 15号年輪	下部より下 (標記より下)	砾石(磨石)	砾石	12.60	11.80	3.00	2.10	-	-	704	-
S-335 15号年輪 15号年輪	下部より下 (標記より下)	砾石(磨石)	砾石	3.60	4.70	1.40	2.60	-	-	705	-
S-336 16分生痕-1号X6	灰土(磨石心)	磨石(磨石)	磨石	5.80	6.30	1.60	20.30	4.80	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	689	-
S-337 16分生痕-1号X6	灰土(磨石心)	磨石(磨石)	磨石	9.95	7.25	4.70	4.70	45.20	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	725	114 83
S-338 16分生痕-1号X6	灰土(磨石心)	磨石(磨石)	磨石	6.80	6.45	1.50	1.50	42.40	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	690	114 83
S-339 16分生痕 16分生痕	灰土	磨石(磨石)	磨石	12.30	8.50	3.80	8.80	113.60	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	685	-
S-340 19号丸刀斧 19号丸刀斧	1-18號	砾石(磨石)	砾石	8.10	7.00	3.20	3.65	28.40	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	686	-
S-341 19号丸刀斧 19号丸刀斧	1-18號	砾石(磨石)	砾石	3.00	1.50	0.70	0.70	0.90	-	705	-
S-342 19号丸刀斧 19号丸刀斧	1-18號	砾石(磨石)	砾石	11.30	9.05	6.60	6.60	103.10	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	693	114 83
S-343 701-2a	試油井	砾石(磨石)	砾石	10.80	8.80	5.80	5.80	75.17	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	81	-
S-344 702a	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	7.30	7.20	3.70	3.70	31.59	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	68	-
S-345 702a	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	7.50	6.70	3.0	3.0	38.24	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	64	-
S-346 99-2a	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	8.80	6.20	4.70	2.90	26.78	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	71	114 84
S-347 99-2a	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	8.80	8.50	3.60	4.44	44.14	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	101	-
S-348 953d	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	6.60	6.10	2.50	11.03	7.75	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	78	114 84
S-349 1085c	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	19.05	8.60	6.65	8.65	86.60	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	685	114 84
S-350 1085e	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	9.20	7.60	3.6	5.30	50.30	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	695	-
S-351 1085f	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	15.35	8.50	5.30	5.30	92.50	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	749	115 84
S-352 1085g	裏-1片	砾石(磨石)	砾石	9.20	8.30	5.50	6.65	61.65	花崗岩質 小手斧頭形 北上山地	72	115 84

(内) 流石

第6表 出土遺物一覽(石器) (12)

器種 名稱	遺物名 稱	遺物類型	器種	器人數 (件)	器人幅 (cm)	器人高 (cm)	器人寬 (cm)	器人厚 (cm)	重量(g)	石質	形狀	頭部
S.353.1051a	三~五瓣	直柄	砾石~磨石	11.60	5.20	3.80	4.23	4.23	423.81	閃長岩~中生代花崗岩~北山山地	72	81
S.354.1051b	直柄	直柄	砾石~磨石	10.70	8.90	3.80	4.20	4.20	494.17	6#石~中生代花崗岩~北山山地	89	84
S.355.1111d	直柄	直柄	砾石~磨石	10.30	12.00	3.80	4.00	4.00	14.00	—	709	—
S.356.1111d	直柄	直柄	砾石~磨石	12.50	13.80	2.80	3.80	3.80	20.30	—	710	—
S.357.1111d	直柄	直柄	砾石~磨石	12.50	13.80	2.80	3.80	3.80	20.30	—	711	—
S.358.1111d	直柄	直柄	砾石~磨石	12.50	13.80	2.80	3.80	3.80	20.30	—	697	—
S.359.1112c	直~V柄	直柄	砾石~磨石	5.00	5.50	5.20	4.80	4.80	14.60	—	696	—
S.360.1112c	直~V柄	直柄	砾石~磨石	4.50	5.00	3.70	9.20	9.20	9.20	—	696	—
S.361.1114b	直柄	直柄	砾石~磨石	5.50	7.50	4.20	5.10	5.10	54.10	—	698	—
S.362.1114b	直柄	直柄	砾石~磨石	9.65	8.55	2.85	4.20	4.20	42.90	直~V~中生代~北山山地	699	81
S.363.1114b	直柄	直柄	砾石~磨石	9.65	11.00	3.10	4.20	4.20	31.20	—	712	—
S.365.1114a	直柄	直柄	砾石~磨石	9.65	11.00	3.10	4.20	4.20	31.20	—	713	—
S.366.1114a	直柄	直柄	砾石~磨石	12.80	12.80	0.30	2.80	2.80	2.80	—	714	—
S.367.1115c	直柄	直柄	砾石~磨石	6.30	6.10	0.20	3.00	3.00	30.60	—	700	—
S.368.1115c	直柄	直柄	砾石~磨石	6.30	6.30	0.20	3.00	3.00	30.60	—	701	—
S.369.1212c	直柄	直柄	砾石~磨石	15.10	17.80	2.10	10.20	10.20	—	715	—	
S.370.1212c~ad-5a	直柄?	直柄?	砾石~磨石	12.40	7.90	4.50	20.50	20.50	20.50	花崗岩砾石~小口徑白石紀	687	115
S.360.1212e	直柄	直柄	砾石~磨石	12.20	7.90	4.70	21.40	21.40	—	702	—	
S.370.1212e	直柄	直柄	砾石~磨石	12.20	7.90	4.70	21.40	21.40	—	716	—	
S.371.1221a	直~V柄	直~V柄	砾石~磨石	7.05	6.10	3.00	88.90	88.90	88.90	中生代白雲岩~北山山地	703	115
S.372.10ゲリ+トヨヨリ	直~V柄	直~V柄	砾石~磨石	9.60	9.10	4.90	27.50	27.50	—	694	—	
S.373.004.斧頭形	直柄	直柄	砾石~磨石	6.40	4.00	2.15	11.40	11.40	11.40	中生代花崗岩~北山山地	70	115
S.374.005斧頭形	直柄	直柄	砾石~磨石	13.70	9.20	1.50	107.50	107.50	107.50	中生代花崗岩~北山山地	722	—
S.375.1号斧頭	T.25	直柄	砾石~磨石	5.60	5.60	7.30	25.17	25.17	25.17	花崗岩砾石~小口徑白石紀~北山山地	1	—
S.376.15号斧頭	F.25	直柄	砾石~磨石	11.40	8.40	8.10	118.50	118.50	118.50	花崗岩砾石~小口徑白石紀~北山山地	3	84
S.377.25号斧頭	直柄	直柄	砾石~磨石	18.60	23.80	5.60	133.58	133.58	133.58	中生代花崗岩~北山山地	12	115
S.378.3号斧頭	直上	直上	砾石~磨石	17.20	15.00	4.10	162.67	162.67	162.67	中生代花崗岩~北山山地	24	—
S.379.15号斧頭	直上	直上	砾石~磨石	20.50	19.00	4.10	162.67	162.67	162.67	中生代花崗岩~北山山地	25	115
S.380.15号斧頭	直上	直上	砾石~磨石	8.10	8.70	7.15	62.40	62.40	62.40	中生代花崗岩~北山山地	733	115
S.381.12号斧頭	直上	直上	砾石~磨石	49.60	24.70	1.50	720.00	720.00	720.00	中生代花崗岩~北山山地	735	115
S.382.15号斧頭	直上	直上	砾石~磨石	17.00	13.25	5.15	188.10	188.10	188.10	中生代花崗岩~北山山地	732	115
S.383.15号斧頭	直上	直上	砾石~磨石	19.15	11.25	3.30	41.10	41.10	41.10	中生代花崗岩~北山山地	731	115
S.384.17号斧頭	直上	直上	砾石~磨石	25.10	25.10	7.30	600.00	600.00	600.00	中生代花崗岩~北山山地	736	117

第6表 出土遺物一覧(石器) (13)

地番	通番名	地點番号	器種	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	地表高 (cm)	重量(g)	合算	貯番号	刀模 開板
S-085 12号上境	望郷・高	石皿	(1130) (5.40)	(1130) (5.40)	(0.85)	45298	45298	45298	54	66
S-086 70号中境	五箇	石皿	(1570) (11.00)	(1570) (11.00)	(0.10)	42598	42598	42598	62	117
S-087 12号4番	河原	石錐	(6.40)	(6.40)	1.40	4240	4240	4240	734	-
S-088 13号4番	望郷	石錐	(34.00)	(34.00)	1.00	816000	816000	816000	905	117
S-089 9号住居跡	上塙	縫合	11.30	7.20	3.20	29070	29070	29070	731	-
S-090 11号住居跡	一筋	縫合	11.30	9.60	4.30	26000	26000	26000	732	-
S-091 15号住居跡	12号2c-1号3-(高居心)	縫合	14.60	6.70	2.30	15640	15640	15640	733	-
S-092 19号住居跡	12号1c-1号4c	縫合	10.00	6.20	2.30	15640	15640	15640	764	-
S-093 20号住居跡	12号1d-1号4d	縫合	17.15	12.05	1.40	48660	48660	48660	762	117
S-094 34号上塙	上塙	縫合	12.20	11.10	1.60	27150	27150	27150	753	-
S-095 60号4c	V字4c	縫合	9.80	5.75	1.95	11130	11130	11130	860	117
S-096 100号4e	V字4e	縫合	10.80	6.10	1.10	18330	18330	18330	861	-
S-097 108号4a	V字4a	縫合	7.75	5.50	2.10	16720	16720	16720	863	117
S-098 110号4c	V字4c	縫合	18.50	11.20	2.80	71910	71910	71910	862	118
S-099 100号5a	V字5a	縫合	8.82	9.20	3.90	1.90	1.90	1.90	754	-
S-100 111号1c	竹輪	縫合	23.30	7.60	2.15	47730	47730	47730	755	118
S-101 1112b	目地	縫合	12.90	6.60	2.70	54130	54130	54130	756	-
S-102 1115a	目蓋	縫合	11.50	7.60	1.40	42660	42660	42660	757	-
S-103 1116b	灰土	縫合	10.50	4.50	1.00	59.40	59.40	59.40	758	-
S-104 1113b	墨輪	縫合	18.40	13.10	3.00	70140	70140	70140	759	-
S-105 1114me	木頭内	縫合	13.30	7.40	3.10	43240	43240	43240	760	-
S-106 1114m	箱	縫合	14.90	8.70	4.50	74590	74590	74590	864	-
S-107 12号4号地	14号の上部4	利片	3.40	1.80	0.80	5.70	5.70	5.70	865	-

第6表 出土遺物一覧(石製品)

件数 番号	遺物名	測定値	寄地	量(㌘)	寸法(cm)	底面寸法(cm)	重さ(g)	6頁	
S-06 3号石斧	石斧	12.1c 1~1幅	内空石製品	5.80	6.60	6.15	1.15	12.91 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-05 15号石刀	石刀	12.1d 1~1幅	内空石製品	6.30	5.90	6.15	5.46	青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-06 19号石刀	石刀	12.1d 1~1幅	内空石製品	6.60	6.65	6.70	8.46	青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-11 19号石刀	石刀	12.1d 1~1幅	内空石製品	4.70	4.60	4.10	2.78	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-12 19号石刀	石刀	12.1d 1~1幅	内空石製品	4.99	4.30	4.10	3.56	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-13 19号石刀	石刀	12.1d 1~2幅 1~1幅	内空石製品	3.65	4.10	2.10	2.50	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-14 19号石刀	石刀	12.2c 1~1幅	内空石製品	6.60	5.85	4.70	2.30	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-15 19号石刀	石刀	12.2c 1~1幅	内空石製品	4.70	4.60	4.10	2.82	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-05 19号石刀	石刀	12.2c 1~1幅	内空石製品	4.45	3.90	3.20	2.48	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-17 11LSh	石器	—	内空石製品	6.20	6.65	6.50	7.50	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-18 12Lc	石器	—	内空石製品	4.85	4.90	4.15	3.10	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-19 14号石刀	石刀	—	内空石製品	12.70	(7.80)	(7.80)	—	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-20 14号石刀	石刀	—	内空石製品	12.60	(2.30)	(2.30)	0.90	1.20 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-21 14号石刀	石刀	—	内空石製品	12.60	(1.80)	(1.80)	0.80	1.20 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-22 15号石刀	石刀	—	内空石製品	6.00	(2.00)	(2.00)	0.90	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-23 15号石刀	石刀	—	内空石製品	11.50	5.40	2.00	21.40	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-24 15号石刀	石刀	—	内空石製品	8.50	4.90	2.00	23.10	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-25 15号石刀	石刀	—	内空石製品	2.00	(1.40)	(0.60)	0.70	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-26 15号石刀	石刀	—	内空石製品	2.70	(2.00)	(0.60)	1.40	1.15 青石 中代:新第三紀 黑川山脈	
S-27 17号石刀	石刀	—	内空石製品	6.20	(4.15)	(1.10)	4.30	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-28 19号石刀	石刀	—	内空石製品	4.30	(3.00)	(1.50)	2.56	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-29 21号石刀	石刀	—	内空石製品	3.10	(2.00)	(0.75)	1.80	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-30 24号石刀	石刀	下25	内空石製品	5.80	(3.45)	(1.00)	3.10	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-31 11Lc	石器	—	内空石製品	4.00	(2.15)	(1.30)	5.50	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-32 16号石刀	石刀	—	内空石製品	3.50	(3.45)	(1.30)	9.20	1.15 青石 中代:新第三紀 黒川山脈	
S-33 19号石刀	石刀	内空石製品上	—	内空石製品	7.50	10.16	6.50	77.30	内空石 中生代白堊紀 北上山脈

V まとめ

3箇年、15,160m²の調査の結果、竪穴住居跡22棟、配石遺構2基、土坑63基、土器埋設遺構7基を検出した。

竪穴住居跡

住居跡は、05区中段平場に4棟（1～4号住）、南向き斜面に4棟（5～8号住）、06区谷部の南側に14棟（9～22号住）分布する。

形状は円形、または斜面下部が消失していまいカマボコ状となる。東西・南北いずれかの直径がわかるものは12棟で、一辺が3.5～4.0m程度の規模を持つ住居跡が多い（7棟、4・5・7・9～11・13号住居跡）。この他4m後半が2棟（12・19号住居跡）、5m前半が2棟（8・14号）、最大は7.0mの15号住居跡である。

住居内には、壁の崩落を伴いながら斜面上方から土が流入しており、自然堆積と考えられるものが多い。特に7～8号住居跡では十和田b降下火山灰、13～17号住居跡では十和田a降下火山灰が覆土上部に含まれており、住居焼絶後もしばらくの間窓地として残っていたものと推定される。一方で、覆土中に新規住居跡が形成されている10・12号住居は、壁崩落上がほとんどみられず、VI層を起源とする単一の覆土が堆積することから埋め戻されている可能性がある。

床面は、炉よりも斜面上方が高くなり、やや斜めになる例が多い。硬化面はⅥ層を床とする斜面中段の1～4号住居跡と、谷部の17号住居で認められた。この硬化面は炉周囲から斜面上方のみで、斜面下方はない。住居の形状も合わせて考えると、床面の斜面下方側は、覆土の堆積に伴い削られ、崩落してしまっていると思われる。柱穴は径20～30cm程度規模を持ち、壁際に巡る例が多い。上端に比べ下端がより窓際に入り込むものが多くみられた。壁柱穴は住居南半、斜面下方ではほとんど確認できなかった。これは上述のとおり床面が崩落してしまったことと、下方の床面と柱穴覆土の主体十が同じで、検出しづらかったためと思われる。1・3・4（-11）号住居には、斜面上方側に周溝がめぐる。

炉は、地床炉11基（1～3・9～12・15（2基）・20・21号住）、石囲炉7基（4・5・8・14・17・19・22号住）、計18基検出された。住居の全形を推定すると、ほぼ中央に設置されるもの（3・4・10・12・15・17号住）と、斜面下方側へ寄るもの（9・11・19号住）とに分かれる。遺構の時期の古いものが地床炉、新しいものは石囲い炉という傾向がみられる。

遺物は、床面付近に復元可能な個体が多いものの、覆土中にも含まれる。斜面下方の住居ほど遺物量が多い傾向があり、床面付近の上器よりも時期の占い土器が覆土中に含まれることからも、斜面上方の遺構などから遺物が流れ込んでいると考えられる。住居跡の時期は出土遺物から、斜面中段1～4号住居が後期中葉、南斜面下部5～8号住居が後葉、谷部9～22号住居が中葉・後葉～晩期初頭となる。谷部は9～13号住居が中葉、14・19号住居が後葉～晩期初頭、これ以外が後葉に属する。

これらの住居跡は、中段平場・南斜面下部では、斜面地にあまり時期差のない住居跡が重複せずに近接し、南北または東西方向に並列する。一方谷部南は、住居跡同士重複する例が多い。谷部には中央に旧河道が南北に流れている。河道自体は覆土に中揮火山灰が含まれていることから、後期には埋没して、周囲より若干低い程度であったと考えられるが、住居跡はこれを挟み東西斜面の縁辺部に密集する。後期中葉は西側に多く（9～12号住）、古い10・11号住居と新しい9・11号住居は、若干位置を西側へかえて重複しており、両時期とも南北方向に並ぶ。東側は13号住居1棟のみである。後葉

は東側へと分布が移り、まず15号住居、これより新しく、斜面下方16~18号住居が東西方向に一部重複して並ぶ。また、斜面上部(21・22号住居)、旧河道付近(20号住居)にも展開する。後期後葉~晩期初頭にかけては14・19号住居がこれ以前の住居跡の間を埋めるように分布する。

配石遺構

谷部南で2基検出された。1号配石は半径1.5m程度の半円に礫が並べられており、その中心付近に完形に近い土器が出土し、その南に焼土が検出された。このことから16号住居の内側にある壁際に礫を積んだ住居跡の可能性を考えたが、壁掘方の立ち上がりや床面を把握できず配石遺構として扱った。2号配石は、44×37cmの隅丸造三角形の内に石が敷き詰められていた。1号配石で開まれた範囲に2号配石が位置しており、両者は関係がある可能性が考えられたが、確認できなかった。

土坑

住居跡と同様の立地のものと、これと離れた06区谷部北側・07区に位置するものとがある。前者は住居跡と、もしくは土坑同士が互いに重複する例が多く、後者は近接しても重複は少ない。形状は円形もしくは楕円形が60基、長方形が3基(56・57・62号上坑)である。

円形~楕円形の土坑は、底面が平坦で壁下がオーバーハングまたは直立気味に立ちあがるプラスコ状のものが53基と大半を占める。開口部は壁が大きくくずれ外傾する。一方で土坑下半部のみ検出した例も多いため、底面径で規模をみていくと、直径0.62~2.16mの間に切れなく、大きさは様々である。このうち底面に小穴をもつ上坑(15・20・50・51・53号上坑)は、15号土坑を除いて、底面の直径が1.5mを超える比較的大きい。この他、4・21・22・26・35・39号土坑は、底面が丸みを帯び、壁が外傾して立ち上がり、55号土坑は不正形で底面に凹凸をもつ。これらの上坑は斜面上方から覆土が堆積しており、自然に埋没したものが大半を占めると思われる。

隅丸長方形の土坑(53・54・56号上坑)は、円~楕円形のものに比べ掘り込みが浅い。そのため覆土がほとんど残存していないが、円~楕円形の土坑の底面付近には壁崩落が堆積するのみに対してこれが見られず、単層に近い堆積状況を示す。

土坑は出土遺物が少なく、周囲の住居などからの流れ込みが多いと考えられるため、遺物から時期を特定するのは難しかった。重複関係は、住居跡に切られるものが多い。また、底面から採取した炭化物の年代測定を行った結果、14号土坑がyrBP2950年と住居跡より新しく、50・51・53号土坑がそれぞれyrBP3590・3720・3780年と住居跡より古い年代を得た。

土器埋設遺構

7基検出した。いずれも05区斜面中段、標高290~300mとほぼ同標高のところに分布する。埋設状態は正位が4基、斜位1基、倒位1基、不明1基である。今回の調査で後期初頭の遺構は5号土器埋設遺構のみである。

遺構分布

05区中段平場・南斜面、06区谷部南と住居跡の分布する場所では、これ以外の遺構も検出され、互いに重複・密集する。谷部北や07区では土坑群のみが検出され、近接するもののほとんど重複しない。これら遺構が分布する場所は、調査区内でも比較的傾斜の緩やかな場所である。一方、05区斜面上段や、Oグリッドより西側の西向き斜面、07区の東西両端は、立っているのが困難なほどの急斜面で、遺構が分布しない。06区西側の東向き斜面も比較的傾斜は緩やかであるが日当たりがやや悪いせいか遺構は少ない。急傾斜の多い丘陵地で、わずかな緩斜面を利用して、集落を形成していたようである。

放射性炭素年代測定結果報告書

(AMS測定)

板子屋敷3遺跡

(株) 加速器分析研究所

(1) 遺跡の位置

板子屋敷3遺跡は、岩手県輕米町大字上館22地割25-13ほか（北緯40° 20' 40"、東経141° 29' 48"）に所在する。

(2) 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

(3) 測定対象試料

測定対象試料は、15点である。

(4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(5) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹²Cの測定も同時に行う。

(6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。この値は、δ¹³Cによって補正された値である。
- 3) 付記した誤差は、複数回の測定値についてχ²検定が行われ、測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値、みなせない場合には標準誤差から求めた値が用いられる。
- 4) δ¹³Cの値は、通常は質量分析計を用いて測定されるが、AMS測定の場合に同時に測定される

$\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰：パー・ミル）で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_S - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_S - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{A}_S$ ：試料炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度： $({}^{14}\text{C} / {}^{12}\text{C})_S$ または $({}^{14}\text{C} / {}^{12}\text{C})_{\text{S}}$

${}^{14}\text{A}_R$ ：標準現代炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度： $({}^{14}\text{C} / {}^{12}\text{C})_R$ または $({}^{14}\text{C} / {}^{12}\text{C})_{\text{R}}$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ${}^{13}\text{C}$ 濃度 $({}^{13}\text{A}_S = {}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C})$ を測定し、PDB（白堊紀のペレムナイト類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に ${}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C}$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に（加速器）と注記する。

- 5) $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるとしたときの ${}^{14}\text{C}$ 濃度 $({}^{14}\text{A}_R)$ に換算した上で計算した値である。(1) 式の ${}^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{14}\text{A}_R = {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として } {}^{14}\text{C} / {}^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として } {}^{14}\text{C} / {}^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_R - {}^{14}\text{A}_S) / {}^{14}\text{A}_S] \times 1000 \quad (\%)$$

- 6) pMC (percent Modern Carbon) は、現代炭素に対する試料炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度の割合を示す表記であり、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\%)$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\%)$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、 ${}^{14}\text{C}$ 年代が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

- 7) ${}^{14}\text{C}$ 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

- 8) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ${}^{14}\text{C}$ 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ${}^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。历年較正年代は、 ${}^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。历年較正プログラムに入力される値は、下一位を四捨五入しない ${}^{14}\text{C}$ 年代値である。

参考文献

- Stuiver M. and Polash H. A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37 (2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43 (2A), 381-389
- Reimer P. J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比	
IΔΔΔ - 52651 #1227 - 1	試料採取場所: 板子層敷3遺跡(岩手県磐梯町) 試料形態: 木炭 試料名(番号): 1, 7号住床 (参考) δ ¹³ Cの補正無し	Libby Age(yrBP) : 3,020 ± 40 δ ¹³ C(‰)、(加速器) = -27.09 ± 0.87 Δ ¹⁴ C(‰) = -313.5 ± 3.2 pMC(‰) = 68.65 ± 0.32 δ ¹³ C(‰) = -316.5 ± 3 pMC(‰) = 68.35 ± 0.3 Age(yrBP) : 3,060 ± 40	
IΔΔΔ - 52652 #1227 - 2	試料採取場所: 板子層敷3遺跡(岩手県磐梯町) 試料形態: 木炭 試料名(番号): 2, 8号住床 (参考) δ ¹³ Cの補正無し	Libby Age(yrBP) : 3,020 ± 40 δ ¹³ C(‰)、(加速器) = -29.14 ± 0.92 Δ ¹⁴ C(‰) = -313.6 ± 3.1 pMC(‰) = 68.64 ± 0.31 δ ¹³ C(‰) = -319.4 ± 2.7 pMC(‰) = 68.06 ± 0.27 Age(yrBP) : 3,090 ± 30	
IΔΔΔ - 52653 #1227 - 3	試料採取場所: 板子層敷3遺跡(岩手県磐梯町) 試料形態: 木炭 試料名(番号): 3, 8号住床 (参考) δ ¹³ Cの補正無し	Libby Age(yrBP) : 3,140 ± 40 δ ¹³ C(‰)、(加速器) = -31.87 ± 0.76 Δ ¹⁴ C(‰) = -323.9 ± 3.3 pMC(‰) = 67.61 ± 0.33 δ ¹³ C(‰) = -333.4 ± 3.1 pMC(‰) = 66.66 ± 0.31 Age(yrBP) : 3,260 ± 40	
IΔΔΔ - 52654 #1227 - 4	試料採取場所: 板子層敷3遺跡(岩手県磐梯町) 試料形態: 木炭 試料名(番号): 4, 14号土坑27層 (参考) δ ¹³ Cの補正無し	Libby Age(yrBP) : 2,950 ± 40 δ ¹³ C(‰)、(加速器) = -35.93 ± 1.02 Δ ¹⁴ C(‰) = -307.1 ± 3.2 pMC(‰) = 69.29 ± 0.32 δ ¹³ C(‰) = -322.6 ± 2.7 pMC(‰) = 67.74 ± 0.27 Age(yrBP) : 3,130 ± 30	
IΔΔΔ - 52655	試料採取場所: 板子層敷3遺跡(岩手県磐梯町) 試料形態: 木炭 試料名(番号): 5, 2号住居内	Libby Age(yrBP) : 3,410 ± 40 δ ¹³ C(‰)、(加速器) = -30.07 ± 0.87 Δ ¹⁴ C(‰) = -348 ± 3.2 pMC(‰) = 65.2 ± 0.32	

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比			
#1227-5	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\%)$	=	-3548 \pm 2.9	
		pMC(%)	=	64.52 \pm 0.29	
		Age(yrBP)	:	3.320 \pm 40	
IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比			
IAAA-62490	試料採取場所：板子屋敷3遺跡(岩手県軽米町) 試料形態：木炭 試料名(番号)：6、Ⅲ層上面焼土	Libby Age(yrBP)	:	190 \pm 30	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$ 、(加速器)	=	-24.67 \pm 0.71	
		$\Delta^{14}\text{C}(\%)$	=	-23.4 \pm 3.8	
#1608-1	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	pMC(%)	=	97.66 \pm 0.38	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$	=	-22.8 \pm 3.5	
		pMC(%)	=	97.72 \pm 0.35	
IAAA-62491	試料採取場所：板子屋敷3遺跡(岩手県軽米町) 試料形態：木炭 試料名(番号)：7、14号住3層	Age(yrBP)	:	190 \pm 30	
		Libby Age(yrBP)	:	2.540 \pm 40	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$ 、(加速器)	=	-29.42 \pm 0.65	
#1608-2	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\Delta^{14}\text{C}(\%)$	=	-271.5 \pm 3.1	
		pMC(%)	=	72.85 \pm 0.31	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$	=	-278.1 \pm 3.0	
IAAA-62492	試料採取場所：板子屋敷3遺跡(岩手県軽米町) 試料形態：木炭 試料名(番号)：8、9号住炉内	pMC(%)	=	72.19 \pm 0.30	
		Age(yrBP)	:	2.620 \pm 30	
		Libby Age(yrBP)	:	3.330 \pm 30	
#1608-3	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\%)$ 、(加速器)	=	-27.70 \pm 0.62	
		$\Delta^{14}\text{C}(\%)$	=	-339.2 \pm 2.8	
		pMC(%)	=	66.08 \pm 0.28	
IAAA-62493	試料採取場所：板子屋敷3遺跡(岩手県軽米町) 試料形態：木炭 試料名(番号)：9、17住	$\delta^{13}\text{C}(\%)$	=	-342.9 \pm 2.7	
		pMC(%)	=	65.71 \pm 0.27	
		Age(yrBP)	:	3.370 \pm 30	
#1608-4	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	Libby Age(yrBP)	:	3.160 \pm 30	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$ 、(加速器)	=	-28.41 \pm 0.59	
		$\Delta^{14}\text{C}(\%)$	=	-325.6 \pm 2.8	
#1608-5	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	pMC(%)	=	67.44 \pm 0.28	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$	=	-330.3 \pm 2.6	
		Age(yrBP)	:	3.220 \pm 30	
IAAA-62494	試料採取場所：板子屋敷3遺跡(岩手県軽米町) 試料形態：木炭 試料名(番号)：10、4号住	Libby Age(yrBP)	:	3.610 \pm 30	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$ 、(加速器)	=	-25.00 \pm 0.58	
		$\Delta^{14}\text{C}(\%)$	=	-362.3 \pm 2.6	
#1608-5	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	pMC(%)	=	63.77 \pm 0.26	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$	=	-362.3 \pm 2.5	
		pMC(%)	=	63.77 \pm 0.25	
IAAA-62495	試料採取場所：板子屋敷3遺跡(岩手県軽米町) 試料形態：炭化物 試料名(番号)：11、早期土器付着	Age(yrBP)	:	3.610 \pm 30	
		Libby Age(yrBP)	:	8.350 \pm 50	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$ 、(加速器)	=	-25.28 \pm 0.66	
#1608-6	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\Delta^{14}\text{C}(\%)$	=	-646.2 \pm 2.1	
		pMC(%)	=	35.38 \pm 0.21	
		$\delta^{13}\text{C}(\%)$	=	-646.4 \pm 2.0	
		pMC(%)	=	35.36 \pm 0.20	
		Age(yrBP)	:	8.350 \pm 50	

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比	
		Libby Age(yrBP)	
IAAA-72355 #2069-1	試料採取場所：板子屋敷3遺跡 (岩手県輕米町)	$\delta^{13}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -28.76 ± 0.62
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -375.7 ± 2.6
	試料名(番号)：12. 53号土坑	pMC(%)	= 62.43 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -380.5 ± 2.5
		pMC(%)	= 61.95 ± 0.25
		Age (yrBP)	: 3850 ± 30
		Libby Age(yrBP)	: 3780 ± 30
IAAA-72356 #2069-2	試料採取場所：板子屋敷3遺跡 (岩手県輕米町)	$\delta^{13}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -25.23 ± 0.66
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -370.7 ± 2.6
	試料名(番号)：13. 51号土坑	pMC(%)	= 62.93 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -371.0 ± 2.5
		pMC(%)	= 62.90 ± 0.25
		Age (yrBP)	: 3720 ± 30
		Libby Age(yrBP)	: 3720 ± 30
IAAA-72357 #2069-3	試料採取場所：板子屋敷3遺跡 (岩手県輕米町)	$\delta^{13}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -30.87 ± 0.52
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -360.8 ± 2.8
	試料名(番号)：14. 50号土坑	pMC(%)	= 63.92 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -368.4 ± 2.7
		pMC(%)	= 63.16 ± 0.27
		Age (yrBP)	: 3690 ± 40
		Libby Age(yrBP)	: 3590 ± 40
IAAA-72358 #2069-4	試料採取場所：板子屋敷3遺跡 (岩手県輕米町)	$\delta^{13}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -26.08 ± 0.72
	試料形態：	$\Delta^{13}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -351.6 ± 2.9
	試料名(番号)：15. 11L2dⅣ層	pMC(%)	= 64.84 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{\textperthousand})$	= -353.1 ± 2.7
		pMC(%)	= 64.69 ± 0.27
		Age (yrBP)	: 3500 ± 30
		Libby Age(yrBP)	: 3480 ± 40

参考

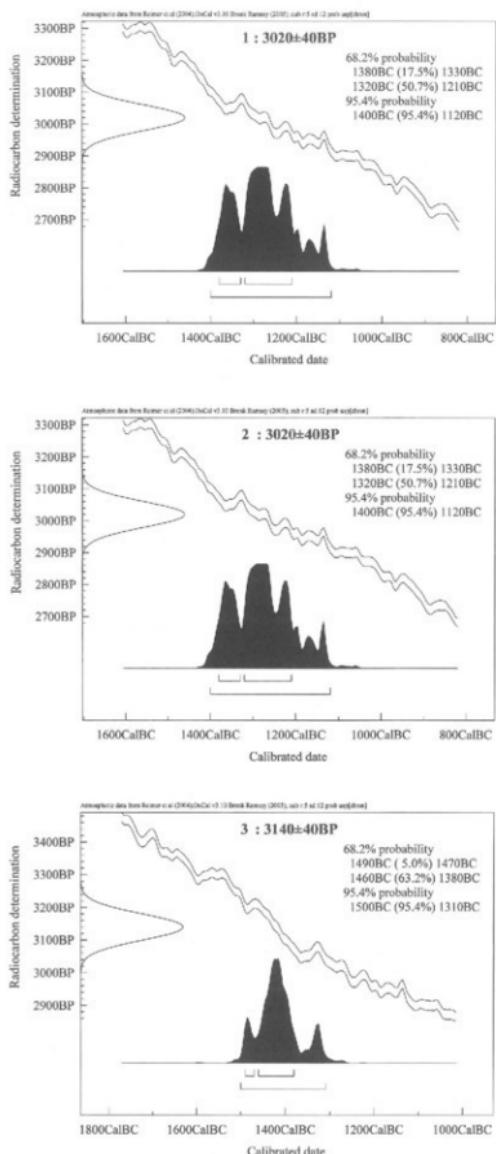
IAAA-72358に記載しては、炭化物を処理し測定した結果になります。

参考資料：歴年校正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age(yrBP)	IAA Code No.	試料番号	Libby Age(yrBP)
IAAA-52651	1	3020 ± 40	IAAA-72355	12	3784 ± 33
IAAA-52652	2	3020 ± 40	IAAA-72356	13	3721 ± 33
IAAA-52653	3	3140 ± 40	IAAA-72357	14	3594 ± 35
IAAA-52654	4	2950 ± 40	IAAA-72358	15	3480 ± 35
IAAA-52655	5	3440 ± 40			

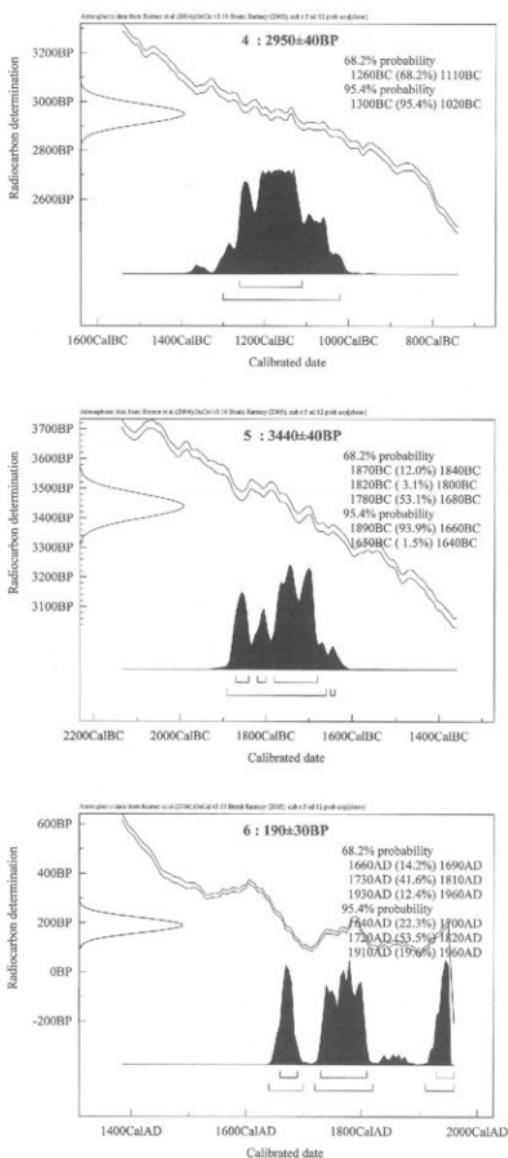
IAA Code No.	試料番号	Libby Age(yrBP)
IAAA-62190	6	190 ± 30
IAAA-62491	7	2541 ± 34
IAAA-62492	8	3328 ± 34
IAAA-62493	9	3164 ± 32
IAAA-62494	10	3613 ± 32
IAAA-62495	11(土器付着)	8345 ± 47

ここに記載するLibby Age(年代値)と誤差は下1桁を丸めない値です。



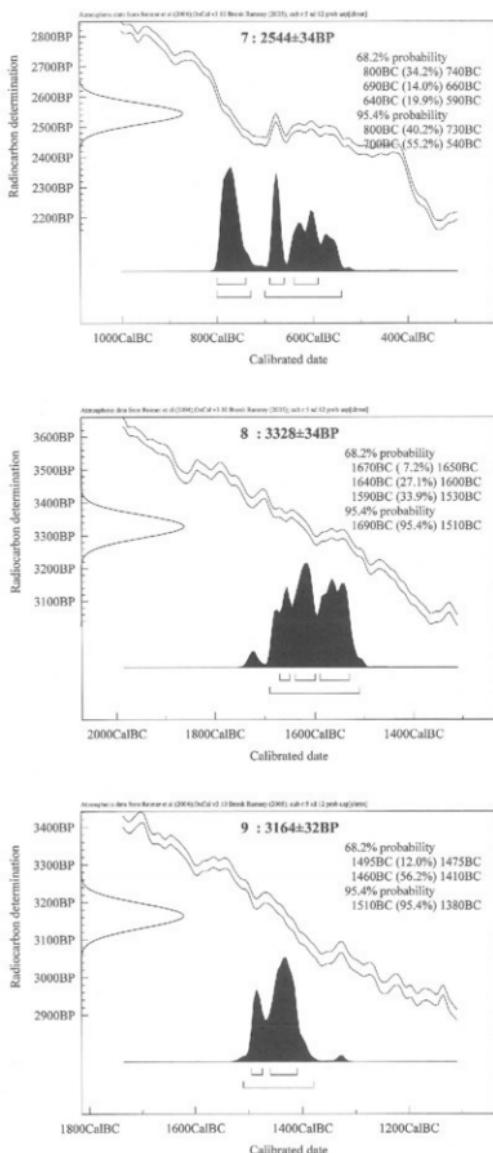
機器プログラムver.0x0001.0.10

参考値：曆年補正 Radiocarbon determination (1)



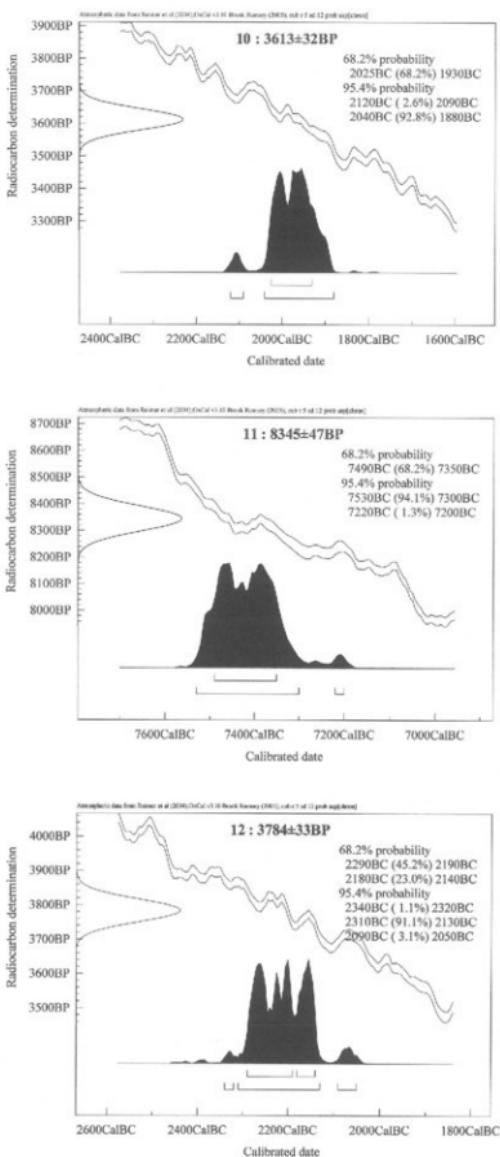
使用プログラム・OxCal v3.10

参考値：暦年補正 Radiocarbon determination (2)



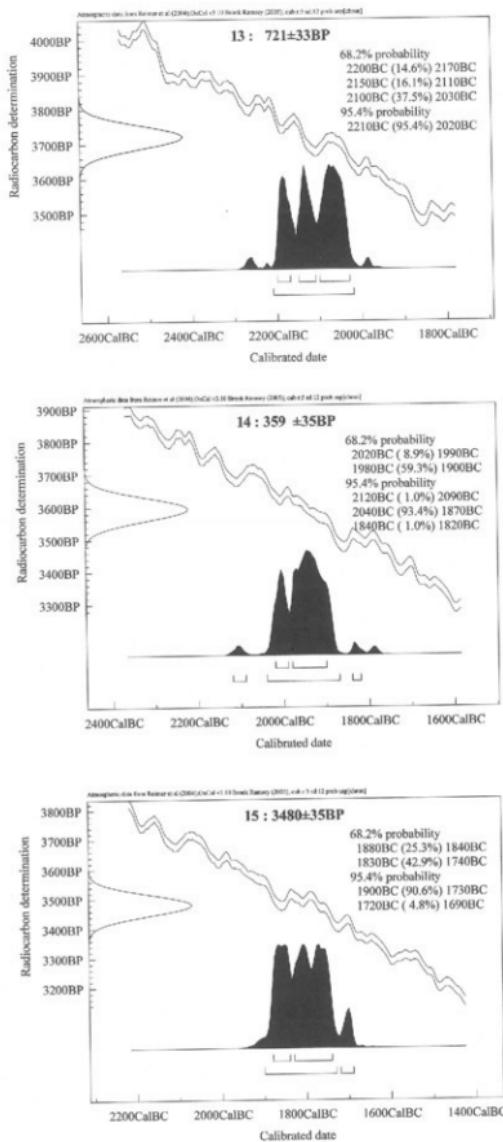
使用プログラム・OxCal v3.10

参考値：暦年補正 Radiocarbon determination (3)



使用プログラム・OxCal v3.10

参考値：曆年補正 Radiocarbon determination (4)



使用プログラム・OxCal v3.10

参考値：歴年補正 Radiocarbon determination (5)

板子屋敷3遺跡における火山灰分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県輕米町板子屋敷3遺跡は、北上山地北部を流れる雪谷川の支流の坊里沢に開析された丘陵縁辺部に位置する。今回の発掘調査では、縄文時代後期とされる堅穴住居跡や土坑などの遺構が確認され、それらの遺構に伴う土器や石器などの遺物が多数出土している。

今回の分析調査では、堅穴住居跡覆土の上部に、火山灰（テフラ）とされる堆積層が検出されたことから、これらについて、その碎屑物の性状を明らかにし、テフラである場合には、既知のテフラとの対比を行う。

1 試料

調査区南壁では、縄文時代後期とされる13~18号住居跡の覆土の上部に、発掘調査所見より斜面上方からの流れ込みにより堆積したと考えられている土層が認められている。土層は、上位よりb、d1、d2、eの各層名が付されている。試料は、調査区南壁、15号住D-D'断面の各層より1点ずつ採取され、上位より順に試料番号1~4とされている。また、試料番号5として、調査区内の基本層序が確認された断面より、十和田中揮火山灰を含むとされた層位V b層から採取されている。試料は、いずれも黒~黒褐色を呈する砂質の土壤である。

2 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3 結果

（1）テフラの産状

結果を表1に示す。試料番号1のb層には、少量の火山ガラスと中量の軽石が含まれ、スコリアは認められない。火山ガラスは無色透明の塊状の軽石型であり、微量の纖維束状のものも混在する。また、極めて微量の淡緑色を呈する纖維束状の軽石型も認められる。軽石は、最大径約6.5mmであり、白色を呈し、発泡はやや良好である。軽石の粒径の淘汰度は、不良（すなわち粒の大きさが不揃い）である。

試料番号2のd1層には、中量の火山ガラスと少量の軽石が含まれ、スコリアは認められない。火山ガラスの特徴は、上述の試料番号1と同様であるが、淡緑色を呈する纖維束状の軽石型が無色透明の軽石型と同量程度認められる。軽石は、最大径約3.5mmであり、色調および発泡度は試料番号1と同様である。軽石の粒径の淘汰度はやや不良である。

試料番号3のd2層には、多量の火山ガラスと少量の軽石が含まれ、スコリアは認められない。火山ガラスは、淡緑色を呈する纖維束状の軽石型が多く、無色透明の軽石型と淡褐色を呈する纖維束状の軽石型が混在する。軽石は、最大径約6.5mmであり、色調および発泡度は試料番号1と同様である。軽石の粒径の淘汰度は不良である。

表1. テフラ分析結果

試料番号	層名	スコリア 量	火山ガラス		軽石		
			量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径
1	調査区南壁 b 層	-	++	cl·pm>>gr·pm	+++	W·sg	6.5
2	調査区南壁 d 1 層	-	+++	cl·pm, gr·pm	++	W·sg	3.5
3	調査区南壁 d 2 層	-	++++	gr·pm>cl·pm, br·pm	++	W·sg	6.5
4	調査区南壁 e 層	-	++	cl·pm	++++	W·sg	7.0
5	調査区内基本層序 (十和田中揮火山灰含む層)	-	++	cl·pm	+++	W·g>W·sg	3.0

凡例 - : 含まれない, (+) : きわめて微量, + : 微量, ++ : 少量, +++ : 中量, ++++ : 多量,

B : 黒色, G : 灰色, Br : 極色, GB : 灰黑色, GBr : 灰褐色, R : 赤色, W : 白色,

g : 良好, sg : やや良好, sb : やや不良, b : 不良, 最大粒径はmm,

cl : 無色透明, br : 淡褐色, gr : 淡緑色, bw : バブル型, md : 中間型, pm : 輪石型,

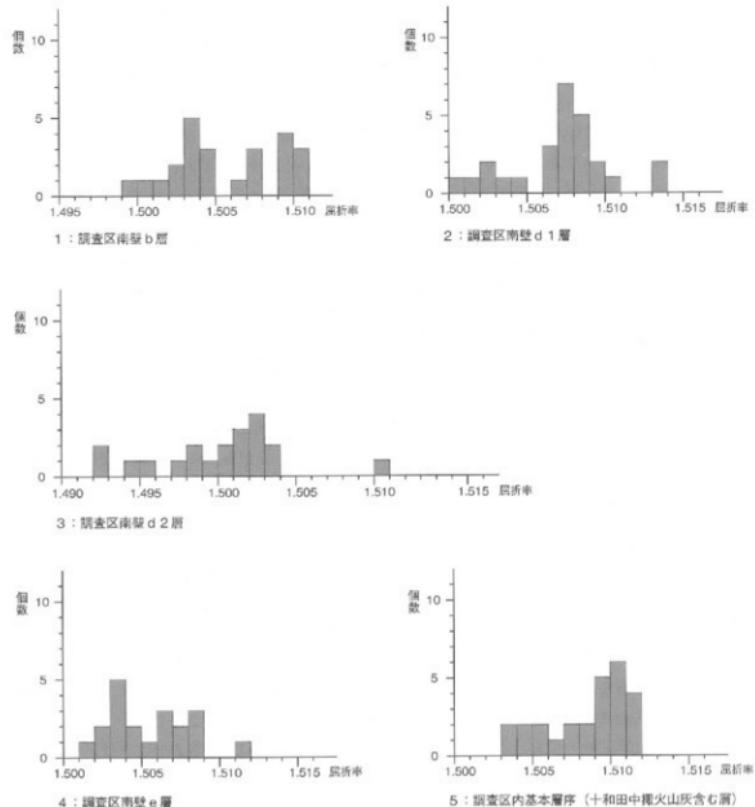


図1. 火山ガラスの屈折率測定結果

試料番号4のe層には、少量の火山ガラスと多量の軽石が含まれ、スコリアは認められない。火山ガラスは、無色透明の軽石型のみである。軽石は、最大径約7.0mmであり、色調および発泡度は試料番号1と同様である。軽石の粒径の淘汰度は不良である。

試料番号5には、少量の火山ガラスと中量の軽石が含まれ、スコリアは認められない。火山ガラスは、無色透明の軽石型のみである。軽石は、最大径約3.0mmであり、白色を呈し、発泡良好なものが多く、これに白色を呈し、発泡やや良好なものが混在する。軽石の粒径の淘汰度は良好（粒の大きさがよく揃っている）である。

（2）屈折率測定

結果を図1に示す。試料番号1、2、4の火山ガラスは、ほぼn 1.500–1.510のレンジに入り、n 1.503–1.508にモードがある。試料番号3の火山ガラスは、上記3点よりも低いレンジにあり、n 1.492–1.504のレンジを示し、n 1.501–1.503にモードがある。試料番号5の火山ガラスは、n 1.503–1.512のレンジを示し、n 1.510前後にモードがある。

4 察察

試料番号1～4に認められた軽石は、最大粒径および粒径の淘汰度、さらに色調と発泡度が同様であることから、同一のテフラに由来すると考えられる。一方、これら4点に含まれている火山ガラスについても、同様の色調と形態のものから構成されている。したがって、試料番号1～4に含まれる軽石および火山ガラスは、同一のテフラに由来する可能性が高い。ただし、火山ガラスにおいて各色調と各形態の量比および屈折率に、試料間で差異が認められている。この差異が最も顕著であるのは、試料番号3における淡緑色の繊維束状軽石型火山ガラスの増大と、屈折率のレンジの低下である。すなわち、各試料間における火山ガラスの差異は、淡緑色の繊維束状軽石型火山ガラスの量比に起因すると考えられる。

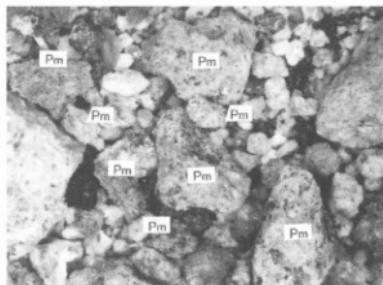
板子屋敷3遺跡の地理的位置を考慮し、上述した特徴とこれまでに研究された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか（1981:1984）、Arai et al. (1986)、町田・新井（2003）など）とを比較すると、試料番号1～4に含まれているテフラは、十和田カルデラを給源とする十和田aテフラ（T o-a）に同定される。T o-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火碎流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火碎流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている（町田ほか、1981）。前述したように、試料には軽石が含まれるから、板子屋敷3遺跡の位置する軽米町付近は、T o-aが軽石質テフラとして分布する範囲に入っているといえる。また、町田ほか（1981）は、淡緑色・淡褐色を呈するn 1.502以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とするT o-aの上部火山灰層は、南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとしている。この火山ガラスは、試料番号3に多く認められており、軽米町付近にも分布していることがわかる。なお、T o-aの噴出年代については、早川・小山（1998）による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。

一方、試料番号5の軽石は、最大粒径と粒径の淘汰度が、試料番号1～4の軽石とは大きく異なること、発泡度がやや異なることから、T o-aとは異なるテフラに由来すると考えられる。このことは、試料番号5の火山ガラスの屈折率で、レンジとモードが試料番号1～4よりも高いことからも支持される。上述した東北地方におけるテフラの産状との比較から、試料番号5のテフラは、約6000年前に噴出した十和田中嶋テフラ（T o-C u）に相当すると判断される。この結果は発掘調査所見とも整合する。なお、試料番号2や4には、n 1.511以上の高屈折率の火山ガラスが微量認められたが、これはT o-C uに由来する火山ガラスの混入を示すと考えられる。

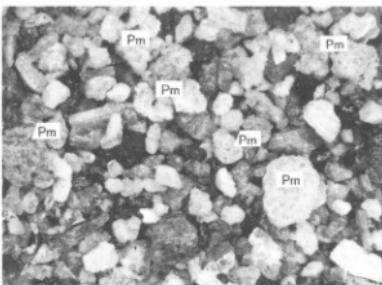
発掘調査所見によれば、試料番号1～4の各試料が採取された覆土各層は、斜面上方からの流れ込みによるとされている。その土層中にはT₀～aが含まれていることから、e層以上の覆土の堆積は、T₀～aが周囲の地表に降下堆積した後、すなわち10世紀以降であったと考えられる。豊穴住居跡は縄文時代後期とされているが、添付資料の土層断面図のよれば、10世紀頃のこの遺構はまだ埋没過程にあり、地表にはその窪みが残っていた状態にあったことが推定される。

引用文献

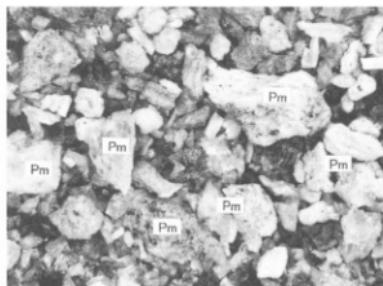
- Arai, F.・Machida, H.・Okumura, K.・Miyauchi, T.・Soda, T.・Yamagata, K. 1986. Catalog for late quaternary marker tephras in Japan II -Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido-.Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21, 223-250.
- 古澤 明. 1995. 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的分析に基づくテフラの識別.地質学雑誌, 101, 123-133.
- 早川山紀夫・小山真人.1998.日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－.火山, 43, 403-407.
- 町田 洋・新井房夫. 2003. 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会.336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広. 1981. 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, 562-569.
- 町田 洋・新井房夫・杉原重大・小田静夫・遠藤邦彦. 1984. テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－.渡辺直経（編）古文化財に関する保存科学と人文・自然科学. 同朋舎. 865-928.



1. To-a の軽石 (1 : 調査区南壁 b 層)



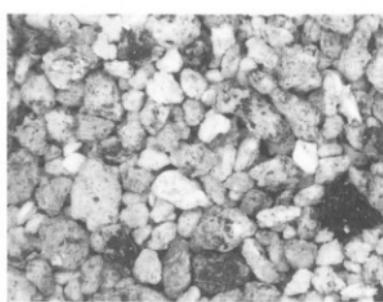
2. To-a の軽石 (2 : 調査区南壁 d 1 層)



3. To-a の軽石と緑色火山ガラス
(3 : 調査区南壁 d 2 層)



4. To-a の軽石 (4 : 調査区南壁 c 層)



3. To-Cu の軽石 (5 : 調査区内基本層序)

Pm : 軽石

3 mm 2 mm
1. 3 - 5 2

図版 1 テフラ

写 真 図 版



遺跡周辺遠景（南西上空から）



遺跡遠景（南西上空から）



調査区全景（05・06区、南東上空から）



調査区全景（07区、北東上空から）

カラー写真図版2 調査区全景



カラー写真図版3 人面付土器



8号住居出土土器



No.555



No.414



No.330



No.206

カラー写真図版 4 出土土器



遺跡周辺の地形（北東から）



調査区全景（下が南）



全景（下が南）



全景（南・谷部から）



全景（北東・斜面上部から）



中段平場全景（北から）



斜面下部全景（南から）

写真図版2 05区（平成17年度調査区）全景



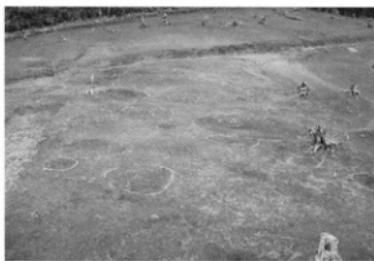
調査前（西・06区から）



試掘（北から）



粗掘（北東から）



検出（南から）



検出（北東から）

写真図版3 05区調査前作業風景



谷部南側全景（下が南）



西斜面全景（東から）

写真図版4 06区（平成18年度調査区）全景



調査前（東・05区から）



試掘（南から）



旧河道（南西から）



谷部北側トレンチ調査（南東から）



07区谷部北端全景

写真図版5 06区調査前作業風景・07区（平成19年度調査区）全景（1）



東側全景（西から）



中央全景（北から）



西側全景（南東から）



試掘（北西から）



精査（北西から）



実測（南から）



現地公開（平成17年度）

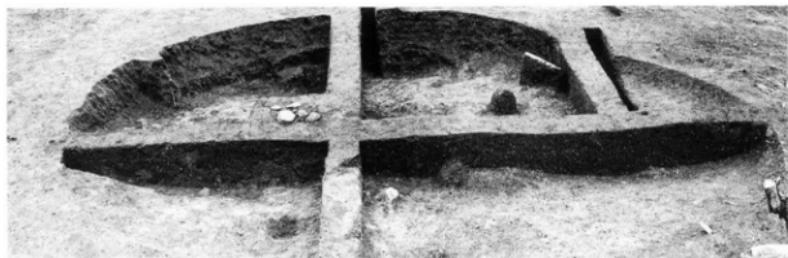


現地公開（平成18年度）

写真図版6 07区全景（2）・作業風景、現地公開



全景（南から）



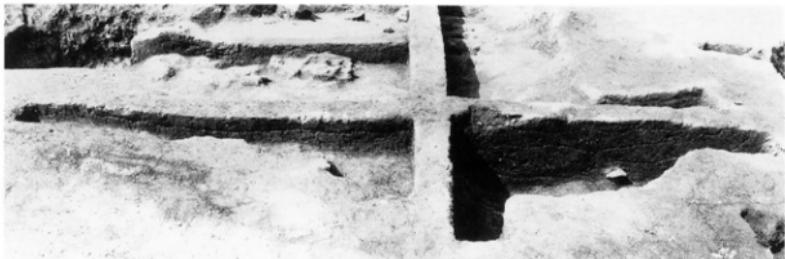
断面（南から）



断面（東から）



全景（南から）

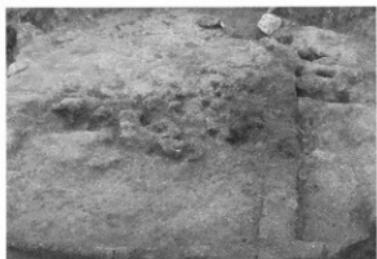


断面（南から）



断面（東から）

写真図版 8 2号住居跡（1）



2号住炉全景（南から）



2号住炉断面（南から）



2号住土器（6・7）出土状況（東から）



2号住作業風景（南から）



3号住全景

写真図版9 2号住居跡（2）・3号住居跡（1）



断面（南から）



断面（西から）



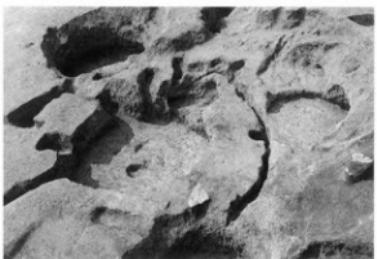
炉全景（南西から）



炉断面（西から）



北西部遺物（10・11・S-377）出土状況

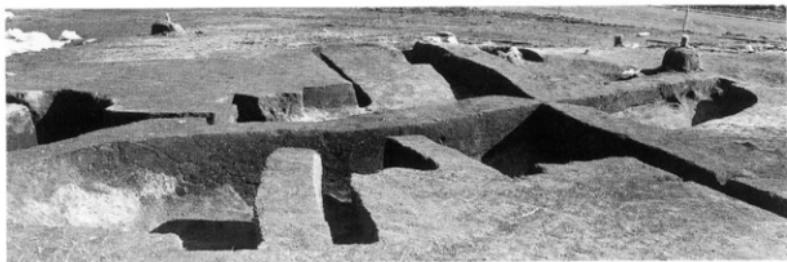


周溝全景（東から）

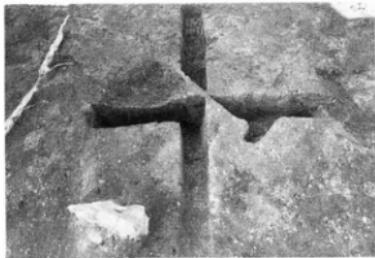
写真図版10 3号住居跡（2）



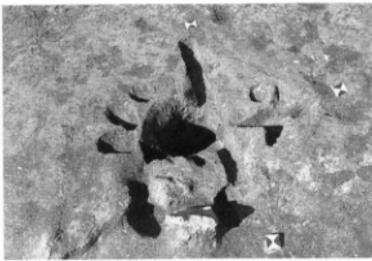
全景（南東から）



断面（北西から）



炉断面（南から）

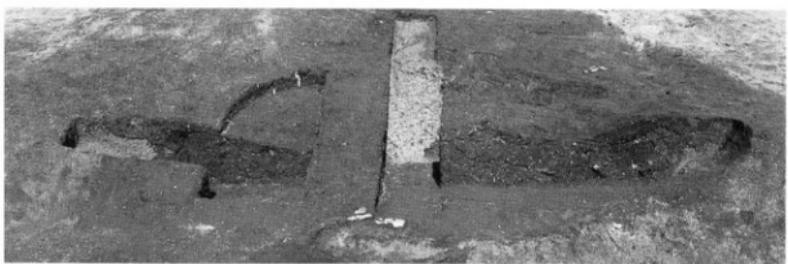


炉全景（南から）

写真図版11 4号住居跡



全景（南から）



断面（南から）



炉全景（南から）

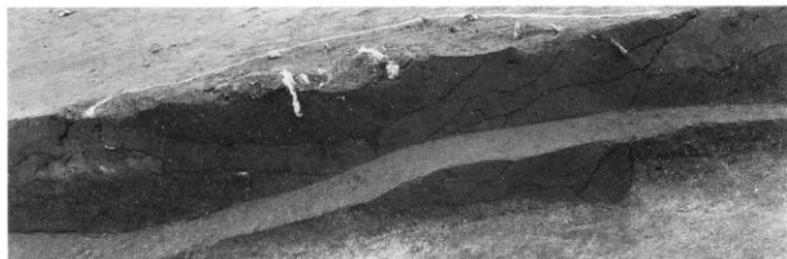


炉断面（南から）

写真図版12 5号住居跡



全景（南から）



断面（東から）

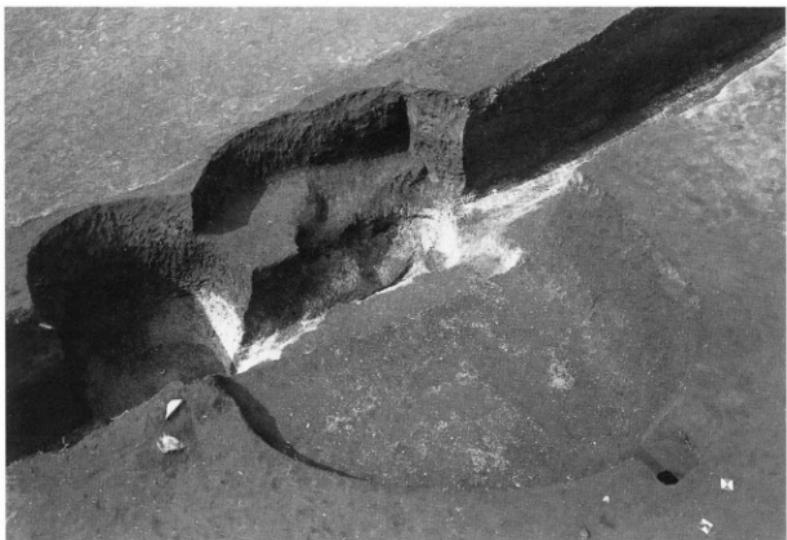


断面（南から）



土器（41・42）出土状況（南から）

写真図版13 6号住居跡



全景（南東から）



全景（柱穴・南東から）

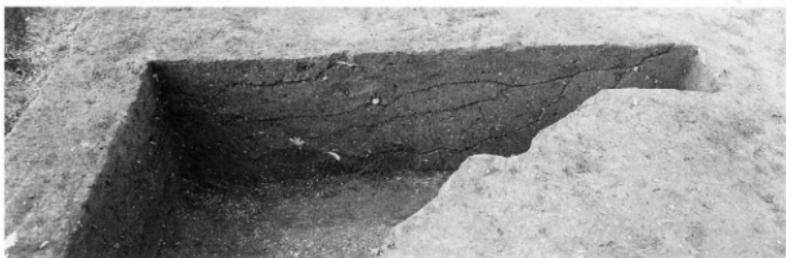
写真図版14 7号住居跡（1）



断面（北西から）



断面（北東から）



断面（北から）



遺物出土状況（南東から）



土器（45）出土状況（西から）



土器（48・49）出土状況（東から）



土器（44）出土状況（南東から）

写真図版15 7号住居跡（2）



全景（南から）



炭化材出土状況（南西から）

写真図版16 8号住居跡（1）



断面（北西から）



炭化材出土状況（南東から）



作業風景（北から）



柱穴（東から）



土器（50）出土状況



石器（S-58~61）出土状況



炉全景（東から）



炉断面（東から）



全景（東から）



断面（東から）



炉全景（東から）



炉断面（南から）

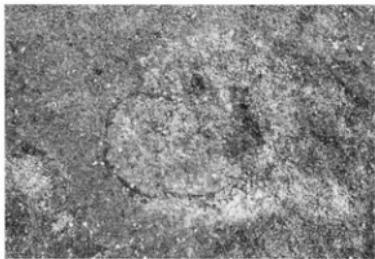
写真図版18 9号住居跡



全景・遺物出土状況（北から）



断面（南から）



炉全景（南から）



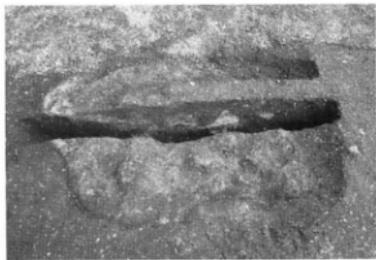
作業風景（南東から）



全景（南東から）



断面（北から）



炉断面（南東から）



柱穴（東から）

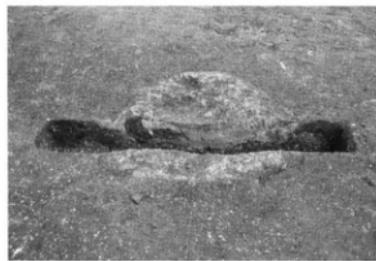
写真図版20 11号住居跡



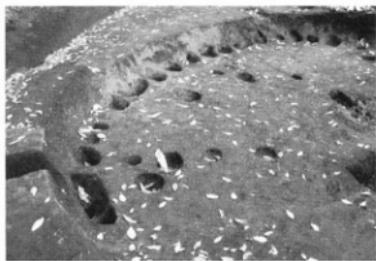
全景・遺物出土状況（南から）



断面（北から）



炉断面（西から）



柱穴（南から）



全景（南西から）



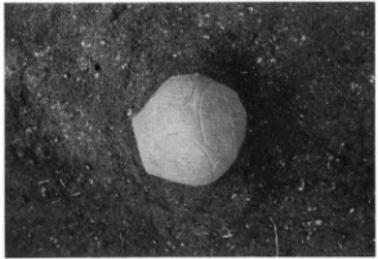
断面（東から）



断面（北東から）



全景（北から）



土器（157）出土状況（南から）

写真図版22 13号住居跡



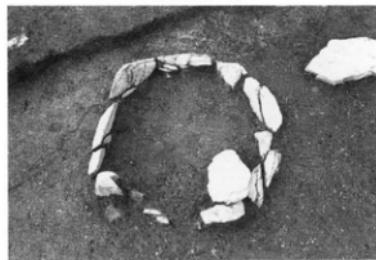
全景（東から）



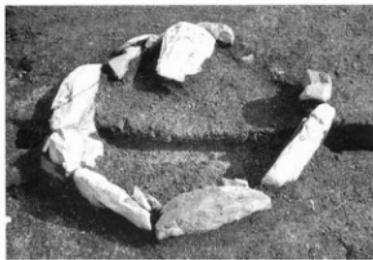
全景（南西から）



断面（東から）



炉全景（南東から）



炉断面（西から）



全景（南西から）



遺物出土状況（南西から）



断面（南東から）



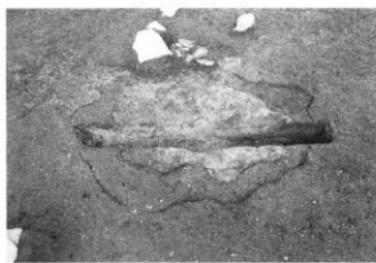
断面（東から）



炉2断面（南から）

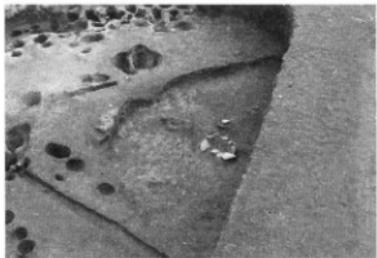


炉1全景（南から）



炉1断面（南西から）

写真図版25 15号住居跡（2）



17号住全景（南西から）



17号住断面（東から）



17号住断面（北から）



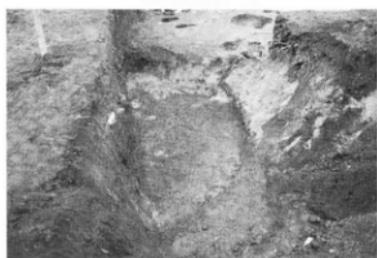
17号住断面（北から）



17号住断面（西から）



17号住炉全景

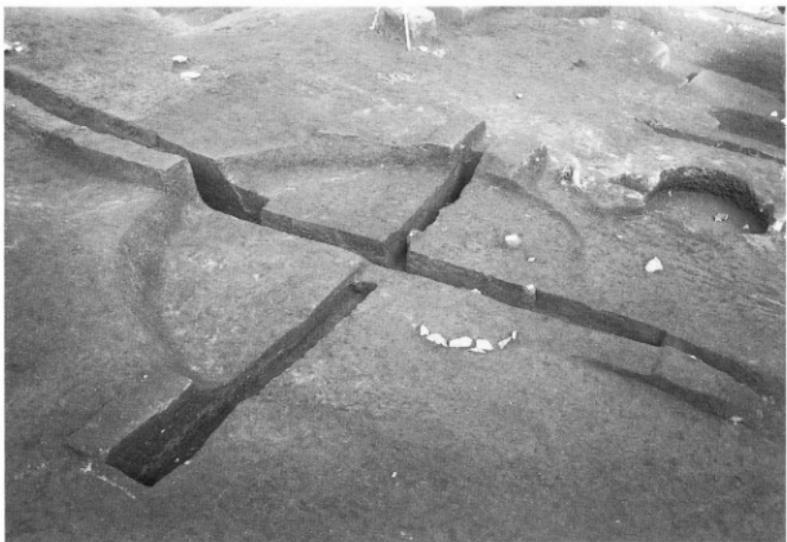


18号住全景（東から）



18号住断面（西から）

写真図版26 17・18号住居跡



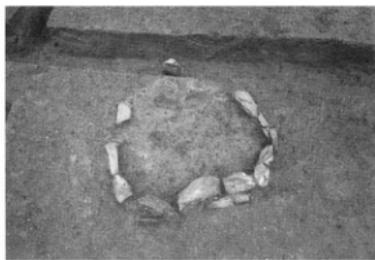
全景（南西から）



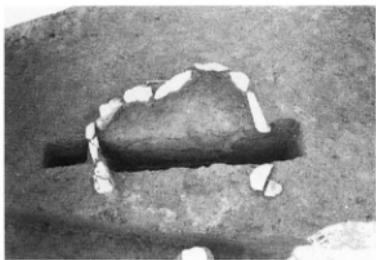
断面（南から）



検出（北東から）



炉全景（西から）



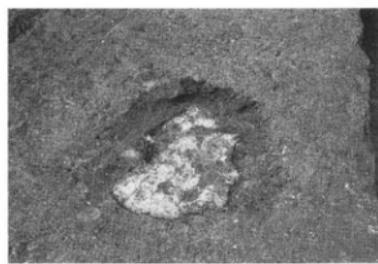
炉断面（東から）



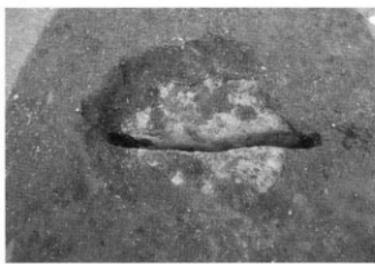
全景（南から）



断面（西から）



炉全景（南から）



炉断面（南から）

写真図版28 20号住居跡



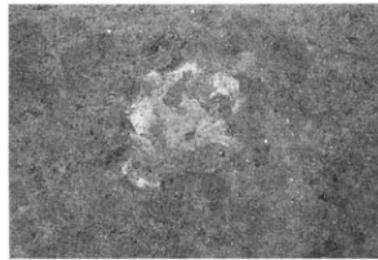
全景（南西から）



断面（南東から）



作業風景（北西から）



炉全景（北から）



炉断面（南から）



全景（南から）



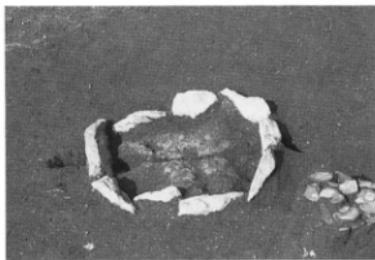
断面（南東から）



柱穴（北西から）



炉全景（北西から）

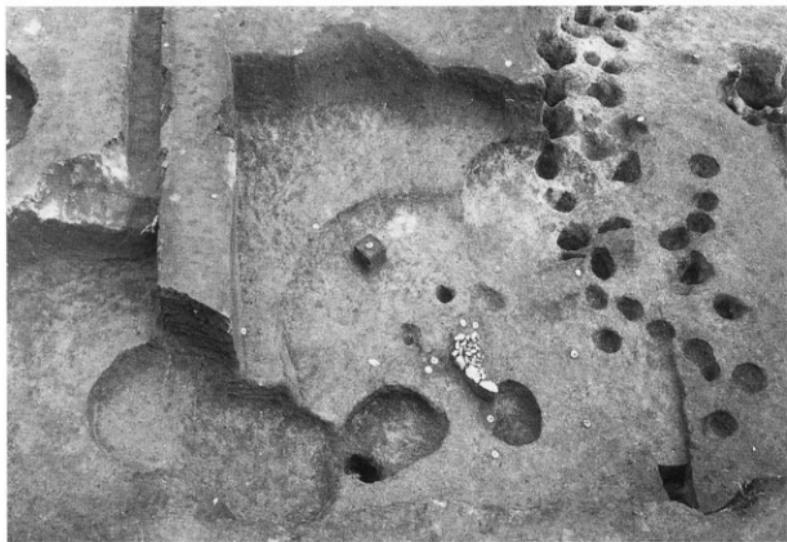


炉断面（南東から）

写真図版30 22号住居跡



1号配石全景（北西から）

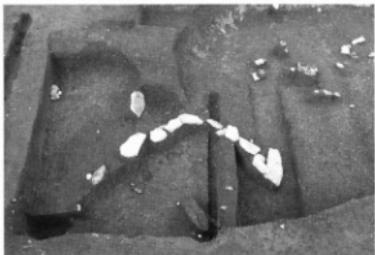


16号住全景（南から）

写真図版31 16号住居跡、1・2号配石遺構（1）



1号配石全景（東から）



1号配石（下段・南から）



16号住・1号配石断面（北から）



16号住断面（西から）



槽土全景（南から）



槽土全景（南から）



2号配石全景（南から）

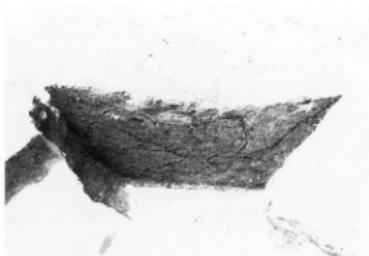


2号配石断面（東から）

写真図版32 16号住居跡、1・2号配石遺構（2）



1号土坑全景（東から）



同左断面（東から）



2号土坑全景（南から）



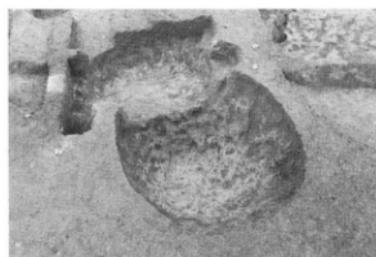
同左断面（東から）



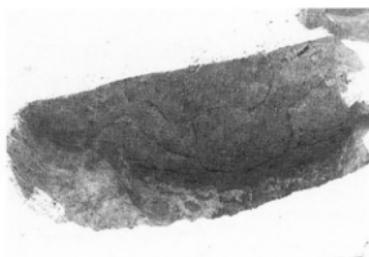
3号土坑全景（南から）



同左断面（南から）



4号土坑全景（南から）



同左断面（東から）

写真図版33 土坑（1）



5号土坑全景（北東から）



同左付近作業風景



6号土坑全景（南から）



同左断面（西から）



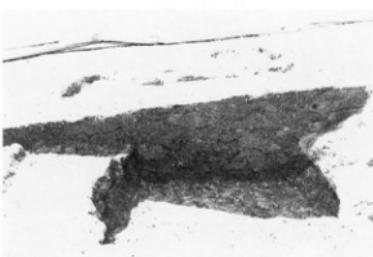
7号土坑全景（西から）



同左断面（西から）



8号土坑全景（東から）



同左断面（東から）

写真図版34 土坑（2）



9号土坑全景（南東から）



同左断面（北から）



10号土坑全景（南東から）



同左断面（西から）



11~13号土坑全景（西から）



同左土器（372）出土状況（南から）

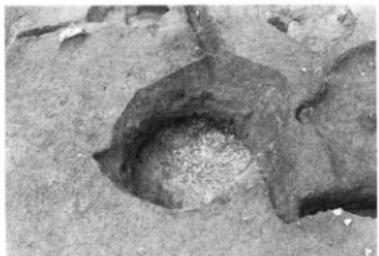


同上断面（北西から）



同左断面（北から）

写真図版35 土坑（3）



14号土坑全景（東から）



同左断面（東から）



15号土坑全景（東から）



同左断面（東から）



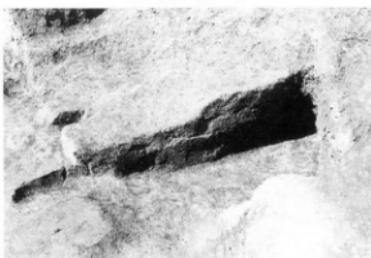
16号土坑全景（北から）



同左断面（西から）



17・18号土坑全景（南から）



17号土坑断面（東から）

写真図版36 土坑（4）



19号土坑全景（東から）



同左断面（西から）



20・21号土坑全景（南から）



20号土坑断面（北から）



21号土坑断面（北から）



18号土坑断面（南から）



22号土坑全景（南西から）



同左断面（東から）



23号土坑全景（東から）



同左断面（東から）



24号土坑全景（東から）



同左断面（南西から）



25号土坑全景（南東から）



同左断面（北東から）



26号土坑全景（北東から）



同左断面（北西から）

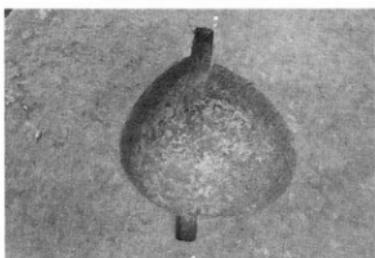
写真図版38 土坑（6）



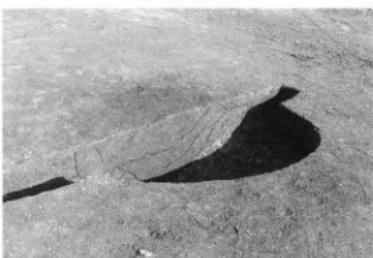
27号土坑全景（南西から）



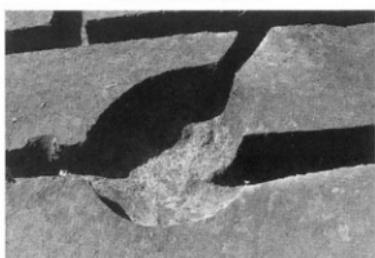
同左断面（西から）



28号土坑全景（南から）



同左断面（北西から）



29号土坑全景（東から）



同左断面（東から）



30号土坑全景（南東から）



同左断面（東から）

写真図版39 土坑（7）



31号土坑全景（東から）



同左断面（東から）



32号土坑全景（北西から）



同左断面（西から）



33号土坑全景（南西から）



同左断面（北から）

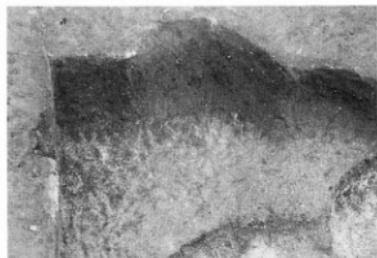


34号土坑全景（南から）



同左断面（東から）

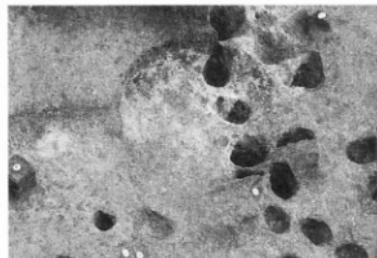
写真図版40 土坑（8）



35号土坑全景（南から）



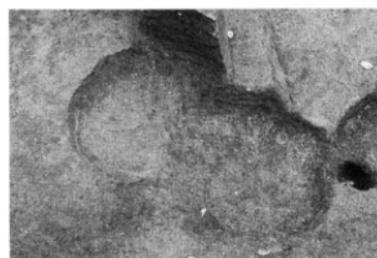
同左断面（西から）



36号土坑全景（南から）



同左断面（西から）



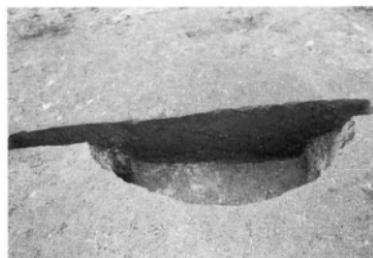
37・38号土坑全景（南から）



37号土坑断面（西から）



39号土坑全景（南西から）

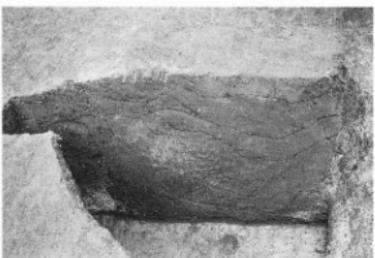


同左断面（北から）

写真図版41 土坑（9）



40号土坑全景（北から）



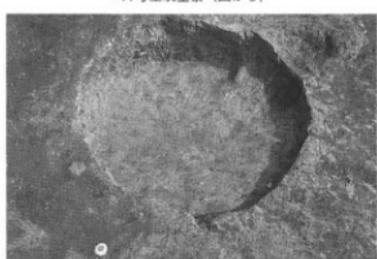
同左断面（西から）



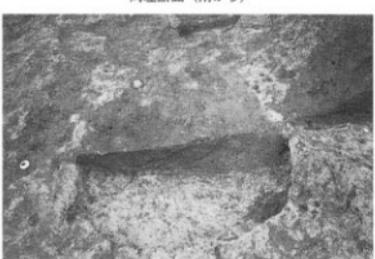
41号土坑全景（西から）



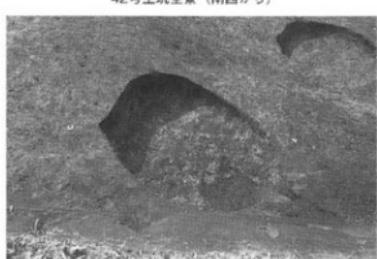
同左断面（南から）



42号土坑全景（南西から）



同左断面（南から）



43号土坑全景（北から）



同左断面（南から）

写真図版42 土坑（10）



44号土坑全景（北西から）



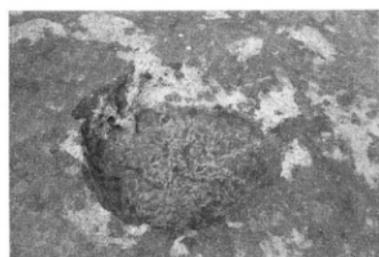
同左断面（南東から）



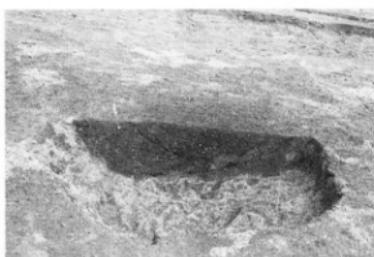
45号土坑全景（東から）



同左断面（南から）



46号土坑全景（南東から）



同左断面（南西から）



47号土坑全景（南東から）



同左断面（南西から）

写真図版43 土坑 (11)



48号土坑全景（南東から）



同左断面（南西から）



49号土坑全景（南東から）



同左断面（南西から）



50号土坑全景（南東から）



同左断面（南西から）



51号土坑全景（南西から）



同左断面（南西から）

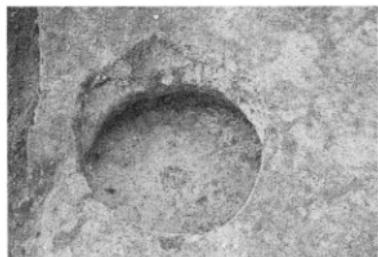
写真図版44 土坑（12）



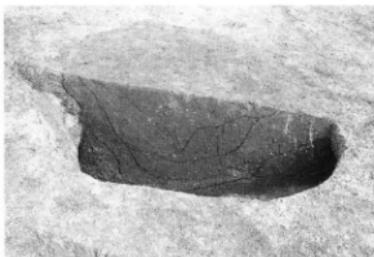
52号土坑全景（南東から）



同左断面（北西から）



53号土坑全景（南東から）



同左断面（南西から）



54号土坑全景（南東から）



同左断面（南西から）



55号土坑全景（北東から）



同左断面（北東から）



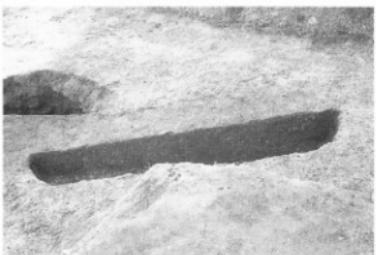
56号土坑全景（南西から）



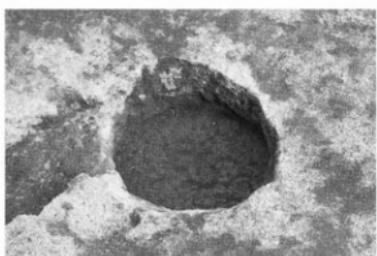
同左断面（南西から）



57号土坑全景（南西から）



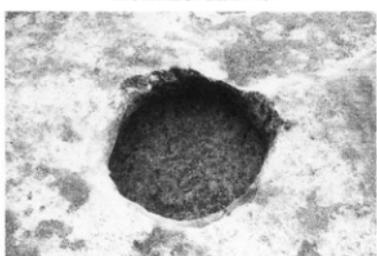
同左断面（北東から）



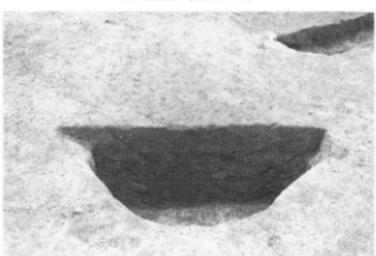
58号土坑全景（南西から）



同左断面（南西から）



59号土坑全景（南西から）



同左断面（西から）

写真図版46 土坑（14）



60号土坑全景（南から）



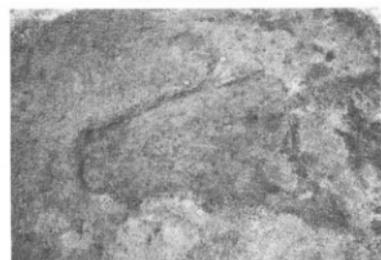
同左断面（南東から）



61号土坑全景（東から）



同左断面（西から）



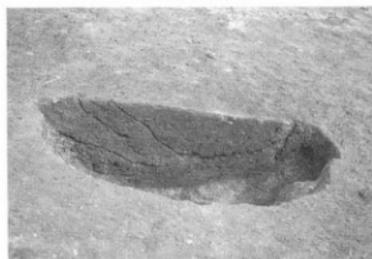
62号土坑全景（東から）



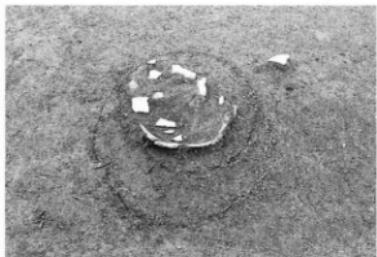
同左断面（南から）



63号土坑全景（南から）



同左断面（西から）



1号埋設検出（南から）



同左埋設状況（東から）



同上断面（東から）



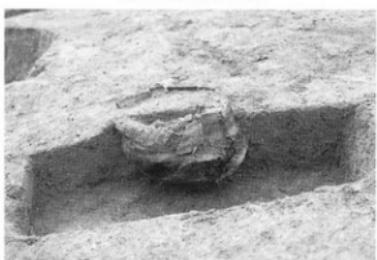
2号埋設検出（南東から）



3号埋設検出（南から）



同上断面（東から）



同上埋設状況（東から）



同左断面（東から）

写真図版48 土器埋設遺構（1）



4号埋設検出（西から）



同左埋設状況（西から）



同上断面（西から）



同左掘り方（南から）



5号埋設検出（北から）



同左埋設状況（北西から）



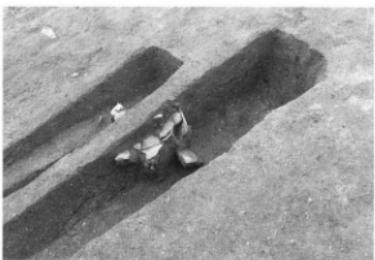
同上断面（南から）



同左掘り方（北西から）



6号埋設出土状況（南東から）



同左断面（西から）



7号埋設検出（南から）



同左断面（西から）



05区斜面中段遺物出土状況（北西から）



06区谷部南側包含層掘削（北東から）



土器（470）出土状況（南から）



土偶（730）出土状況（東から）

写真図版50 土器埋設遺構（3）・包含層（後晩期）



土器出土状況（南西から）



土器出土状況（南東から）



土器出土状況（北東から）

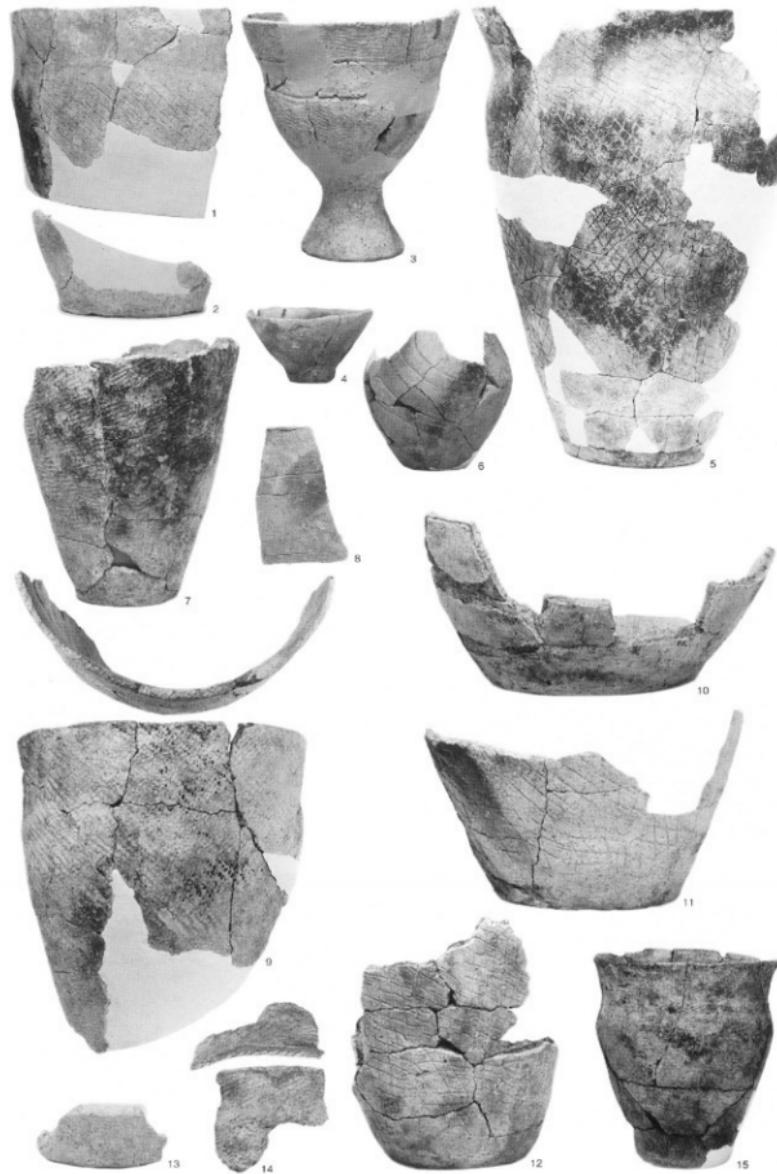


土器出土状況（南から）

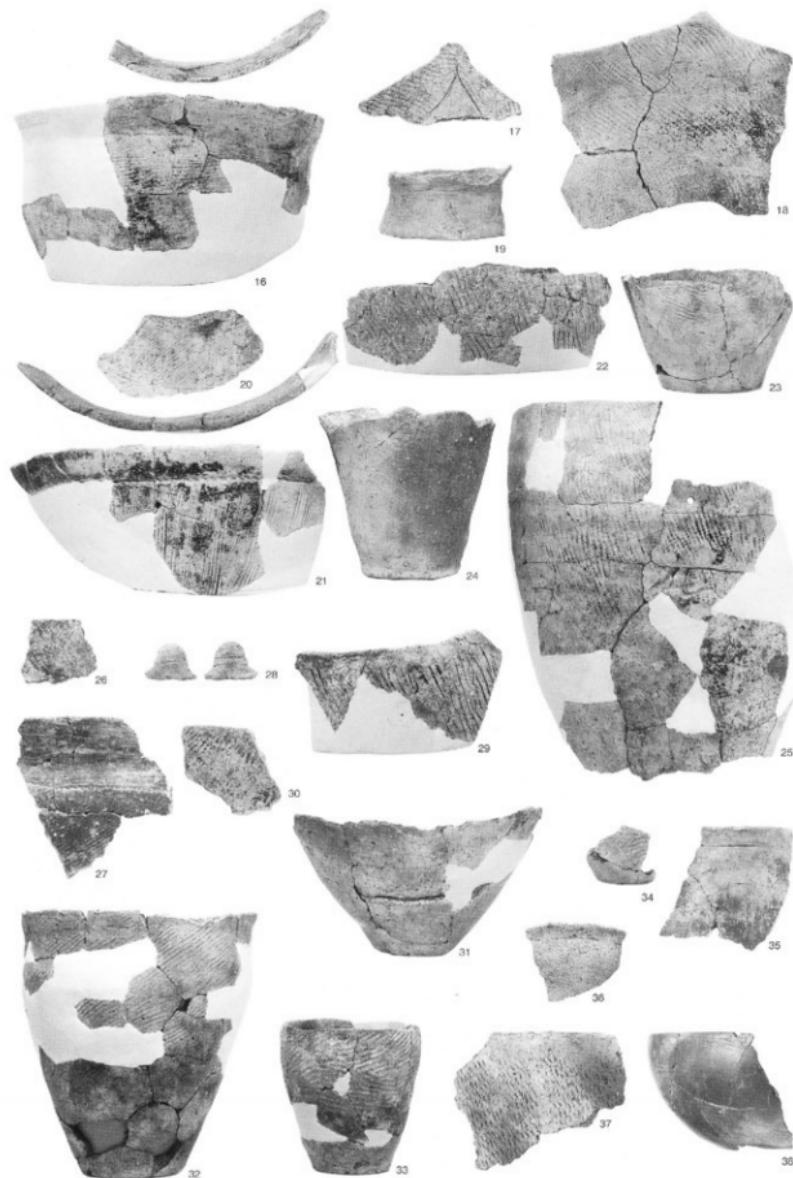


土器出土層位（南西から）

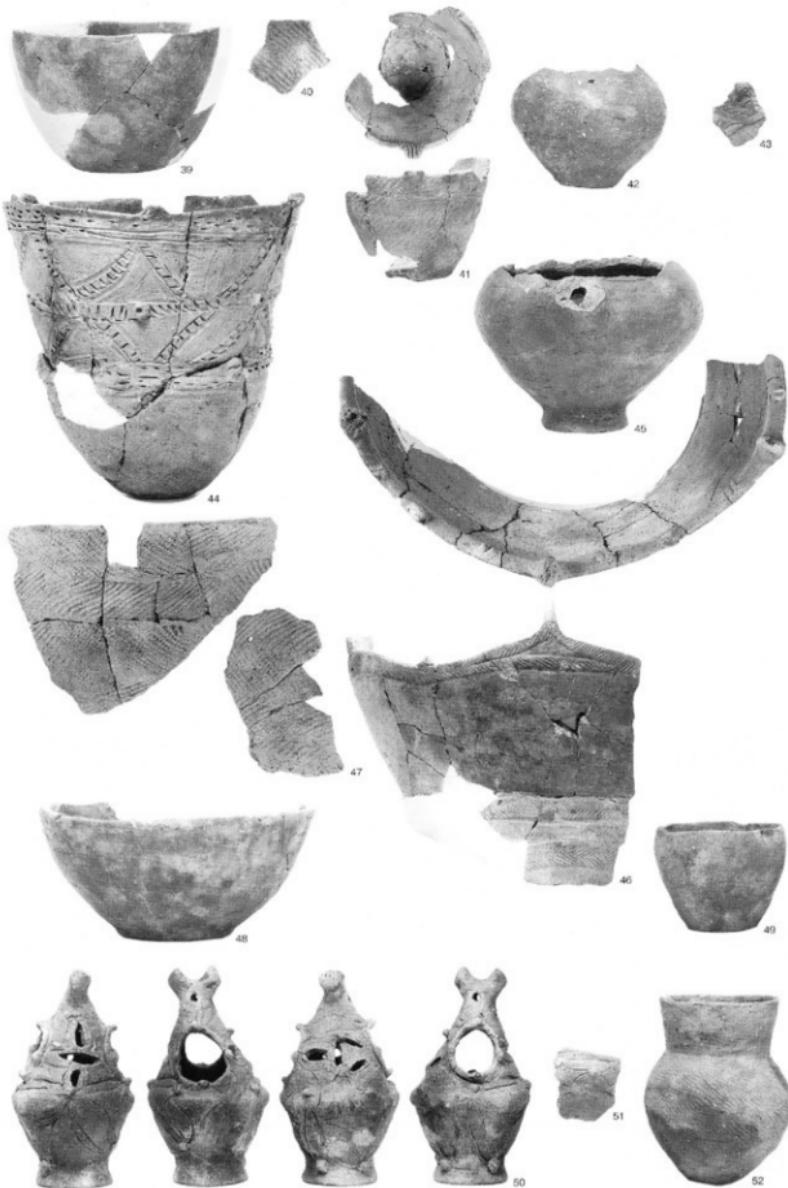
写真図版51 包含層（05区・早期）



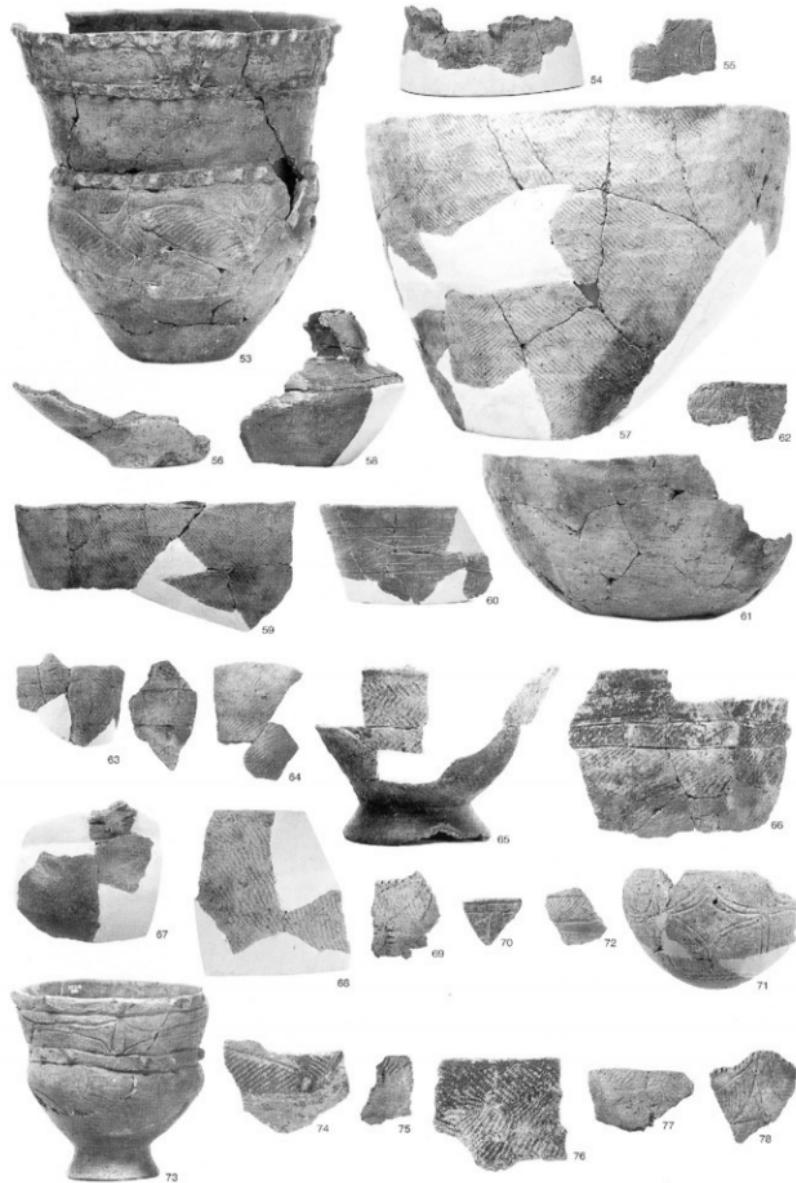
写真図版52 出土土器（1）



写真図版53 出土土器（2）



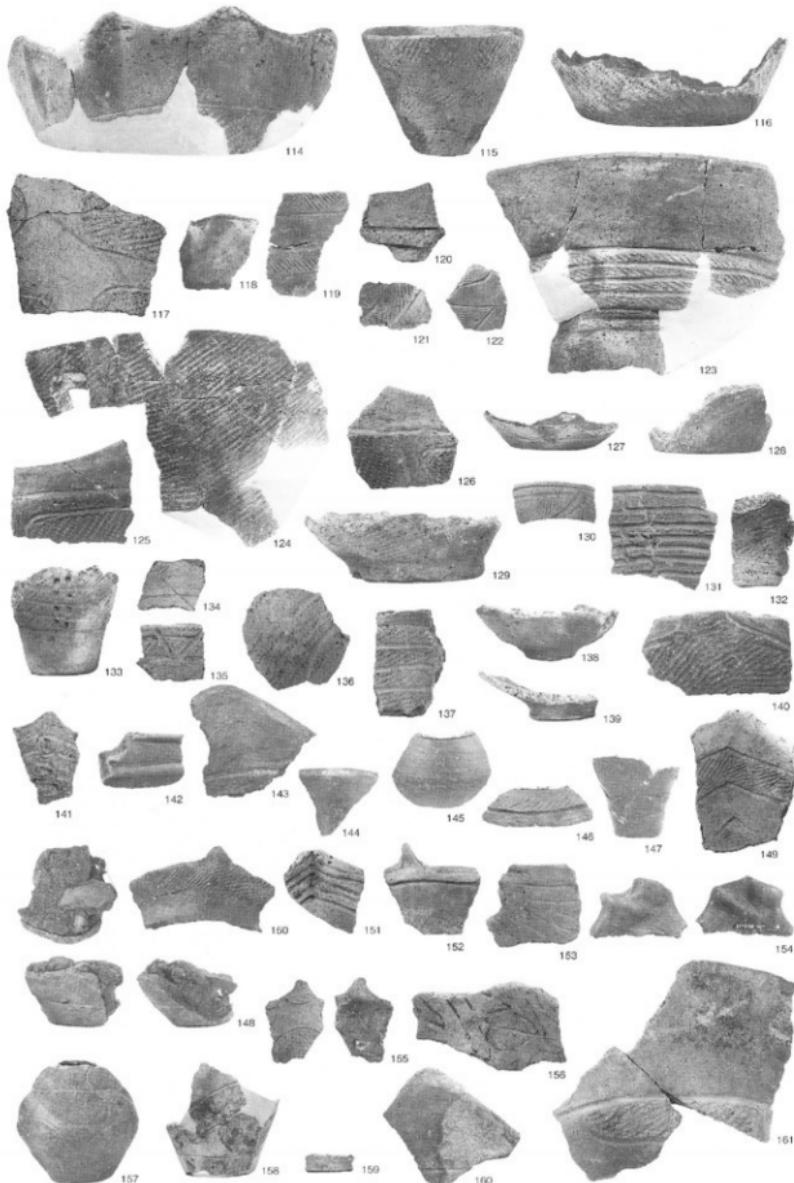
写真図版54 出土土器（3）



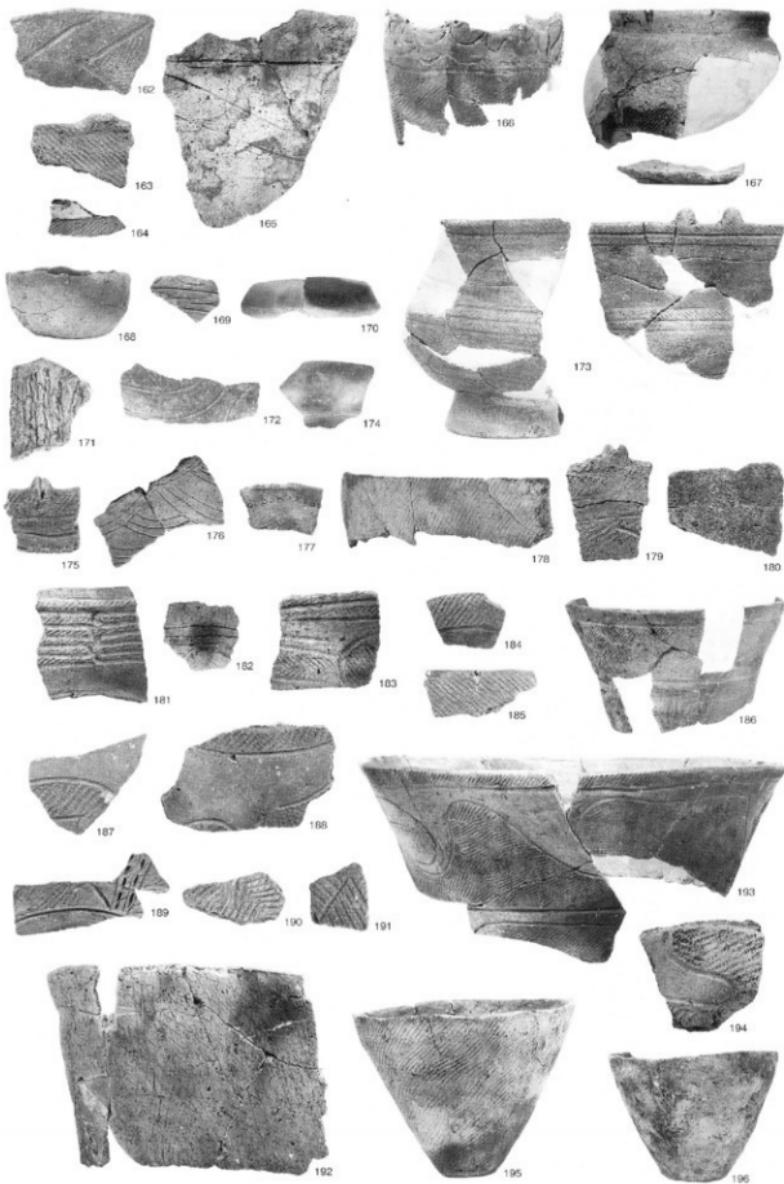
写真図版55 出土土器（4）



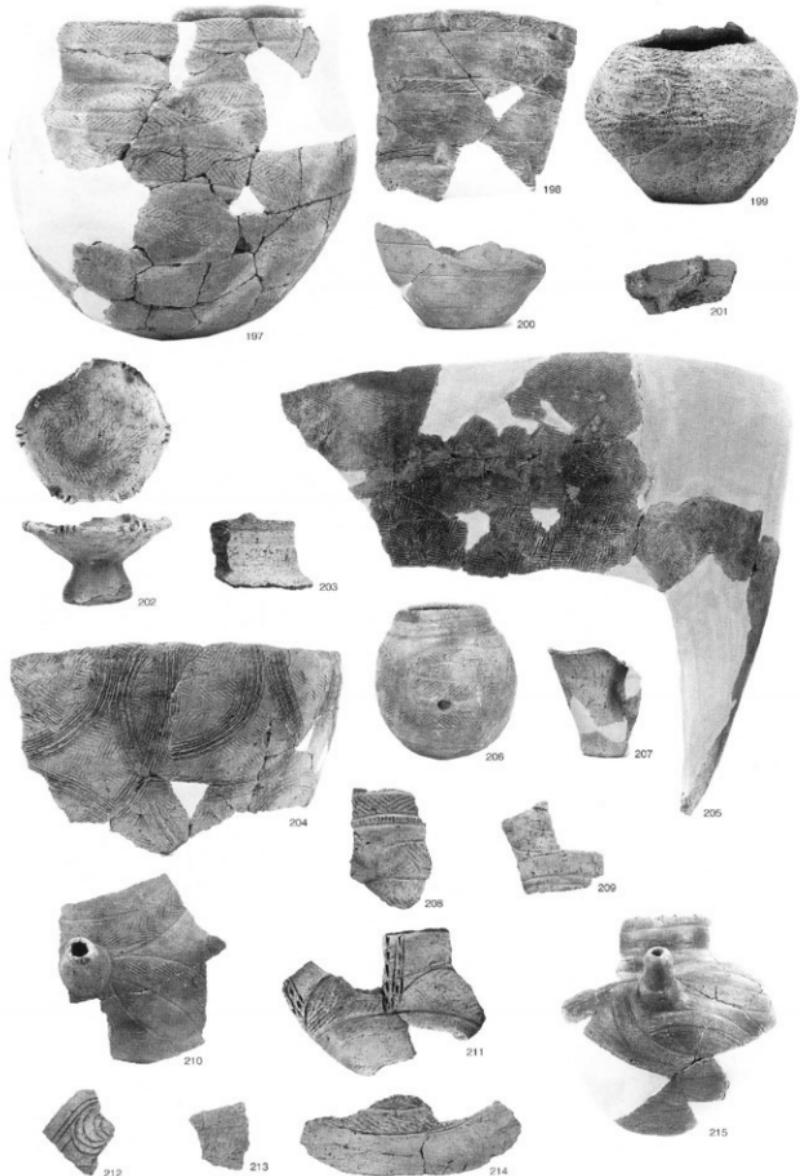
写真図版56 出土土器（5）



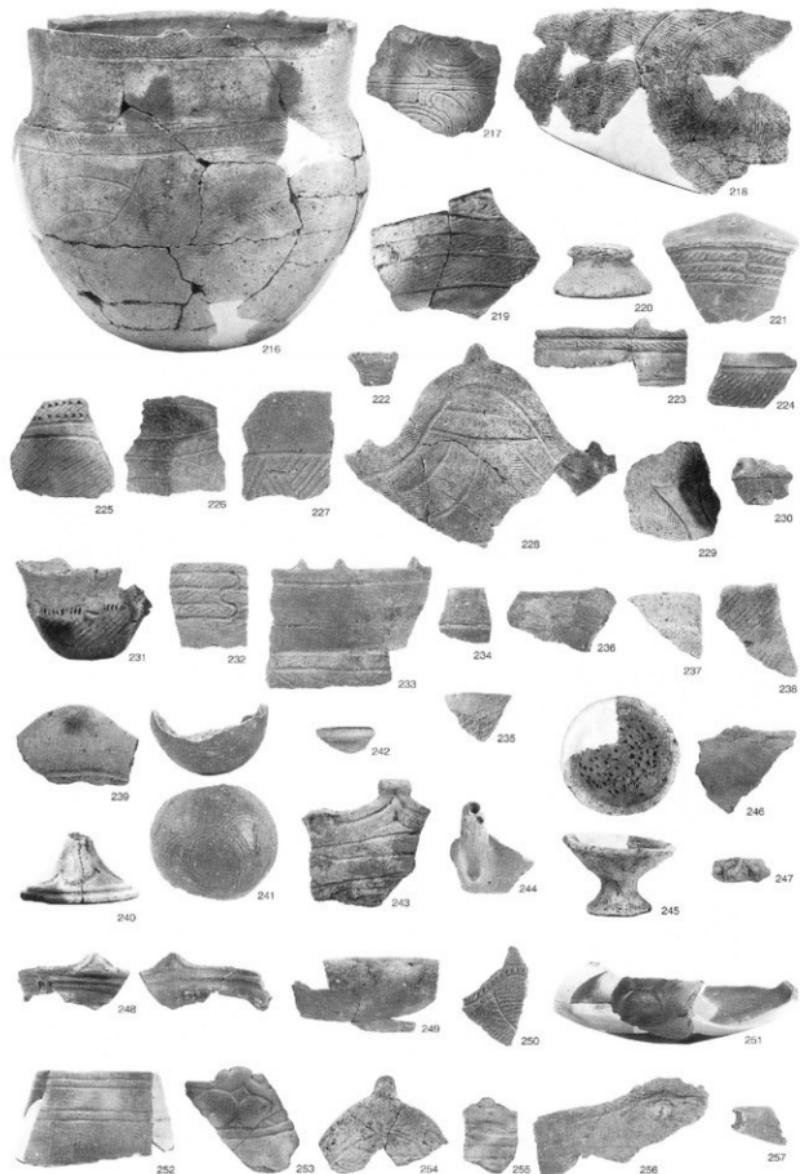
写真図版57 出土土器 (6)



写真図版58 出土土器（7）



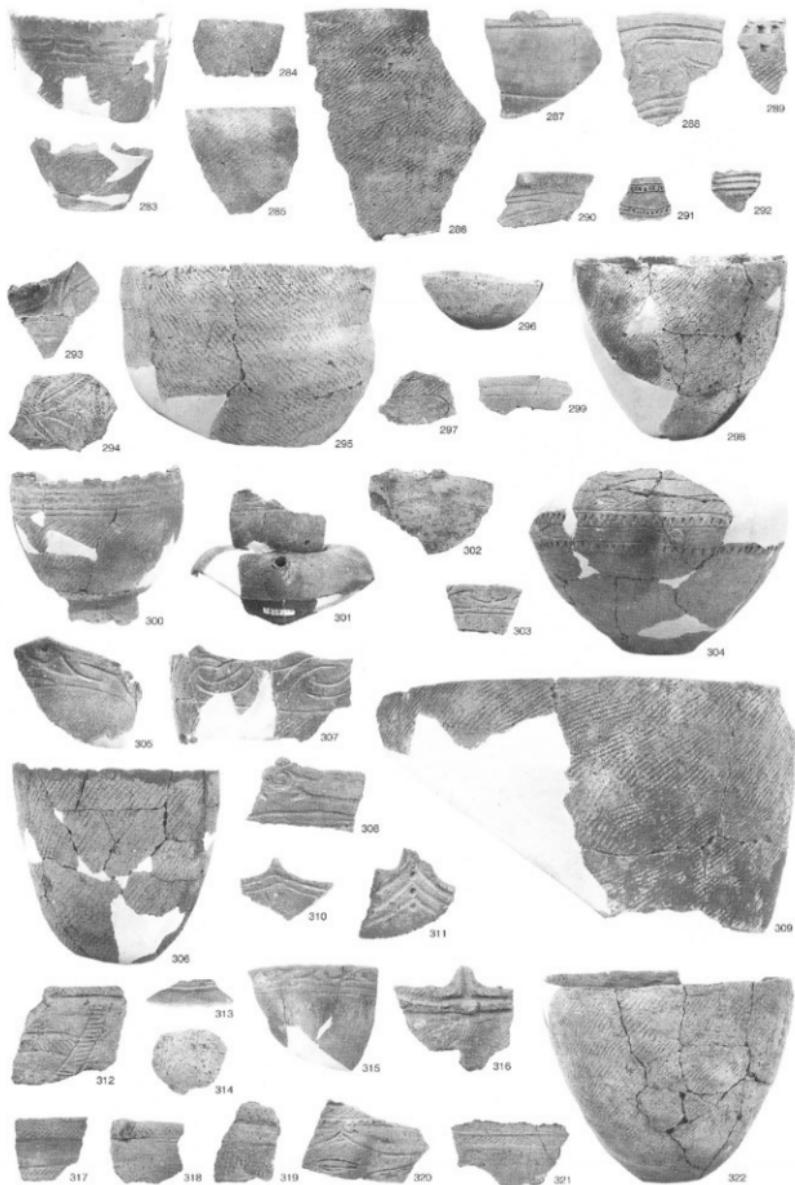
写真図版59 出土土器（8）



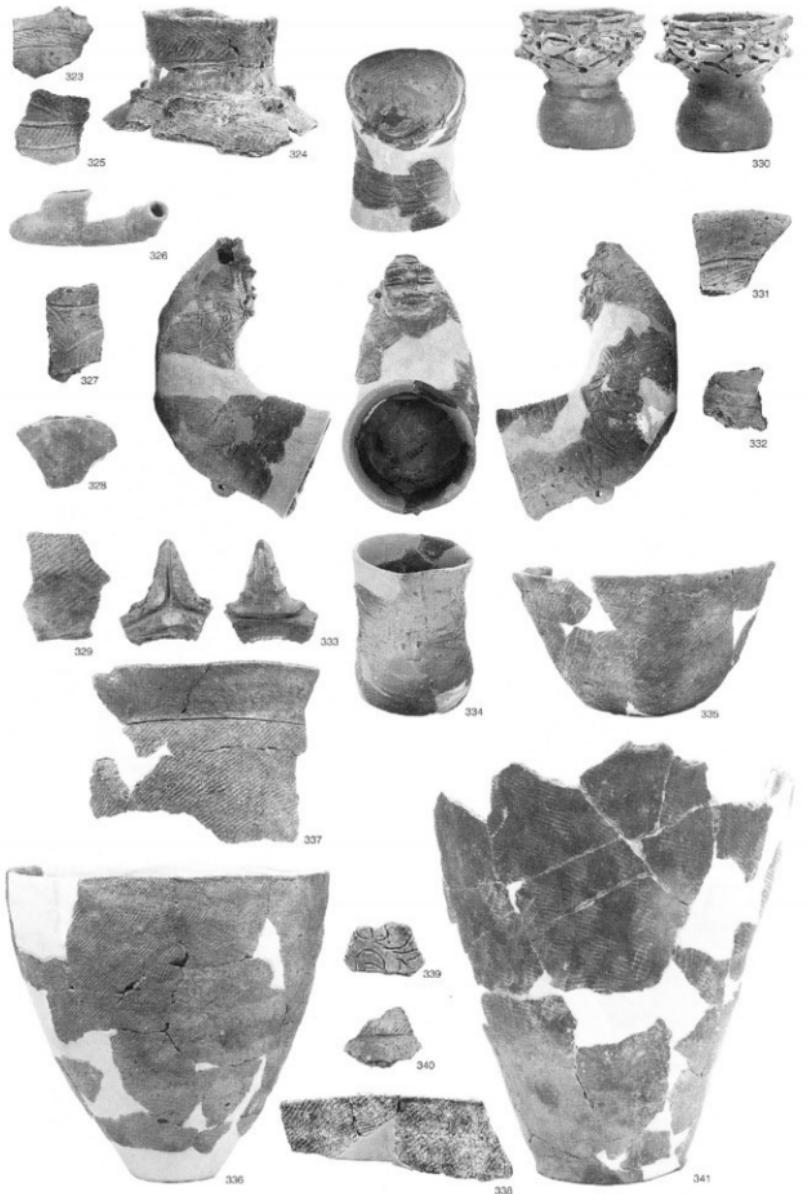
写真図版60 出土土器（9）



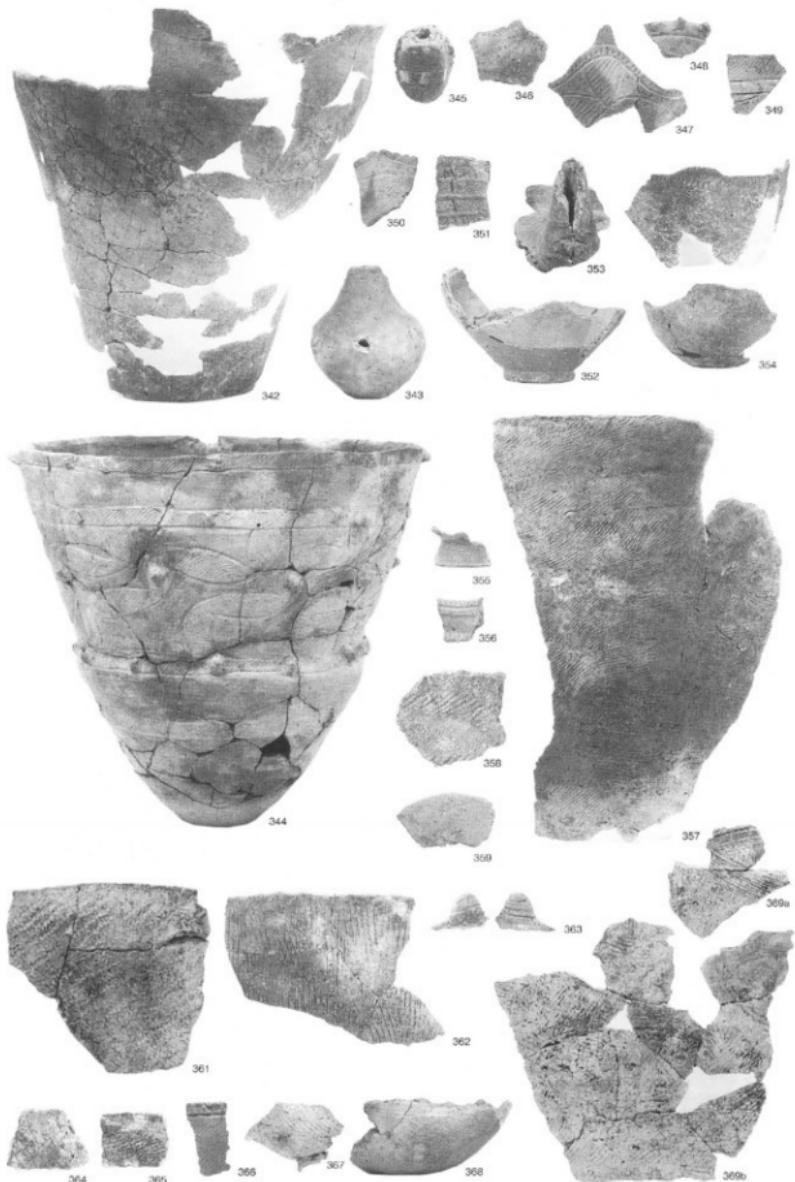
写真図版61 出土土器 (10)



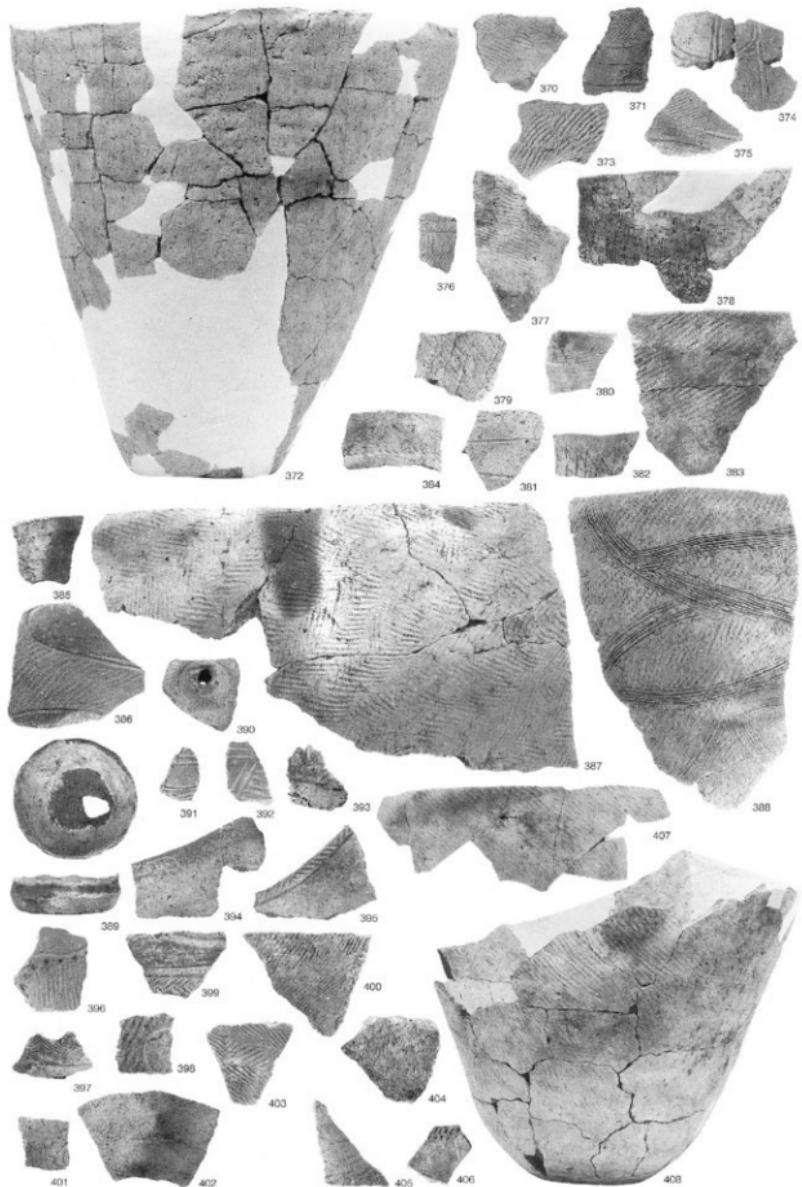
写真図版62 出出土器 (11)



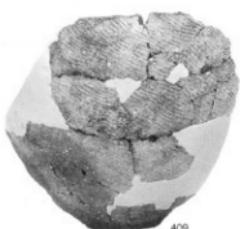
写真図版63 出土土器 (12)



写真図版64 出土土器 (13)



写真図版65 出土土器 (14)



409



411



410



412



413

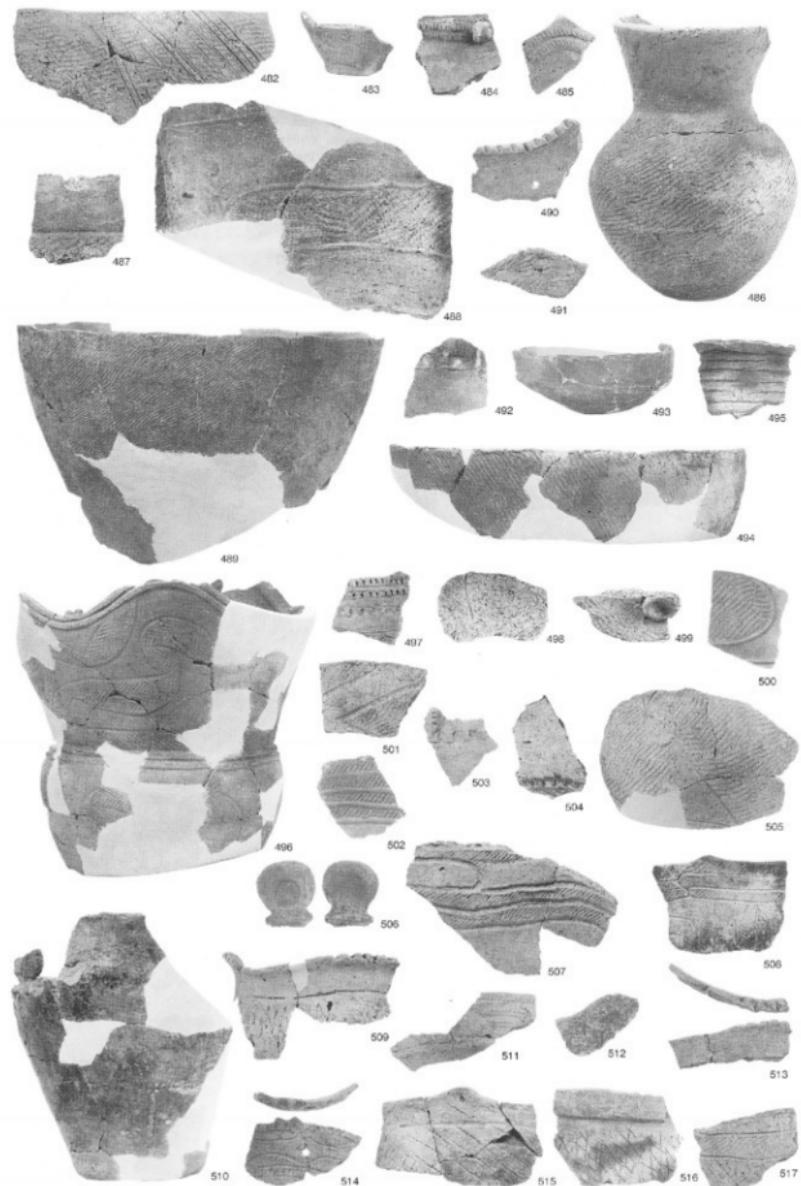
写真図版66 出土土器 (15)



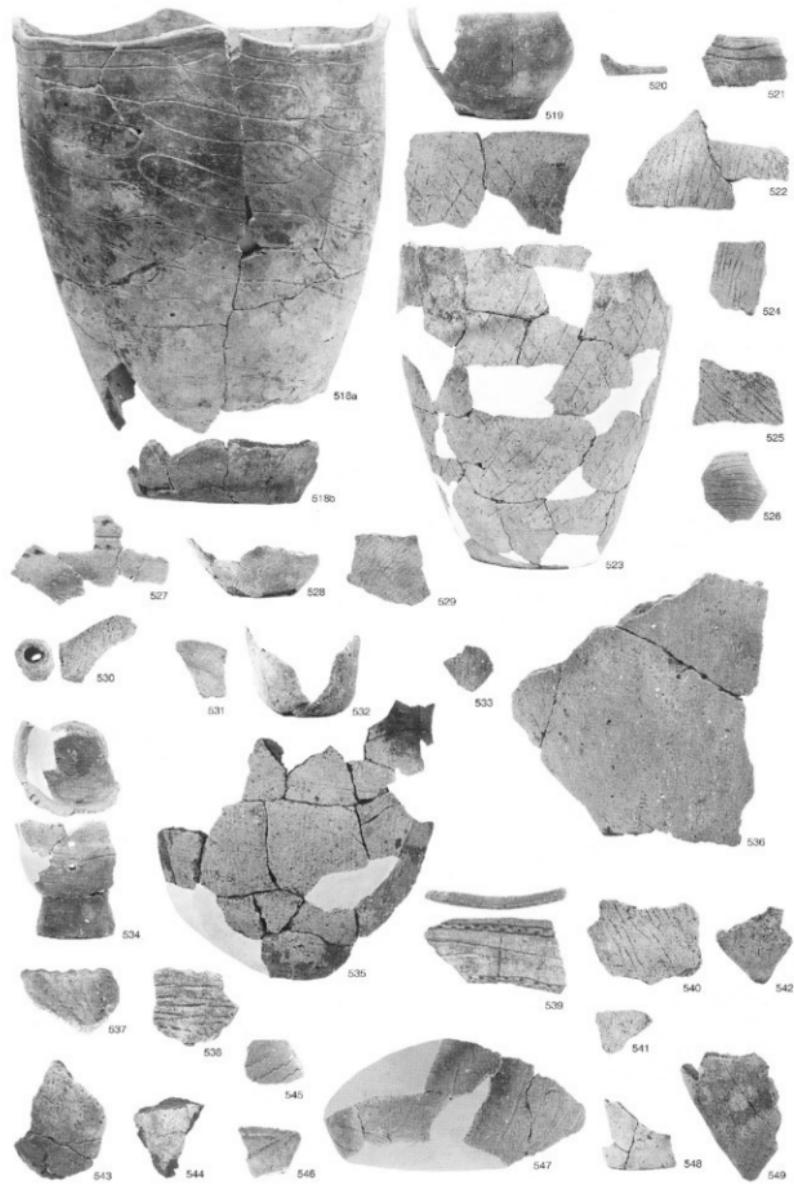
写真図版67 出土土器 (16)



写真図版68 出出土器 (17)



写真図版69 出土土器 (18)



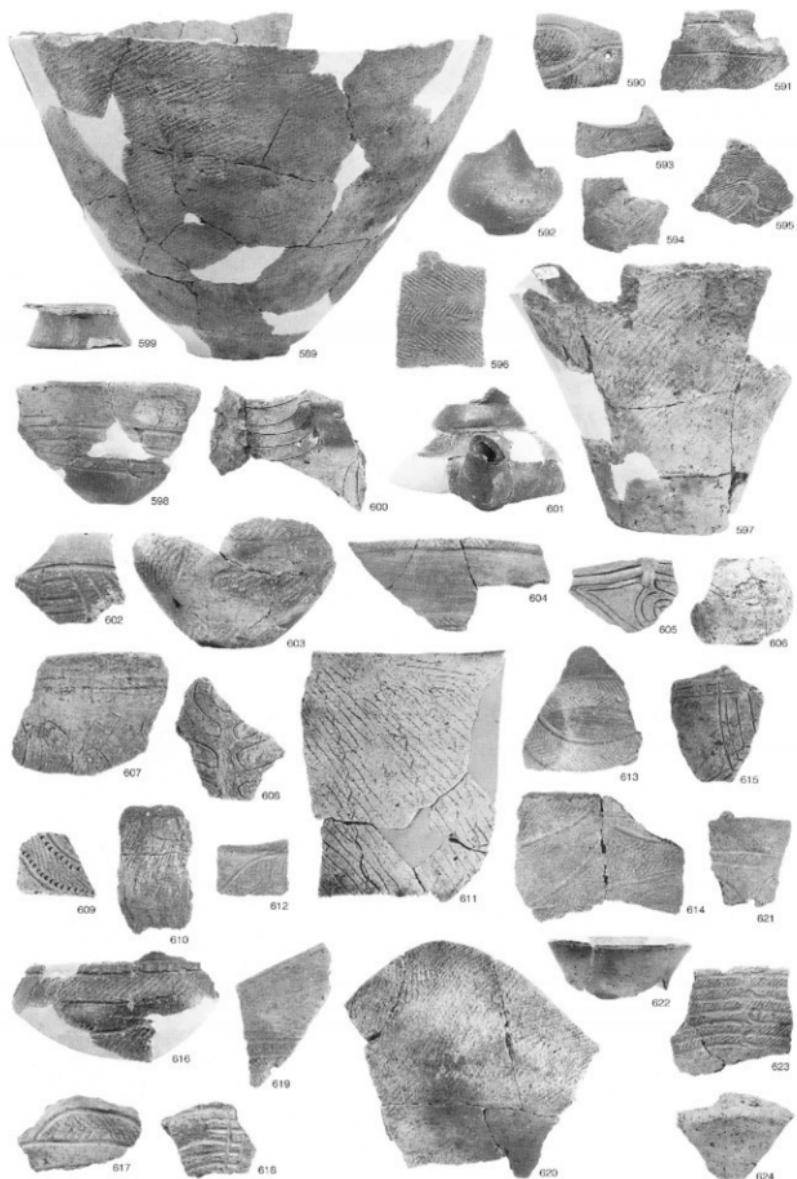
写真図版70 出土土器 (19)



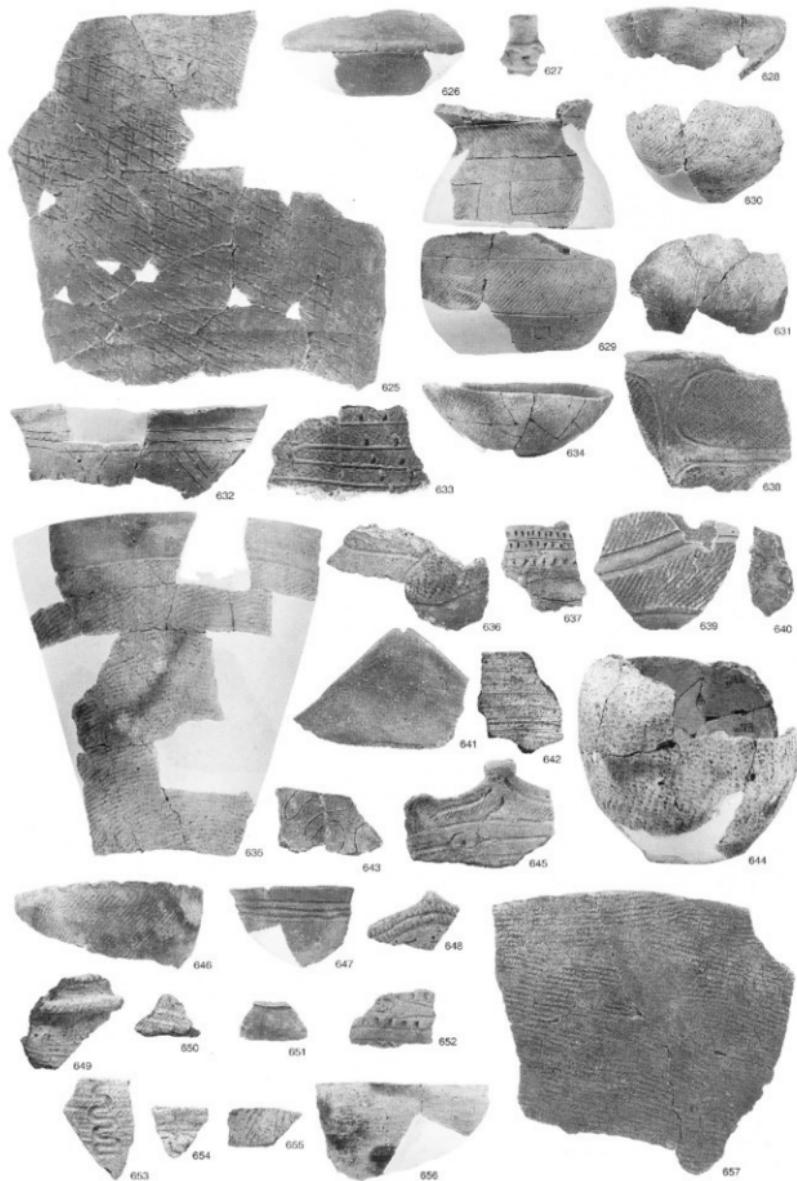
写真図版71 出出土器 (20)



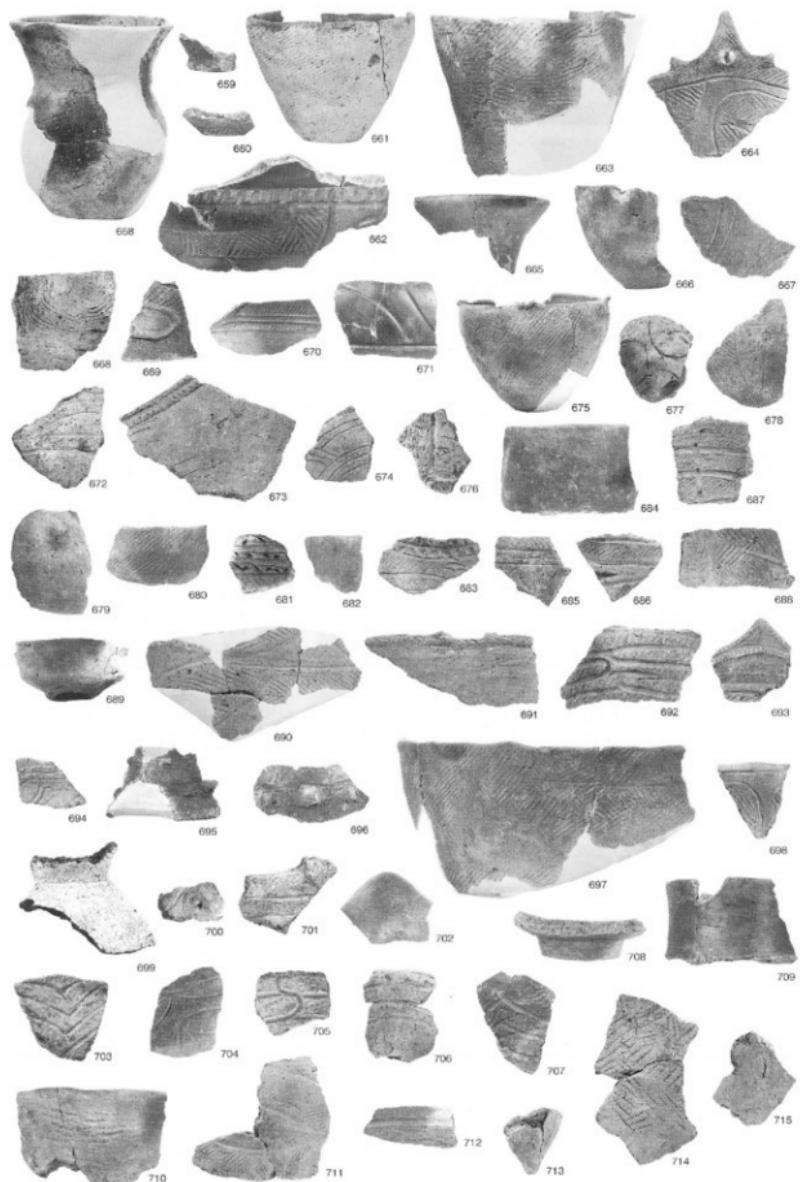
写真図版72 出土土器 (21)



写真図版73 出土土器 (22)



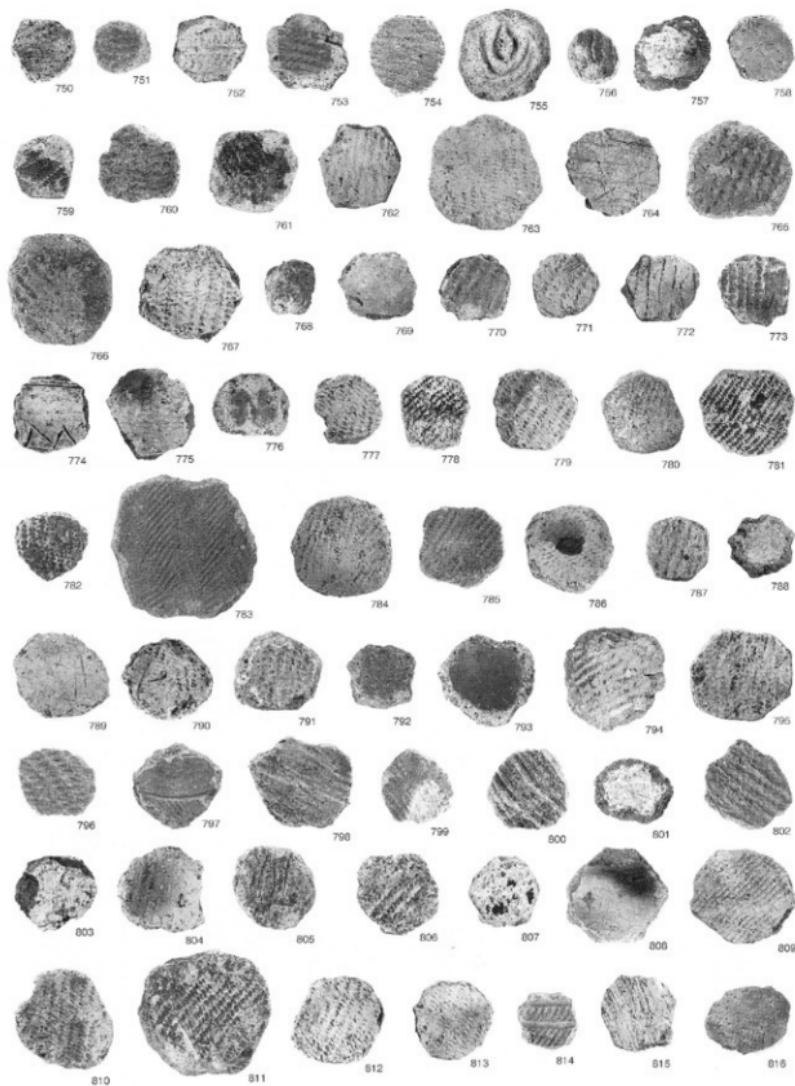
写真図版74 出土土器 (23)



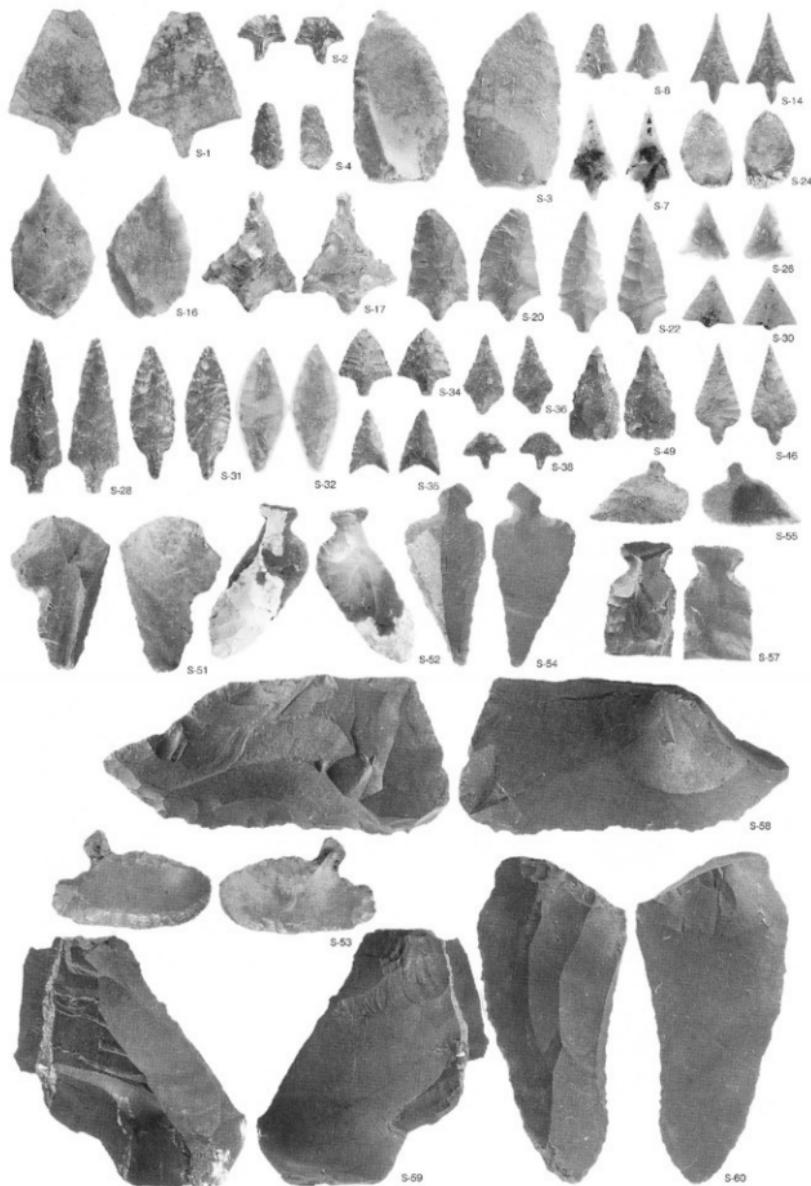
写真図版75 出土土器 (24)



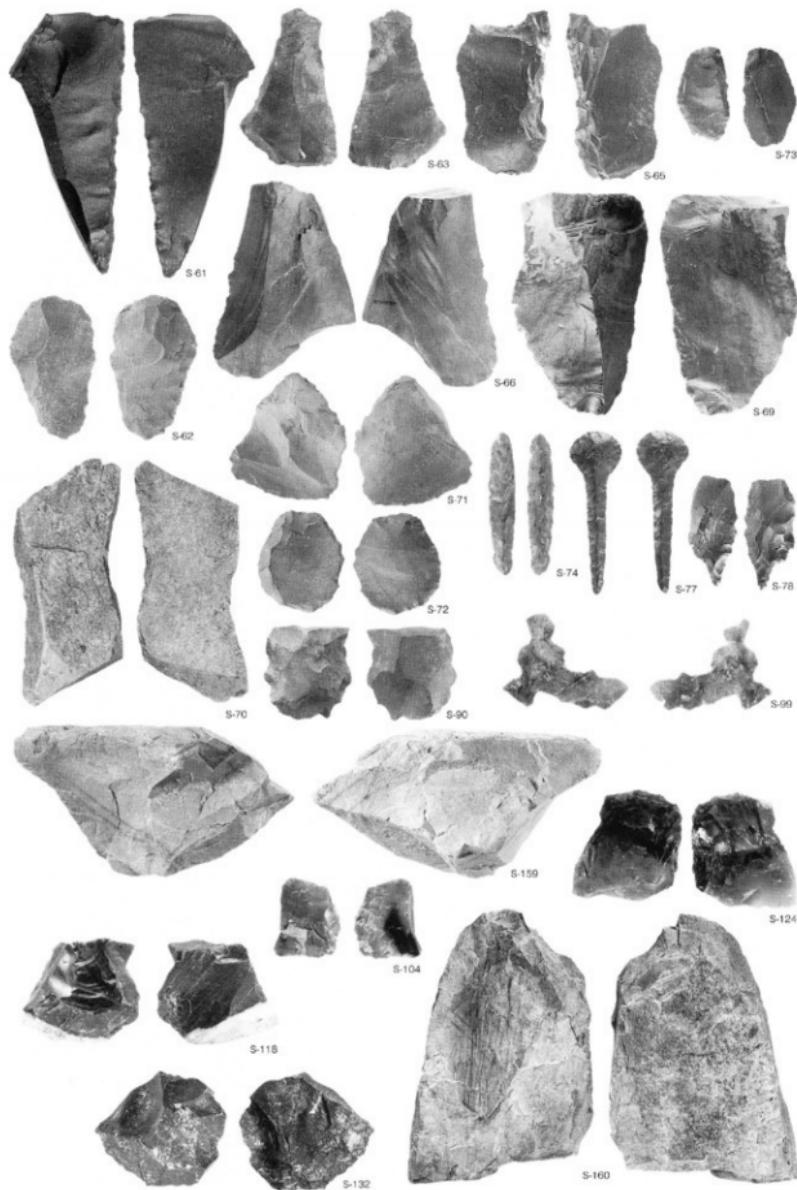
写真図版76 出土土器 (25)・出土土製品 (1)



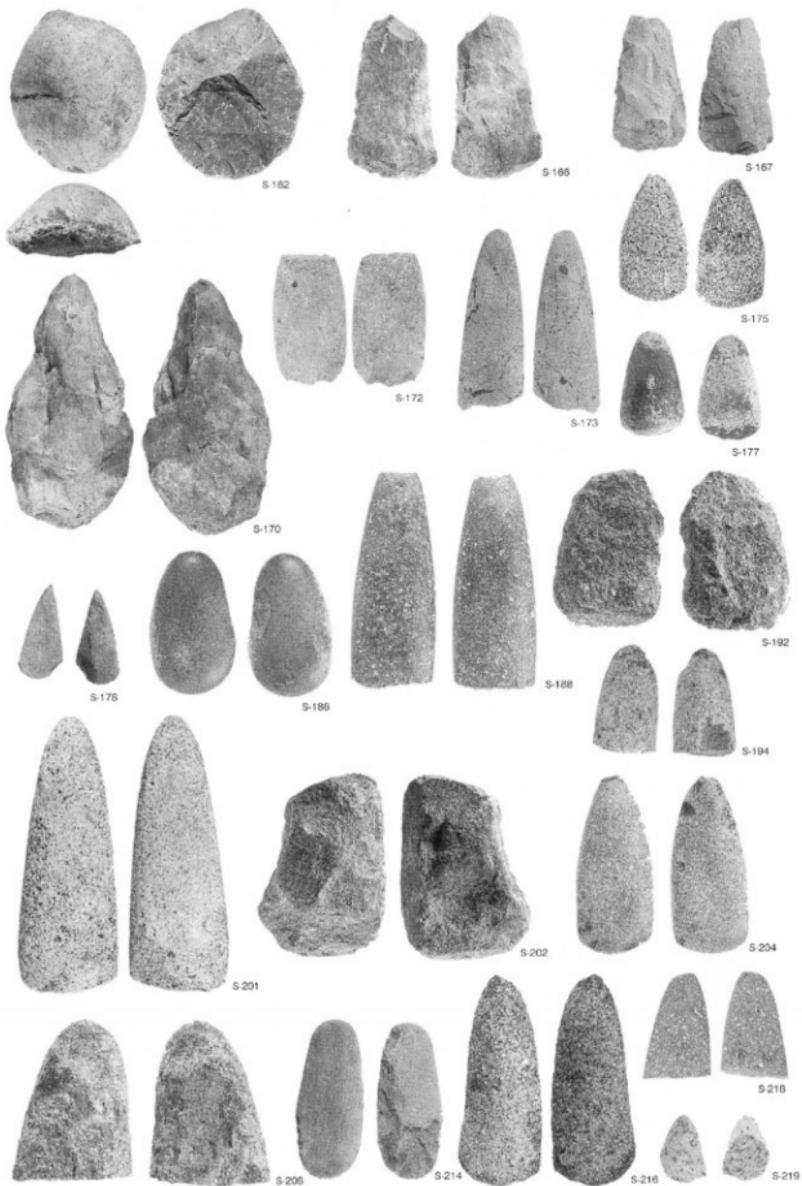
写真図版77 出土土製品（2）



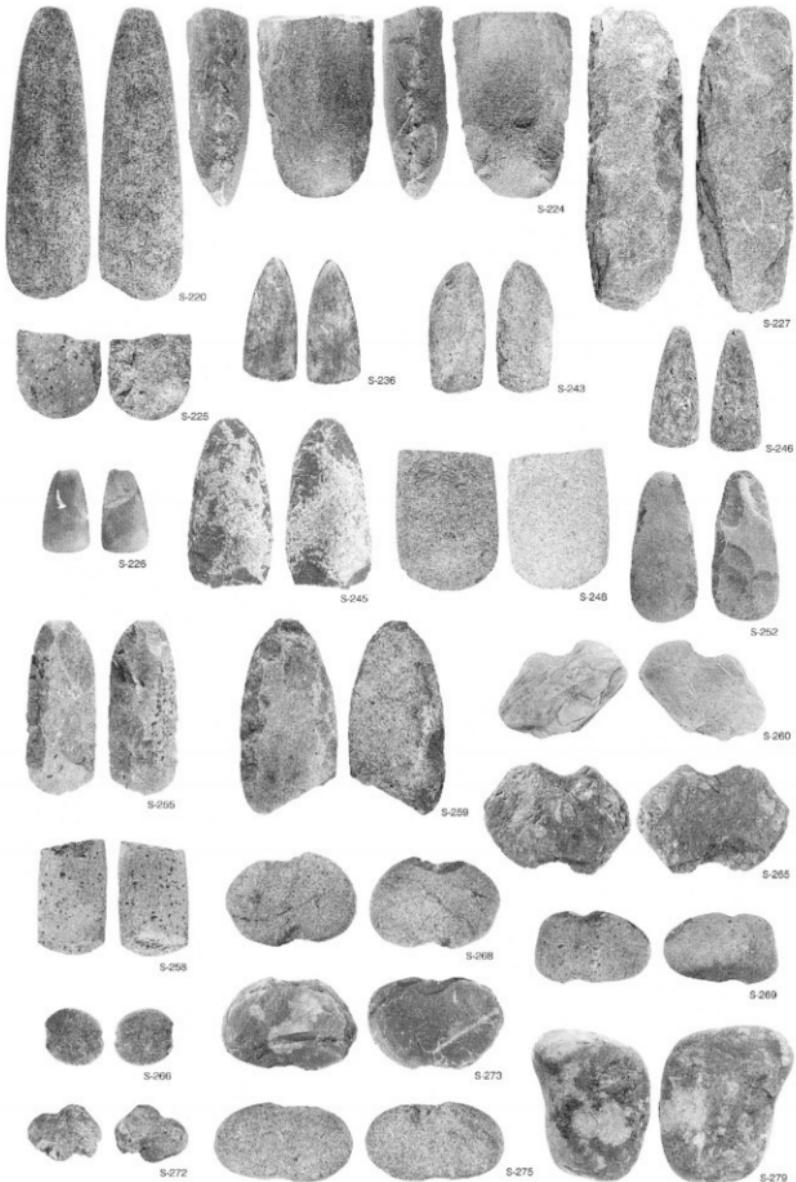
写真図版78 出土石器（1）



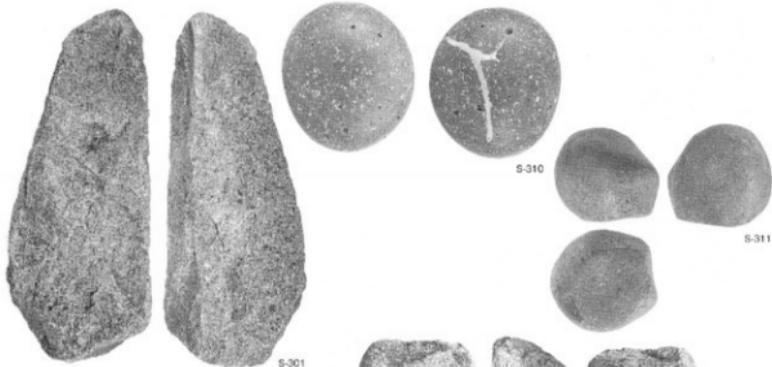
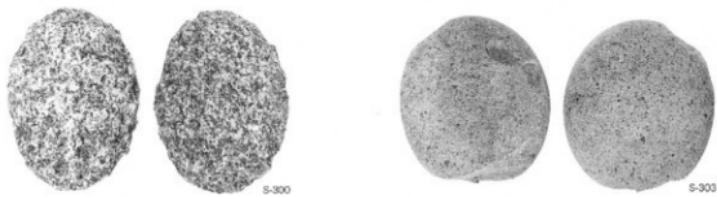
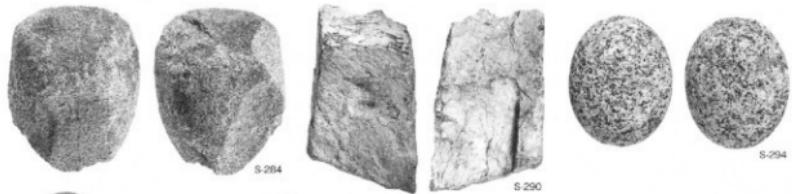
写真図版79 出土石器（2）



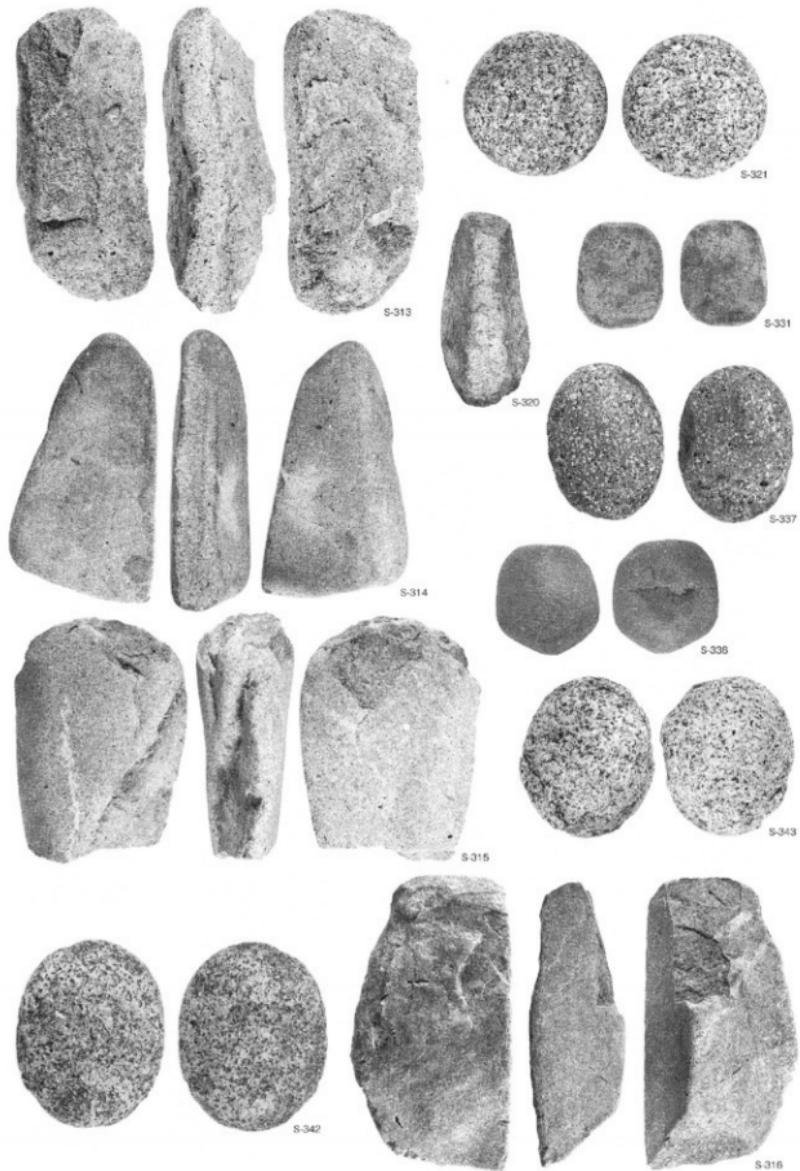
写真図版80 出土石器（3）



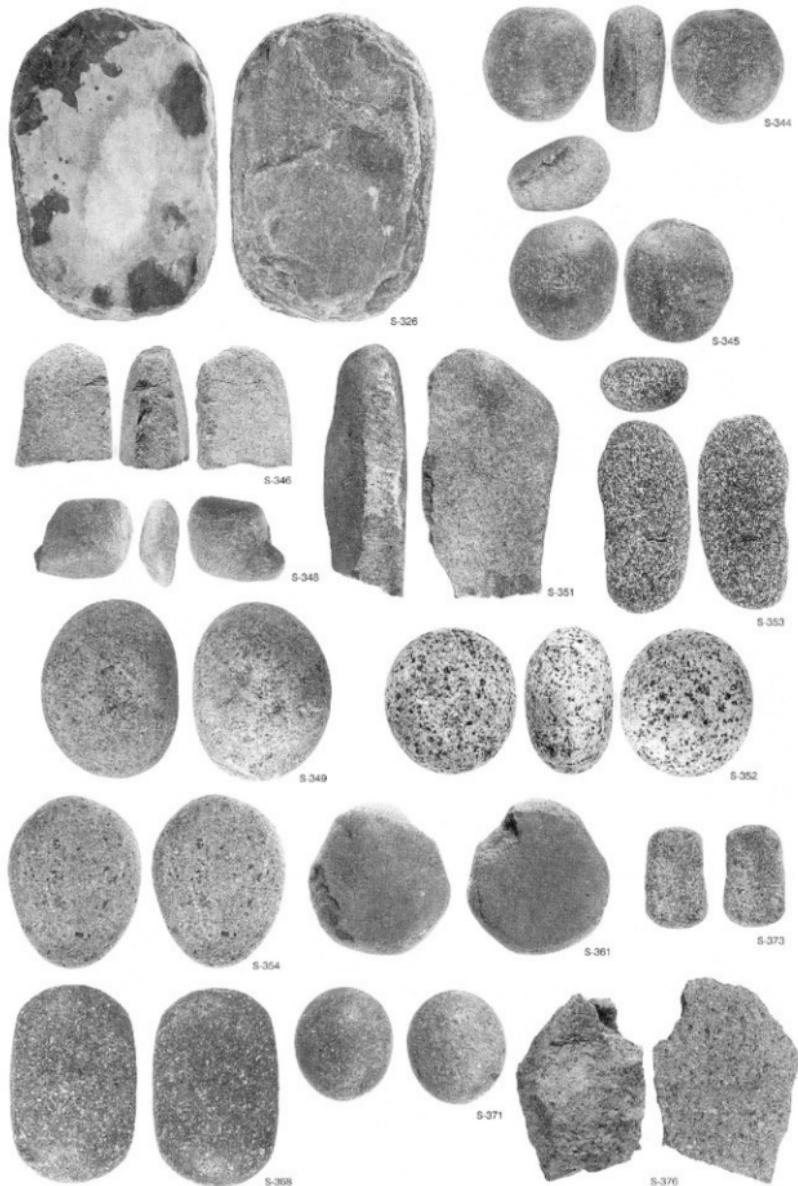
写真図版81 出土石器（4）



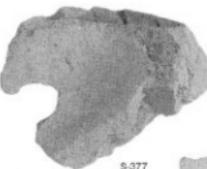
写真図版82 出土石器（5）



写真図版83 出土石器（6）



写真図版84 出土石器（7）



S-377



S-380



S-379



S-381

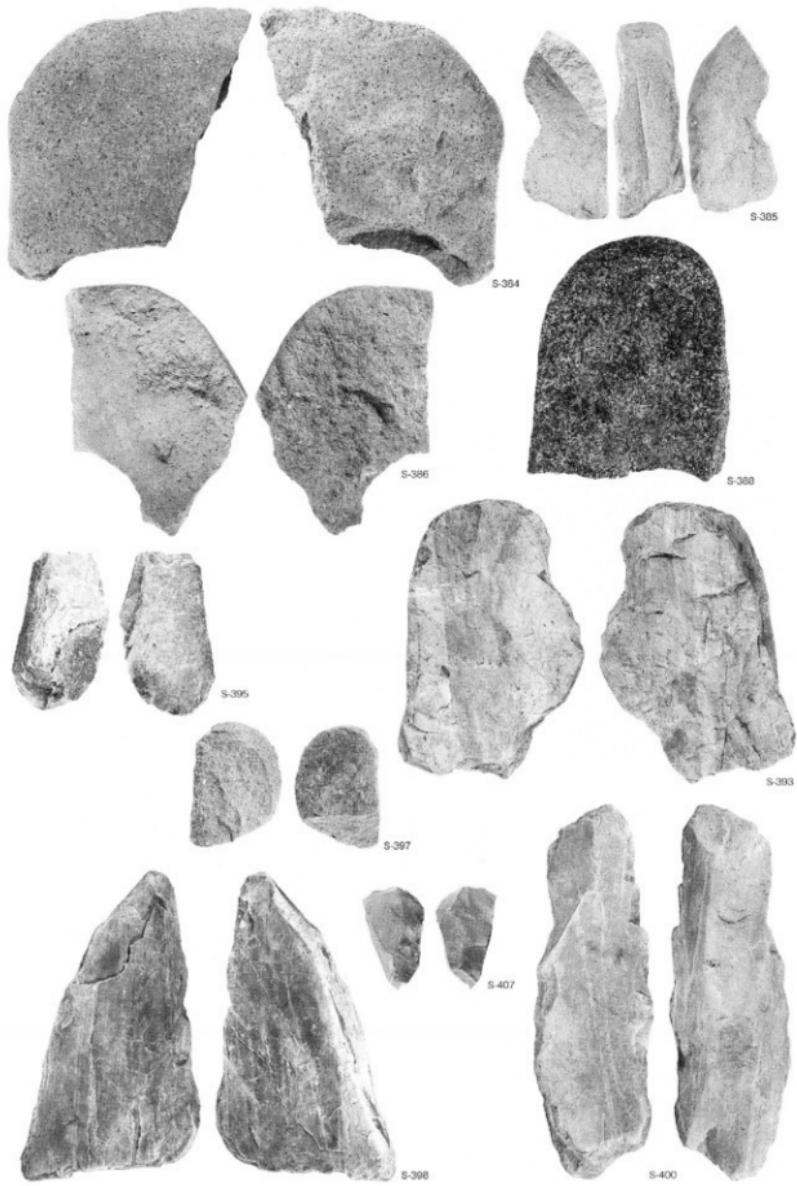


S-382

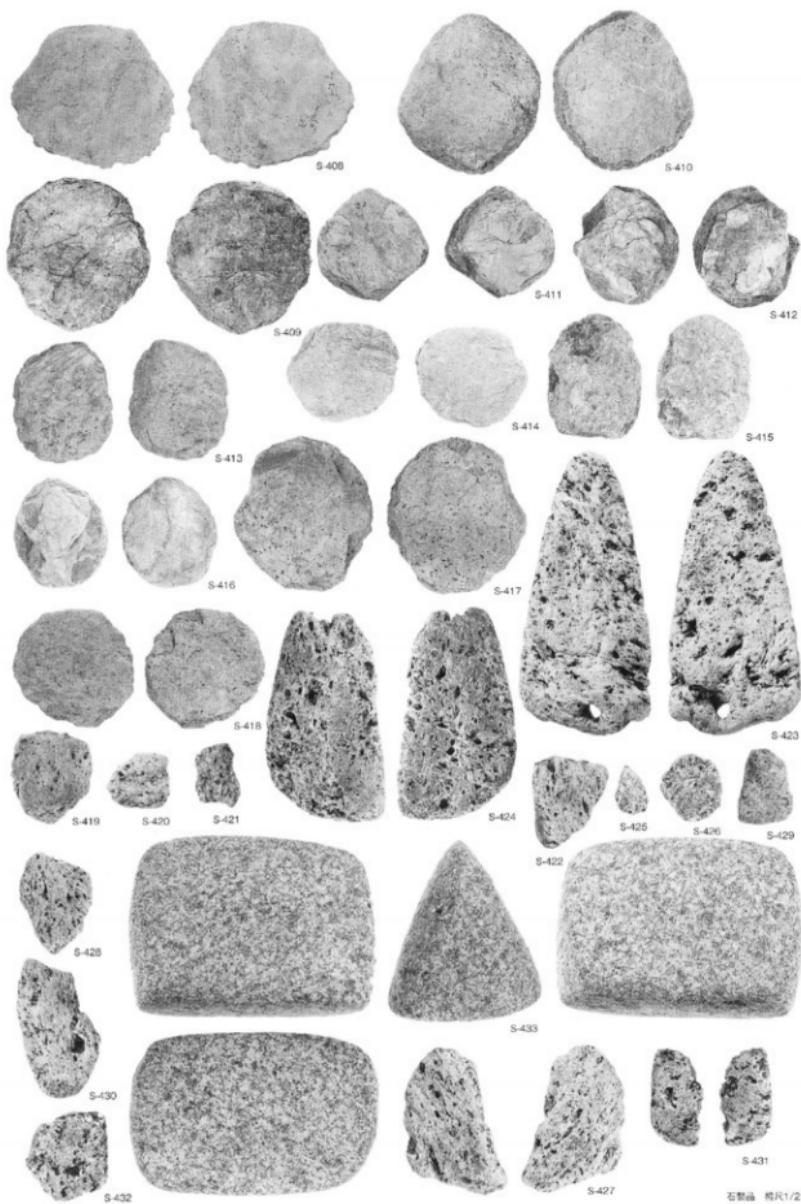


S-383

写真図版85 出土石器（8）



写真図版86 出土石器（9）



写真図版87 出土石製品

- 333 -

報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 巻次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日	いたこやしきさんいせきはぐくちょうさほうこくしょ 板子屷數3遺跡発掘調査報告書 広城農道整備事業軽米九戸第2期地区事業関連遺跡発掘調査 西暦2008年12月26日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積
板子屷數3遺跡	岩手県軽米町大字上館22地割25-13ほか	03501 IF74 -0096	40度20分40秒	141度29分48秒	2005.06.01 ~ 2005.11.11 2006.08.21 ~ 2006.11.08 2007.09.18 ~ 2007.11.30	4,800m ² 5,200m ² 5,160m ²
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
板子屷數3遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴住居跡22棟 配石遺構2基 土坑63基 埋設土器7基	縄文土器・石器 (早期・後期・晚期) 弥生土器(後期) 土製品 (土偶・スタンプ形・球状・円盤状など) 石製品(三角墳・浮石・円盤状)	20号住居跡より人面付土器(334)、が出土。	
要約	急斜面の多い丘陵地のわずかな範斜面を利用し営まれた、縄文時代後期～晩期初頭の集落跡。堅穴住居跡22棟、配石遺構2基、土坑63基、土器埋設遺構7基を検出した。遺物は、後晩期の土器・石器が多く、人面付き土器や、土器内のアスファルトに石墨や測片が入ったものなどが出土した。					

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第537集

板子屋敷3遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業軽米九戸第2期地区事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成20年12月24日

発 行 平成20年12月26日

編 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185

電話 (019) 638-9001

発 行 岩手県二戸地方振興局土木部

〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡6-3

電話 (0195) 23-9209

(財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印 刷 川口印刷工業株式会社

〒020-0841 岩手県盛岡市羽場10-1-2

電話 (019) 632-2211

